

感染症発生動向調査事業報告書

平成19年(2007年)



序

感染症発生動向調査事業は、「感染症の予防および感染症患者に対する医療に関する法律」（感染症法）により事前対応型感染症対策の一つとして位置づけられ、感染症に対する適切な対応をとるためのサーベイランスシステムとして運用されています。全数把握の一類感染症から五類感染症及び指定感染症と、定点把握の五類感染症について、発生状況、病原体検査情報を迅速に収集し、解析・評価を加え、その情報を還元することによって感染症の診断に資するとともに、的確な予防対策を立てるなど危機管理に役立てることを目的としています。

平成19(2007)年4月に感染症法が改正され、届出対象疾患に南米出血熱、結核、オムスク出血熱等が追加され、結核が二類感染症に指定されたことから結核予防法は廃止されました。一方、重症急性呼吸器症候群(SARS)が一類感染症から二類感染症へ、コレラ・細菌性赤痢・腸チフス・パラチフスが二類感染症から三類感染症へ類型が変更されました。同時に、病原体等を適正に取り扱う管理体制を確立することを検査機関等に求められるようになりました。

また、ここ数年、減少傾向にあった麻しんが全国的に流行し大きな話題となりました。このことが契機となり、平成20(2008)年1月より麻しんを風しんと共に全数把握対象疾患（五類）に指定する感染症法の改正が行われました。

東京都健康安全研究センターでは、平成12(2000)年4月に、本事業を中心とした感染症情報の管理センターとして東京都感染症情報センターを所内に設置致しました。更に、平成18(2006)年4月には、本事業を含む感染症健康危機管理に関する情報機能を強化する目的で、疫学情報室を新設しました。

疫学情報室では、国内外の研究機関、医療機関等からの様々な情報を幅広く収集、解析し、当センター微生物部が実施する病原体検査情報とともに、都内の医療機関、関係機関、都民へ、迅速かつ積極的に提供してまいります。

なお、これらの情報は当センターのホームページにも掲載して迅速な情報提供に努めておりますので、あわせてご活用ください。URLは、東京都感染症情報センタートップページ(<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/>)及び東京都感染症週報(<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/weekly/>)です。

今回の報告書は、東京都医師会感染症予防検討委員会に平成19年分の感染症発生情報の評価とその予防策の検討を依頼し、その結果をまとめたものです。「各疾患の動向」のうち、「一、二、三、四、五類（全数届出）」は阿保満委員に、「小児科・内科疾患（インフルエンザ）」と「基幹（病院）定点における疾患」は南谷幹夫委員長に、「眼科疾患」は福田敏雅委員に、「性感染症」は小島弘敬委員に執筆をお願いし、「病原体検索成績」につきましては当センター微生物部の検査担当者が執筆いたしました。

感染症発生動向調査事業は、東京都医師会、定点医療機関、都区保健所及び福祉保健局関連部署間の有機的な連携により実施されています。今後とも「基幹地方感染症情報センター」としてこれら関係機関のほか各自治体の地方感染症情報センターとの連携を積極的に図り、一層の機能強化に努める所存でございます。

本報告書を広く御活用いただき、都民の健康増進の一助となれば幸いに存じます。

平成20年7月

東京都健康安全研究センター所長 前田秀雄

目 次

| | |
|---|----|
| 第1章 東京都感染症発生動向調査事業における患者情報 | 1 |
| 東京都感染症発生動向調査事業報告 | 3 |
| 1 定点医療機関 | 4 |
| 表1 東京都感染症発生動向調査事業定点数 | 4 |
| 2 調査対象疾病 | 4 |
| 3 運営方法 | |
| (1) 患者情報の収集 | 4 |
| (2) 解析及び情報発信 | 4 |
| 4 本年（2007年）の概況 | 5 |
| (1) 一類、二類、三類、四類、五類感染症（全数把握対象）、指定感染症 | 5 |
| (2) 五類感染症（定点把握対象） | 7 |
| 表2－1 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（一、二、三、四、五類全数） | 11 |
| 表2－2 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（インフルエンザ定点・小児科定点） | 13 |
| 表2－3 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（眼科定点） | 14 |
| 表2－4 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（基幹定点週報告分） | 14 |
| 表2－5 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（基幹定点月報告分） | 15 |
| 表2－6 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（STI定点） | 15 |
| 5 各疾患の動向 | |
| (1) 一類、二類、三類、四類、五類感染症（全数把握対象） | 16 |
| ア 一類感染症 | 16 |
| イ 二類感染症 | 16 |
| ウ 三類感染症 | 16 |
| エ 四類感染症 | 23 |
| オ 五類感染症（全数把握対象） | 31 |
| 表3－1 一、二、三、四、五類全数把握対象疾患 患者報告数推移表 | 46 |
| 表3－2 一、二、三、四、五類全数把握対象疾患 保健所別累計表 | 49 |
| 表3－3 一、二、三、四、五類全数把握対象疾患 年齢階級別累計表 | 52 |
| (2) 小児科・内科疾患 | |
| ア インフルエンザ | 55 |
| イ R S ウイルス感染症 | 57 |
| ウ 咽頭結膜熱 | 58 |
| エ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（溶連菌感染症） | 59 |

| | |
|---------------------|----|
| オ 感染性胃腸炎 | 60 |
| カ 水痘 | 61 |
| キ 手足口病 | 62 |
| ク 伝染性紅斑 | 63 |
| ケ 突発性発しん | 64 |
| コ 百日咳 | 65 |
| サ 風しん | 66 |
| シ ヘルパンギーナ | 67 |
| ス 麻しん（成人麻しんを除く） | 68 |
| セ 流行性耳下腺炎 | 69 |
| ソ 不明発しん症 | 70 |
| タ M C L S（川崎病） | 71 |
| (3) 眼科疾患 | |
| ア 急性出血性結膜炎 | 72 |
| イ 流行性角結膜炎 | 73 |
| (4) 基幹定点における週報告疾患 | |
| ア 細菌性髄膜炎 | 74 |
| イ 無菌性髄膜炎 | 75 |
| ウ マイコプラズマ肺炎 | 76 |
| エ クラミジア肺炎（オウム病を除く） | 77 |
| オ 成人麻しん | 78 |
| (5) 基幹定点における月報告疾患 | |
| ア メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 | 79 |
| イ ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 | 80 |
| ウ 薬剤耐性緑膿菌感染症 | 81 |
| (6) 性感染症（STI） | |
| ア 性器クラミジア感染症 | 82 |
| イ 性器ヘルペスウイルス感染症 | 84 |
| ウ 尖圭コンジローマ | 85 |
| エ 淋菌感染症 | 86 |
| オ 膣トリコモナス症 | 87 |
| カ 梅毒様疾患 | 88 |
| 表4－1 週別患者報告数 | 89 |
| 表4－2 週別定点当たり患者報告数 | 91 |
| 表5－1 保健所別患者報告数 | 93 |

| | |
|--|-----|
| 表5－2 保健所別定点当たり患者報告数 | 95 |
| 表6 年齢階級別患者報告数 | 97 |
| 表7－1 二次医療圏別患者報告数 | 99 |
| 表7－2 二次医療圏別定点当たり患者報告数 | 100 |
| 表8－1 月別患者報告数（基幹） | 101 |
| 表8－2 月別定点当たり患者報告数（基幹） | 101 |
| 表8－3 月別・性別患者報告数（基幹） | 101 |
| 表8－4 年齢階級別患者報告数（基幹） | 102 |
| 表9－1 月別患者報告数（STI） | 102 |
| 表9－2 月別定点当たり患者報告数（STI） | 102 |
| 表9－3 月別・性別患者報告数（STI） | 103 |
| 表9－4 月別・性別定点当たり患者報告数（STI） | 103 |
| 表9－5 保健所別、二次医療圏別患者報告数（STI） | 104 |
| 表9－6 保健所別、二次医療圏別定点当たり患者報告数（STI） | 105 |
| 表9－7 年齢階級別患者報告数（STI） | 106 |
| 第2章 東京都感染症発生動向調査事業における病原体検索情報 | 107 |
| 1 ウイルス検査結果 | 109 |
| (1) 小児科・基幹病原体定点から搬入された検体の検査結果 | |
| ア 臨床診断名別にみた検体搬入状況 | 109 |
| イ 臨床診断名別にみたウイルス分離検出状況 | 110 |
| ウ 臨床診断名別にみたウイルス遺伝子検出状況 | 111 |
| エ 臨床診断名別にみたウイルス検出状況 | 113 |
| オ 臨床診断名別にみた血中抗体検査状況 | 117 |
| (2) 内科病原体定点から搬入された検体の検査結果 | 119 |
| 2 細菌検査結果 | |
| (1) 二類感染症の病原体検索 | 122 |
| (2) 三類感染症の病原体検索 | 122 |
| (3) 四類感染症の病原体検索 | 122 |
| (4) 五類感染症（全数把握対象）の病原体検索 | 122 |
| (5) 五類感染症（定点把握対象）の病原体検索 | 123 |
| 3 性感染症（STI）病原体定点から搬入された検体の検査結果 | |
| (1) 梅毒・クラミジア・淋菌検査 | 125 |
| (2) ヒトパピローマウイルス（HPV）の遺伝子検査 | 127 |
| (3) 単純ヘルペスウイルス（HSV：HSV-1型及びHSV-2型）の遺伝子検査 | 127 |

| | |
|----------------------------------|-----|
| (4) ヒト免疫不全ウイルス（HIV）検査 | 128 |
| (5) 赤痢アメーバ検査 | 128 |
| (6) 膀胱トリコモナス検査 | 128 |
| | |
| 第3章 資料 | 129 |
| 1 東京都感染症発生動向調査定点名簿 | 131 |
| 2 東京都医師会感染症予防検討委員会委員名簿 | 143 |
| 3 感染症発生動向調査システムの概要 | 144 |
| 4 東京都感染症発生動向調査事業実施要綱 | 145 |
| 別表1 感染症法に基づく感染症の分類について | |
| 1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症及び指定感染症 | 151 |
| 2 全数把握対象の五類感染症 | 152 |
| 3 定点把握対象の五類感染症 | 152 |
| 別表2 指定届出機関（定点）からの届出疾患と調査単位 | 153 |
| | |
| 別記様式一覧表 | 154 |
| 別記様式1 | 155 |
| 別記様式8 | 156 |

第 1 章

東京都感染症発生動向調査事業における患者情報

東京都感染症発生動向調査事業報告

(2007年)

(2007年1月1日～2007年12月30日)

数年前から成人麻疹が注目されていますが、2007年は成人麻疹の年間報告数が急増し、1999年調査開始以来の最高値となりました。これには麻疹ワクチンの普及によって近年の麻疹流行が小規模・局地的になってきたことが少なからず関係しています。麻疹ワクチンの定期接種が昭和53年から開始された結果、患者数は激減しましたが、年数を経過するうちに未罹患者、未接種者、及びワクチン免疫ができなかった者・減弱した者が蓄積して流行を起こし、年長児/成人罹患の結果をきたすことになります。

麻疹はヒトが最も罹り易い感染症で、麻疹ワクチンが普及する前は、人は一生に一度は罹るとされていました。麻疹研究初期の頃、麻疹罹患歴のない検査希望成人を検査したところ、殆どの人の血液に抗体を認めました。この抗体保有者は、軽症麻疹で受診しなかったものか、所謂「無疹性麻疹？」であったのか、本人の記憶違いか、あるいは不顕性感染であったのか明らかではありません。

麻疹ワクチンが使用される以前は、離乳期頃から罹り始め、乳幼児に多く、1歳前後が重症になり易く、重症麻疹、麻疹肺炎、麻疹脳炎などで入院する小児も少なくありませんでした。麻疹の母子免疫がのこっている頃の感染は発症を免れることも知られていました。

昔から「痘瘡は器量定め、麻疹は命定め」と言われましたし、両疾患とも特効薬がなく、ワクチンが特効的予防効果を示します。痘瘡は根絶計画が成功し、1977年10月26日の患者を最後に世界から根絶に成功しました。麻疹に対しては、アメリカと韓国が麻疹含有ワクチン2回接種、小児に対する追加接種キャンペーン、麻疹疑い症例の徹底追跡、全数追跡の努力により国内より麻疹排除に成功しました。

こうなると、周辺地域からの麻疹の侵入が心配されます。

WHO西太平洋地域事務局案は2012年までにアジア西太平洋地域から麻疹を排除する目標を立てており、わが国も2007年の麻疹流行を契機に、2012年までに麻疹の排除とその維持を目標とする計画案が策定され、2008年1月より開始されました。成果の達成が期待されます。

感染症には、未知の分野ばかりでなく、古くても新しい問題が含まれております。

これまでも感染症予防検討委員会は、諸先生方のご指導とご尽力により着実な成果をあげてまいりましたが、今後ともご叱正頂き、一層のお力添えを賜らんことをお願い申し上げます。

平成20年7月

東京都医師会感染症予防検討委員会

委員長 南谷幹夫

1 定点医療機関

2007年は、基幹定点を除く患者定点に新たな定点が追加指定された。内科定点が2007年第1週に104か所、小児科定点が14週から18週にかけて8か所、眼科定点が15週に25か所、性感染症定点が4月に14か所それぞれ増加した。その結果、小児科定点150、内科定点140、眼科定点39、性感染症定点55となった。また、病原体定点も追加指定され、2007年第1週より内科定点が新たに14か所、眼科定点が14週より2か所、性感染症定点が11・12月より3か所増加し、のべ54医療機関が病原体定点を兼ねている。なお、小児科定点と内科定点はインフルエンザ定点としても機能している。

表1 東京都感染症発生動向調査事業定点数

(2007年12月31日現在)

| 定点種別(疾病数) | 患者定点 | | 病原体定点 | |
|-----------|------|-----------------------------|-------|---------------------|
| | 定点数 | 備考 | 定点数 | 備考 |
| 小児科定点(16) | 150 | 142(1週～13週) 147(14週～17週) | 13 | |
| 内科定点(1) | 140 | | 14 | |
| 眼科定点(2) | 39 | 14(1週～13週) | 4 | 2(1週～13週) |
| 基幹定点(8) | 25 | | 19 | |
| 性感染症定点(6) | 55 | 41(1月～3月) | 4 | 1(1月～10月) 3(11月) |
| 合計 | 409 | | 54 | |

2 調査対象疾病

厚生労働省が定点把握対象の五類感染症として指定している28疾患のほかに、都単独に不明発しん症とMCLS(川崎病)及び性感染症として膿トリコモナス症と梅毒様疾患を対象としている。

3 運営方法

(1) 患者情報の収集

小児科定点、内科定点、眼科定点及び基幹定点からの報告は週単位で、性感染症(STI)定点からの報告は月単位でなされる。ただし、基幹定点から報告される一部の疾患については月単位となっている。

週単位で報告される疾患については、毎週月曜日から日曜日までに診断された患者に関して、小児科、内科、眼科の各定点医療機関においては年齢別の患者数を、基幹定点医療機関においては年齢、検出病原体名を、所定の調査票に記入し、保健所にFAXまたは郵便で送付する。

月単位で報告される月報告疾患については、性感染症定点医療機関が当該月の年齢別患者数を、基幹定点医療機関が患者の年齢、検体採取部位を、所定の調査票に記入し、保健所にFAXまたは郵便で送付する。

(2) 解析及び情報発信

定点医療機関から届いた情報は、保健所が発生動向調査システムに入力する。基幹地方感染症情報センター(東京都健康安全研究センター疫学情報室の機能)は、保健所からの情報を確認後、国

へ送信する。国から還元される集計結果と共に、都内の報告数をまとめた「感染症週報」を発行する。保健所は、週報及び月報を定点医療機関へ送付する。

感染症予防検討委員会は、毎月1回、定例（第3木曜日）で開催され、前月分の情報について討議している。その情報は、東京都医師会雑誌に「感染症だより」として掲載している。また、都医ニュースに特定の感染症を取り上げ「感染症豆知識」を掲載している。

4 本年（2007年）の概況

（1）一類、二類、三類、四類、五類感染症（全数把握対象）、指定感染症

2007年（平成19年）4月1日の感染症法改正において、以下に示すように新たな届出疾患の追加と類型の見直しが行われた。本報告書も新たな類型に沿って作成されている。

一類感染症では、南米出血熱が追加され、重症呼吸器症候群（SARS）が二類感染症に変更された。計7疾患は変わっていない。

二類感染症では、重症呼吸器症候群（SARS）と結核の2疾患が追加、コレラ、細菌性赤痢、腸チフス、パラチフスの4疾患が三類感染症に変更され、計4疾患となった。

三類感染症では、コレラ、細菌性赤痢、腸チフス、パラチフスの4疾患が追加され、計5疾患となった。

四類感染症では、オムスク出血熱、キャサヌル森林病、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、鼻疽、ベネズエラウマ脳炎、ヘンドラウイルス感染症、リフトバレー熱、類鼻疽、ロッキー山紅斑熱の計11疾患が追加された。計41疾患となった。また、従来の高病原性鳥インフルエンザは鳥インフルエンザに疾患名が変更された。

五類感染症に変更はなかった。

指定感染症には2006年6月にインフルエンザ（H5N1）が政令指定されており、2007年6月にこれを1年延長する政令改正が行われた。

ア 一類感染症

一類感染症《エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱》の届出はなかった。

イ 二類感染症

二類感染症のうち《急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群》の届出はなかった。結核の発生動向については、別途、健康安全部感染症対策課において集約している。

ウ 三類感染症

三類感染症は総計583件の届出があった。

コレラは3件届出があった。菌型はO1エルトール稻葉、O1エルトール小川、O1小川（生物型不明）が各1件で、推定感染地は国内1件、国外2件であった。

細菌性赤痢は86件届出があった。菌型はフレキシネル菌10件、ボイド菌5件、ソンネ菌71件で、推定感染地は国内20件、国外66件であった。

腸管出血性大腸菌感染症は476件届出があった。菌型は、O157 VT2が249件、O157 VT1VT2が142件、O157 VT1が18件、O157 毒素型不明が14件、O26 VT1が28件、O145 VT1が3件、O111 VT1

が2件、その他が20件であった。症状別では、患者305人、無症状病原体保有者171人で、溶血性尿毒症症候群（HUS）と判明しているものは6件あった。推定感染地は国内466件、国外10件であった。症例の集積が、西東京市内の大学学生食堂に関連したO157 VT2食中毒事例、板橋区内の通所介護施設に関連したO157 VT1VT2食中毒事例、第28～29週の町田市内の飲食店に関連した大学生のO157 VT1VT2食中毒事例に認められた。

腸チフスは11件届出があった。推定感染地はすべて国外であった。

パラチフスは7件届出があった。推定感染地はすべて国外であった。

工 四類感染症

四類感染症は総計151件の届出があった。

E型肝炎は3件届出があった。推定感染地は国内1件、国外2件であった。

A型肝炎は19件届出があった。推定感染地は国内11件、国外8件であった。

エキノコックス症は3件届出があった。推定感染地は国内1件（北海道）、国外2件であった。

オウム病は1件届出があった。推定感染地は国内であった。

Q熱は2件届出があった。推定感染地は国内であった。

コクシジオイデス症は2件届出があった。推定感染地は米国2件（アリゾナ州とテキサス州）であった。

つつが虫病は15件届出があった。推定感染地はすべて国内であった（うち東京都10件）。

デング熱は23件届出があり、うち1件はデング出血熱であった。推定感染地はすべて国外であった。

マラリアは23件届出があった。三日熱マラリア11件、熱帯熱マラリア8件、卵形1件、不明1件で、四日熱マラリアの届出はなかった。推定感染地はすべて国外であった。

ライム病は3件届出があった。推定感染地は国内1件、国外2件であった。

レジオネラ症は53件届出があった。肺炎型50件、ポンティック型3件であった。推定感染地は国内49件、国外3件、不明1件で、温泉等入浴施設での感染が推定されているものは7件だった。

レプトスピラ症は4件届出があった。推定感染地は国内2件、国外2件であった。

《ウエストナイル熱、黄熱、オムスク出血熱、回帰熱、キャサナル森林病、狂犬病、サル痘、腎症候性出血熱、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、炭疽、東部ウマ脳炎、鳥インフルエンザ、ニパウイルス感染症、日本紅斑熱、日本脳炎、ハンタウイルス肺症候群、Bウイルス病、鼻疽、ブルセラ症、ベネズエラウマ脳炎、ヘンドラウイルス感染症、発しんチフス、ボツリヌス症、野兎病、リッサウイルス感染症、リフトバレー熱、類鼻疽、ロッキー山紅斑熱》の届出はなかった。

オ 五類感染症（全数把握対象）

五類感染症は総計966件の届出があった。

アメーバ赤痢は166件届出があった。腸管アメーバ症131件、腸管外アメーバ症28件、腸管及び腸管外アメーバ症7件であった。推定感染地は国内138件、国外19件、不明9件であった。

ウイルス肝炎は40件届出があった。B型肝炎は36件届出があり、推定感染地は国内32件、国外4件であった。C型肝炎は4件届出があり、推定感染地はすべて国内であった。

急性脳炎は20件届出があった。病原体は、インフルエンザウイルスA型3件、麻しんウイルス

2件、単純ヘルペスウイルス（HSV）、ヒトヘルペスウイルス6（HHV-6）、ヒトヘルペスウイルス7（HHV-7）、ロタウイルス、サルモネラO7群が各1件、不明10件であった。

クリプトスピリジウム症は1件届出があった。推定感染地はネパール/インドであった。

クロイツフェルト・ヤコブ病は16件届出があった。孤発性プリオント病・古典型CJD 14件、遺伝性プリオント病・家族性CJD 1件、感染性プリオント病・医原性CJD 1件であった。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は6件届出があった。血清群別では、A群4件、B群1件、C群1件であった。

後天性免疫不全症候群は515件届出があり、内訳はHIV感染者358人、AIDS患者92人、その他65人であった。推定感染地は国内448件、国外34件、不明33件で、推定感染経路は性的接触464件（同性間351件、異性間90件、両性間17件、性別不明6件）、静注薬物常用1件、2経路以上5件、不明45件であった。

ジアルジア症は19件届出があった。推定感染地は国内12件、国外7件であった。

髄膜炎菌性髄膜炎は3件届出があった。血清群はいずれも不明で、推定感染地はすべて国内であった。

梅毒は162件届出があった。早期顕症梅毒Ⅰ期45件、早期顕症梅毒Ⅱ期62件、晚期顕症梅毒12件、無症候梅毒43件で、先天梅毒の報告はなかった。推定感染地は国内149件、国外4件、不明9件であった。

破傷風は1件届出があった。推定感染地は国内であった。

バンコマイシン耐性腸球菌感染症は17件届出があった。耐性遺伝子型はvanA 5件、vanB 2件、vanC 8件、不明2件であった。

《先天性風しん症候群、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症》の届出はなかった。

力 指定感染症

指定感染症《インフルエンザ（H5N1）》の届出はなかった。

（2）五類感染症（定点把握対象）

ア 小児科・内科疾患

2006年と比較して2007年に増加した疾患は、インフルエンザ、RSウイルス感染症、手足口病、突発性発しん、ヘルパンギーナであり、少数報告疾患では百日咳、風しん、麻しんも増加した。報告数が前年並に推移した疾患はA群溶血性レンサ球菌咽頭炎、水痘、伝染性紅斑及びMCLS（川崎病）で、前年より減少した疾患は咽頭結膜熱、感染性胃腸炎、流行性耳下腺炎及び少数報告疾患の不明発しん症であった。

[前年比増加疾患]

インフルエンザ：年間53,927件（191.41/定点）の報告があり、前年比142.2%、過去10年間で報告数第1位、定点当たりの年間報告数は第3位であった。

RSウイルス感染症：年間1,403件（9.57/定点）が報告され、前年比166.2%、過去5年間で報告数第1位（年定点当たり第1位）であった。

手足口病：年間4,382件（29.73/定点）報告され、前年比146.3%、過去10年間で第4位（年定点当たり、報告数も）であった。

突発性発しん：4,691 件 (31.95/定点) 報告され、前年比 110.1 % の微増、過去 10 年横這いであり、本年は微増～横這いの境界値ながら、報告数・定点当たり数とも過去 10 年で第 1 位。

百日咳：151 件 (1.02/定点) 報告され、前年比 637.5 % の急増。過去 10 年で第 1 位。

風しん：35 件 (0.24/定点) 報告され、前年比 166.7 % の増加。過去 10 年で第 9 位。

ヘルパンギーナ：報告数 6,804 件 (46.10/定点) で、前年比 111.0 % の微増。過去 10 年で報告数第 2 位、定点当たり数では第 3 位。

麻しん：303 件 (2.05/定点) 報告され、前年比 1138.9 % の急増、成人の罹患が注目された。過去 10 年間で報告数、定点当たり数とも第 7 位。

[前年比横這い疾患]

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎：11,913 件 (81.32/定点) 報告され、前年比 103.0 % の横這いであるが、過去 10 年では 5 年続いた第 1 位の報告件数であり、定点当たり数も第 1 位であった。

水痘：8,874 件 (60.77/定点) 報告され、前年比 103.4 % の横這い、最近 3 年連続第 1 位であった。

伝染性紅斑：2,879 件 (19.73/定点) 報告され、前年比 90.1 % の横這い状態、過去 10 年間では第 2 位であった。

MCLS (川崎病)：110 件 (0.75/定点) 報告され、前年 (101 件、0.71/定点) 比 105.6 % の横這い、過去 10 年では 2 年連続第 1 位にあった。

[前年比減少疾患]

咽頭結膜熱：2,793 件 (18.96/定点) 報告され、前年比 68.5 % の減少、過去 10 年では、第 2 位の報告数であった。

感染性胃腸炎：45,783 件 (318.41/定点) 報告され、前年比 87.0 % の減少、過去 10 年では、第 2 位の報告数であった。

流行性耳下腺炎：1,940 件 (13.24/定点) 報告され、前年比 42.0 % の激減、過去 10 年では、第 9 位の報告数である。

不明発しん症：665 件 (4.52/定点) 報告され、前年比 66.5 % の減少、過去 10 年では、第 3 位の報告数であった。

イ 眼科疾患

定点数の見直しに伴い、眼科定点は 2007 年 4 月 1 日から従来より 25 定点増加の 39 定点となり、眼科感染症発生状況のより正確な把握が期待できるものとなった。

急性出血性結膜炎：定点増加に伴い単純な比較はできないが、近年は 1.00/定点を割る低い発生であったが、本年は 2.15/定点と増加を示した。

流行性角結膜炎：定点は増加したが、定点当たりの報告数は 32.04/定点と昨年に引き続き過去最低を更新した。

両疾患共に、東京都における発生状況には際だった特徴を認めず、全国と大きな乖離をみなかつた。

ウ 基幹定点における週報告疾患

細菌性髄膜炎：2007 年は 28 件 (1.14/定点) 報告され、前年比 193 % の倍増であるが、地域的集

積性、季節的集積性を認めなかった。

無菌性髄膜炎：2007 年は 50 件（2.03/定点）報告され、前年比 128 %の軽増。患者発生は地域的偏りは明らかでなく、季節的には初夏～夏季に多発する傾向があった。

マイコプラズマ肺炎：2007 年は 247 件（10.11/定点）報告され、前年比 115 %の微増である。1999 年調査開始以来、初夏から盛夏に多発する傾向があった。

クラミジア肺炎：当年報告数は 20 件（0.81/定点）で、前年比 156 %で、地域的偏りはなく、年齢的には 60 歳以上に多いようであるが、あきらかではなかった。

成人麻しん：当年報告数は 262 件（10.70/定点）、前年比 87 倍、1999 年調査開始以来最高である。罹患年齢は 20 代、15～19 歳、30 代、40 代、50 代の順であった。

エ 基幹定点における月報告疾患

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症（MRSA）：1,758 件（70.53/定点）報告され、前年比 114.5 %の微増であり、男：女 = 1.7 : 1、季節差なく、5 歳未満と 50 歳以上に多くなる傾向があった。

ペニシリン耐性肺炎球菌感染症（PRSP）：624 件（25.08/定点）報告され、前年比 107.8 %の横這いであり、男：女 = 1.4 : 1、季節差明らかでなく、5 歳未満と 70 歳以上に多い傾向があった。

薬剤耐性緑膿菌感染症：48 件（1.93/定点）報告され、前年比 117.1 %の微増であり、男：女 = 1.4 : 1、季節差なく、70 歳以上に多い傾向があった。

オ 性感染症（STI）

日本における全国の STI サーベイランス定点数は、1999 年 4 月に約 600 から約 900 へと婦人科定点を主として増加された。婦人科施設では、男子の診療はほとんど行われないため、この改変により全国の STI サーベイランス報告数は女子の増加により、男女比は男 < 女となり、それ以後クラミジアでは女子報告数が男子を大幅に上まわり続けている。東京都の従来の 45STI 定点は皮膚科、婦人科、泌尿器科が、困難なことではあるが、比較的均等に保たれ、クラミジアの男女比は 2000 年以後も男子、女子で拮抗している。

1999 年の改変時、婦人科定点の重視、比率の増加をもたらしたのは、熊本班による 1998 年からの全国 STI の実態調査（センチナルサーベイランス）である。STI の実態調査を目的としたこの調査は、全国の 1/4 の人口に相当する北海道、福岡、愛知など 7 つの道、県で、婦人科、皮膚科、泌尿器科、性病科の全ての施設のアンケート調査で、1 年 12 ヶ月の内、6 月と 11 月の 2 ヶ月間の全 STI の全診療症例数を求め、日本の STI の 10 万対罹患率を推定算出しようとしたものである。1998 年の全 STI の調査報告数は男子 7,706 に対して女子 11,394 で、この男女比から「STI は過去にいわれたような男子の病気ではなく、今や女子の病気である」と主張され、STI 定点改変に大きな影響を与えた。回顧的にみれば熊本班調査の対象施設数は婦人科 1633、泌尿器科 649 で婦人科の比率が高く、報告数で女子が男子を上まわるのはあたりまえのことである。この調査の基本的な弱点は① STI 実数把握のためには STI 患者の全てが調査医療施設を受診することが前提となるが、実際に多数の尿道炎、頸管炎患者は対象以外の内科その他を受診している。② 調査では尿道炎、頸管炎を淋菌性、クラミジア性、非淋非クラミジア性の 3 群に分けて全て STI としているが、尿道炎を全て STI とすることはほぼ正しいとして、頸管炎の全てを STI とすることは明らかな誤りで、実際には頸管炎の大部分はカンジダ症などの非 STI である。

サーベイランスの方法や対象施設を改変しても定点での診療内容、保険制度による STI 診療の制

約が改変されなければ、実体と把握報告数との乖離は変わりえない。STI の実数の把握は困難であり、サーベイランスは報告数の推移でみる他に方法はない。全国サーベイランスで女子の比率が増加したことは症例の若年化、母子感染など重要性の高い女子 STI に衆目を集めた点で評価されるが、サーベイランス報告数の推移には不連続の断絶が生じた。東京都の STI 定点は 1999 年の改変をまぬがれたため、東京都 STI サーベイランスの推移は、断絶が生じた全国の推移の断絶の程度を測る尺度となった。2007 年 4 月東京都 STI 定点数は全国に 8 年遅れて 41 から 55 に増加された。改変には推移の断絶の危惧が持たれたがその後の経過には幸いにも断絶は認められていない。

HIV 以外の STI 報告数には本年も著変はない。HIV は誰の目にも明らかな高リスク群への対策が不十分で報告数の右肩上がりが続いている。高リスク群には梅毒、HBV の頻度も高い。梅毒トレポネーマはペニシリンの持続的有効性から薬剤耐性の獲得がないと思われてきたが、1990 年代後半から欧米でアジスロマイシンの治療失敗例が出現している。耐性は遺伝子変異で、マクロライドに共通する。日本ではガイドラインの梅毒治療にスピラマイシンがあげられているが、日本の梅毒病原検出の欠如、専門医の不在から臨床分離トレポネーマの耐性の検討は事実上不可能と思われ、ペニシリンによる治療の徹底が望まれる。日本の HIV 感染者の罹患 HBV は慢性化率が高い欧米型で、治療に抵抗性である。高リスク群へのワクチンの勧奨が必要とされる。

表2－1－(1) 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数
(一、二、三、四、五類全数)

| 分類 | 疾 病 名 | 2002年 | 2003年 | 2004年 | 2005年 | 2006年 | 2007年 |
|--------|--------------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 一 類 | エボラ出血熱 | — | — | — | — | — | — |
| | クリミア・コンゴ出血熱 | — | — | — | — | — | — |
| | 痘そう *1 | | — | — | — | — | — |
| | 南米出血熱 *2 | | — | — | — | — | — |
| | ペスト | — | — | — | — | — | — |
| | マールブルグ病 | — | — | — | — | — | — |
| 二 類 | ラッサ熱 | — | — | — | — | — | — |
| | 急性灰白髄炎 | — | — | — | — | — | — |
| | 結核 *2 (2008年1月29日現在の報告数) | — | — | — | — | — | 3,097 |
| | ジフテリア | — | — | — | — | — | — |
| 三 類 | 重症急性呼吸器症候群 *3 | | — | — | — | — | — |
| | コレラ *4 | 14 | 5 | 12 | 13 | 8 | 3 |
| | 細菌性赤痢 *4 | 112 | 105 | 133 | 89 | 67 | 86 |
| | 腸管出血性大腸菌感染症 | 186 | 182 | 273 | 238 | 268 | 476 |
| | 腸チフス *4 | 22 | 20 | 17 | 11 | 19 | 11 |
| 四 類 | パラチフス *4 | 11 | 7 | 15 | 4 | 12 | 7 |
| | E型肝炎 *1 | | 1 | 4 | 8 | 4 | 3 |
| | ウエストナイル熱 | — | — | — | — | — | — |
| | A型肝炎 *1 | | 3 | 21 | 24 | 28 | 19 |
| | エキノコックス症 | — | — | — | 1 | 1 | 3 |
| | 黄熱 | — | — | — | — | — | — |
| | オウム病 | 5 | 2 | 3 | 3 | 4 | 1 |
| | オムスク出血熱 *2 | | — | — | — | — | — |
| | 回帰熱 | — | — | — | — | — | — |
| | キャサヌル森林病 *2 | | — | — | — | — | — |
| | Q熱 | 36 | 1 | 1 | 3 | — | 2 |
| | 狂犬病 | — | — | — | — | — | — |
| | コクシジオイデス症 | — | — | 1 | 1 | 1 | 2 |
| | サル痘 *1 | | — | — | — | — | — |
| | 腎症候性出血熱 | — | — | — | — | — | — |
| | 西部ウマ脳炎 *2 | | — | — | — | — | — |
| | ダニ媒介脳炎 *2 | | — | — | — | — | — |
| | 炭疽 | — | — | — | — | — | — |
| | つつが虫病 | 11 | 3 | 7 | 6 | 1 | 15 |
| | デング熱 | 17 | 15 | 27 | 29 | 18 | 23 |
| | 東部ウマ脳炎 *2 | | — | — | — | — | — |
| | 鳥インフルエンザ *5 | | — | — | — | — | — |
| | ニパウイルス感染症 *1 | | — | — | — | — | — |
| | 日本紅斑熱 | — | — | — | — | — | — |
| | 日本脳炎 | — | — | — | — | — | — |
| | 発しんチフス | — | — | — | — | — | — |

*1:2003年11月5日より新たに追加指定された。

*2:2007年4月1日より新たに追加指定された。

*3:2003年11月5日より新たに追加指定された。2007年4月1日に一類から二類に分類が変更になった。

*4:2007年4月1日に二類から三類に分類が変更になった。

*5:2003年11月5日より「高病原性鳥インフルエンザ」として新たに追加指定された。2007年4月1日より変更となった。

表2－1－(2) 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数
(一、二、三、四、五類全数)

| 分類 | 疾 病 名 | 2002年 | 2003年 | 2004年 | 2005年 | 2006年 | 2007年 |
|----------------------------------|------------------------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 四 類 | ハンタウイルス肺症候群 | — | — | — | — | — | — |
| | Bウイルス病 | — | — | — | — | — | — |
| | 鼻疽 *2 | | | | | | — |
| | ブルセラ症 | 1 | — | — | 1 | 1 | — |
| | ベネズエラウマ脳炎 *2 | | | | | | — |
| | ヘンドラウイルス感染症 *2 | | | | | | — |
| | ボツリヌス症 *6 | — | — | — | 1 | — | — |
| | マラリア | 29 | 33 | 22 | 21 | 16 | 23 |
| | 野兎病 *1 | | | | | | — |
| | ライム病 | 2 | — | — | 4 | 2 | 3 |
| | リッサウイルス感染症 *1 | | | | | | — |
| | リフトバレー熱 *2 | | | | | | — |
| | 類鼻疽 *2 | | | | | | — |
| | レジオネラ症 | 19 | 18 | 18 | 24 | 62 | 53 |
| | レプトスピラ症 *1 | | — | 3 | 3 | 4 | 4 |
| | ロッキー山紅斑熱 *2 | | | | | | — |
| 五 類 (全 数 届 出) | アメーバ赤痢 *7 | 126 | 122 | 141 | 183 | 181 | 166 |
| | ウイルス性肝炎(A型・E型を除く) *8 | 161 | 67 | 58 | 36 | 34 | 40 |
| | 急性脳炎 *1 | | 1 | 8 | 16 | 6 | 20 |
| | クリプトスポリジウム症 *7 | 4 | 6 | 8 | 1 | 5 | 1 |
| | クロイツフェルト・ヤコブ病 *7 | 13 | 13 | 20 | 15 | 22 | 16 |
| | 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 *7 | 13 | 6 | 6 | 7 | 14 | 6 |
| | 後天性免疫不全症候群 *7 | 368 | 359 | 411 | 417 | 453 | 515 |
| | ジアルジア症 *7 | 46 | 29 | 18 | 13 | 28 | 19 |
| | 髄膜炎菌性髄膜炎 *7 | 1 | 4 | 7 | 3 | 1 | 3 |
| | 先天性風しん症候群 *7 | — | — | 3 | — | — | — |
| | 梅毒 *7 | 61 | 67 | 65 | 98 | 132 | 162 |
| | 破傷風 *7 | 6 | 3 | 2 | 2 | 8 | 1 |
| | バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症 *1 | — | — | — | — | — | — |
| | バンコマイシン耐性腸球菌感染症 *7 | 9 | 4 | 10 | 13 | 20 | 17 |
| 指定 | インフルエンザ(H5N1) *8 | | | | | — | — |

*1:2003年11月5日より新たに追加指定された。

*2:2007年4月1日より新たに追加指定された。

*3:2003年11月5日より新たに追加指定された。2007年4月1日に一類から二類に分類が変更になった。

*4:2007年4月1日に二類から三類に分類が変更になった。

*5:2003年11月5日より「高病原性鳥インフルエンザ」として新たに追加指定された。2007年4月1日より変更となった。

*6:2003年11月5日より新たに追加指定された。11/4までは「乳児ボツリヌス症」を含む。

*7:2003年11月5日より「四類(全数届出)」から「五類(全数届出)」に分類が変更になった。

*8:2006年6月12日に指定感染症に指定された。

表2－2 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（インフルエンザ定点・小児科定点）

上段：年間報告数
下段：定点当たり

| 年 | 1998 | 1999 | 2000 | 2001 | 2002 | 2003 | 2004 | 2005 | 2006 | 2007 |
|-------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|------------------|
| 小児科定点数 *1 | 142 | 142 | 142 | 142 | 142 | 142 | 142 | 142 | 142 | 150 |
| インフルエンザ定点数 *2 | | 178 | 178 | 178 | 178 | 178 | 178 | 178 | 178 | 290 |
| インフルエンザ *3 | 24,420 171.97 | 29,346 206.66 | 18,101 101.69 | 6,114 34.35 | 14,877 83.58 | 27,007 151.72 | 18,958 106.51 | 43,336 243.46 | 23,953 134.57 | 53,927 191.41 |
| RSウイルス感染症 *4 | | | | | | 68 0 | 432 3.04 | 848 5.97 | 818 5.76 | 1,403 9.57 |
| 咽頭結膜熱 *5 | 536 3.77 | 318 2.24 | 489 3.44 | 645 4.54 | 600 4.23 | 1,353 9.53 | 2,123 14.95 | 2,468 17.38 | 3,929 27.67 | 2,793 18.96 |
| A群溶血性レンサ球菌 咽頭炎 | 2,700 19.01 | 2,505 17.64 | 3,259 22.95 | 2,936 20.68 | 3,772 26.56 | 4,261 30.01 | 5,842 41.14 | 7,564 53.27 | 11,213 78.96 | 11,913 81.32 |
| 感染性胃腸炎 | 23,600 166.20 | 34,137 240.40 | 33,084 232.99 | 31,639 222.81 | 34,659 244.08 | 35,718 251.54 | 39,464 277.92 | 42,578 299.85 | 51,945 365.81 | 46,783 318.41 |
| 水 痘 | 5,946 41.87 | 6,508 45.83 | 6,973 49.11 | 6,877 48.43 | 7,079 49.85 | 6,439 45.35 | 6,845 48.20 | 7,565 53.27 | 8,345 58.77 | 8,874 60.77 |
| 手足口病 | 5,662 39.87 | 844 5.94 | 6,464 45.52 | 2,133 15.02 | 3,213 22.63 | 6,872 48.39 | 3,585 25.25 | 3,296 23.21 | 2,885 20.32 | 4,382 29.73 |
| 伝染性紅斑 | 1,693 11.92 | 1,146 8.07 | 1,740 12.25 | 2,510 17.68 | 1,574 11.08 | 1,471 10.36 | 2,771 19.51 | 2,035 14.33 | 3,109 21.89 | 2,879 19.73 |
| 突発性発しん | 3,839 27.04 | 3,851 27.12 | 3,663 25.80 | 3,507 24.70 | 3,632 25.58 | 3,777 26.60 | 4,043 28.47 | 4,048 28.51 | 4,119 29.01 | 4,691 31.95 |
| 百日咳 | 64 0.45 | 57 0.40 | 56 0.39 | 23 0.16 | 32 0.23 | 34 0.24 | 47 0.33 | 28 0.20 | 23 0.16 | 151 1.02 |
| 風しん | 726 5.11 | 286 2.01 | 226 1.59 | 114 0.80 | 71 0.50 | 143 1.01 | 234 1.65 | 40 0.28 | 21 0.15 | 35 0.24 |
| ヘルパンギーナ | 4,309 30.35 | 5,465 38.49 | 6,577 46.32 | 6,314 44.46 | 5,067 35.68 | 5,064 35.66 | 5,275 37.15 | 6,909 48.65 | 5,900 41.55 | 6,804 46.10 |
| 麻しん | 454 3.20 | 409 2.88 | 589 4.15 | 628 4.42 | 377 2.65 | 376 2.65 | 78 0.55 | 49 0.35 | 25 0.18 | 303 2.05 |
| 流行性耳下腺炎 | 3,714 26.15 | 2,763 19.46 | 4,804 33.83 | 6,284 44.25 | 3,678 25.90 | 1,290 9.08 | 3,250 22.89 | 7,321 51.56 | 4,481 31.56 | 1,940 13.24 |
| 不明発しん症 | 710 5.00 | 632 4.45 | 645 4.54 | 585 4.12 | 613 4.32 | 579 4.08 | 540 3.80 | 461 3.25 | 966 6.80 | 665 4.52 |
| MCLS(川崎病) | 65 0.46 | 76 0.54 | 66 0.46 | 75 0.53 | 60 0.42 | 66 0.46 | 69 0.49 | 56 0.39 | 101 0.71 | 110 0.75 |

*1 1999年3月までは、小児科・内科定点数。2007年は、12月末時点の定点数

*2 2007年は、12月末時点の定点数

*3 1999年3月までのインフルエンザの定点当たり患者報告数は、年間報告数を小児科・内科定点数で割った値

*4 2003年45週より実施

*5 1999年3月までの咽頭結膜熱の定点当たり数は、年間報告数を小児科・内科定点と眼科定点の合計数で割った値

表2－3 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（眼科定点）

上段：年間報告数
下段：定点当たり

| 年 | 1998 | 1999 | 2000 | 2001 | 2002 | 2003 | 2004 | 2005 | 2006 | 2007 |
|----------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|
| 定点数* | 14 | 14 | 14 | 14 | 14 | 14 | 14 | 14 | 14 | 39 |
| 急性出血性結膜炎 | 9 | 22 | 11 | 16 | 12 | 18 | 6 | 7 | 8 | 82 |
| | 0.64 | 1.57 | 0.79 | 1.14 | 0.86 | 1.29 | 0.43 | 0.50 | 0.57 | 2.15 |
| 流行性角結膜炎 | 816 | 776 | 1,240 | 1,008 | 925 | 880 | 719 | 567 | 535 | 968 |
| | 58.29 | 55.43 | 88.57 | 72.00 | 66.07 | 62.86 | 51.36 | 40.50 | 38.21 | 32.04 |

* 2007年は、12月末時点の定点数

表2－4 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数
(基幹定点週報告分)

上段：年間報告数
下段：定点当たり

| 年 | 1999 | 2000 | 2001 | 2002 | 2003 | 2004 | 2005 | 2006 | 2007 |
|-----------|------|------|------|------|------|------|------|------|-------|
| 定点数 | 25 | 25 | 25 | 25 | 25 | 25 | 25 | 25 | 25 |
| 細菌性髄膜炎 | 12 | 14 | 12 | 24 | 18 | 25 | 17 | 15 | 28 |
| | 0.48 | 0.56 | 0.48 | 0.96 | 0.72 | 1.00 | 0.68 | 0.60 | 1.14 |
| 無菌性髄膜炎 | 33 | 83 | 36 | 66 | 66 | 27 | 28 | 40 | 50 |
| | 1.32 | 3.32 | 1.44 | 2.64 | 2.64 | 1.08 | 1.12 | 1.60 | 2.03 |
| マイコプラズマ肺炎 | 19 | 22 | 45 | 163 | 173 | 184 | 164 | 218 | 247 |
| | 0.76 | 0.88 | 1.80 | 6.52 | 6.92 | 7.36 | 6.56 | 8.72 | 10.11 |
| クラミジア肺炎 | 4 | 1 | 0 | 2 | 3 | 4 | 9 | 13 | 20 |
| | 0.16 | 0.04 | 0.00 | 0.08 | 0.12 | 0.16 | 0.36 | 0.52 | 0.81 |
| 成人麻しん | 8 | 120 | 181 | 116 | 144 | 16 | 1 | 3 | 262 |
| | 0.32 | 4.80 | 7.24 | 4.64 | 5.76 | 0.64 | 0.04 | 0.12 | 10.70 |

1999年14週より実施

表2－5 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数
(基幹定点月報告分)

上段:年間報告数
下段:定点当たり

| 年 | 2000 | 2001 | 2002 | 2003 | 2004 | 2005 | 2006 | 2007 |
|-----------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 定点数 | 25 | 25 | 25 | 25 | 25 | 25 | 25 | 25 |
| メチシリン耐性黄色 ブドウ球菌感染症 | 1,456 58.24 | 1,365 54.60 | 1,759 70.36 | 1,761 70.44 | 1,552 62.08 | 1,539 61.56 | 1,536 61.44 | 1,758 70.53 |
| ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症 | 338 13.52 | 355 14.20 | 557 22.28 | 617 24.68 | 444 17.76 | 534 21.36 | 579 23.16 | 624 25.08 |
| 薬剤耐性 緑膿菌感染症 | 85 3.40 | 69 2.76 | 107 4.28 | 61 2.44 | 39 1.56 | 35 1.40 | 41 1.64 | 48 1.93 |

1999年14週より実施

表2－6 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数(STI定点)

上段:年間報告数
下段:定点当たり

| 年 | 1998 | 1999 | 2000 | 2001 | 2002 | 2003 | 2004 | 2005 | 2006 | 2007 |
|-------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| 定点数* | 41 | 41 | 41 | 41 | 41 | 41 | 41 | 41 | 41 | 55 |
| 性器クラミジア 感染症 | 2,054 50.10 | 2,692 65.66 | 2,688 65.56 | 2,789 68.02 | 2,536 61.85 | 2,422 59.07 | 2,476 60.39 | 2,132 52.00 | 2,133 52.02 | 2,485 48.08 |
| 性器ヘルペス ウイルス感染症 | 1,039 25.34 | 1,020 24.88 | 1,054 25.71 | 1,019 24.85 | 950 23.17 | 865 21.10 | 982 23.95 | 923 22.51 | 963 23.49 | 989 19.40 |
| 尖圭コンジローマ | 428 10.44 | 518 12.63 | 578 14.10 | 549 13.39 | 502 12.24 | 518 12.63 | 627 15.29 | 555 13.54 | 646 15.76 | 801 15.39 |
| 淋菌感染症 | 1,157 28.22 | 1,250 30.49 | 1,204 29.37 | 1,364 33.27 | 1,249 30.46 | 1,298 31.66 | 1,171 28.56 | 1,006 24.54 | 868 21.17 | 1,013 19.63 |
| 膣トリコモナス症 | 274 6.68 | 323 7.88 | 295 7.20 | 367 8.95 | 447 10.90 | 343 8.37 | 298 7.27 | 212 5.17 | 233 5.68 | 233 4.69 |
| 梅毒様疾患 | 138 3.37 | 118 2.88 | 108 2.63 | 63 1.54 | 41 1.00 | 68 1.66 | 42 1.02 | 43 1.05 | 74 1.80 | 103 1.99 |

* 2007年は、12月末時点の定点数

5 各疾患の動向

(1) 一類、二類、三類、四類、五類感染症（全数把握対象）

ア 一類感染症

一類感染症（以下参照）の届出はなかった。

エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、重症急性呼吸器症候群、痘そう、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱

イ 二類感染症

① 結核

結核は従来の結核予防法から、平成 20 年 4 月 1 日に「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（感染症法）に統合された。結核の発生動向については、別途、健康安全部感染症対策課において集約している。

② その他の二類感染症

以下の疾患は届出がなかった。

急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群

ウ 三類感染症

① コレラ

コレラは 3 件届出があった。

性別では、男性 2 人、女性 1 人で、年齢別では、30 歳代 1 人、60 歳代 2 人であった。

推定感染地は国内 1 件、国外 2 件（インド、フィリピン）であった。

コレラ（2007年 東京都 3件）

| 受理日 | 受理週 | 性別 | 年齢 | 菌型 | 推定感染地 |
|-------|-----|----|----|-----------|-------|
| 5/12 | 19 | 女 | 30 | O1エルトール稻葉 | インド |
| 6/1 | 22 | 男 | 62 | O1小川 | フィリピン |
| 12/28 | 52 | 男 | 65 | O1エルトール小川 | 国内 |

② 細菌性赤痢

細菌性赤痢は 86 件届出があった。

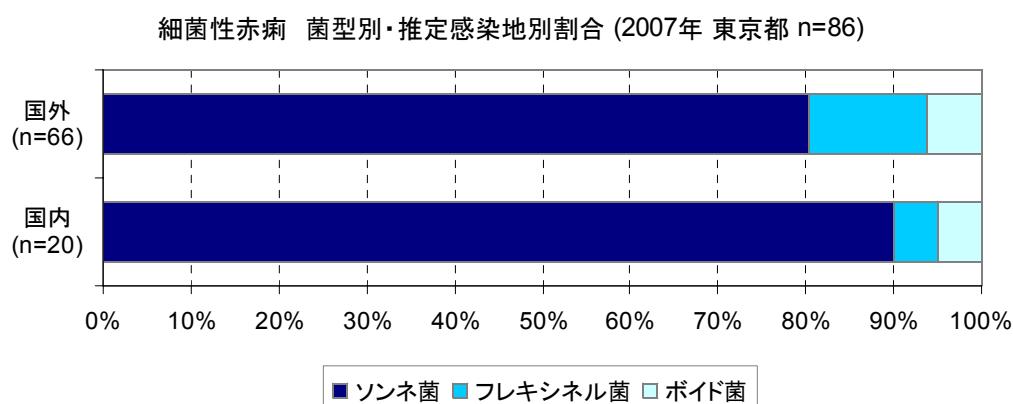
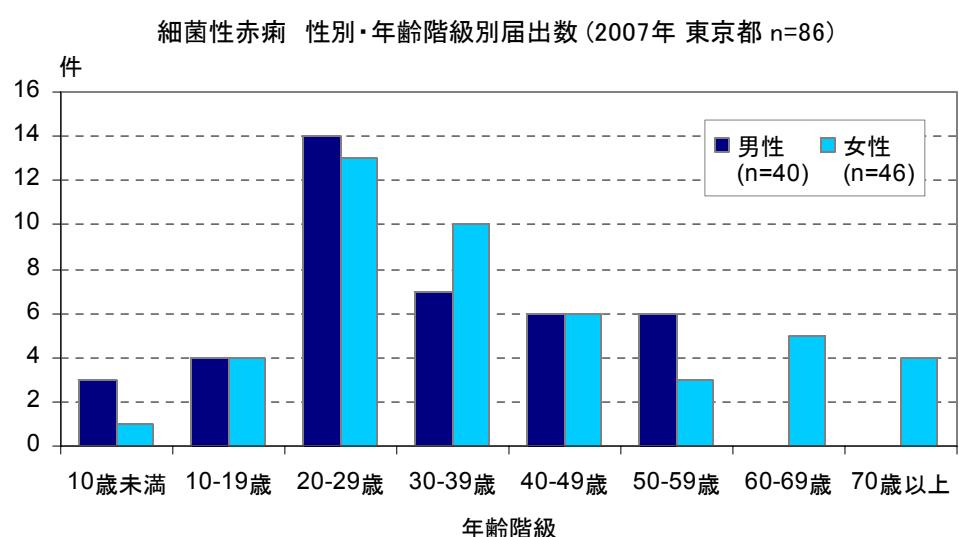
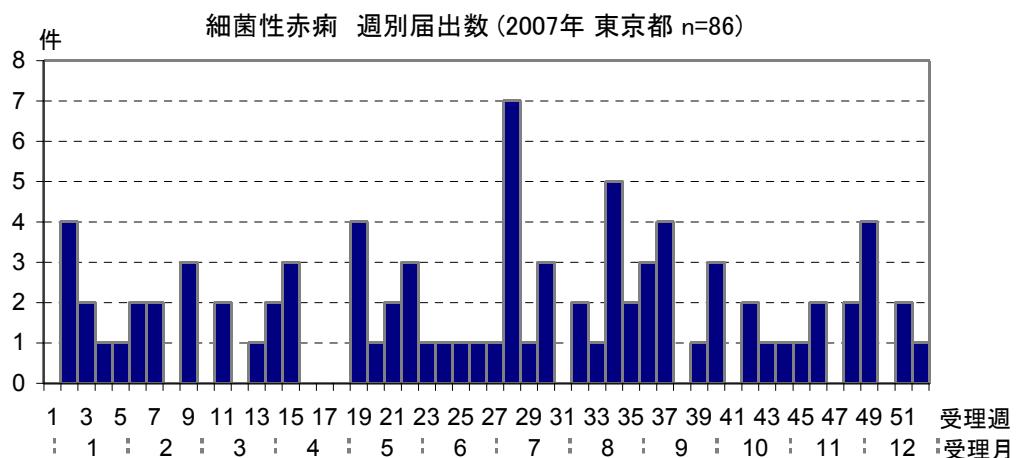
菌型は、フレキシネル菌 10 件、ボイド菌 5 件、ゾンネ菌 71 件であった。

性別では、男性 40 人、女性 46 人で、年齢別では、10 歳未満が 4 人、10 歳代が 8 人、20 歳代が 27 人、30 歳代が 17 人、40 歳代が 12 人、50 歳代が 9 人、60 歳代が 5 人、70 歳以上が 4 人であった。

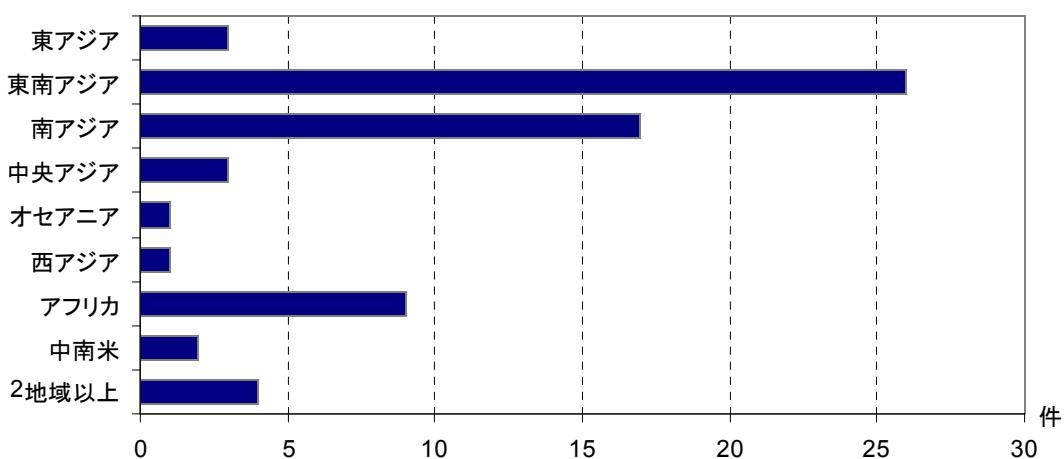
推定感染地は国内 20 件、国外 66 件であった。国外感染例 66 件を推定感染地域別にみると、東南アジア 26 件、南アジア 17 件、アフリカ 9 件が多く、推定感染国別にみると、インド 12 件、インドネシア 9 件、ベトナム 7 件、カンボジア 4 件、タイ 3 件、中国 3 件多かった。症例の集積は、第 9 週ベトナムへの同行者 2 人、第 34 週タイへの同行者 3 人、第 35・36 週中国/ドイツの同行家族 2 人の事例に認められた。

国内感染が疑われる 20 件について、年齢別では、10 歳未満 2 人、10 歳代 2 人、20 歳代 7 人、30 歳代 2 人、40 歳代 2 人、50 歳代 3 人、60 歳代 1 人、70 歳以上 1 人であった。症例の集積は、第 23

週の 40 歳代の同居者 2 人の事例と、第 28 週の学生実習中に 20 歳代 6 人が感染していた事例に認められた。



細菌性赤痢 国外感染例の推定感染地域別届出数 (2007年 東京都 n=86)



細菌性赤痢 国外感染例の推定感染地域別・国別届出数 (2007年 東京都 66件)

| 推定感染地域 | 件数 | 推定感染国 | 件数 |
|--------|----|--------------|----|
| 東南アジア | 26 | インドネシア | 9 |
| | | ベトナム | 7 |
| | | カンボジア | 4 |
| | | タイ | 3 |
| | | フィリピン | 1 |
| | | カンボジア/シンガポール | 1 |
| | | カンボジア/ラオス | 1 |
| 南アジア | 17 | インド | 12 |
| | | ネパール | 2 |
| | | インド/ネパール | 2 |
| | | パキスタン | 1 |
| アフリカ | 9 | エジプト | 2 |
| | | エチオピア | 2 |
| | | アンゴラ | 1 |
| | | セネガル | 1 |
| | | マダガスカル | 1 |
| | | マラウイ | 1 |
| | | モロッコ | 1 |
| 中央アジア | 3 | モンゴル | 2 |
| | | ウズベキスタン | 1 |
| 東アジア | 3 | 中国 | 3 |
| 中南米 | 2 | メキシコ | 2 |
| 西アジア | 1 | トルコ | 1 |
| オセアニア | 1 | マーシャル諸島 | 1 |
| 2地域以上 | 4 | 中国/ドイツ | 2 |
| | | インド/タイ | 1 |
| | | エジプト/サウジアラビア | 1 |
| 計 | 66 | | |

細菌性赤痢 国内感染例（2007年 東京都 20件）

| 受理日 | 受理週 | 性別 | 年齢 | 菌型 | 症状 | 推定感染地 | 備考 |
|-------|-----|----|----|--------|----|-------|----------|
| 2/3 | 5 | 男 | 55 | フレキシネル | 有 | 東京都 | |
| 3/14 | 11 | 男 | 27 | ソンネ | 有 | 不明 | |
| 5/7 | 19 | 女 | 50 | ソンネ | 有 | 東京都 | |
| 6/4 | 23 | 女 | 16 | ソンネ | 有 | 東京都 | |
| 6/4 | 23 | 男 | 42 | ソンネ | 有 | 東京都 | 同居者1名も感染 |
| 6/4 | 23 | 女 | 40 | ソンネ | 有 | 東京都 | 同居者1名も感染 |
| 6/4 | 23 | 男 | 37 | ソンネ | 有 | 東京都 | |
| 6/18 | 25 | 女 | 36 | ソンネ | 有 | 東京都 | |
| 7/12 | 28 | 男 | 23 | ソンネ | 有 | 東京都 | 学生実習 |
| 7/12 | 28 | 男 | 20 | ソンネ | 有 | 東京都 | 学生実習 |
| 7/12 | 28 | 男 | 21 | ソンネ | 有 | 東京都 | 学生実習 |
| 7/12 | 28 | 男 | 21 | ソンネ | 有 | 東京都 | 学生実習 |
| 7/14 | 28 | 男 | 20 | ソンネ | 有 | 東京都 | 学生実習 |
| 7/12 | 28 | 男 | 22 | ソンネ | 有 | 東京都 | 学生実習 |
| 8/31 | 35 | 男 | 59 | ボイド | 有 | 東京都 | |
| 10/19 | 42 | 女 | 73 | ソンネ | 有 | 不明 | |
| 10/26 | 43 | 男 | 12 | ソンネ | 有 | 不明 | |
| 10/31 | 44 | 女 | 5 | ソンネ | 有 | 不明 | |
| 11/12 | 46 | 男 | 3 | ソンネ | 有 | 東京都 | |
| 12/26 | 52 | 女 | 62 | ソンネ | 有 | 東京都 | |

③ 腸管出血性大腸菌感染症

腸管出血性大腸菌感染症は476件届出があった。

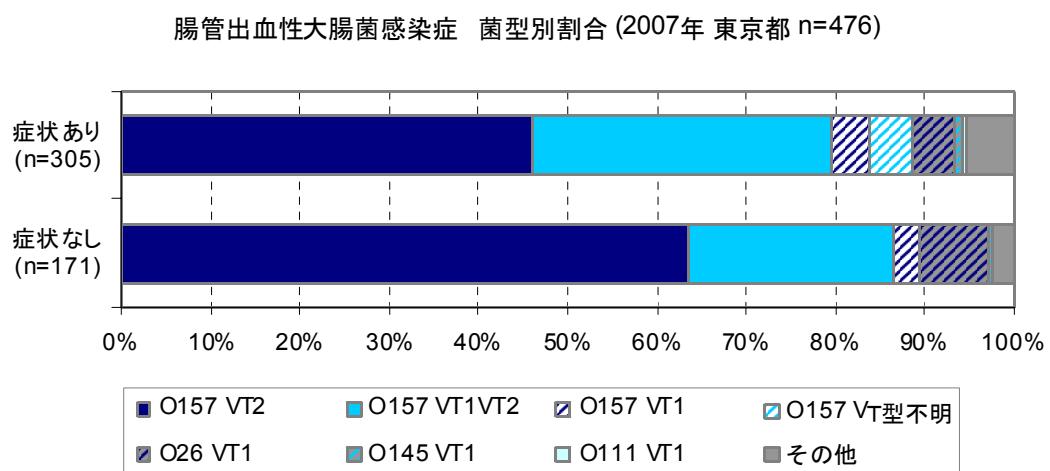
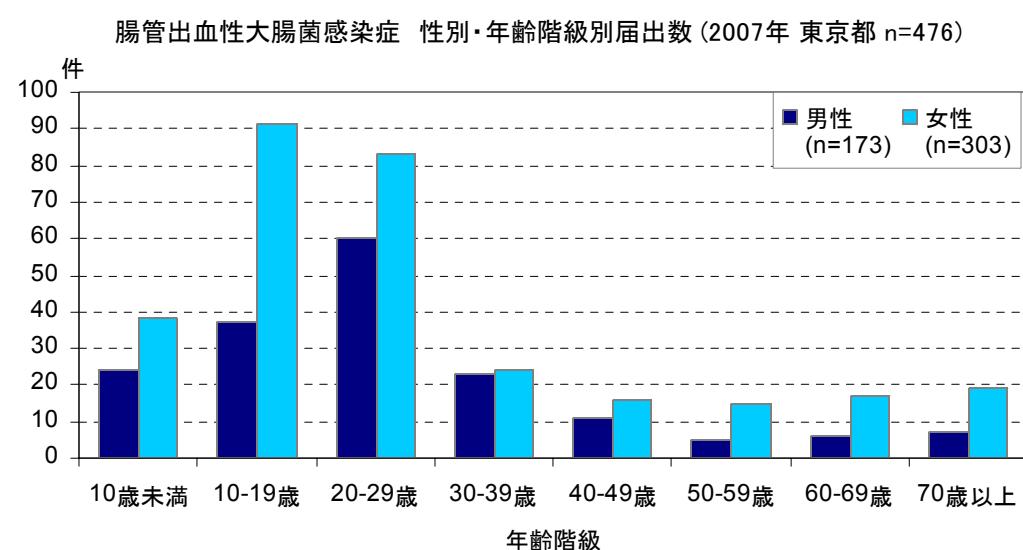
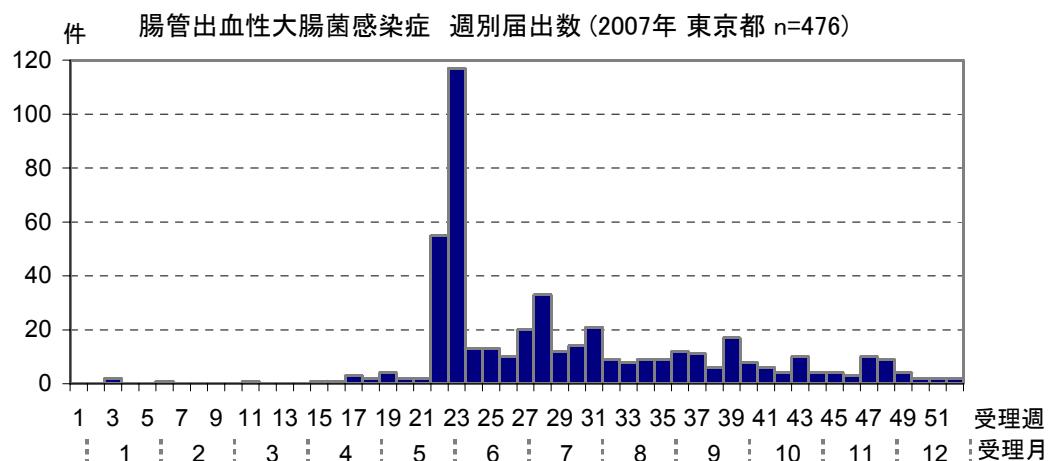
性別では、男性173人、女性303人で、年齢別では10歳未満62人、10歳代128人、20歳代143人、30歳代47人、40歳代27人、50歳代20人、60歳代23人、70歳以上26人であった。

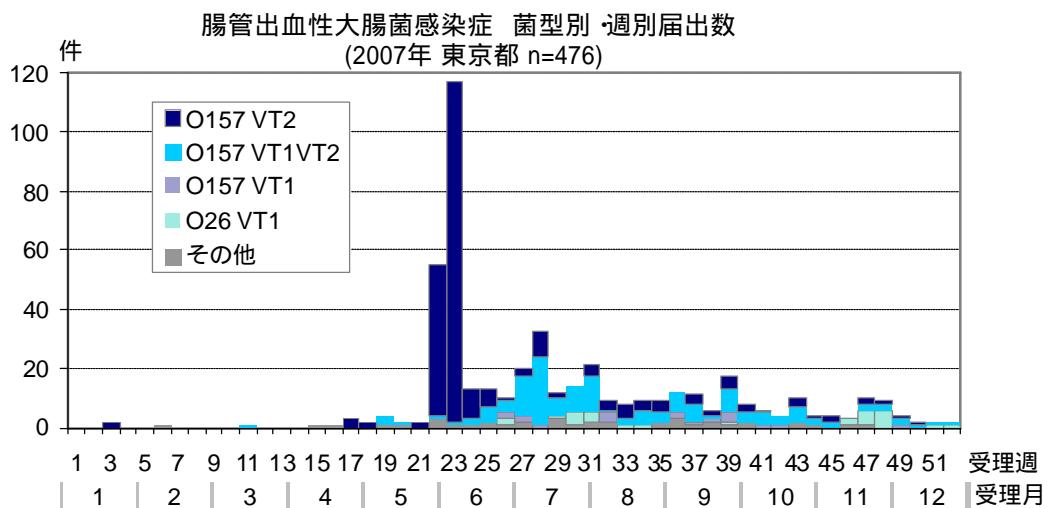
菌型は、O157 VT2が249件、O157 VT1VT2が142件、O157 VT1が18件、O157 毒素型不明が14件、O26 VT1が28件、O145 VT1が3件、O111 VT1が2件、その他が20件届出されている。

症状別では、患者305人、無症状病原体保有者171人であった。溶血性尿毒症症候群（HUS）と判明しているものは6件あり、内訳は10歳未満3人、10歳代2人、60歳代1人であった。推定感染地は国内466件、国外10件であった。

症例の集積は、第22～24週の西東京市内の大学学生食堂に関連したO157 VT2食中毒事例（都内保健所で届出票が受理され、事例との関連が届出票から推定できたのが計151人、うち患者78人、無症状73人）、第27～28週の板橋区内の通所介護施設に関連した8人のO157 VT1VT2食中毒事例（患者4人、無症状4人）、第28～29週の町田市内の飲食店に関連した大学生15人のO157 VT1VT2食中毒事例（患者8人、無症状7人）に認められた。

なお、大学学生食堂に関連したO157 VT2食中毒事例について、調査を担当した保健所の集計によると、感染症法に基づく医師の届出は204人（患者126人、無症状78人）とされている。ただし、この数には東京都外の保健所に届け出られたものも含まれる（参考：『学生食堂で発生した集団食中毒事件報告書—腸管出血性大腸菌 O157 食中毒—』平成20年3月 東京都多摩小平保健所）。



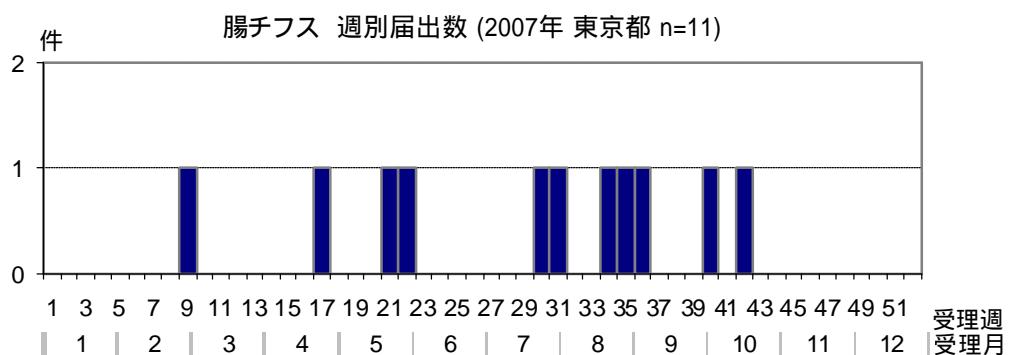


腸チフス

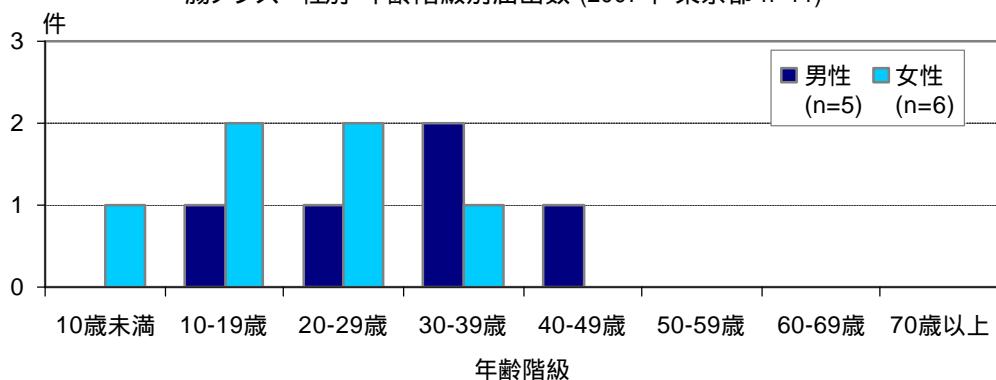
腸チフスは11件届出があった。

性別では、男性5人、女性6人で、年齢別では、10歳未満1人、10歳代3人、20歳代3人、30歳代3人、40歳代1人であった。

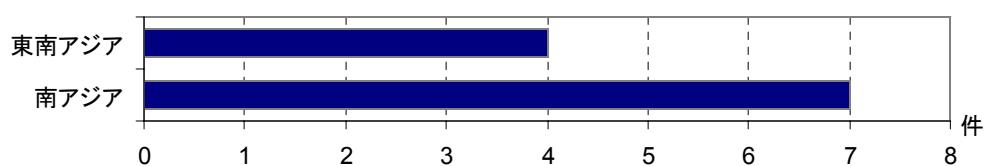
推定感染地はすべて国外であった。推定感染地域別では、南アジア7件、東南アジア4件で、推定感染国別では、ネパール3件、インド2件、インドネシア2件、バングラデシュ1件、フィリピン1件、ミャンマー1件、インド/ネパール1件であった。



腸チフス 性別・年齢階級別届出数 (2007年 東京都 n=11)



腸チフス 国外感染例の推定感染地域別届出数 (2007年 東京都 n=11)



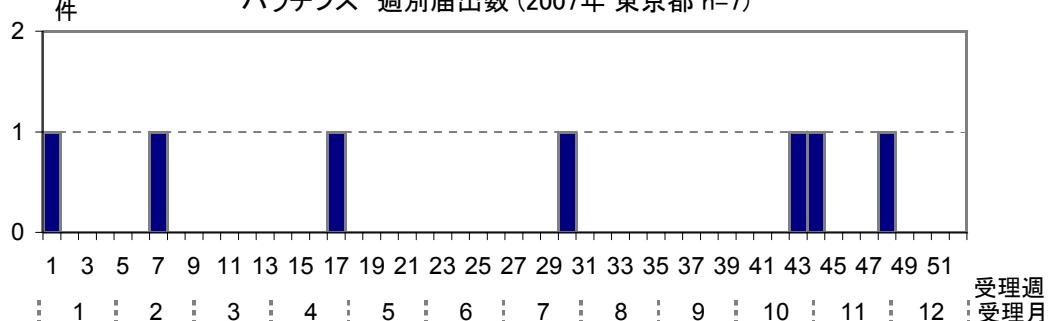
⑤ パラチフス

パラチフスは7件届出があった。

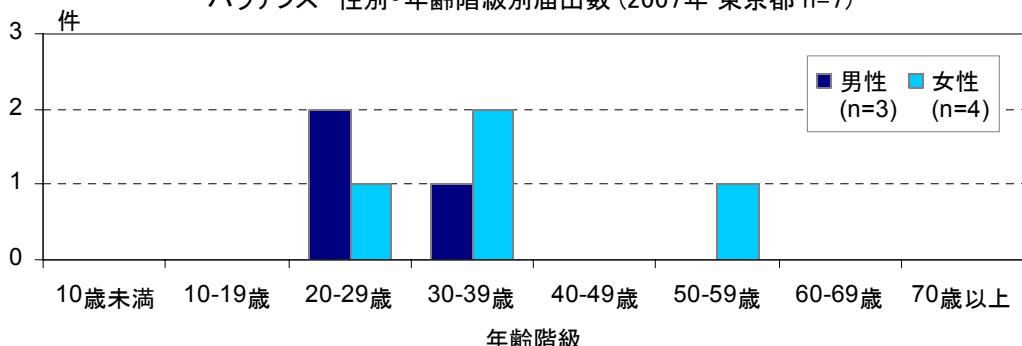
性別では、男性3人、女性4人で、年齢別では、20歳代3人、30歳代3人、50歳代1人であった。

推定感染地はすべて国外であった。推定感染地域別では、南アジア3件、東南アジア2件、アフリカ1件、不明1件で、推定感染国別では、インド、ネパール、バングラデシュ、インドネシア/タイ、シンガポール、セネガル、不明が各1件であった。

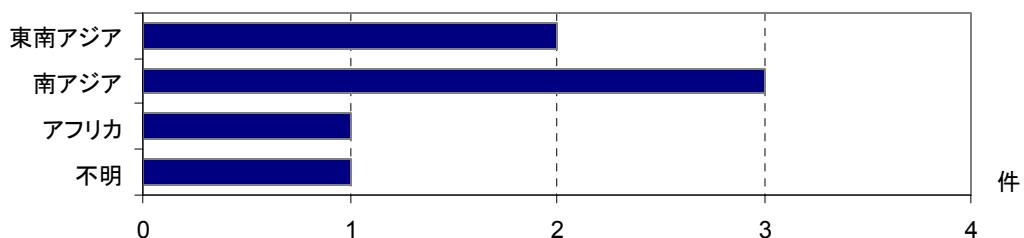
パラチフス 週別届出数 (2007年 東京都 n=7)



パラチフス 性別・年齢階級別届出数 (2007年 東京都 n=7)



パラチフス 国外感染例の推定感染地域別届出数 (2007年 東京都 n=7)



工 四類感染症

① E型肝炎

E型肝炎は3件届出があった。

性別では、男性2人、女性1人で、年齢別では、20歳代、30歳代、40歳代が各1人であった。

推定感染地は国内1件、国外2件（ネパール、バングラデシュ）であった。

E型肝炎（2007年 東京都3件）

| 受理日 | 受理週 | 性別 | 年齢 | 症状 | 推定感染地 | 推定感染経路 |
|------|-----|----|----|-------------------------------|---------|--------------------------|
| 1/26 | 4 | 女 | 43 | 全身倦怠感、肝機能異常 | 国内 | 飲食物による経口感染 (加熱した豚レバー) |
| 7/9 | 28 | 男 | 27 | 全身倦怠感、食欲不振、 黄疸、肝機能異常 | バングラデシュ | 飲食物による経口感染 |
| 11/7 | 45 | 男 | 39 | 発熱、全身倦怠感、食欲不振、 黄疸、肝機能異常、眼気 | ネパール | 飲食物による経口感染 |

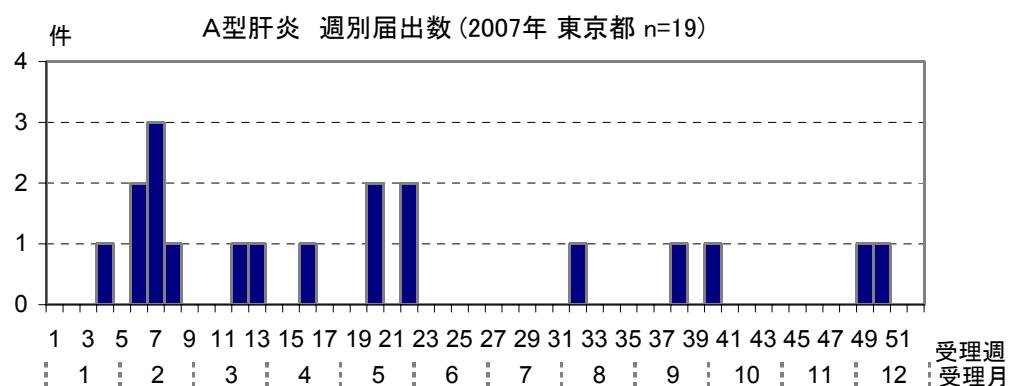
② A型肝炎

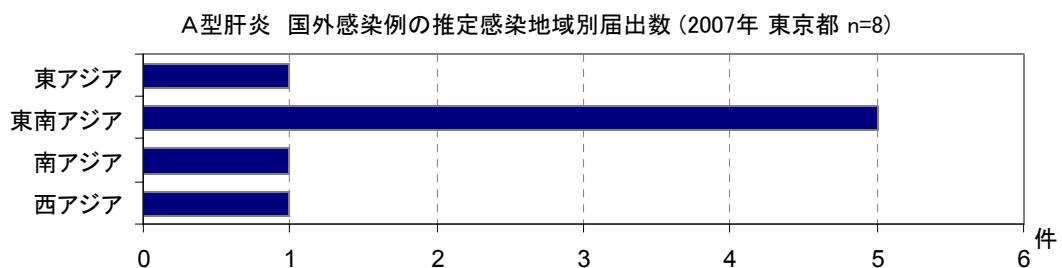
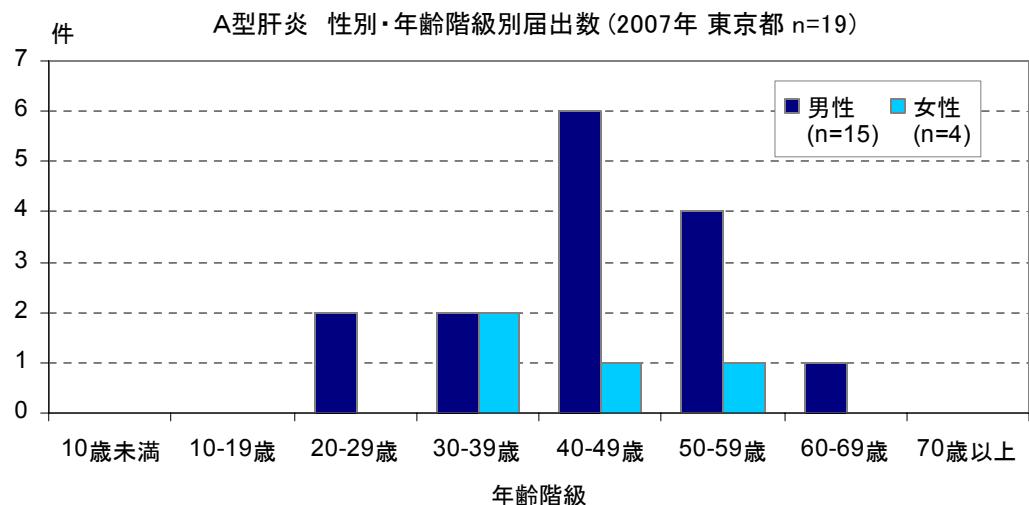
A型肝炎は19件届出があった。

性別では、男性15人、女性4人で、年齢別では、20歳代2人、30歳代4人、40歳代7人、50歳代5人、60歳代1人であった。

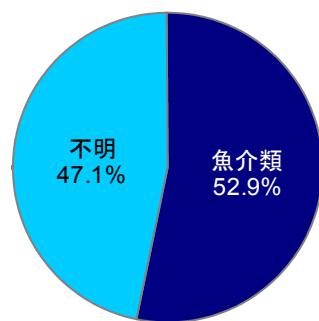
推定感染地は国内11件、国外8件であった。国外の推定感染地域別では、東南アジア5件、南アジア1件、東アジア1件、西アジア1件で、推定感染国別では、インドネシア2件、インド、韓国、タイ、トルコ、フィリピン、マレーシアが各1件であった。

推定感染経路は飲食物による経口感染17件、不明2件であった。飲食物による経口感染17件のうち、9件（52.9%）で魚介類が感染原因として疑われており、他の感染原因は不明であった。





A型肝炎 感染原因として疑われた飲食物
(2007年 東京都 n=17)



③ エキノコックス症

エキノコックス症は3件届出があった。

性別はすべて男性で、年齢別では、20歳代、30歳代、40歳代が各1人であった。

推定感染地は国内（北海道）、中国/オーストラリア/ニュージーランド、ウズベキスタンが各1件であった。

エキノコックス症（2007年 東京都 3件）

| 受理日 | 受理週 | 性別 | 年齢 | 原因寄生虫種 | 症状 | 推定感染地 | 推定感染経路 |
|------|-----|----|----|--------|--------------------------|-------------------------|--|
| 2/8 | 6 | 男 | 29 | 単包条虫 | 肝腫大、腹痛、肝臓 および肺の画像異常所見 | 中国/オーストラリア /ニュージーランド | 飲食物による経口感染 (水、生野菜等) |
| 7/11 | 28 | 男 | 48 | 多包条虫 | 腹痛、黄疸、 肝臓の画像異常所見 | 国内(北海道) | 飲食物による経口感染 /動物からの感染(ウシ、ウサギ、タヌキ、キツネ、ウマ、ネコ) |
| 7/30 | 31 | 男 | 30 | 単包条虫 | 皮疹 | ウズベキスタン | 飲食物による経口感染 (エキノコックス症流行地出身者) |

④ オウム病

オウム病は1件届出があった。

症例は40歳代男性で、推定感染地は国内、感染原因として自動車に付着した野鳥の糞が疑われている。

オウム病（2007年 東京都 1件）

| 受理日 | 受理週 | 性別 | 年齢 | 症状 | 推定感染地 | 推定感染原因 |
|------|-----|----|----|------|-------|--------|
| 3/16 | 11 | 男 | 46 | 発熱、咳 | 国内 | 野鳥の糞 |

⑤ Q熱

Q熱は2件届出があった。

症例はいずれも男性で、50歳代と60歳代、それぞれ犬との接触、自宅で飼育していたイヌ/ハト/コウモリ/ウサギとの関連が疑われている。

Q熱（2007年 東京都 2件）

| 受理日 | 受理週 | 性別 | 年齢 | 症状 | 推定感染地 | 推定感染原因 |
|-------|-----|----|----|-------------|-------|--------------------|
| 9/27 | 39 | 男 | 54 | 全身倦怠感 | 国内 | 犬との接触 |
| 12/25 | 52 | 男 | 66 | 発熱、頭痛、眼球後部痛 | 国内 | 自宅飼育の犬、ハト、こうもり、うさぎ |

⑥ コクシジオイデス症

コクシジオイデス症は2件届出があった。

症例は女性と男性、いずれも30歳代で、推定感染地は米国（アリゾナ州とテキサス州）であった。

コクシジオイデス症（2007年 東京都 2件）

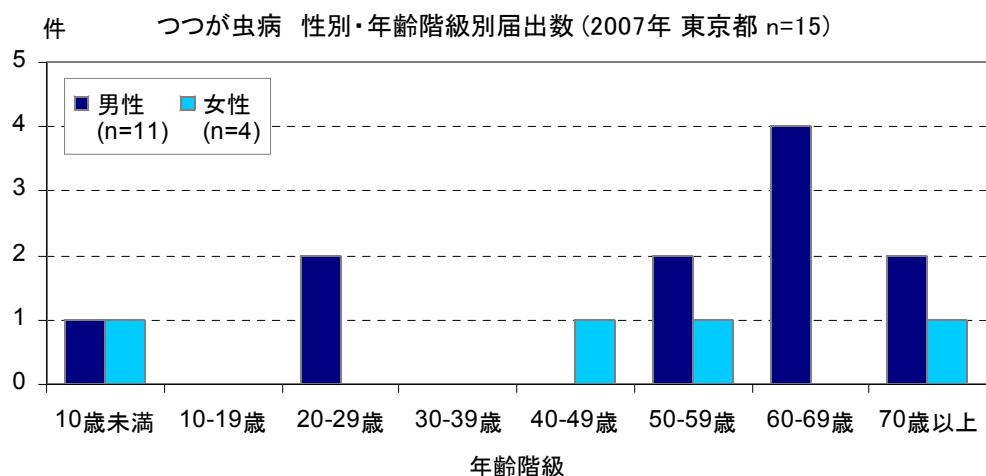
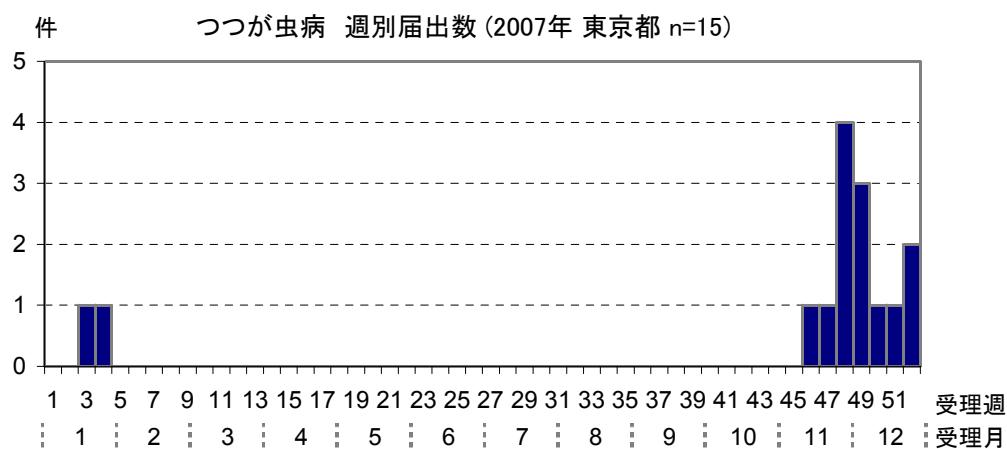
| 受理日 | 受理週 | 性別 | 年齢 | 症状 | 推定感染地 | 推定感染経路 |
|------|-----|----|----|---------|-----------|--------|
| 2/9 | 6 | 女 | 31 | 胸部空洞性病変 | 米国(アリゾナ州) | 塵埃感染 |
| 7/25 | 30 | 男 | 39 | 胸部結節性病変 | 米国(テキサス州) | 塵埃感染 |

⑦ つつが虫病

つつが虫病は15件届出があった。

性別では、男性11人、女性4人で、年齢別では、10歳未満2人、20歳代2人、40歳代1人、50歳代3人、60歳代4人、70歳以上3人であった。

推定感染地は東京都10件（島しょ地域9件、多摩地域1件）、千葉県2件、神奈川県1件、埼玉県1件、山梨県1件であった。



つつが虫病 (2007年 東京都 15件)

| 受理日 | 受理週 | 性別 | 年齢 | 症状 | 推定感染地 | 媒介動物との接触状況 |
|-------|-----|----|----|----------------------------|-------------|------------|
| 1/19 | 3 | 男 | 62 | 発熱 | 東京都 島しょ | |
| 1/26 | 4 | 男 | 7 | 発熱、刺し口、リンパ節腫脹、発疹 | 東京都 島しょ | |
| 11/16 | 46 | 男 | 68 | 刺し口、発疹 | 東京都 島しょ | |
| 11/19 | 47 | 男 | 54 | 発熱、刺し口、リンパ節腫脹 | 東京都 島しょ | |
| 11/28 | 48 | 男 | 69 | 発熱、刺し口、リンパ節腫脹、発疹 | 埼玉県 木の実採集 | |
| 11/28 | 48 | 男 | 73 | 発熱、刺し口、リンパ節腫脹、発疹 | 東京都 多摩 | |
| 11/28 | 48 | 女 | 45 | 頭痛、発熱、刺し口、発疹 | 東京都 島しょ | 自宅周辺の草むしり |
| 11/27 | 48 | 男 | 59 | 発熱、刺し口、リンパ節腫脹 | 東京都 島しょ | 畑や林での作業 |
| 12/3 | 49 | 男 | 29 | 発熱、刺し口、リンパ節腫脹、発疹、肝酵素上昇 | 千葉県 自衛官野外訓練 | |
| 12/4 | 49 | 女 | 83 | 発熱、刺し口、発疹、肺炎、呼吸不全(間質性肺炎合併) | 山梨県 | |
| 12/3 | 49 | 男 | 68 | 発熱、刺し口、リンパ節腫脹 | 東京都 島しょ | 自宅周辺の草むしり |
| 12/12 | 50 | 男 | 83 | 発熱、刺し口、リンパ節腫脹 | 東京都 島しょ | |
| 12/21 | 51 | 男 | 28 | 頭痛、発熱、刺し口、リンパ節腫脹、発疹 | 千葉県 自衛官野外訓練 | |
| 12/25 | 52 | 女 | 53 | 刺し口 | 神奈川県 | |
| 12/25 | 52 | 女 | 2 | 発熱、刺し口、リンパ節腫脹 | 東京都 島しょ | 公園 |

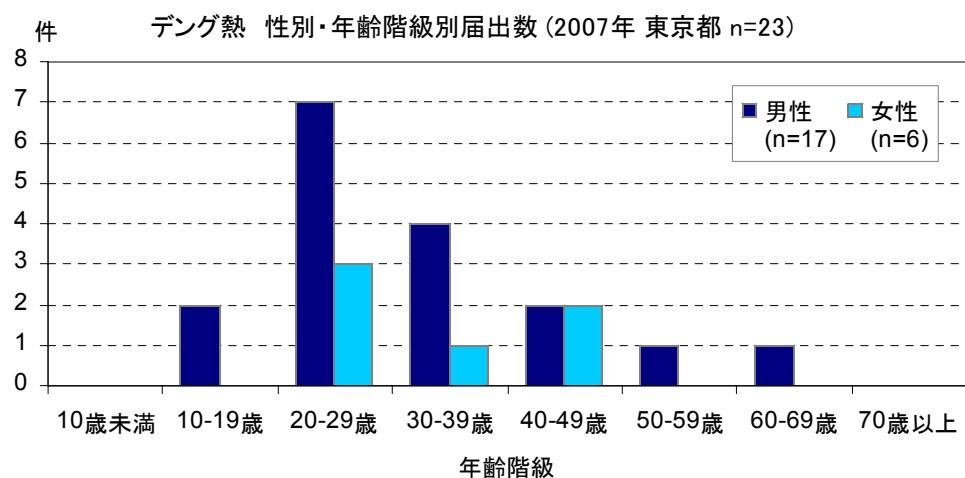
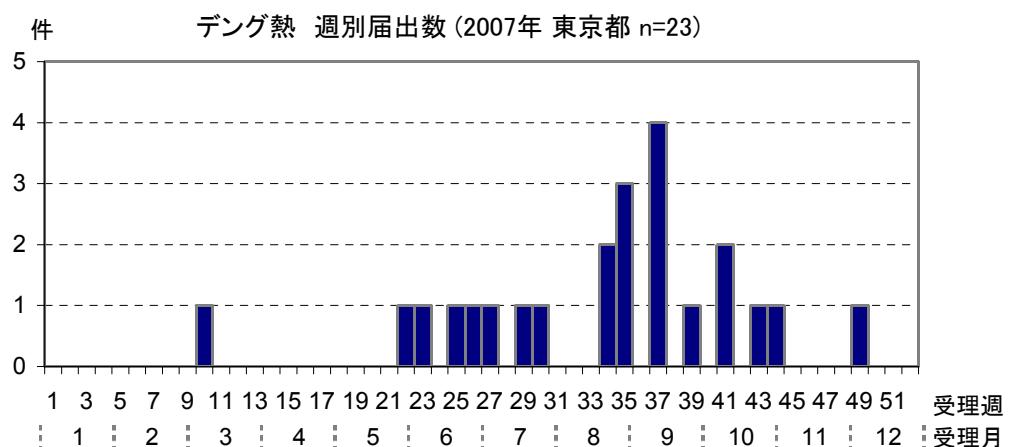
⑧ デング熱

デング熱は23件届出があった。うち1件はデング出血熱であった。

性別では、男性17人、女性6人で、年齢別では、10歳代2人、20歳代10人、30歳代5人、40歳代4人、50歳代1人、60歳代1人であった。

推定感染地はすべて国外で、推定感染地域別では、東南アジア13件、南アジア5件、中南米5件であった。推定感染国別では、フィリピン5件、インドネシア4件、インド2件、ジャマイカ2件、バングラデシュ2件、カンボディア1件、グアテマラ1件、スリランカ1件、ブラジル1件、ベトナム1件、ホンジュラス1件、東ティモール1件、タイ/カンボディア1件であった。

血清型は5件について報告されており、1型1件（グアテマラ）、2型2件（ジャマイカ、スリランカ）、3型2件（フィリピン2）で、4型の報告はなかった（括弧内は推定感染地）。デング出血熱1件の血清型や過去の感染歴は不明であった。



デング出血熱（2007年 東京都 1件）

| 受理日 | 受理週 | 性別 | 年齢 | 症状 | 推定感染地 |
|-----|-----|----|----|---|--------|
| 6/5 | 23 | 男 | 26 | 2日以上続く発熱、全身の筋肉痛、骨関節痛、血小板減少、 100,000/mm ³ 以下の血小板減少、白血球減少、出血、 ショック、血清蛋白の低下 | インドネシア |

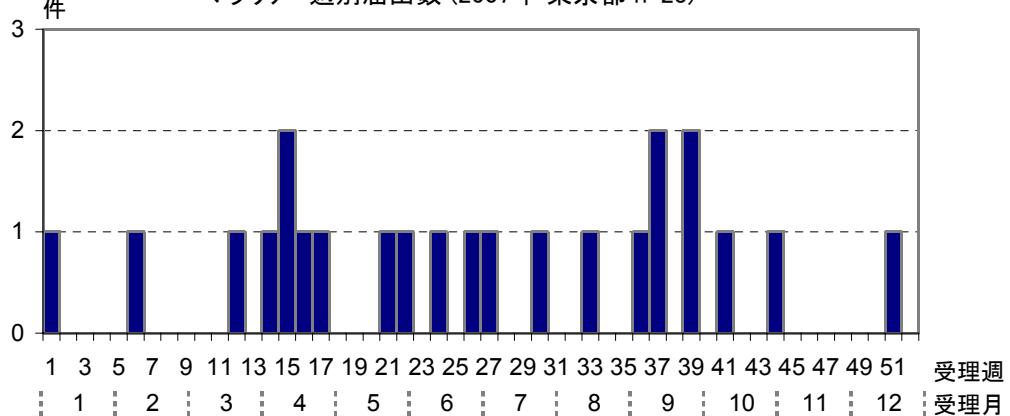
⑨ マラリア

マラリアは23件届出があった。三日熱マラリア11件、熱帯熱マラリア8件、卵形1件、不明1件で、四日熱マラリアの届出はなかった。

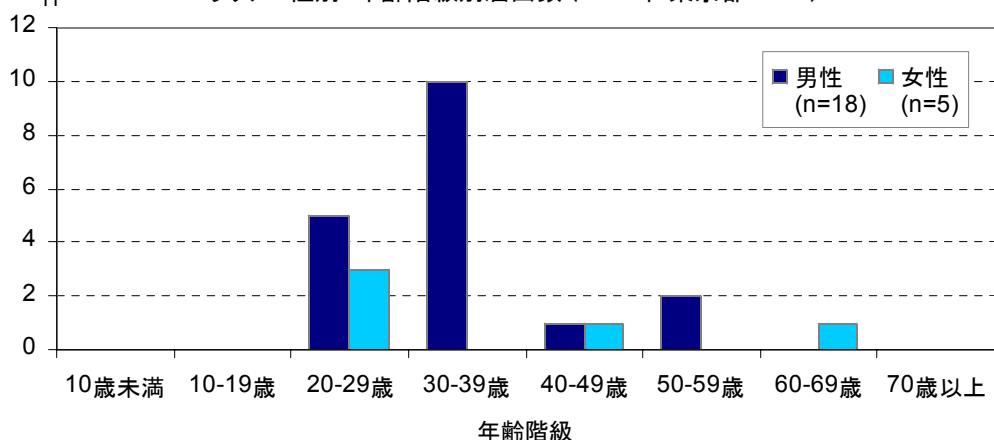
性別では、男性18人、女性5人で、年齢別では、20歳代8人、30歳代10人、40歳代2人、50歳代2人、60歳代1人であった。

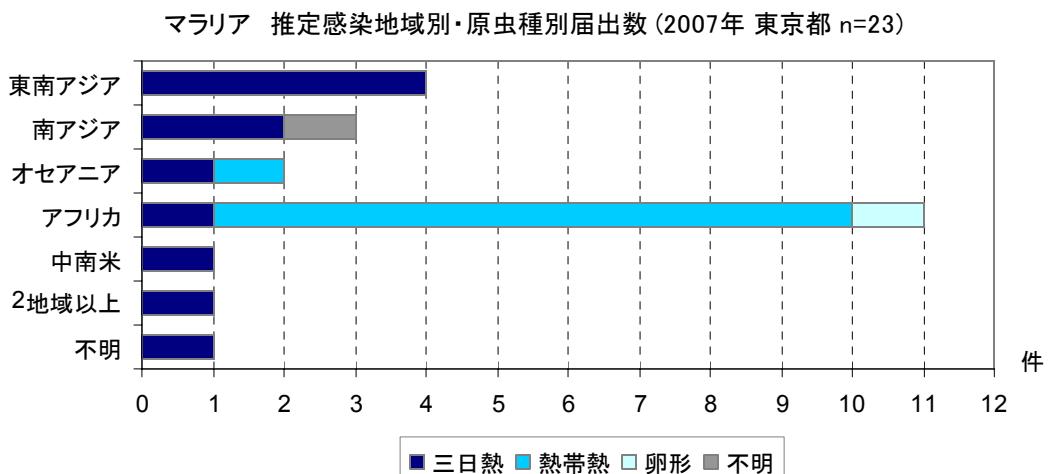
推定感染地はすべて国外で、推定感染地域別では、アフリカ11件、東南アジア4件、南アジア3件、オセアニア2件、中南米1件、2地域以上（東アジア/東南アジア）1件、不明1件であった。推定感染国別では、インドネシア3件、ナイジェリア3件、パプアニューギニア2件、ブルキナファソ2件で、インド、ウガンダ、ガーナ、カメルーン、ケニア、シエラレオネ、ネパール、ブラジル、ベナン、マレーシア、インド/ネパール、大韓民国/マレーシア/台湾、不明が各1件であった。

マラリア 週別届出数 (2007年 東京都 n=23)



マラリア 性別・年齢階級別届出数 (2007年 東京都 n=23)





⑩ ライム病

ライム病は3件届出があった。

すべて男性で、年齢別では、30歳代1人、40歳代2人であった。

推定感染地は国内1件、国外2件であった。

ライム病 (2007年 東京都 3件)

| 受理日 | 受理週 | 性別 | 年齢 | 症状 | 推定感染地 |
|------|-----|----|----|---------|----------------|
| 9/3 | 36 | 男 | 45 | 遊走性紅斑 | 国内(長野県) |
| 8/2 | 31 | 男 | 40 | 遊走性紅斑 | 米国(ニューハンプシャー州) |
| 8/20 | 34 | 男 | 34 | 発熱、神経症状 | 米国(ミネソタ州) |

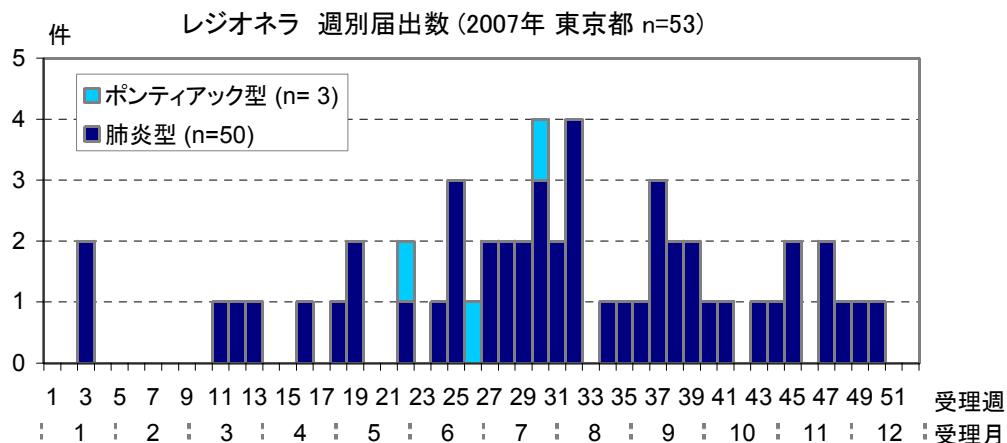
⑪ レジオネラ症

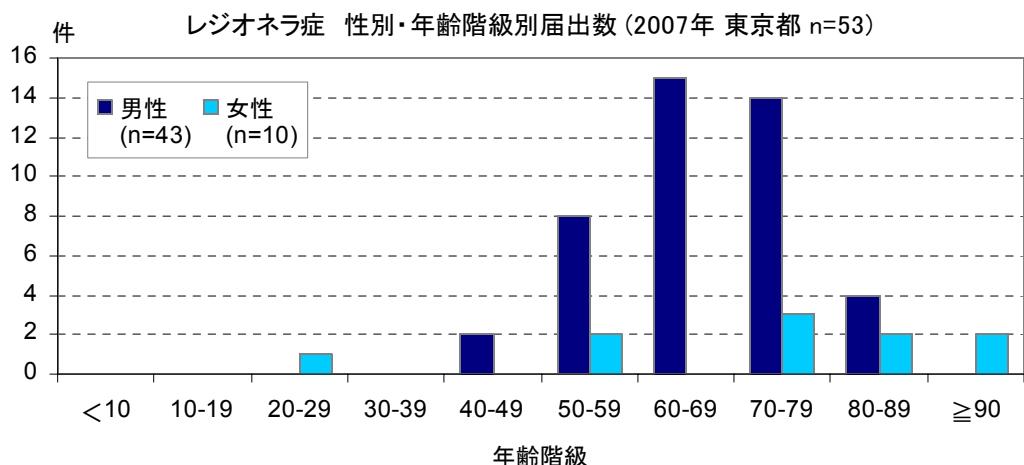
レジオネラ症は53件届出があった。肺炎型50件、ポンティアック型3件であった。

性別では、男性43人、女性10人で、年齢別では、20歳代1人、40歳代2人、50歳代10人、60歳代15人、70歳代17人、80歳代6人、90歳以上2人であった。

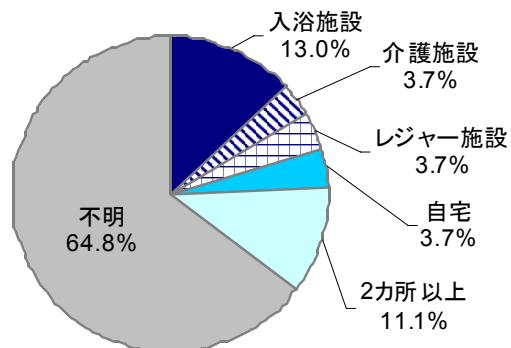
推定感染地は国内49件、国外3件、不明1件であった。温泉等入浴施設での感染が推定されているものは7件だった。

肺炎型90歳代患者1件の死亡が報告されており、症状は呼吸困難、肺炎で、第6病日に死亡した。





レジオネラ症 感染の疑われた場所
(2007年 東京都 n=53)



⑫ レプトスピラ症

レプトスピラ症は4件届出があった。

性別では、男性3人、女性1人で、年齢別では、20歳代2人、50歳代2人であった。

推定感染地は国内2件、国外2件（マレーシア、フィジー）であった。国内の2件ではネズミとの関連が、国外の2件では水との関連が疑われていた。

レプトスピラ症 (2007年 東京都 4件)

| 受付日 | 受付週 | 性別 | 年齢 | 症状 | 推定感染地 | 推定感染源 |
|-------|-----|----|----|----------------------------------|-------|----------|
| 4/13 | 15 | 男 | 51 | 発熱、筋肉痛、黄疸 | 国内 | ネズミ |
| 4/24 | 17 | 男 | 25 | 発熱、筋肉痛、結膜充血、黄疸、腎不全 | フィジー | 不明(水系感染) |
| 9/14 | 37 | 男 | 24 | 発熱、筋肉痛、結膜充血 | マレーシア | 川での遊泳 |
| 12/27 | 52 | 女 | 58 | 発熱、筋肉痛、黄疸、蛋白尿、腎不全、血小板減少、頭痛、嘔気・嘔吐 | 国内 | ネズミ |

⑬ その他の四類感染症

以下の疾患は届出がなかった。

ウエストナイル熱、黄熱、オムスク出血熱、回帰熱、キャサナル森林病、狂犬病、サル痘、腎症候性出血熱、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、炭疽、東部ウマ脳炎、鳥インフルエンザ、ニパウイルス感染症、日本紅斑熱、日本脳炎、ハンタウイルス肺症候群、Bウイルス病、鼻疽、ブルセラ症、ベネズエラウマ脳炎、ヘンドラウイルス感染症、発しんチフス、ボツリヌス症、野兎病、リッサウイルス感染症、リフトバレー熱、類鼻疽、ロッキー山紅斑熱

才 五類感染症（全数把握対象）

① アメーバ赤痢

アメーバ赤痢は 166 件届出があった。

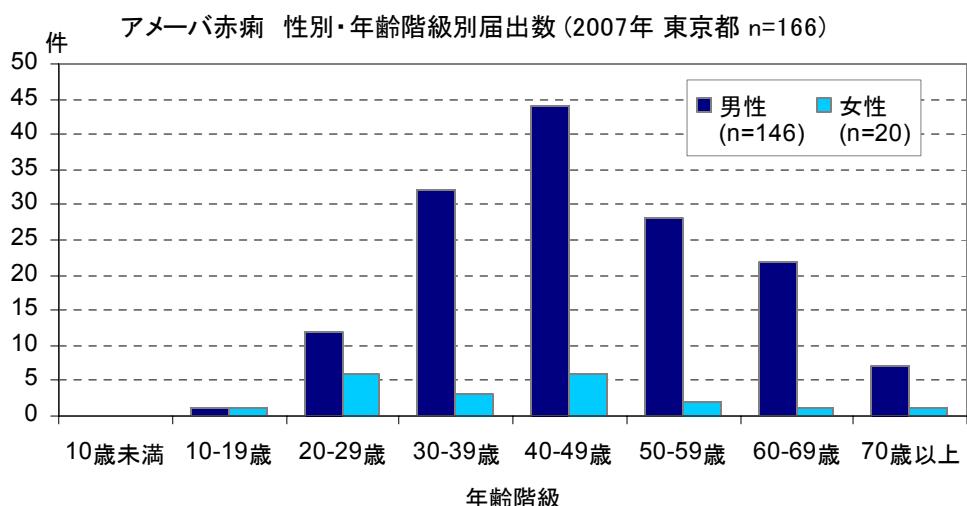
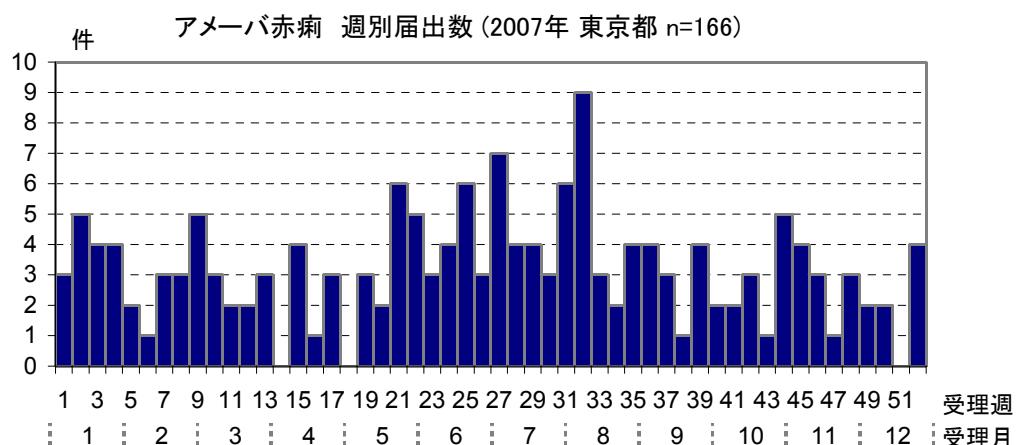
腸管アメーバ症 131 件、腸管外アメーバ症 28 件、腸管及び腸管外アメーバ症 7 件であった。

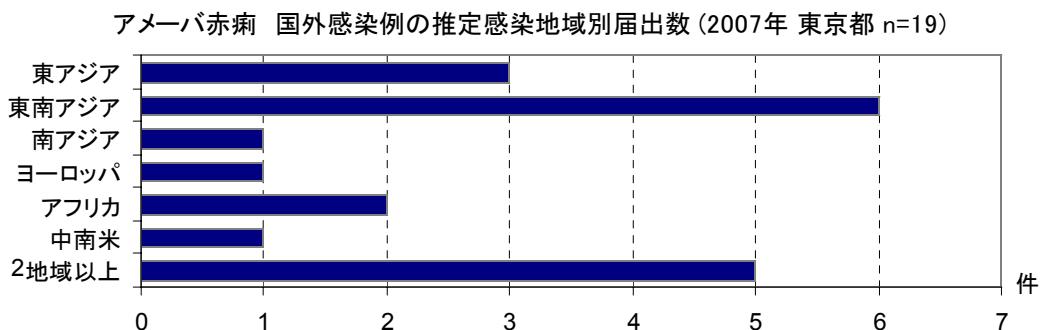
性別では、男性 146 人、女性 20 人で、年齢別では、10 歳代 2 人、20 歳代 18 人、30 歳代 35 人、40 歳代 50 人、50 歳代 30 人、60 歳代 23 人、70 歳以上 8 人であった。

推定感染地は国内 138 件、国外 19 件、不明 9 件であった。国外感染例 19 件を、推定感染地域別にみると、東南アジア 6 件、東アジア 3 件、アフリカ 2 件、南アジア 1 件、ヨーロッパ 1 件、中南米 1 件、2 地域以上 5 件で、推定感染国別にみると、中国 3 件、タイ、アルジェリアが各 2 件、インド、インドネシア、カンボディア、キューバ、タイ/ベトナム、タイ/台湾/韓国、トンガ/インドネシア、中国/フィリピン/ドバイ、中国/トルコ/フランス等が各 1 件、国名不明 2 件であった。

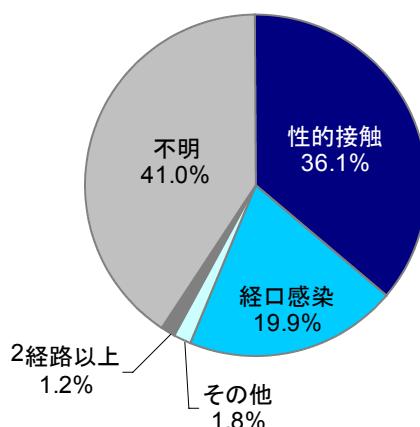
推定感染経路は性的接触 60 件（同性間 30 件、異性間 23 件、両性間 2 件、性別不明 5 件）、飲食物による経口感染 33 件、その他 3 件、2 経路以上 2 件、不明 68 件であった。国内感染例 138 件でみると、推定感染経路は、性的接触 56 件（同性間 29 件、異性間 20 件、両性間 2 件、性別不明 5 件）、飲食物による経口感染 20 件、その他 1 件、2 経路以上 2 件、不明 59 件であった。

腸管アメーバ症 50 歳代患者 1 件の死亡が報告されており、症状は下痢、腹膜炎で、第 2 病日に死亡した。





アメーバ赤痢 推定感染経路別割合 (2007年 東京都 n=166)

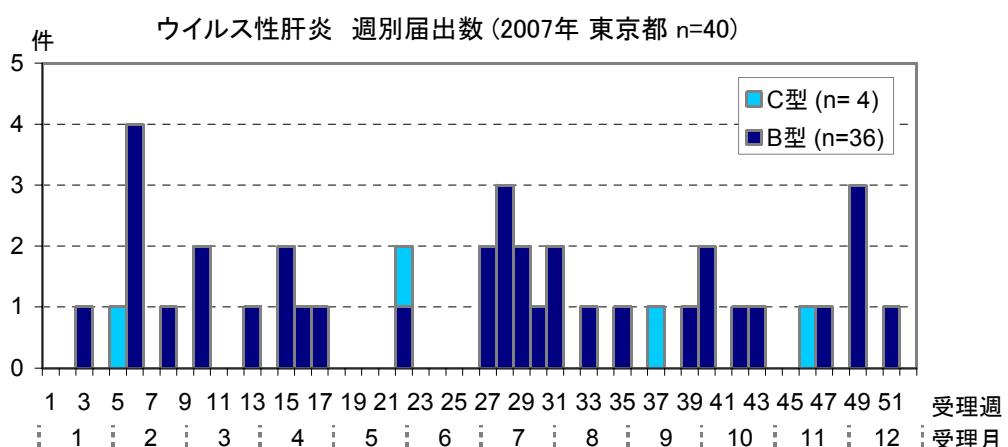


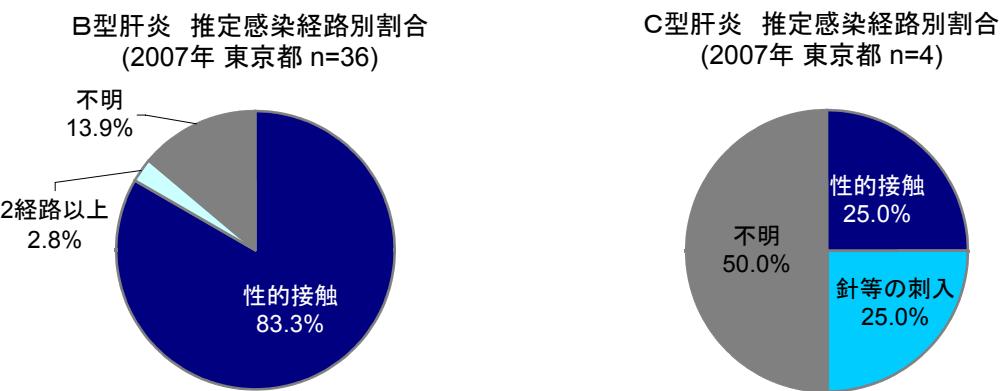
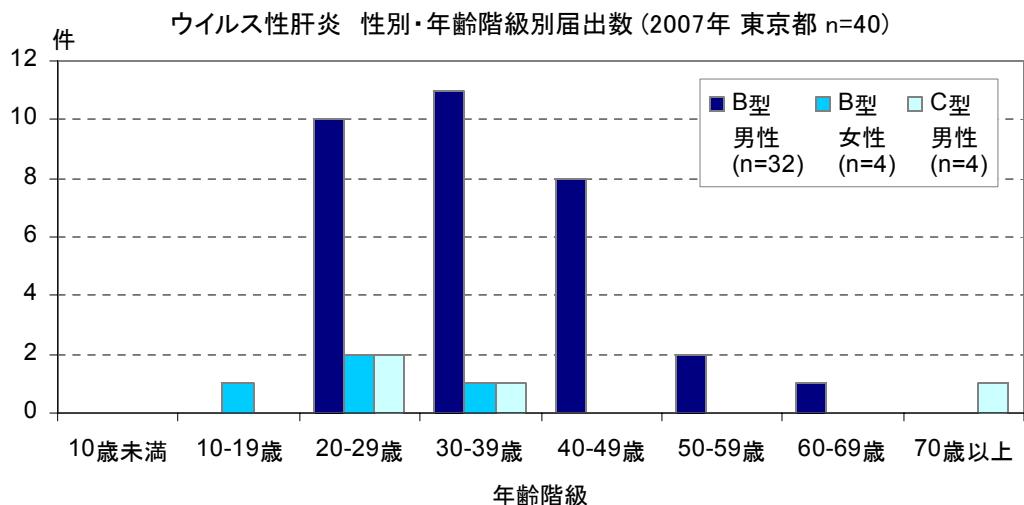
② 急性ウイルス性肝炎 (A型・E型を除く)

ウイルス肝炎は40件届出があった。B型肝炎36件、C型肝炎4件であった。

B型肝炎36件のうち、性別では、男性32件、女性4件で、年齢別では、10歳代1人、20歳代12人、30歳代12人、40歳代8人、50歳代2人、60歳代1人であった。推定感染経路は性的接觸30件（同性間7件、異性間22件、性別不明1件）、性的接觸/針等の刺入1件、不明5件で、推定感染地は国内32件、タイ3件、中国1件であった。

C型肝炎4件のうち、性別はすべて男性で、年齢別では、20歳代2人、30歳代1人、70歳代1人であった。推定感染経路は異性間性的接觸1件、針等の刺入1件、不明2件で、推定感染地はすべて国内であった。





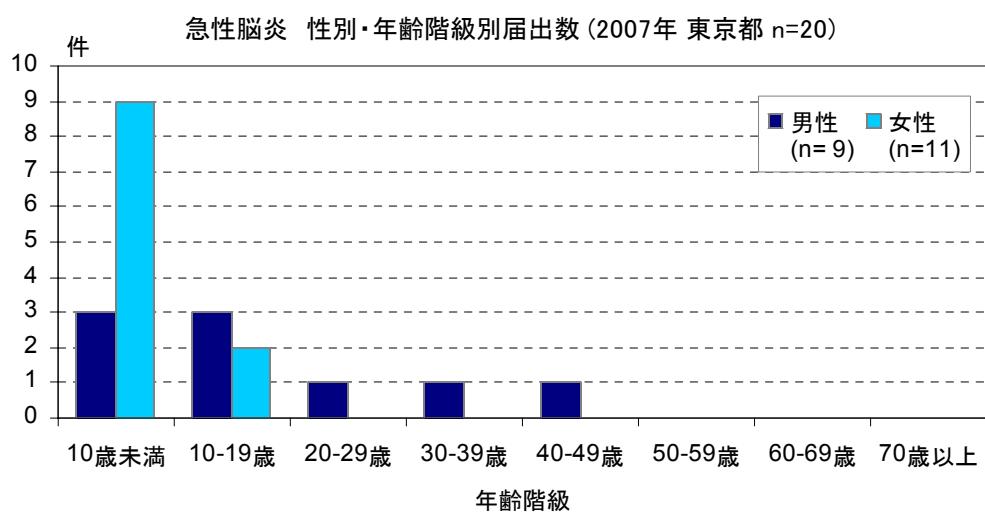
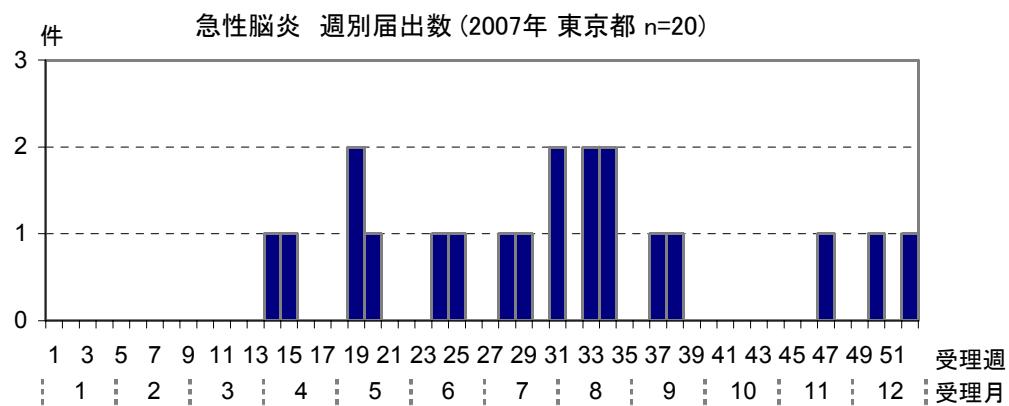
③ 急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。）

急性脳炎は 20 件届出があった。

病原体は、インフルエンザウイルスA型 3 件、麻しんウイルス 2 件、単純ヘルペスウイルス(HSV)、ヒトヘルペスウイルス 6 (HHV-6)、ヒトヘルペスウイルス 7 (HHV-7)、ロタウイルス、サルモネラ07群が各 1 件、不明 10 件であった。

性別では、男性 9 人、女性 11 人で、年齢別では、10 歳未満 12 人、10 歳代 5 人、20 歳代 1 人、30 歳代 1 人、40 歳代 1 人であった。推定感染地はすべて国内であった。

インフルエンザウイルスA/H3N2が原因の 40 歳代患者と、病原体不明 1 歳患者の死亡 2 件が報告されており、前者の症状は発熱、痙攣、意識障害で、第 4 病日に死亡、後者の症状は発熱、痙攣、意識障害、下痢で、第 22 病日に死亡した。



急性脳炎（2007年 東京都 20件）

| 受理日 | 受理週 | 性別 | 年齢 | 病原体 | 症状・所見 | 推定感染地 | 備考 |
|-------|-----|----|------|---------------------|---|-------|-----------|
| 4/3 | 14 | 女 | 13 | 麻しんウイルス | 発熱、痙攣、意識障害 | 国内 | |
| 4/12 | 15 | 男 | 3 | インフルエンザウイルスA型 | 発熱、項部硬直、痙攣、意識障害 | 国内 | |
| 5/9 | 19 | 女 | 11 | サルモネラ O7群 | 発熱、嘔吐、痙攣、意識障害、その他(髄液圧の上昇 脳波:高振動除波 頭部CT:軽度脳浮腫あり) | 国内 | ウズラの卵が原因？ |
| 5/10 | 19 | 男 | 42 | インフルエンザウイルス A/H3N2型 | 発熱、痙攣、意識障害 | 国内 | 死亡 |
| 5/17 | 20 | 男 | 14 | 単純ヘルペスウイルス(HSV) | 発熱、頭痛、意識障害、髄液細胞数の増加、その他(不穏状態) | 国内 | |
| 6/12 | 24 | 男 | 16 | 不明 | 発熱、項部硬直、意識障害 | 国内 | |
| 6/19 | 25 | 男 | 28 | 麻疹ウイルス | 発熱、意識障害 | 国内 | |
| 7/12 | 28 | 男 | 1 | 不明 | 発熱、痙攣、意識障害 | 国内 | |
| 7/20 | 29 | 女 | 1 | 不明 | 発熱、痙攣、意識障害 | 国内 | |
| 7/31 | 31 | 女 | 2 | 不明 | 発熱、痙攣、意識障害、髄液細胞数の増加 | 国内 | |
| 7/30 | 31 | 女 | 3 | 不明 | 発熱、痙攣、意識障害 | 国内 | |
| 8/13 | 33 | 女 | 1 | ヒトヘルペスウイルス7 (HHV-7) | 発熱、痙攣、意識障害 | 国内 | |
| 8/17 | 33 | 女 | 2 | ヒトヘルペスウイルス6 (HHV6) | 発熱、痙攣、意識障害 | 国内 | |
| 8/22 | 34 | 男 | 12 | 不明 | 発熱、痙攣、意識障害、髄液細胞数の増加 | 国内 | |
| 8/20 | 34 | 男 | 35 | 不明 | 発熱、頭痛、痙攣 | 国内 | |
| 9/11 | 37 | 女 | 1 | 不明 | 発熱、痙攣、意識障害、その他(下痢) | 国内 | |
| 9/21 | 38 | 女 | 1 | 不明 | 発熱、嘔吐、痙攣、意識障害 | 国内 | |
| 11/22 | 47 | 女 | 2 | ロタウイルス | 発熱、痙攣、意識障害 | 国内 | |
| 12/13 | 50 | 男 | 10ヶ月 | 不明 | 発熱、痙攣、意識障害 | 国内 | |
| 12/28 | 52 | 女 | 5 | インフルエンザウイルス A型 | 発熱、痙攣、意識障害 | 国内 | |

④ クリプトスピリジウム症

クリプトスピリジウム症は1件届出があった。

患者は20歳代男性で、推定感染地はネパール/インド、推定感染経路は水系感染であった。

クリプトスピリジウム症（2007年 東京都 1件）

| 受理日 | 受理週 | 性別 | 年齢 | 症状 | 推定感染地 | 推定感染経路 |
|------|-----|----|----|----|----------|--------|
| 8/20 | 34 | 男 | 24 | 下痢 | ネパール/インド | 水系感染 |

⑤ クロイツフェルト・ヤコブ病

クロイツフェルト・ヤコブ病は16件届出があった。

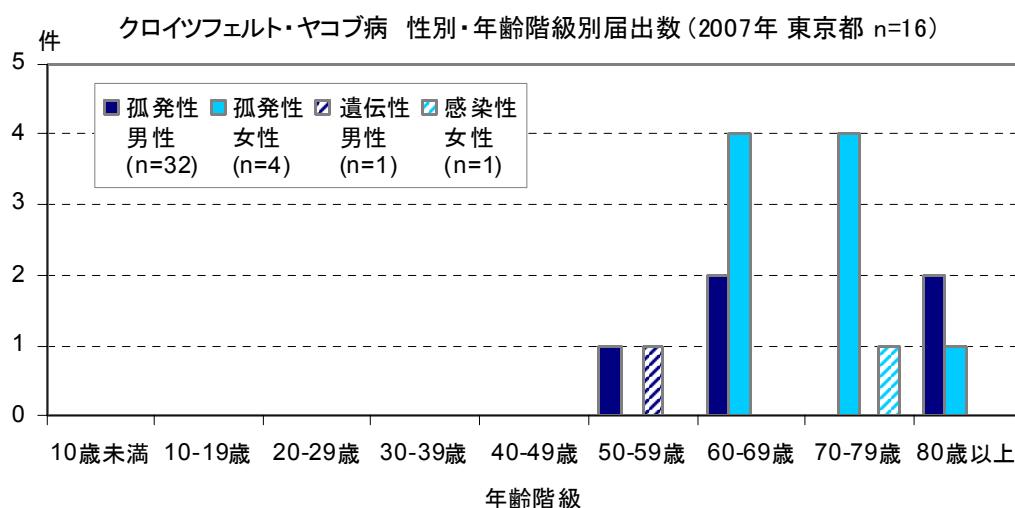
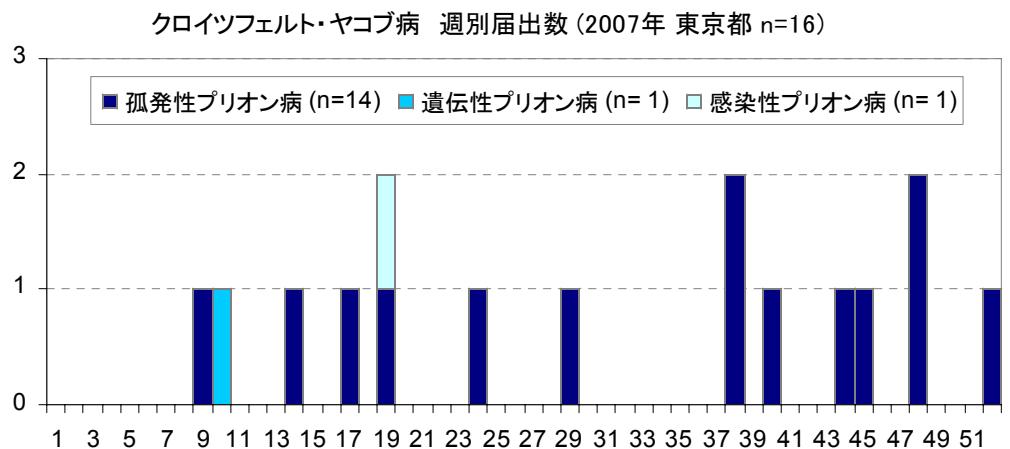
孤発性プリオント病・古典型CJD 14件（ほぼ確実10件、疑い4件）、遺伝性プリオント病・家族性CJD 1件（ほぼ確実）、感染性プリオント病・医原性CJD 1件（ほぼ確実）であった。

性別では、男性が6人、女性が10人で、年齢別では、50歳代2人、60歳代6人、70歳代5人、80歳代3人であった。

症状は、進行性認知症16件（100%）、ミオクローネス12件（75.0%）、錐体路症状12件（75.0%）、

錐体外路症状 9 件 (56.3%)、小脳症状 6 件 (37.5%)、視覚異常 6 件 (37.5%)、無動性無言状態 4 件 (25.0%)、記憶障害 9 件 (56.3%)、臨床的に頑固な不眠 10 件 (62.5%)、異常感覚 1 件 (6.3%)、筋強剛 7 件 (43.8%) であった。

プリオントロピア遺伝子検査(コドンの多型・異常)による診断がなされていたのは 3 件であった(古典型CJD 1 件、家族性CJD 1 件、医原性CJD 1 件)。医原性CJD 1 件の推定感染地は国内で、1980 年代に受けたヒト乾燥硬膜の使用および手術等観血的処置が原因として疑われている。



クロイツフェルト・ヤコブ病（2007年 東京都 16件）

| # | 受理日 | 受理週 | 性別 | 歳 | 病型 | 確実度 | 推定感染地 | 推定感染経路 |
|----|-------|-----|----|----|------------|------|-------|---------|
| 1 | 2/27 | 9 | 男 | 69 | 孤発性・古典型CJD | ほぼ確実 | — | — |
| 2 | 3/9 | 10 | 女 | 79 | 感染性・医原性CJD | ほぼ確実 | 国内 | ヒト乾燥硬膜等 |
| 3 | 4/6 | 14 | 男 | 57 | 孤発性・古典型CJD | ほぼ確実 | — | — |
| 4 | 4/27 | 17 | 女 | 69 | 孤発性・古典型CJD | ほぼ確実 | — | — |
| 5 | 5/9 | 19 | 男 | 59 | 遺伝性・家族性CJD | ほぼ確実 | — | — |
| 6 | 5/9 | 19 | 女 | 66 | 孤発性・古典型CJD | ほぼ確実 | — | — |
| 7 | 6/13 | 24 | 女 | 69 | 孤発性・古典型CJD | ほぼ確実 | — | — |
| 8 | 7/18 | 29 | 男 | 87 | 孤発性・古典型CJD | ほぼ確実 | — | — |
| 9 | 9/18 | 38 | 女 | 72 | 孤発性・古典型CJD | 疑い | — | — |
| 10 | 9/21 | 38 | 女 | 85 | 孤発性・古典型CJD | 疑い | — | — |
| 11 | 10/1 | 40 | 女 | 69 | 孤発性・古典型CJD | ほぼ確実 | — | — |
| 12 | 11/1 | 44 | 男 | 80 | 孤発性・古典型CJD | ほぼ確実 | — | — |
| 13 | 11/7 | 45 | 女 | 77 | 孤発性・古典型CJD | ほぼ確実 | — | — |
| 14 | 11/28 | 48 | 女 | 71 | 孤発性・古典型CJD | 疑い | — | — |
| 15 | 11/29 | 48 | 女 | 77 | 孤発性・古典型CJD | 疑い | — | — |
| 16 | 12/25 | 52 | 男 | 69 | 孤発性・古典型CJD | ほぼ確実 | — | — |

クロイツフェルト・ヤコブ病（2007年 東京都 16件）別表

| # | 発病月 ／発病日 | 初診日 | 診断日 | 症状 | | | | | | | | | | 診断方法 | | | | | |
|----|-------------|------------|------------|--------|---------|-------|--------|------|------|---------|------|-----------|------|------|-----|-----|-----|------|-------|
| | | | | 進行性認知症 | ミオクローネス | 錐体路症状 | 錐体外路症状 | 小脳症状 | 視覚異常 | 無動性無言状態 | 記憶障害 | 臨床的に頑固な不眠 | 異常感覚 | 痙攣 | 筋強剛 | その他 | NSE | 脳MRI | 脳波PSD |
| 1 | 2006/12/1 | 2007/1/9 | 2007/1/15 | + | + | + | + | + | + | + | + | + | + | + | + | + | + | + | |
| 2 | 2006/10/ | 2006/12/15 | 2006/12/22 | + | + | + | | | | | + | | | | | + | + | + | |
| 3 | 2007/02/ | 2007/3/29 | 2007/4/6 | + | + | + | + | + | + | | | | | | | + | + | + | |
| 4 | | 2007/4/19 | 2007/4/25 | + | + | + | | | | + | + | + | | | | + | + | + | |
| 5 | 2006/11/ | 2007/2/27 | 2007/4/13 | + | + | + | | | | | | | | | | + | + | + | |
| 6 | 2007/02/ | 2007/4/9 | 2007/4/19 | + | + | + | | | | | + | | | | | + | + | + | |
| 7 | 2007/04/ | 2007/5/16 | 2007/6/7 | + | + | + | + | | | + | + | | | | | + | + | + | |
| 8 | 2006/06/ | 2007/7/9 | 2007/7/13 | + | + | + | + | + | + | + | + | + | | | | + | + | + | |
| 9 | 2006/08/ | 2007/7/6 | 2007/9/15 | + | + | + | + | + | + | + | + | + | + | | | + | + | + | |
| 10 | 2007/9/14 | 2007/7/9 | 2007/9/14 | + | + | + | + | + | | | | | | | | + | | | |
| 11 | 2007/05/ | 2007/9/18 | 2007/9/29 | + | + | + | + | + | + | + | + | + | | | | + | + | + | |
| 12 | 2007/09/ | 2007/10/17 | 2007/10/18 | + | + | + | + | | | + | + | | | | | + | + | + | |
| 13 | | 2007/9/15 | 2007/10/24 | + | + | + | + | + | + | | | | | | | + | + | + | |
| 14 | 2007/08/ | 2007/11/9 | 2007/11/27 | + | + | + | + | + | + | + | | | | | | + | | | |
| 15 | | 2007/10/23 | 2007/11/29 | + | + | + | | | | | | | | | | + | | | |
| 16 | | 2007/11/1 | 2007/11/9 | + | + | | | + | | + | | | | | | + | + | | |
| | | | 計 | 16 | 12 | 12 | 9 | 6 | 6 | 4 | 8 | 10 | 1 | 0 | 7 | 0 | 12 | 16 | 2 |

*プリオント蛋白遺伝子検査による診断(3件)

#2 コドン129の多型(M/M)

#5 コドン200の異常、コドン129の多型(M/M)、コドン219の多型(E/E)

#9 コドン129の多型(M/M)

⑥ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は6件届出があった。

血清群別では、A群4件、B群1件、C群1件であった。

患者はすべて男性で、年齢別では、20歳代1人、60歳代3人、70歳代1人、80歳代1人であった。すべて推定感染地は国内で、推定感染原因は、創傷感染4件、その他1件、不明1件であった。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症（2007年 東京都6件）

| 受理日 | 受理週 | 性別 | 年齢 | 血清群 | 症状 | 推定感染原因 |
|-------|-----|----|----|-----|--|------------|
| 2/28 | 9 | 男 | 72 | A群 | ショック、腎不全、軟部組織炎 | 創傷感染(大腿) |
| 3/8 | 10 | 男 | 67 | A群 | ショック、腎不全、急性呼吸窮迫症候群、DIC、軟部組織炎 | 不明 |
| 5/17 | 20 | 男 | 63 | A群 | ショック、腎不全、急性呼吸窮迫症候群、DIC、軟部組織炎、全身性紅斑性発疹、中枢神経症状 | 創傷感染(眼瞼) |
| 8/30 | 35 | 男 | 65 | C群 | ショック、腎不全、DIC | 咽頭・扁桃からの感染 |
| 10/2 | 40 | 男 | 20 | A群 | ショック、腎不全、軟部組織炎、中枢神経症状 | 創傷感染(大腿) |
| 10/24 | 43 | 男 | 85 | B群 | ショック、腎不全、DIC | 創傷感染(臀部褥瘡) |

⑦ 後天性免疫不全症候群

後天性免疫不全症候群は515件届出があり、内訳はHIV感染者358人、AIDS患者92人、その他65人であった。

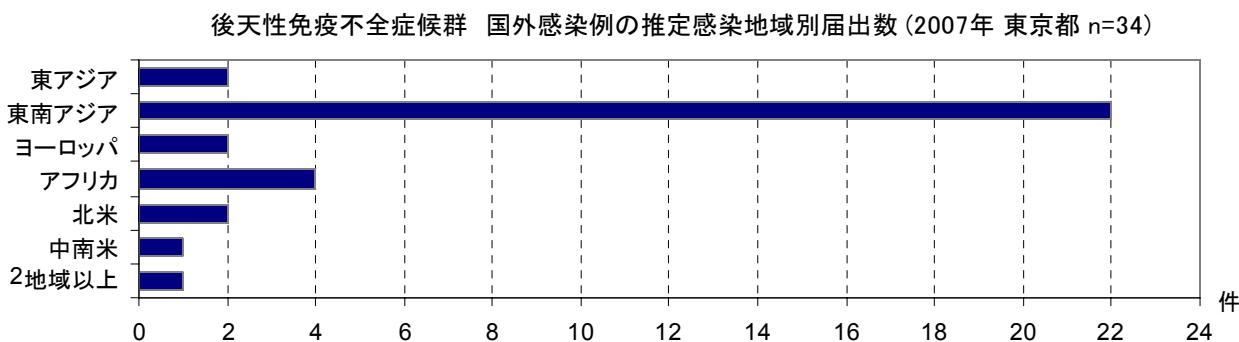
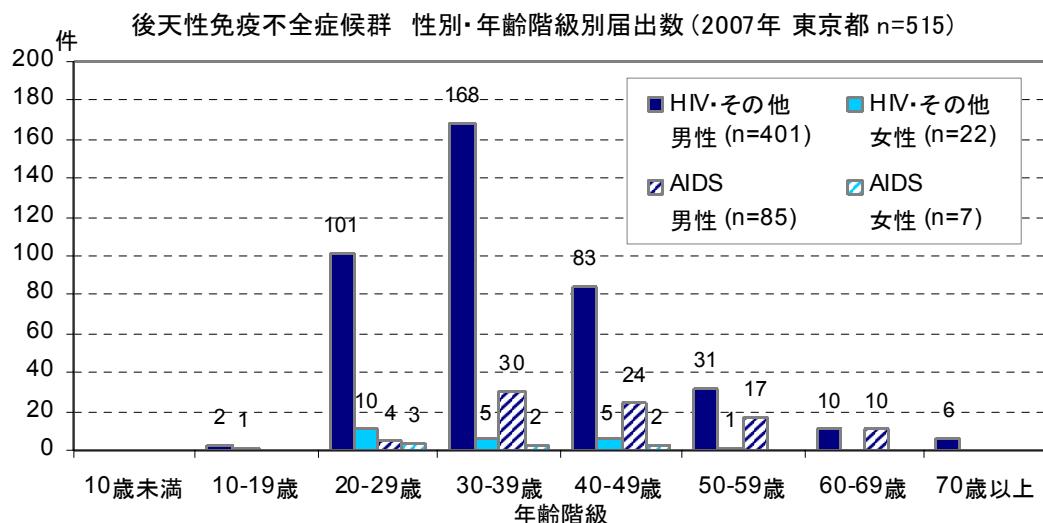
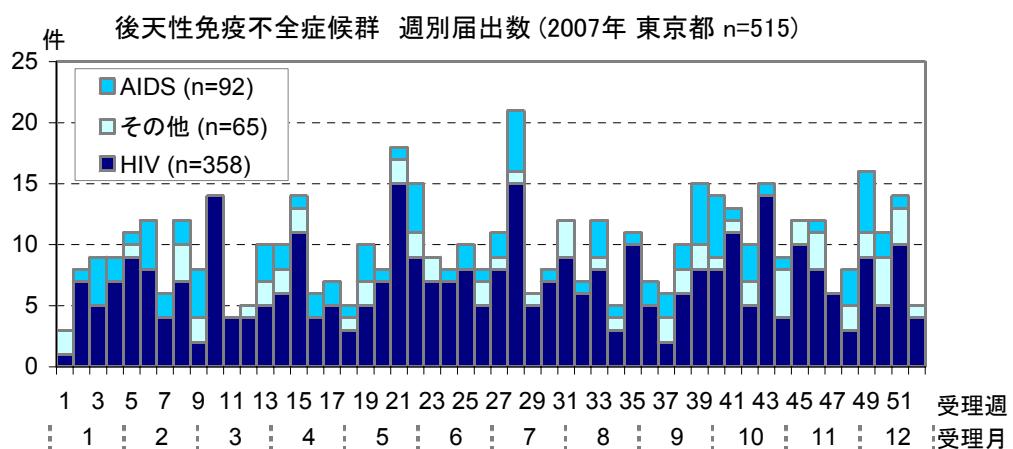
HIV・その他の、性別では男性401人、女性22人で、年齢別では、10歳代3人、20歳代111人、30歳代173人、40歳代88人、50歳代32人、60歳以上16人であった。AIDSの、性別では男性85人、女性7人で、年齢別では、20歳代7人、30歳代32人、40歳代26人、50歳代17人、60歳以上10人であった。

推定感染地は国内448件、国外34件、不明33件であった。国外感染例34件を、推定感染地域別にみると、東南アジア22件、アフリカ4件、東アジア2件、ヨーロッパ2件、北米2件、中南米1件、2地域以上1件であった。推定感染国別にみると、タイ13件、フィリピン、インドネシア、ミャンマー、米国が各2件、中国、台湾、カンボディア、ベトナム、スペイン、フランス、赤道ギニア、ケニア、コンゴ共和国、ジンバブエ、キューバ、フランス/香港、国名不明が各1件であった。

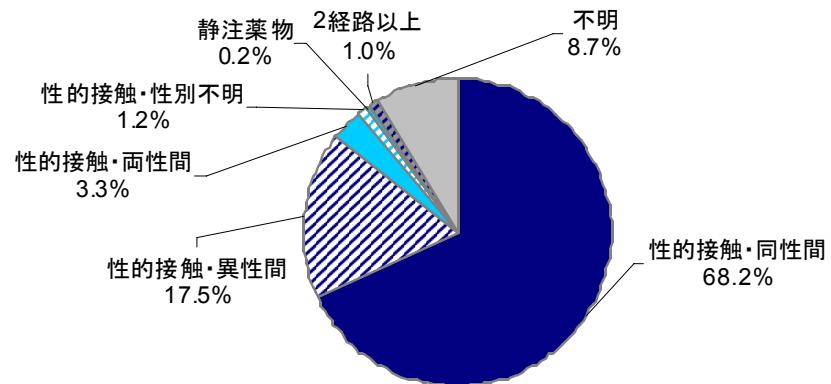
推定感染経路は性的接触464件（同性間351件、異性間90件、両性間17件、性別不明6件）、静注薬物常用1件、2経路以上5件（静注薬物常用/異性間性的接触2件、静注薬物常用/同性間性的接触1件、輸血/異性間性的接触1件、電気シェーバー共用/同性間性的接触1件）、不明45件であった。

AIDSと診断した指標疾患は、AIDS92件中、ニューモシスティス（カリニ）肺炎50件、カンジダ症25件、活動性結核12件、サイトメガロウイルス感染症9件、カポジ肉腫6件、トキソプラズマ脳症5件、HIV消耗性症候群5件、HIV脳症4件、非ホジキンリンパ腫2件、クリプトコッカス症、クリプトスピロジウム症、化膿性細菌感染症、非結核性抗酸菌症、単純ヘルペスウイルス感染症が各1件であった。これらの中には複数疾患発症者の報告25件が含まれている（2疾患20人、3疾患4人、5疾患1人）。

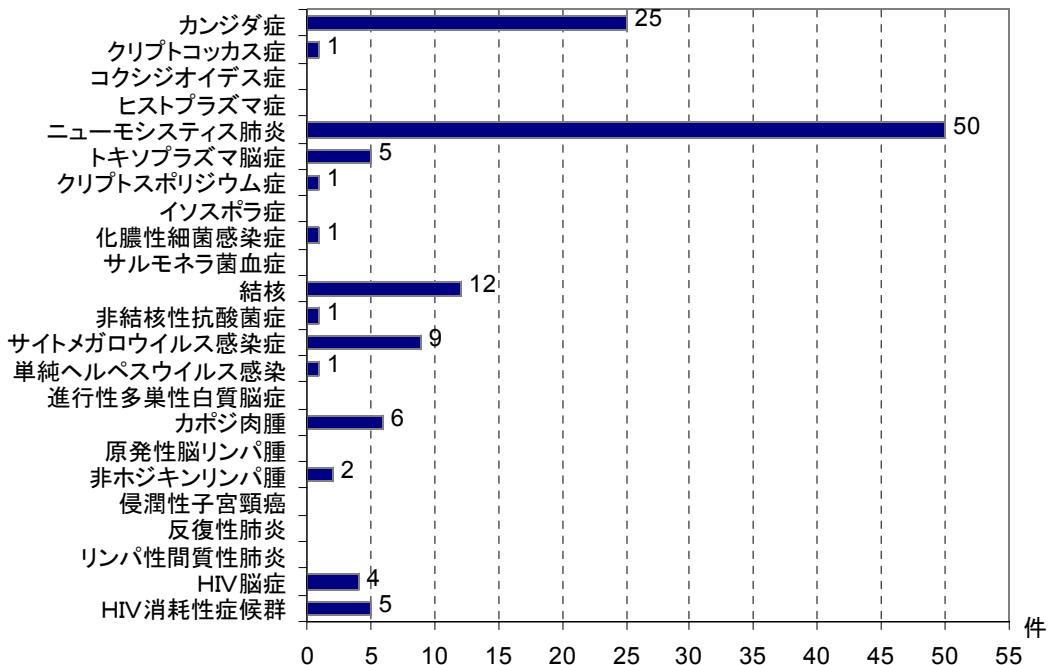
50歳代AIDS患者と、70歳代HIV感染者の死亡2件が報告されており、前者は指標疾患5疾患を発症していた。後者のHIV感染と死亡との関連は不明。



後天性免疫不全症候群 推定感染経路別割合 (2007年 東京都 n=515)



AIDSと診断した指標疾患 (2007年 東京都 n=92)



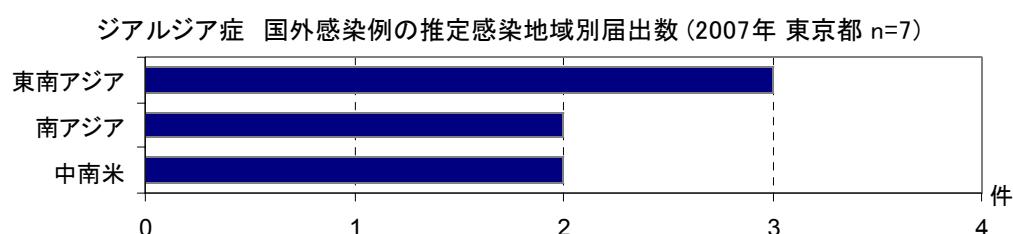
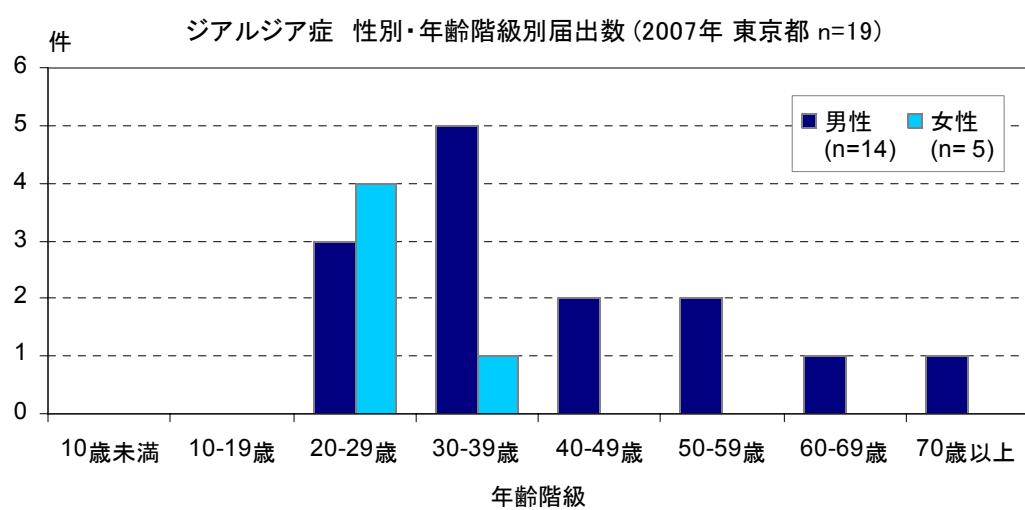
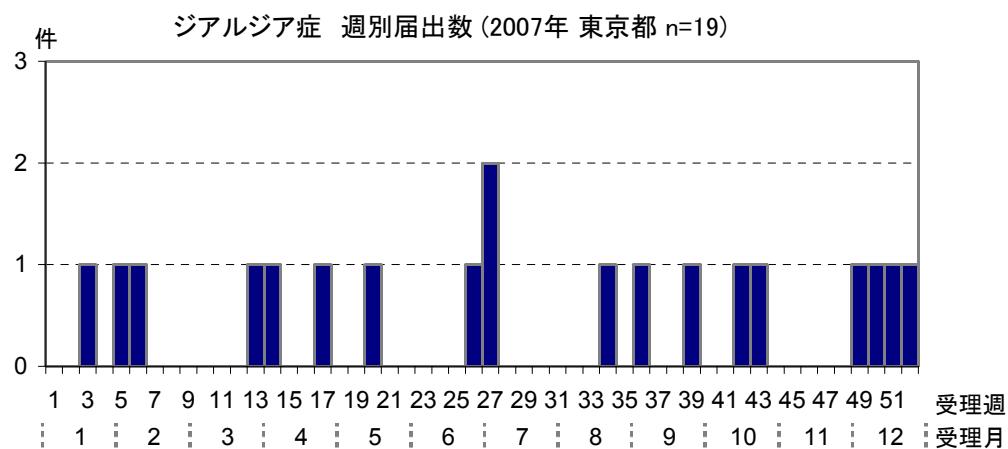
⑧ ジアルジア症

ジアルジア症は 19 件届出があった。

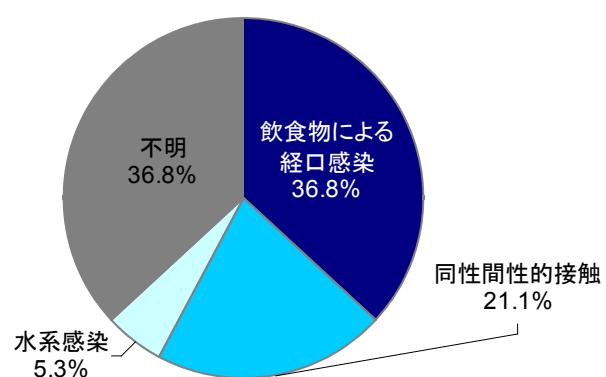
性別では、男性 14 人、女性 5 人で、年齢別では、20 歳代 7 人、30 歳代 6 人、40 歳代 2 人、50 歳代 2 人、60 歳代 1 人、70 歳以上 1 人であった。

推定感染地は国内 12 件、国外 7 件であった。国外感染例 7 件を、推定感染地域別にみると、東南アジア 3 件、南アジア 2 件、中南米 2 件で、推定感染国別にみると、タイ 3 件、インド、インド/ネパール、グアテマラ、ボリビアが各 1 件であった。

推定感染経路は飲食物による経口感染 7 件、同性間性的接触 4 件、水系感染 1 件、不明 7 件であった。



ジアルジア症 推定感染経路別割合 (2007年 東京都 n=19)



⑨ 髄膜炎菌性髄膜炎

髄膜炎菌性髄膜炎は3件届出があった。血清群はいずれも不明。

性別では、男性2人、女性1人で、年齢別では、10歳代、30歳代、60歳代が各1人であった。
推定感染地はすべて国内であった。

髄膜炎菌性髄膜炎（2007年 東京都3件）

| 受理日 | 受理週 | 性別 | 年齢 | 血清群 | 症状 | 推定感染地 | 推定感染経路 |
|-------|-----|----|----|-----|-----------------|-------|----------|
| 5/22 | 21 | 女 | 19 | 不明 | 頭痛、発熱、意識障害、項部硬直 | 国内 | 不明 |
| 9/18 | 38 | 男 | 61 | 不明 | 発熱、意識障害 | 国内 | 不明 |
| 11/21 | 47 | 男 | 32 | 不明 | 頭痛、発熱、点状出血、ショック | 国内 | 飛沫・飛沫核感染 |

⑩ 梅毒

梅毒は162件届出があった。

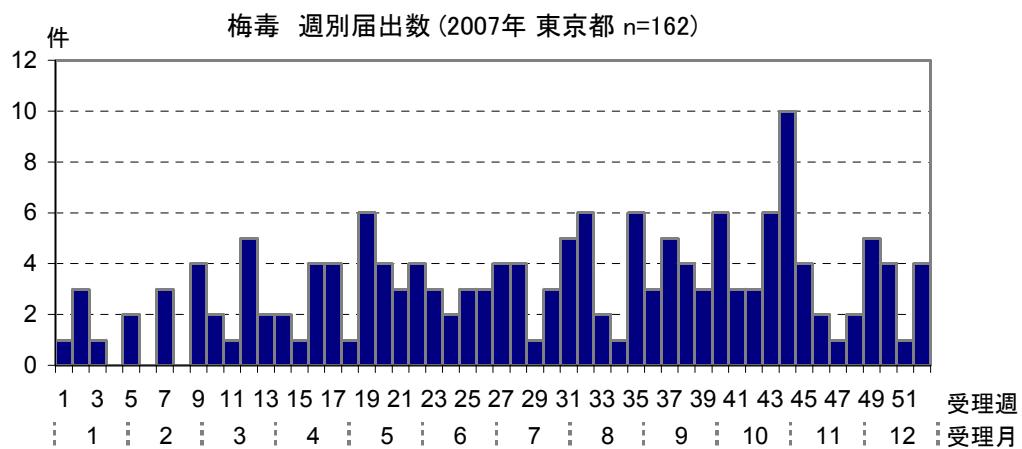
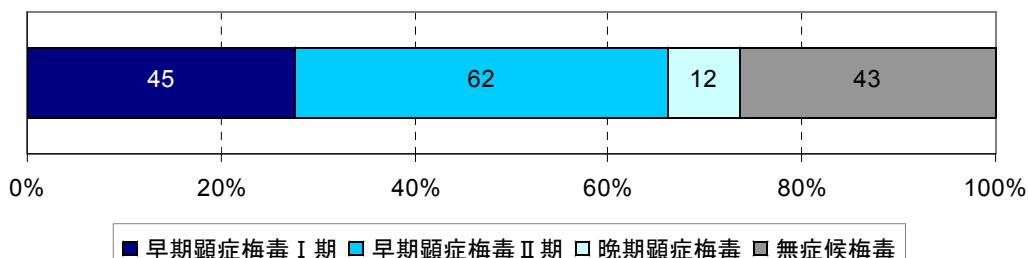
早期顕症梅毒Ⅰ期45件、早期顕症梅毒Ⅱ期62件、晚期顕症梅毒12件、無症候梅毒43件で、先天梅毒の報告はなかった。

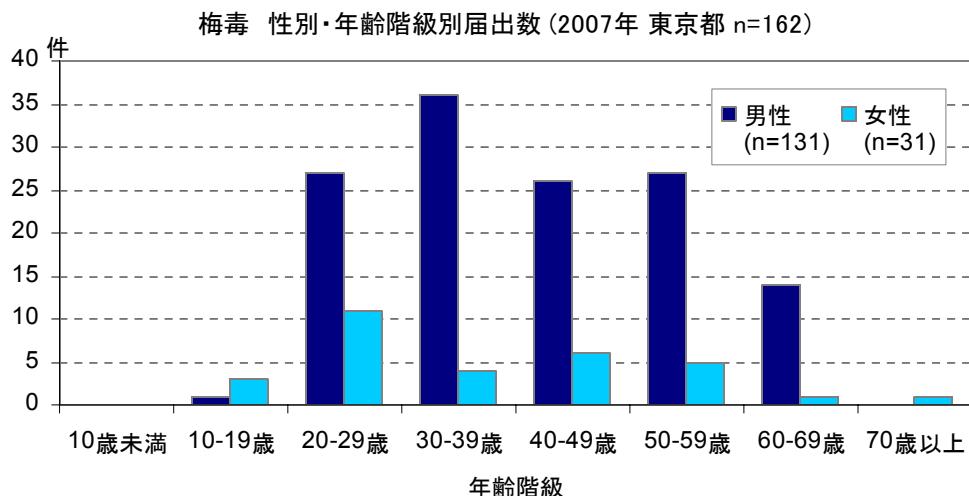
性別では、男性131人、女性31人で、年齢別では、10歳代4人、20歳代38人、30歳代40人、40歳代32人、50歳代32人、60歳代15人、70歳以上1人であった。

推定感染地は国内149件、国外4件、不明9件で、国外感染例4件の内訳は、韓国2件、中国1件、台湾1件であった。

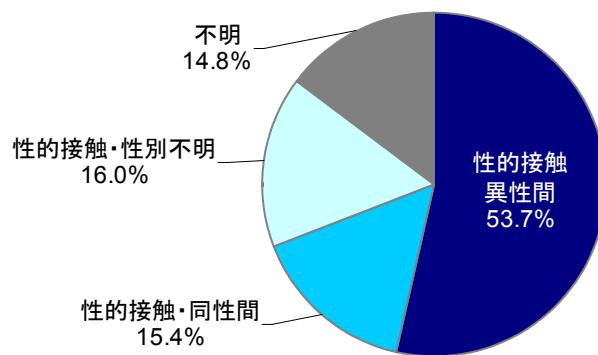
推定感染経路は性的接触138件（同性間25件、異性間87件、性別不明26件）、不明24件であった。

梅毒 病期別届出数（2007年 東京都 n=162）





梅毒 推定感染経路別割合 (2007年 東京都 n=162)



⑪ 破傷風

破傷風は1件届出があった。患者は60歳代の女性で、診断は臨床決定によるものであった。

破傷風 (2007年 東京都 1件)

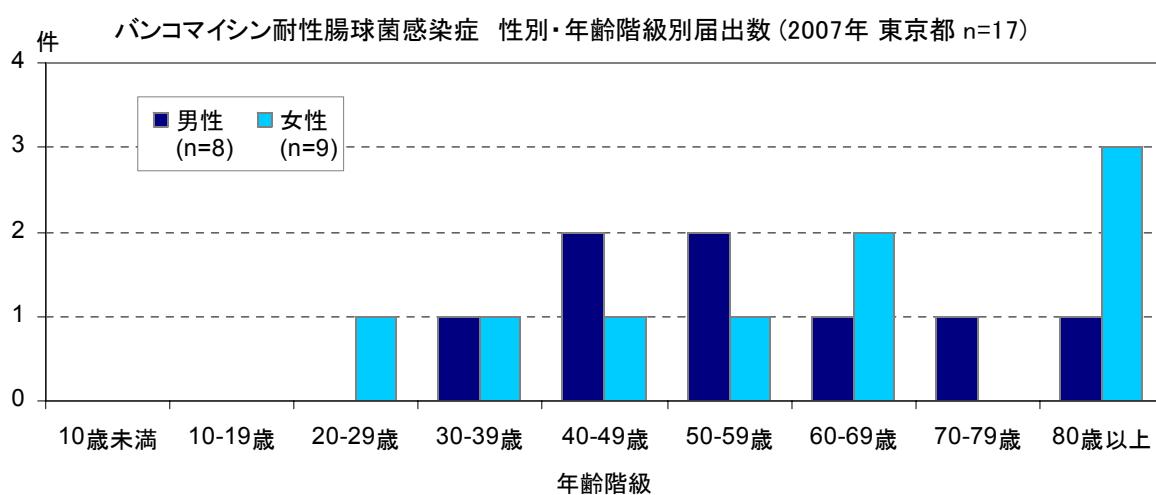
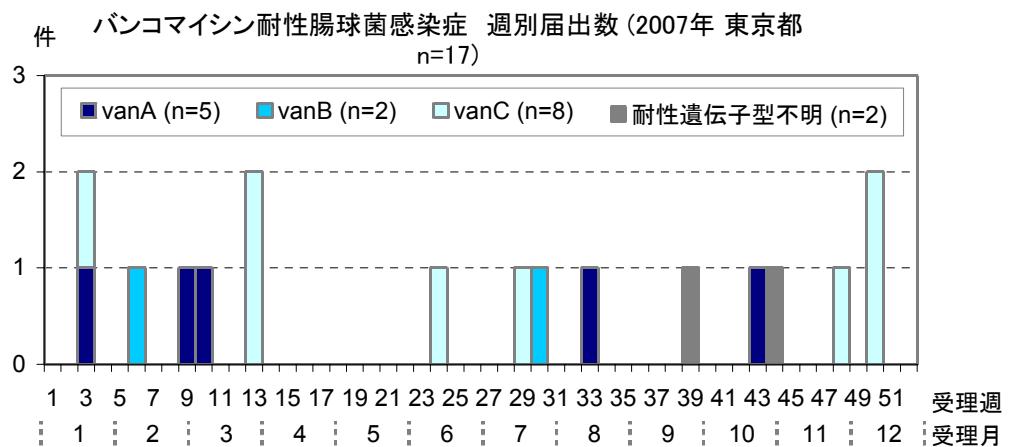
| 受理日 | 受理週 | 性別 | 年齢 | 診断方法 | 症状 | 推定感染地 | 推定感染経路 |
|------|-----|----|----|------|--------------|-------|-------------|
| 6/29 | 26 | 女 | 66 | 臨床決定 | 筋肉のこわばり、開口障害 | 国内 | 針等の鋭利なものの刺入 |

⑫ バンコマイシン耐性腸球菌感染症

バンコマイシン耐性腸球菌感染症は17件届出があった。

菌種は *Enterococcus gallinarum* 6件、*Enterococcus faecium* 5件、*Enterococcus casseliflavus* 2件、*Enterococcus faecalis* 2件、不明2件で、耐性遺伝子型はvanA 5件、vanB 2件、vanC 8件、不明2件であった。

性別では、男性8人、女性2人で、年齢別では、20歳代1人、30歳代2人、40歳代3人、50歳代3人、60歳代3人、70歳代1人、80歳以上4人であった。



バンコマイシン耐性腸球菌感染症 菌種と耐性遺伝子型 (2007年 東京都 17件)

| 菌種 | vanA | vanB | vanC | 不明 | 計 |
|-------------------------|------|------|------|----|----|
| <i>E. gallinarum</i> | 1 | 0 | 4 | 1 | 6 |
| <i>E. faecium</i> | 3 | 2 | 0 | 0 | 5 |
| <i>E. casseliflavus</i> | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 |
| <i>E. faecalis</i> | 1 | 0 | 0 | 1 | 2 |
| 不明 | 0 | 0 | 2 | 0 | 2 |
| 計 | 5 | 2 | 8 | 2 | 17 |

バンコマイシン耐性腸球菌感染症（2007年 東京都 17件）

| 受付日 | 受付週 | 性別 | 年齢 | 検体 | 菌種 | 遺伝子型 | 症状 | 推定感染経路 |
|-------|-----|----|----|--------|-------------------------|------|---------------------------|-----------|
| 1/15 | 3 | 男 | 94 | 血液 | <i>E. faecium</i> | vanA | 発熱、菌血症 | 不明 |
| 1/16 | 3 | 男 | 51 | 血液 | <i>E. casseliflavus</i> | vanC | 発熱、菌血症、肝腫瘍、胆管炎、悪性疾患末期(死亡) | 不明 |
| 2/7 | 6 | 女 | 84 | 尿 | <i>E. faecium</i> | vanB | 尿路感染症 | 接触感染 |
| 2/27 | 9 | 女 | 63 | 腹水 | <i>E. gallinarum</i> | vanA | 発熱、術後リンパのう腫 | 不明 |
| 3/6 | 10 | 男 | 70 | 血液 | <i>E. faecium</i> | vanA | 発熱、菌血症、脳腫瘍(死亡) | 中心静脈カテーテル |
| 3/28 | 13 | 男 | 41 | 胆汁 | | vanC | 発熱、菌血症、胆管炎 | 不明 |
| 3/30 | 13 | 女 | 35 | 血液 | <i>E. gallinarum</i> | vanC | 発熱、菌血症、免疫不全 (臍帯血移植中) | カテーテル関連 |
| 6/13 | 24 | 女 | 54 | 血液 | | vanC | 発熱、菌血症、皮膚感染症 | 創傷感染 |
| 7/20 | 29 | 女 | 43 | 血液 | <i>E. casseliflavus</i> | vanC | 発熱、菌血症、閉塞性胆管炎 | 不明 |
| 7/27 | 30 | 男 | 46 | 便 | <i>E. faecium</i> | vanB | 発熱 | 不明 |
| 8/13 | 33 | 男 | 39 | 血液 | <i>E. faecium</i> | vanA | 発熱、菌血症 | 不明 |
| 9/25 | 39 | 女 | 82 | 尿 | <i>E. faecalis</i> | | 尿路感染症 | 接触感染 |
| 10/23 | 43 | 女 | 92 | 尿 | <i>E. faecalis</i> | vanA | 発熱、尿路感染症 | 接触感染 |
| 10/30 | 44 | 女 | 23 | 腹水 | <i>E. gallinarum</i> | | 腹膜炎 | 不明 |
| 11/30 | 48 | 女 | 63 | カテーテル尿 | <i>E. gallinarum</i> | vanC | 発熱、尿路感染症 | 接触感染 |
| 12/11 | 50 | 男 | 66 | 血液 | <i>E. gallinarum</i> | vanC | 発熱、菌血症、免疫不全 | 不明 |
| 12/12 | 50 | 男 | 55 | 血液 | <i>E. gallinarum</i> | vanC | 発熱、菌血症、免疫不全 | 不明 |

⑬ その他の五類感染症（全数届出）

以下の疾患は届出がなかった。

先天性風しん症候群、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症

表3-1(1) 一、二、三、四、五類全数把握対象疾患 患者報告数推移表

(2007年第1週～2007年52週)

| 週 | 期間 | 一類 | | | | | | 二類 | | | | 三類 | | | | | | |
|----|---------------|--------|-------------|-----|-------|-----|---------|------|--------|-------|-------|------------|-----|-------|-------------|------|-------|---|
| | | エボラ出血熱 | クリミア・コンゴ出血熱 | 痘そう | 南米出血熱 | ペスト | マールブルグ病 | ラツサ熱 | 急性灰白髄炎 | 結核* | ジフテリア | 重症急性呼吸器症候群 | コレラ | 細菌性赤痢 | 腸管出血性大腸菌感染症 | 腸チフス | パラチフス | |
| 1 | 1. 1～1. 7 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | |
| 2 | 1. 8～1. 14 | | | | | | | | | | | | | 4 | | | | |
| 3 | 1. 15～1. 21 | | | | | | | | | | | | | 2 | 2 | | | |
| 4 | 1. 22～1. 28 | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | |
| 5 | 1. 29～2. 4 | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | |
| 6 | 2. 5～2. 11 | | | | | | | | | | | | | 2 | 1 | | | |
| 7 | 2. 12～2. 18 | | | | | | | | | | | | | 2 | | 1 | | |
| 8 | 2. 19～2. 25 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 | 2. 26～3. 4 | | | | | | | | | | | | | 3 | | 1 | | |
| 10 | 3. 5～3. 11 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 | 3. 12～3. 18 | | | | | | | | | | | | | 2 | 1 | | | |
| 12 | 3. 19～3. 25 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 | 3. 26～4. 1 | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | |
| 14 | 4. 2～4. 8 | | | | | | | | | 50 | | | | 2 | | | | |
| 15 | 4. 9～4. 15 | | | | | | | | | 66 | | | | 3 | 1 | | | |
| 16 | 4. 16～4. 22 | | | | | | | | | 56 | | | | 1 | | | | |
| 17 | 4. 23～4. 29 | | | | | | | | | 72 | | | | 3 | 1 | 1 | | |
| 18 | 4. 30～5. 6 | | | | | | | | | 34 | | | | 2 | | | | |
| 19 | 5. 7～5. 13 | | | | | | | | | 68 | | | | 4 | 4 | | | |
| 20 | 5. 14～5. 20 | | | | | | | | | 90 | | | | 1 | 1 | 2 | | |
| 21 | 5. 21～5. 27 | | | | | | | | | 76 | | | | 2 | 2 | 1 | | |
| 22 | 5. 28～6. 3 | | | | | | | | | 80 | | | | 1 | 55 | 1 | | |
| 23 | 6. 4～6. 10 | | | | | | | | | 84 | | | | 4 | 117 | | | |
| 24 | 6. 11～6. 17 | | | | | | | | | 83 | | | | | 13 | | | |
| 25 | 6. 18～6. 24 | | | | | | | | | 94 | | | | 2 | 13 | | | |
| 26 | 6. 25～7. 1 | | | | | | | | | 76 | | | | 1 | 10 | | | |
| 27 | 7. 2～7. 8 | | | | | | | | | 67 | | | | 1 | 20 | | | |
| 28 | 7. 9～7. 15 | | | | | | | | | 99 | | | | 7 | 33 | | | |
| 29 | 7. 16～7. 22 | | | | | | | | | 73 | | | | 1 | 12 | | | |
| 30 | 7. 23～7. 29 | | | | | | | | | 90 | | | | 3 | 14 | 1 | | |
| 31 | 7. 30～8. 5 | | | | | | | | | 101 | | | | | 21 | 1 | | |
| 32 | 8. 6～8. 12 | | | | | | | | | 82 | | | | 2 | 9 | | | |
| 33 | 8. 13～8. 19 | | | | | | | | | 78 | | | | 1 | 8 | | | |
| 34 | 8. 20～8. 26 | | | | | | | | | 83 | | | | 5 | 9 | 1 | | |
| 35 | 8. 27～9. 2 | | | | | | | | | 80 | | | | 2 | 9 | 1 | | |
| 36 | 9. 3～9. 9 | | | | | | | | | 78 | | | | 3 | 12 | 1 | | |
| 37 | 9. 10～9. 16 | | | | | | | | | 80 | | | | 4 | 11 | | | |
| 38 | 9. 17～9. 23 | | | | | | | | | 69 | | | | | 6 | | | |
| 39 | 9. 24～9. 30 | | | | | | | | | 67 | | | | 1 | 17 | | | |
| 40 | 10. 1～10. 7 | | | | | | | | | 85 | | | | 3 | 8 | 1 | | |
| 41 | 10. 8～10. 14 | | | | | | | | | 78 | | | | | 6 | | | |
| 42 | 10. 15～10. 21 | | | | | | | | | 98 | | | | 1 | 4 | 1 | | |
| 43 | 10. 22～10. 28 | | | | | | | | | 88 | | | | 2 | 10 | 1 | | |
| 44 | 10. 29～11. 4 | | | | | | | | | 85 | | | | 1 | 4 | 1 | | |
| 45 | 11. 5～11. 11 | | | | | | | | | 87 | | | | 1 | 4 | | | |
| 46 | 11. 12～11. 18 | | | | | | | | | 102 | | | | 2 | 3 | | | |
| 47 | 11. 19～11. 25 | | | | | | | | | 70 | | | | | 10 | | | |
| 48 | 11. 26～12. 2 | | | | | | | | | 84 | | | | 2 | 9 | 1 | | |
| 49 | 12. 3～12. 9 | | | | | | | | | 80 | | | | 4 | 4 | | | |
| 50 | 12. 10～12. 16 | | | | | | | | | 76 | | | | | 2 | | | |
| 51 | 12. 17～12. 23 | | | | | | | | | 112 | | | | 2 | 2 | | | |
| 52 | 12. 24～12. 30 | | | | | | | | | 76 | | | | 1 | 1 | 2 | | |
| | 合計 | | | | | | | | | 3,097 | | | | 3 | 86 | 476 | 11 | 7 |

* 2008年1月29日現在の報告数

表3-1(2) 一、二、三、四、五類全数把握対象疾患 患者報告数推移表

(2007年第1週～2007年52週)

| 週 | 期間 | 四類 | | | | | | | | | | | |
|----|---------------|------|------|----------|------|----|-----------|-------|------|------|------|--------|---------|
| | | E型肝炎 | A型肝炎 | エキノコツクス症 | オウム病 | Q熱 | コクシジオイデス症 | つつが虫病 | デング熱 | マラリア | ライム病 | レジオネラ症 | レプトスピラ症 |
| 1 | 1. 1～1. 7 | | | | | | | | | 1 | | | |
| 2 | 1. 8～1. 14 | | | | | | | | | | | | |
| 3 | 1. 15～1. 21 | | | | | | | 1 | | | | 2 | |
| 4 | 1. 22～1. 28 | 1 | 1 | | | | | 1 | | | | | |
| 5 | 1. 29～2. 4 | | | | | | | | | | | | |
| 6 | 2. 5～2. 11 | | 2 | 1 | | | 1 | | | 1 | | | |
| 7 | 2. 12～2. 18 | | 3 | | | | | | | | | | |
| 8 | 2. 19～2. 25 | | 1 | | | | | | | | | | |
| 9 | 2. 26～3. 4 | | | | | | | | | | | | |
| 10 | 3. 5～3. 11 | | | | | | | | 1 | | | | |
| 11 | 3. 12～3. 18 | | | | | 1 | | | | | | 1 | |
| 12 | 3. 19～3. 25 | | 1 | | | | | | | 1 | | 1 | |
| 13 | 3. 26～4. 1 | | 1 | | | | | | | | | 1 | |
| 14 | 4. 2～4. 8 | | | | | | | | | 1 | | | |
| 15 | 4. 9～4. 15 | | | | | | | | | 2 | | | 1 |
| 16 | 4. 16～4. 22 | | 1 | | | | | | | 1 | | 1 | |
| 17 | 4. 23～4. 29 | | | | | | | | | 1 | | | 1 |
| 18 | 4. 30～5. 6 | | | | | | | | | | | | 1 |
| 19 | 5. 7～5. 13 | | | | | | | | | | | | 2 |
| 20 | 5. 14～5. 20 | | 2 | | | | | | | | | | |
| 21 | 5. 21～5. 27 | | | | | | | | | 1 | | | |
| 22 | 5. 28～6. 3 | | 2 | | | | | | 1 | 1 | | 2 | |
| 23 | 6. 4～6. 10 | | | | | | | | 1 | | | | |
| 24 | 6. 11～6. 17 | | | | | | | | | 1 | | 1 | |
| 25 | 6. 18～6. 24 | | | | | | | | | 1 | | | 3 |
| 26 | 6. 25～7. 1 | | | | | | | | | 1 | 1 | | 1 |
| 27 | 7. 2～7. 8 | | | | | | | | | 1 | 1 | | 2 |
| 28 | 7. 9～7. 15 | 1 | | 1 | | | | | | | | | 2 |
| 29 | 7. 16～7. 22 | | | | | | | | | 1 | | | 2 |
| 30 | 7. 23～7. 29 | | | | | | 1 | | 1 | 1 | | | 4 |
| 31 | 7. 30～8. 5 | | | 1 | | | | | | | 1 | 2 | |
| 32 | 8. 6～8. 12 | | 1 | | | | | | | | | | 4 |
| 33 | 8. 13～8. 19 | | | | | | | | | 1 | | | |
| 34 | 8. 20～8. 26 | | | | | | | | 2 | | 1 | 1 | |
| 35 | 8. 27～9. 2 | | | | | | | | 3 | | | | 1 |
| 36 | 9. 3～9. 9 | | | | | | | | | 1 | 1 | 1 | |
| 37 | 9. 10～9. 16 | | | | | | | | 4 | 2 | | 3 | 1 |
| 38 | 9. 17～9. 23 | | 1 | | | | | | | | | | 2 |
| 39 | 9. 24～9. 30 | | | | | 1 | | | 1 | 2 | | | 2 |
| 40 | 10. 1～10. 7 | | 1 | | | | | | | | | | 1 |
| 41 | 10. 8～10. 14 | | | | | | | | 2 | 1 | | | 1 |
| 42 | 10. 15～10. 21 | | | | | | | | | | | | |
| 43 | 10. 22～10. 28 | | | | | | | | 1 | | | | 1 |
| 44 | 10. 29～11. 4 | | | | | | | | 1 | 1 | | | 1 |
| 45 | 11. 5～11. 11 | 1 | | | | | | | | | | | 2 |
| 46 | 11. 12～11. 18 | | | | | | | 1 | | | | | |
| 47 | 11. 19～11. 25 | | | | | | | 1 | | | | 2 | |
| 48 | 11. 26～12. 2 | | | | | | | 4 | | | | | 1 |
| 49 | 12. 3～12. 9 | | 1 | | | | | 3 | 1 | | | | 1 |
| 50 | 12. 10～12. 16 | | 1 | | | | | 1 | | | | | 1 |
| 51 | 12. 17～12. 23 | | | | | | | 1 | | 1 | | | |
| 52 | 12. 24～12. 30 | | | | | | 1 | | 2 | | | | 1 |
| | 合計 | 3 | 19 | 3 | 1 | 2 | 2 | 15 | 23 | 23 | 3 | 53 | 4 |

* 四類感染症のうち、報告のあった疾患のみを掲載する（11、12 ページ参照のこと）。

表3-1(3) 一、二、三、四、五類全数把握対象疾患 患者報告数推移表

(2007年第1週～2007年52週)

| 週 | 期間 | 五類 | | | | | | | | | | | | | | （イ ン フ ル 1 エ ン ザ） | |
|----|---------------|----------------------------|------------------|------------------|-----------------------|---|-----------------------|-----------------------|--|------------------------|-------------|-------------|---|--------|-------------|--|---------------------------------|
| | | ア メ ー バ 赤 痢 | ウ イ ル ス | 急 性 脳 炎 | ク リ ブ ト ス | ブ 病 ク ロ イ ツ フ エ ル ト ・ ヤ コ | 感 劇 症 症 型 | 感 染 症 症 型 | 後 天 性 免 疫 不 全 症 候 群 | ジ アル ジ ア 症 | 髄 膜 炎 | 髄 膜 炎 | 先 天 性 風 し ん 症 候 群 | 梅 毒 | 破 傷 風 | ブ ド ウ 球 菌 | バ イ コ マ イ シ ン |
| 1 | 1. 1～1. 7 | 3 | | | | | | | 3 | | | | | 1 | | | |
| 2 | 1. 8～1. 14 | 5 | | | | | | | 8 | | | | | 3 | | | |
| 3 | 1. 15～1. 21 | 4 | 1 | | | | | | 9 | 1 | | | | 1 | | | 2 |
| 4 | 1. 22～1. 28 | 4 | | | | | | | 9 | | | | | | | | |
| 5 | 1. 29～2. 4 | 2 | 1 | | | | | | 11 | 1 | | | | 2 | | | |
| 6 | 2. 5～2. 11 | 1 | 4 | | | | | | 12 | 1 | | | | | | | 1 |
| 7 | 2. 12～2. 18 | 3 | | | | | | | 6 | | | | | 3 | | | |
| 8 | 2. 19～2. 25 | 3 | 1 | | | | | | 12 | | | | | | | | |
| 9 | 2. 26～3. 4 | 5 | | | | | 1 | 1 | 8 | | | | | 4 | | | 1 |
| 10 | 3. 5～3. 11 | 3 | 2 | | | | 1 | 1 | 14 | | | | | 2 | | | 1 |
| 11 | 3. 12～3. 18 | 2 | | | | | | | 4 | | | | | 1 | | | |
| 12 | 3. 19～3. 25 | 2 | | | | | | | 5 | | | | | 5 | | | |
| 13 | 3. 26～4. 1 | 3 | 1 | | | | | | 10 | 1 | | | | 2 | | | 2 |
| 14 | 4. 2～4. 8 | | | 1 | | 1 | | | 10 | 1 | | | | 2 | | | |
| 15 | 4. 9～4. 15 | 4 | 2 | 1 | | | | | 14 | | | | | 1 | | | |
| 16 | 4. 16～4. 22 | 1 | 1 | | | | | | 6 | | | | | 4 | | | |
| 17 | 4. 23～4. 29 | 3 | 1 | | | 1 | | | 7 | 1 | | | | 4 | | | |
| 18 | 4. 30～5. 6 | | | | | | | | 5 | | | | | 1 | | | |
| 19 | 5. 7～5. 13 | 3 | | 2 | | 2 | | | 10 | | | | | 6 | | | |
| 20 | 5. 14～5. 20 | 2 | | 1 | | | 1 | | 8 | 1 | | | | 4 | | | |
| 21 | 5. 21～5. 27 | 6 | | | | | | | 18 | | 1 | | | 3 | | | |
| 22 | 5. 28～6. 3 | 5 | 2 | | | | | | 15 | | | | | 4 | | | |
| 23 | 6. 4～6. 10 | 3 | | | | | | | 9 | | | | | 3 | | | |
| 24 | 6. 11～6. 17 | 4 | | 1 | | 1 | | | 8 | | | | | 2 | | | 1 |
| 25 | 6. 18～6. 24 | 6 | | 1 | | | | | 10 | | | | | 3 | | | |
| 26 | 6. 25～7. 1 | 3 | | | | | | | 8 | 1 | | | | 3 | 1 | | |
| 27 | 7. 2～7. 8 | 7 | 2 | | | | | | 11 | 2 | | | | 4 | | | |
| 28 | 7. 9～7. 15 | 4 | 3 | 1 | | | | | 21 | | | | | 4 | | | |
| 29 | 7. 16～7. 22 | 4 | 2 | 1 | | 1 | | | 6 | | | | | 1 | | | 1 |
| 30 | 7. 23～7. 29 | 3 | 1 | | | | | | 8 | | | | | 3 | | | 1 |
| 31 | 7. 30～8. 5 | 6 | 2 | 2 | | | | | 12 | | | | | 5 | | | |
| 32 | 8. 6～8. 12 | 9 | | | | | | | 7 | | | | | 6 | | | |
| 33 | 8. 13～8. 19 | 3 | 1 | 2 | | | | | 12 | | | | | 2 | | | 1 |
| 34 | 8. 20～8. 26 | 2 | | 2 | 1 | | | | 5 | 1 | | | | 1 | | | |
| 35 | 8. 27～9. 2 | 4 | 1 | | | | 1 | | 11 | | | | | 6 | | | |
| 36 | 9. 3～9. 9 | 4 | | | | | | | 7 | 1 | | | | 3 | | | |
| 37 | 9. 10～9. 16 | 3 | 1 | 1 | | | | | 6 | | | | | 5 | | | |
| 38 | 9. 17～9. 23 | 1 | | 1 | | 2 | | | 10 | | 1 | | | 4 | | | |
| 39 | 9. 24～9. 30 | 4 | 1 | | | | | | 15 | 1 | | | | 3 | | | 1 |
| 40 | 10. 1～10. 7 | 2 | 2 | | | 1 | 1 | 14 | | | | | | 6 | | | |
| 41 | 10. 8～10. 14 | 2 | | | | | | | 13 | | | | | 3 | | | |
| 42 | 10. 15～10. 21 | 3 | 1 | | | | | | 10 | 1 | | | | 3 | | | |
| 43 | 10. 22～10. 28 | 1 | 1 | | | | 1 | | 15 | 1 | | | | 6 | | | 1 |
| 44 | 10. 29～11. 4 | 5 | | | | | 1 | | 9 | | | | | 10 | | | 1 |
| 45 | 11. 5～11. 11 | 4 | | | | | 1 | | 12 | | | | | 4 | | | |
| 46 | 11. 12～11. 18 | 3 | 1 | | | | | | 12 | | | | | 2 | | | |
| 47 | 11. 19～11. 25 | 1 | 1 | 1 | | | | | 6 | | 1 | | | 1 | | | |
| 48 | 11. 26～12. 2 | 3 | | | | 2 | | | 8 | | | | | 2 | | | 1 |
| 49 | 12. 3～12. 9 | 2 | 3 | | | | | | 16 | 1 | | | | 5 | | | |
| 50 | 12. 10～12. 16 | 2 | | 1 | | | | | 11 | 1 | | | | 4 | | | 2 |
| 51 | 12. 17～12. 23 | | 1 | | | | | | 14 | 1 | | | | 1 | | | |
| 52 | 12. 24～12. 30 | 4 | | 1 | | 1 | | | 5 | 1 | | | | 4 | | | |
| | 合 計 | 166 | 40 | 20 | 1 | 16 | 6 | 515 | 19 | 3 | | | | 162 | 1 | | 17 |

表3-2(1) 一、二、三、四、五類全数把握対象疾患 保健所別累計表

(2007年第1週～2007年52週)

| 保健所 | 一類 | | | | | | 二類 | | | | 三類 | | | | | |
|------|--------|-------------|-----|-------|-----|---------|------|--------|-----|-------|------------|-----|-------|-------------|------|-------|
| | エボラ出血熱 | クリミア・コンゴ出血熱 | 痘そう | 南米出血熱 | ペスト | マールブルグ病 | ラッサ熱 | 急性灰白髄炎 | 結核* | ジフテリア | 重症急性呼吸器症候群 | コレラ | 細菌性赤痢 | 腸管出血性大腸菌感染症 | 腸チフス | パラチフス |
| 千代田 | | | | | | | | 73 | | | | 1 | 5 | | | |
| 中央区 | | | | | | | | 43 | | | | 3 | 2 | | | |
| みなと | | | | | | | | 34 | | | | 8 | 8 | 1 | 1 | |
| 新宿区 | | | | | | | | 148 | | | | 2 | 3 | 1 | 1 | |
| 文京 | | | | | | | | 93 | | | | 12 | 5 | 1 | 1 | |
| 台東 | | | | | | | | 55 | | | | | 6 | | | |
| 墨田区 | | | | | | | | 80 | | | | 6 | 9 | 2 | | |
| 江東区 | | | | | | | | 89 | | | | | 8 | | | |
| 品川区 | | | | | | | | 82 | | | | 2 | 8 | | | |
| 目黒区 | | | | | | | | 59 | | | | 3 | 6 | | | |
| 大田区 | | | | | | | | 158 | | | | 6 | 24 | 2 | | |
| 世田谷区 | | | | | | | | 207 | | | | 6 | 30 | | | |
| 渋谷区 | | | | | | | | 57 | | | | 5 | 3 | | | |
| 中野区 | | | | | | | | 78 | | | | 1 | 9 | | 1 | |
| 杉並 | | | | | | | | 99 | | | | 6 | 20 | | | |
| 池袋 | | | | | | | | 83 | | | | | 2 | | | |
| 北区 | | | | | | | | 102 | | | | 1 | 5 | | | |
| 荒川区 | | | | | | | | 63 | | | | | 2 | | | |
| 板橋区 | | | | | | | | 157 | | | | 4 | 20 | 1 | 1 | |
| 練馬区 | | | | | | | | 156 | | | | 1 | 14 | | | |
| 足立 | | | | | | | | 172 | | | | 1 | 8 | | | |
| 葛飾 | | | | | | | | 120 | | | | | 13 | | | |
| 江戸川 | | | | | | | | 115 | | | | 1 | 19 | | | |
| 西多摩 | | | | | | | | 54 | | | | 1 | 5 | | | |
| 南多摩 | | | | | | | | 59 | | | | 3 | 8 | | | |
| 町田 | | | | | | | | 70 | | | | 3 | 26 | | | |
| 多摩立川 | | | | | | | | 112 | | | | 2 | 25 | | | |
| 多摩府中 | | | | | | | | 219 | | | | 1 | 4 | 46 | 1 | 1 |
| 多摩小平 | | | | | | | | 206 | | | | 3 | 109 | 2 | | |
| 島しょ | | | | | | | | 8 | | | | | 2 | | | |
| 八王子市 | | | | | | | | 46 | | | | 3 | 26 | | 1 | |
| 合 計 | | | | | | | | 3,097 | | | | 3 | 86 | 476 | 11 | 7 |

* 2008年1月29日現在の報告数

表3-2(2) 一、二、三、四、五類全数把握対象疾患 保健所別累計表

(2007年第1週～2007年52週)

| 保健所 | 四類 | | | | | | | | | | | |
|------|------|------|----------|------|----|-----------|-------|------|------|------|--------|---------|
| | E型肝炎 | A型肝炎 | エキノコツクス症 | オウム病 | Q熱 | コクシジオイデス症 | つつが虫病 | デング熱 | マラリア | ライム病 | レジオネラ症 | レプトスピラ症 |
| 千代田 | | 1 | | | | | | | | | | |
| 中央区 | | | | | | 1 | | | | 1 | 2 | 1 |
| みなと | | 2 | | | | 1 | | 4 | 5 | | 4 | 2 |
| 新宿区 | | 2 | 1 | | | | | 10 | 9 | | 3 | 1 |
| 文京 | 1 | 1 | | | | | | | 1 | | 4 | |
| 台東 | | | | | | | | | | | 1 | |
| 墨田区 | 1 | 1 | 1 | | | | | 5 | 2 | | 1 | |
| 江東区 | | | | | | | | | | | 2 | |
| 品川区 | | 1 | | | | | | 1 | | | 3 | |
| 目黒区 | | | | | | | | | | 1 | | 1 |
| 大田区 | | 1 | | | | | | | | 3 | | 5 |
| 世田谷区 | | | | | | 2 | | | | | 1 | |
| 渋谷区 | | 1 | | | | | | | | | 2 | |
| 中野区 | | 1 | | | | | | | 1 | | | |
| 杉並 | | 1 | | | | | | | | | 1 | |
| 池袋 | | | | | | | | | | 2 | | |
| 北区 | 1 | | | | | | | | | | 1 | |
| 荒川区 | | | | | | | | | | | | |
| 板橋区 | | 1 | 1 | | 2 | | 1 | 1 | | | 3 | |
| 練馬区 | | 1 | | | | | | | | | | |
| 足立 | | | | | | | | | | | 1 | |
| 葛飾 | | | | | | | | | | | 1 | |
| 江戸川 | | | | | | | | | | | 1 | |
| 西多摩 | | | | | | 3 | | | | | 1 | |
| 南多摩 | | | | | | | | 1 | | | 1 | |
| 町田 | | | | | | | | | | | 1 | |
| 多摩立川 | | | | | | | | | | | 5 | |
| 多摩府中 | | 4 | | | | | | 1 | 1 | | 3 | |
| 多摩小平 | | | | | | | | | | | 5 | |
| 島しょ | | | | | | | 9 | | | | | |
| 八王子市 | | 1 | | 1 | | | | | | | | |
| 合 計 | 3 | 19 | 3 | 1 | 2 | 2 | 15 | 23 | 23 | 3 | 53 | 4 |

* 四類感染症のうち、報告のあった疾患のみを掲載する（11、12ページ参照のこと）。

表3-2(3) 一、二、三、四、五類全数把握対象疾患 保健所別累計表

(2007年第1週～2007年52週)

| 保健所 | 五類 | | | | | | | | | | | | | 指定 (イ ン フ ル エ ン ザ) | |
|------|----------------------------|---------------------------------|------------------|---|--|-----------------------|--|--|------------------------|--------------------------------------|---|--------|-------------|---|-----------------------|
| | ア メ ー バ 赤 痢 | ウ イ ル ス 性 肝 炎 | 急 性 脳 炎 | クリ プ ト ス ポ リ ジ ウ ム 症 | ブ 病 院 イ ツ フ ェ ル ト ・ ヤ コ | 感 染 症 症 型 | 劇 症 溶 血 性 レ ン サ 球 菌 | 後 天 性 免 疫 不 全 症 候 群 | ジ アル ジ ア 症 | 髄 膜 炎 菌 性 髄 膜 炎 | 先 天 性 風 し ん 症 候 群 | 梅 毒 | 破 傷 風 | ブ バ ド ウ コ マ イ シ ン 耐 性 黃 色 | バ ク 感 染 症 |
| 千代田 | 10 | | | | | | 1 | 12 | | | | 3 | | | |
| 中央区 | 4 | | | | | | | 3 | 3 | | | 8 | | | 1 |
| みなと | 10 | | 1 | | 2 | | | 15 | | 1 | | 16 | | | 6 |
| 新宿区 | 19 | 8 | | | 3 | | | 169 | 6 | | | 30 | | | 3 |
| 文京 | 13 | 3 | 2 | | 2 | 2 | 29 | 2 | | | | 3 | | | 1 |
| 台東 | 2 | | | | | | | 2 | | | | 6 | | | 1 |
| 墨田区 | 9 | 2 | 3 | 1 | 1 | | | 15 | 2 | 1 | | 7 | | | |
| 江東区 | 3 | 1 | | | | 1 | | | | | | 1 | | | |
| 品川区 | 11 | 3 | | | | 1 | | 13 | | | | 6 | | | |
| 目黒区 | 8 | 3 | 5 | | | | | 8 | 2 | | | 2 | | | 2 |
| 大田区 | 6 | | | | | 1 | | 10 | 1 | | | 5 | | | |
| 世田谷区 | 7 | | 3 | | 1 | | | 9 | | | | 3 | | | |
| 渋谷区 | 6 | 1 | | | | | | 132 | | | | 8 | | | |
| 中野区 | 1 | 3 | | | | | | 1 | | | | 4 | | | |
| 杉並 | 4 | 1 | | | 1 | | | 9 | | 1 | | 3 | | | |
| 池袋 | 3 | | | | | | | 1 | | | | 5 | | | 1 |
| 北区 | 3 | | | | | | | 1 | | | | 2 | | | |
| 荒川区 | 2 | | 2 | | | | | 2 | 1 | | | 6 | | | 1 |
| 板橋区 | 4 | | 1 | | 1 | 1 | 18 | | | | | 10 | | | |
| 練馬区 | 4 | 1 | | | | | | 7 | | | | 5 | 1 | | |
| 足立 | 2 | | | | | | | | | | | 2 | | | |
| 葛飾 | 1 | 4 | | | | | | 1 | | | | 7 | | | 1 |
| 江戸川 | 3 | 3 | | | | | | 8 | | | | 3 | | | |
| 西多摩 | 4 | 1 | 1 | | | | | 1 | | | | 2 | | | |
| 南多摩 | 3 | | | | | | | 4 | | | | 2 | | | |
| 町田 | | | | | | | | 2 | | | | | | | |
| 多摩立川 | 5 | 1 | | | | | | 8 | | | | 3 | | | |
| 多摩府中 | 12 | | 2 | | 2 | 2 | 19 | 1 | | | | 3 | | | |
| 多摩小平 | 2 | 1 | | | | | | 7 | 1 | | | 3 | | | |
| 島しょ | | | | | | | | | | | | | | | |
| 八王子市 | 5 | 4 | | | | | | 9 | | | | 4 | | | |
| 合 計 | 166 | 40 | 20 | 1 | 16 | 6 | 515 | 19 | 3 | | 162 | 1 | | 17 | |

表3-3(1) 一、二、三、四、五類全数把握対象疾患 年齢階級別累計表

(2007年第1週～2007年52週)

| 年齢階級 | 一類 | | | | | | 二類 | | | | 三類 | | | | | |
|--------|--------|-------------|-----|-------|-----|---------|------|--------|-----|-------|------------|-----|-------|-------------|------|-------|
| | エボラ出血熱 | クリミア・コンゴ出血熱 | 痘そう | 南米出血熱 | ペスト | マールブルグ病 | ラッサ熱 | 急性灰白髄炎 | 結核* | ジフテリア | 重症急性呼吸器症候群 | コレラ | 細菌性赤痢 | 腸管出血性大腸菌感染症 | 腸チフス | パラチフス |
| 0歳 | | | | | | | | 73 | | | | 1 | 2 | | | |
| 1～4歳 | | | | | | | | 34 | | | | 1 | 31 | 1 | | |
| 5～9歳 | | | | | | | | 14 | | | | 2 | 29 | | | |
| 10～14歳 | | | | | | | | 33 | | | | 4 | 29 | 1 | | |
| 15～19歳 | | | | | | | | 50 | | | | 4 | 99 | 2 | | |
| 20～24歳 | | | | | | | | 165 | | | | 12 | 108 | 2 | | |
| 25～29歳 | | | | | | | | 237 | | | | 15 | 35 | 1 | 3 | |
| 30～34歳 | | | | | | | | 226 | | | | 1 | 11 | 29 | 2 | |
| 35～39歳 | | | | | | | | 188 | | | | 6 | 18 | 1 | 2 | |
| 40～44歳 | | | | | | | | 165 | | | | 7 | 13 | 1 | | |
| 45～49歳 | | | | | | | | 142 | | | | 5 | 14 | | | |
| 50～54歳 | | | | | | | | 159 | | | | 5 | 9 | | | |
| 55～59歳 | | | | | | | | 246 | | | | 4 | 11 | | 1 | |
| 60～64歳 | | | | | | | | 200 | | | | 1 | 4 | 15 | | |
| 65～69歳 | | | | | | | | 204 | | | | 1 | 1 | 8 | | |
| 70歳以上 | | | | | | | | 961 | | | | 4 | 26 | | | |
| 合 計 | | | | | | | | 3,097 | | | | 3 | 86 | 476 | 11 | 7 |

* 2008年1月29日現在の報告数

表3-3(2) 一、二、三、四、五類全数把握対象疾患 年齢階級別累計表

(2007年第1週～2007年52週)

| 年齢階級 | 四類 | | | | | | | | | | | |
|--------|------|------|----------|------|----|-----------|-------|---------|------|------|--------|---------|
| | E型肝炎 | A型肝炎 | エキノコツクス症 | オウム病 | Q熱 | コクシジオイデス症 | つつが虫病 | Dengue熱 | マラリア | ライム病 | レジオネラ症 | レプトスピラ症 |
| 0歳 | | | | | | | | | | | | |
| 1～4歳 | | | | | | | 1 | | | | | |
| 5～9歳 | | | | | | | 1 | | | | | |
| 10～14歳 | | | | | | | | 2 | | | | |
| 15～19歳 | | | | | | | | | | | | |
| 20～24歳 | | | | | | | | 2 | 6 | | | 1 |
| 25～29歳 | 1 | 2 | 1 | | | | 2 | 8 | 2 | | 1 | 1 |
| 30～34歳 | | 3 | 1 | | | 1 | | 5 | 2 | 1 | | |
| 35～39歳 | 1 | 1 | | | | 1 | | | 8 | | | |
| 40～44歳 | 1 | 4 | | | | | | 4 | 1 | 1 | 2 | |
| 45～49歳 | | 3 | 1 | 1 | | | 1 | | 1 | 1 | | |
| 50～54歳 | | 3 | | | 1 | | 2 | 1 | 1 | | 3 | 1 |
| 55～59歳 | | 2 | | | | | 1 | | 1 | | 7 | 1 |
| 60～64歳 | | 1 | | | | | 1 | 1 | 1 | | 9 | |
| 65～69歳 | | | | | 1 | | 3 | | | | 6 | |
| 70歳以上 | | | | | | | 3 | | | | 25 | |
| 合 計 | 3 | 19 | 3 | 1 | 2 | 2 | 15 | 23 | 23 | 3 | 53 | 4 |

* 四類感染症のうち、報告のあった疾患のみを掲載する（11、12ページ参照のこと）。

表3-3(3) 一、二、三、四、五類全数把握対象疾患 年齢階級別累計表

(2007年第1週～2007年52週)

| 年齢階級 | 五類 | | | | | | | | | | | | | 指定 (イ H ン フ ル N 1 ～ ザ) | | | |
|--------|----------------------------|---------------------------------|------------------|---|--------|---|-------------|--------|-------------|-------------|------------------------|-------------|---------------------------------|---|-------------|-----------------------|-------------|
| | ア メ ー バ 赤 痢 | ウ イ ル ス 性 肝 炎 | 急 性 脳 炎 | クリ プ ト ス ポ リ ジ ウ ム 症 | ブ 病 | クロ イ ツ フ エ ル ト ・ ヤ コ | 感 染 症 | 劇 症 | 溶 血 性 | 不 全 症 | ジ アル ジ ア 症 | 髓 膜 炎 | 先 天 性 風 し ん 症 | 梅 毒 | 破 傷 風 | バ イ オ 球 菌 | 感 染 症 |
| 0歳 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1～4歳 | | | 10 | | | | | | | | | | | | | | |
| 5～9歳 | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | |
| 10～14歳 | | | 4 | | | | | | | | | | | | | | |
| 15～19歳 | 2 | 1 | 1 | | | | | 3 | | 1 | | 4 | | | | | |
| 20～24歳 | 5 | 6 | | 1 | | 1 | 38 | 3 | | | | 13 | | | | 1 | |
| 25～29歳 | 13 | 8 | 1 | | | | 80 | 4 | | | | 25 | | | | | |
| 30～34歳 | 18 | 11 | | | | | 120 | 3 | 1 | | 18 | | | | | | |
| 35～39歳 | 17 | 2 | 1 | | | | 85 | 3 | | | 22 | | | | 2 | | |
| 40～44歳 | 29 | 3 | 1 | | | | 70 | | | | 21 | | | | 2 | | |
| 45～49歳 | 21 | 5 | | | | | 44 | 2 | | | 11 | | | | 1 | | |
| 50～54歳 | 11 | 1 | | | | | 25 | 1 | | | 16 | | | | 2 | | |
| 55～59歳 | 19 | 1 | | | 2 | | 24 | 1 | | | 16 | | | | 1 | | |
| 60～64歳 | 13 | 1 | | | | 1 | 11 | 1 | 1 | | 10 | | | | 2 | | |
| 65～69歳 | 10 | | | | 6 | 2 | 9 | | | | | 5 | 1 | | | 1 | |
| 70歳以上 | 8 | 1 | | | 8 | 2 | 6 | 1 | | | | 1 | | | | 5 | |
| 合 計 | 166 | 40 | 20 | 1 | 16 | 6 | 515 | 19 | 3 | | 162 | 1 | | | 17 | | |

(2) 小児科・内科疾患

ア インフルエンザ

2007年の年間患者報告数は53,927件（191.41/定点）で、前年（23,953件；134.57/定点）に比して142.2%（定点の比）の増加であり、当年の報告数は過去10年で第1位、定点当たり報告値は第3位であった。当年の前期流行波（2006/2007期）は当年第4週（1.80/定点）に始まり、第11週（23.00/定点）をピークとし、第17週（1.67/定点）に終わる流行であった。後期流行波（2007/2008期）は当年46週（1.02/定点）に始まり、第51週（8.81/定点）を後期流行波の年内ピークとして越年、年末年始の減少期を経て2008年前期流行波に移行し、2008年第5週（10.60/定点）を2007/2008期のピークとして過ぎ、以後漸減し第12週（1.37/定点）に終息した。今回流行の患者報告数の累計は過去10年間で8位とされる小規模なものであった（東京都インフルエンザ情報第18号；2008年4月25日）。2007/2008期の流行の特徴は例年より流行開始時期が約1か月早く、患者報告ピークが2点あったことがあげられる。当年患者の罹患年齢は、12か月未満0.97%、1～3歳10.6%、4～6歳18.1%、7～9歳18.9%、10～14歳18.0%、15～19歳5.6%、20～29歳7.6%、30～39歳9.1%、40～49歳6.0%、50～59歳2.7%、60～69歳1.4%、70歳以上1.1%であった。医療圏別では、区東部圏（398.12/定点）、北多摩北部圏（379.58/定点）、西多摩圏（311.70/定点）、南多摩圏（306.88/定点）に多発し、区中央部圏（190.47/定点）に少なかった。保健所別では、江戸川（372.06/定点）、町田（285.49/定点）、多摩小平（260.86/定点）に多発し、千代田（48.20/定点）、目黒（73.90/定点）、板橋区（98.08/定点）では少なかった。最近10年間の流行状況を定点当たり報告数でみると、第1位は2005年（243.46/定点）、第2位：1999年（206.66/定点）、第3位：当年（191.41/定点）であった。週定点当たりピーク最高値は、1998年第5週47.82/定点であり、第2位は2005年第7週43.33/定点であった。

参考資料

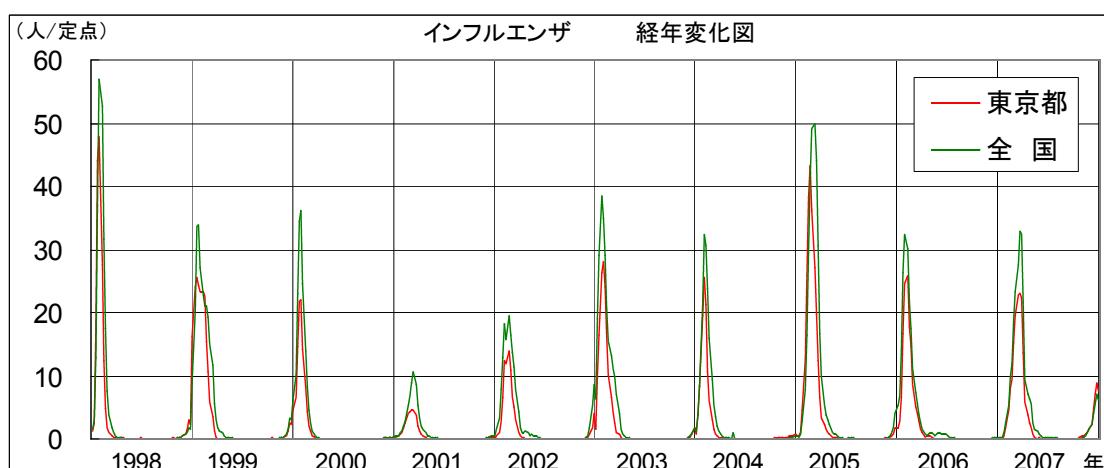
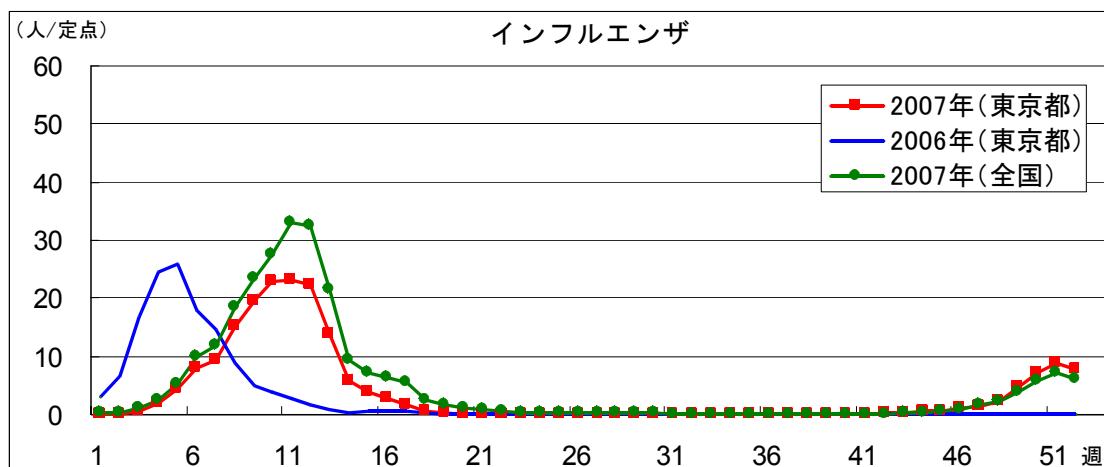
- ①<特集>インフルエンザ 2006/07シーズン：病原微生物検出情報 Vol. 28 No. 11 pp. 1～2、2007、
<http://idsc.nih.go.jp/iasr/28/333/tpc333-j.html>
- ②<特集関連情報>平成19年度（2007/08シーズン）インフルエンザワクチン株の選定経過：病原微生物検出情報 Vol. 28 No. 11 pp. 10～12、2007、
<http://idsc.nih.go.jp/iasr/28/333/dj3332.html>
- ③注目すべき感染症「インフルエンザ」：2008年9週（第9号）IDWR, 10 (9) : pp. 6～11、2008、
<http://idsc.nih.go.jp/idwr/kanja/idwr/idwr2008/idwr2008-09.pdf>
- ④WHOに報告されたヒトの鳥インフルエンザ（H5N1）感染確定症例数（2008年5月31日）
http://www.who.int/csr/disease/avian_influenza/country/cases_table_2008_05_28/en/index.html
http://idsc.nih.go.jp/disease/avian_influenza/case200800/case080528.html

表 WHOに報告されたヒトの鳥インフルエンザ（H5N1）確定症例数と死亡例数

| | 2003年 | | 2004年 | | 2005年 | | 2006年 | | 2007年 | | 2008年 | | 合計 | |
|----------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|------|-------|------|
| | 確定症例数 | 死亡例数 |
| アゼルバイジャン | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 8 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 | 8 | 5 |
| バングラデシュ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 1 | 0 |
| カンボジア | 0 | 0 | 0 | 0 | 4 | 4 | 2 | 2 | 1 | 1 | 0 | 0 | 7 | 7 |
| 中国 | 1 | 1 | 0 | 0 | 8 | 5 | 13 | 8 | 5 | 3 | 3 | 3 | 30 | 20 |
| ジブチ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| エジプト | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 18 | 10 | 25 | 9 | 7 | 3 | 50 | 22 |
| インドネシア | 0 | 0 | 0 | 0 | 20 | 13 | 55 | 45 | 42 | 37 | 16 | 13 | 133 | 108 |
| イラク | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 2 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 2 |
| ラオス | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 2 | 2 | 0 | 0 | 2 | 2 |
| ミャンマー | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 | 0 | 0 | 1 | 0 |
| ナイジェリア | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 1 | 1 | 0 | 0 | 1 | 1 |
| パキスタン | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 3 | 1 | 0 | 0 | 3 | 1 |
| タイ | 0 | 0 | 17 | 12 | 5 | 2 | 3 | 3 | 0 | 0 | 0 | 0 | 25 | 17 |
| トルコ | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 0 | 12 | 4 | 0 | 0 | 0 | 0 | 12 | 4 |
| ベトナム | 3 | 3 | 29 | 20 | 61 | 19 | 0 | 0 | 8 | 5 | 5 | 5 | 106 | 52 |
| 合 計 | 4 | 4 | 46 | 32 | 98 | 43 | 115 | 79 | 88 | 59 | 32 | 24 | 383 | 241 |

注：確定症例総数は死亡例数も含む。

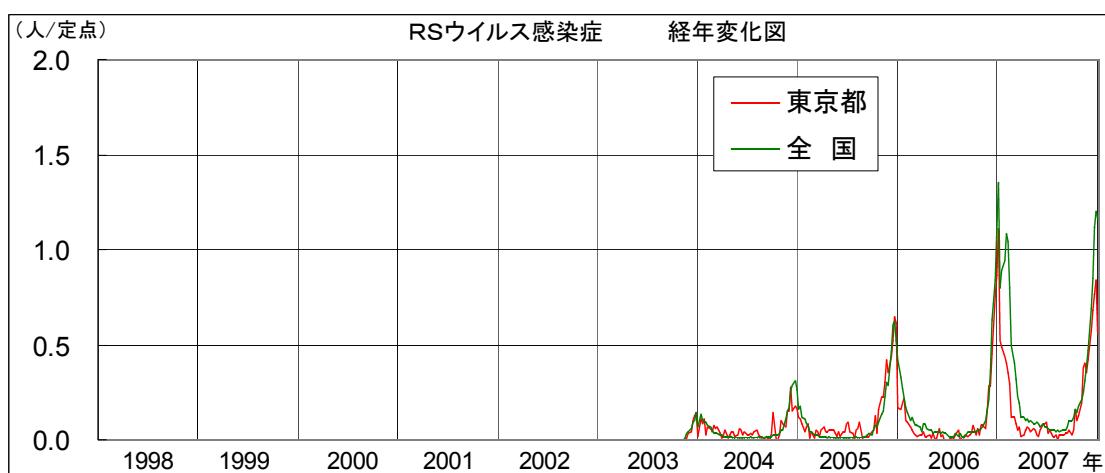
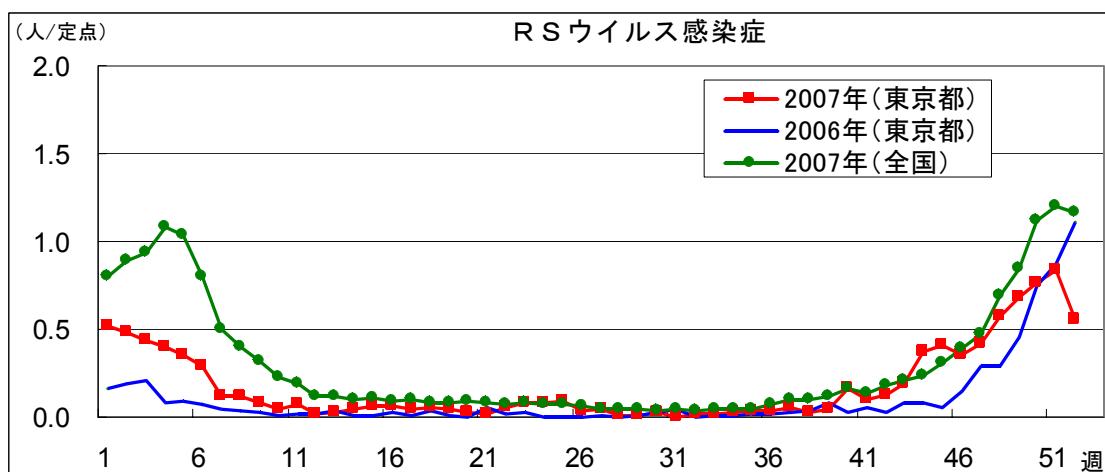
WHOは検査により確定された確定例だけを報告する。



イ RSウイルス感染症

2003年11月に新規の定点把握疾患として登録された。

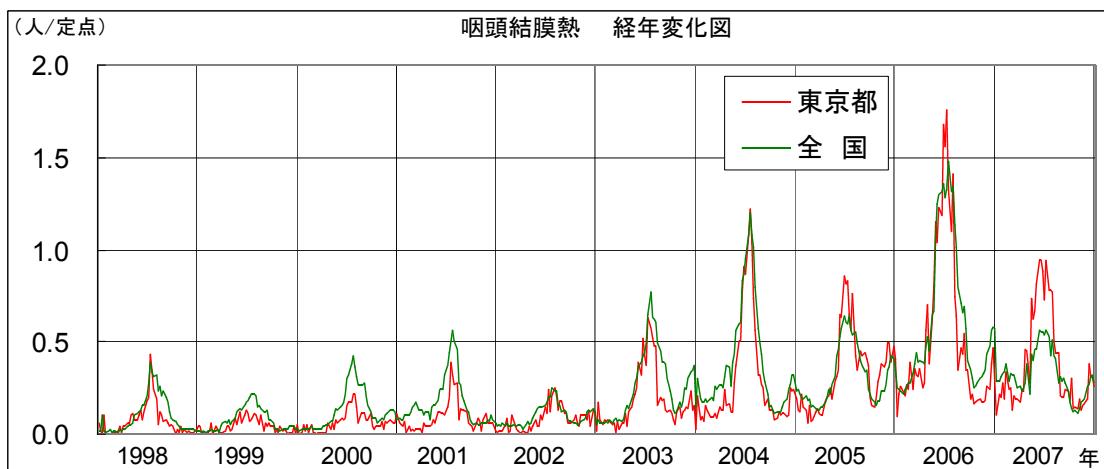
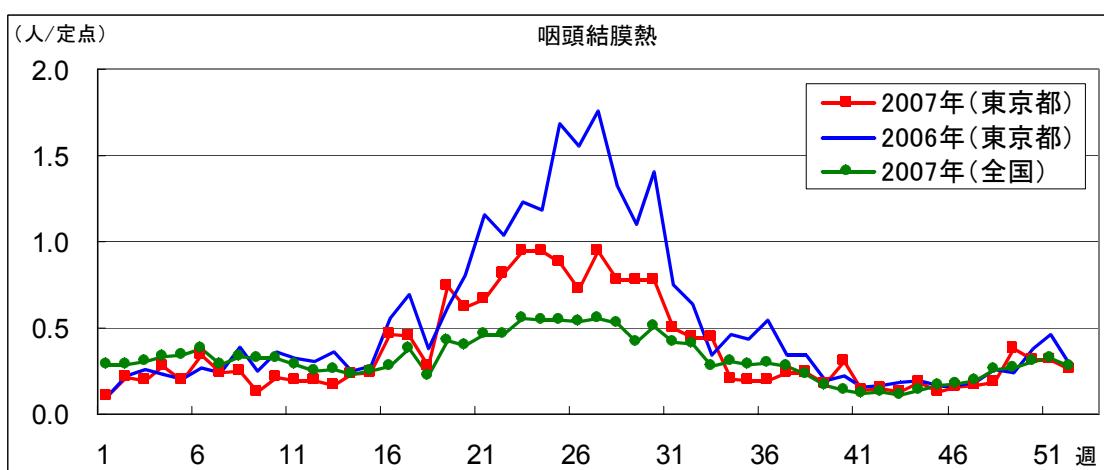
2003年（11月、12月）は68件（0.48/定点）が報告され、2004年432件（3.04/定点）、2005年848件（5.97/定点）と増加したが、2006年は818件（5.76/定点；前年比96.5%）と横這いの後、当年は1,403件（9.57/定点、166.2%）の増加であり、年間報告数、年間定点当たり報告数とも過去5年間で第1位であった。当年の流行推移は、昨年秋季から当年年初にかかる流行後半を示すもので、ピークは昨年第52週（1.11/定点）であり、当年年初の動向は緩やかな減少期を示している。当年後半の流行は、第44週頃より始まるもので、第51週（0.64/定点）に低いピークがみられるが、全国の流行推移に並行しており、例年の如く晩秋から冬期に多発する傾向がみられた。罹患年齢は6か月未満200件（14.3%）、12か月未満344件（24.5%）、1歳458件（32.6%）、2歳149件（10.6%）、3歳86件（6.1%）、4～6歳71件（5.1%）、7～9歳5件（0.4%）、その他であった。2歳未満に多発し、重症化する傾向がみられる。調査年次を追うごとに増加するが、地域的特徴はなく、北多摩北部圏、区南部圏に報告数が多かった。



ウ 咽頭結膜熱

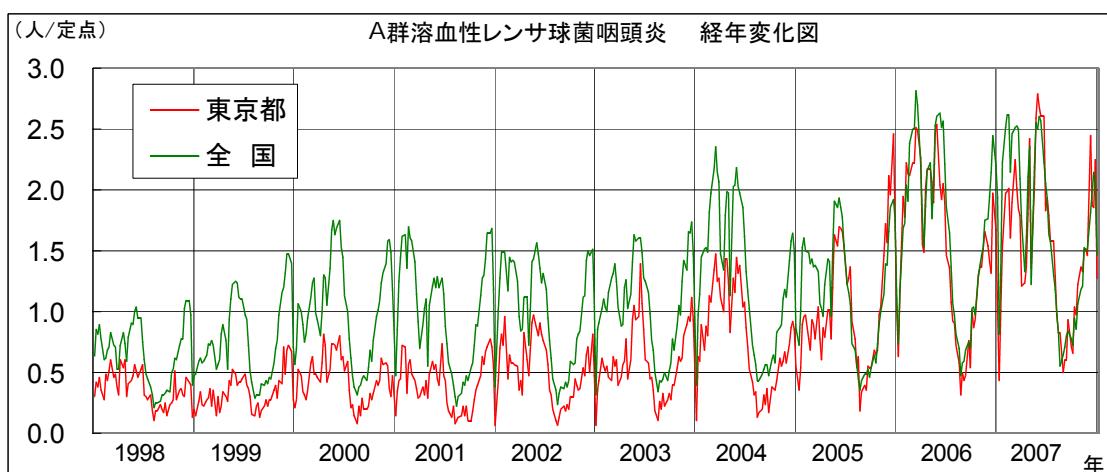
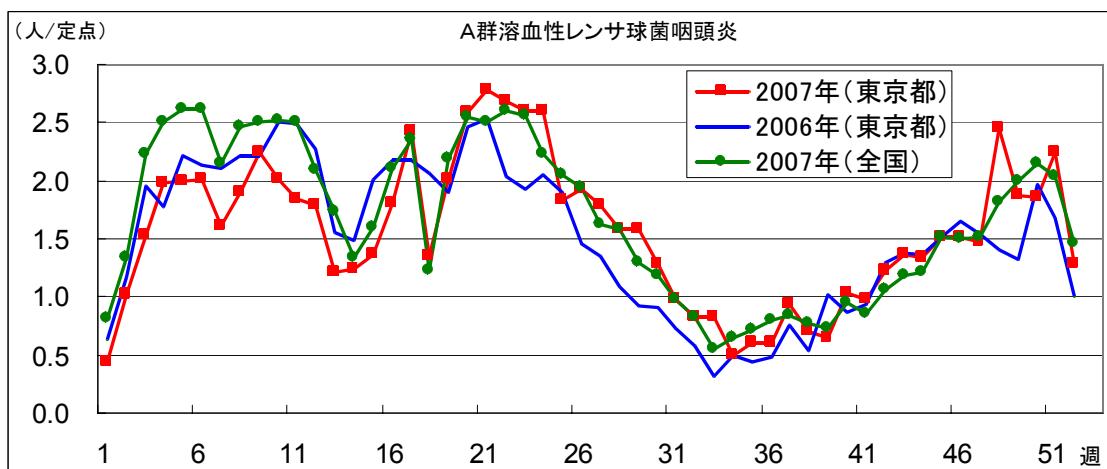
咽頭結膜熱は、小児科・内科と眼科の両領域の境界疾患であるが、感染症法の定点把握では、小児科・内科が担当している。2007年の患者報告数は2,793件（18.96/定点）であり、前年（3,929件、27.67/定点）比では68.5%の減少で、過去10年間では、報告数、定点当たり報告数とも第1位連続後の、昨年に続く第2位であった。

本症は晩春から夏季、初秋にかけて青少年間に流行する軽症疾患である。本年の流行推移をみると、昨年と類似した経過で、第16週（67件、0.46/定点）より増加傾向を示し、第24週（148件、0.99/定点）をピークとして、以後、第32週（63件、0.44/定点）まで漸減する。また、最近数年間の傾向として冬期に小流行をみるが、当年も第49週以後増加傾向を認めた。この要因として気候の変動、生活様式の変化も考えられるが、明らかではない。過去10年間の変動をみると、2003年からの最近5年間は増加傾向（2003年；第5位、2004年；第4位、2005年；第3位、2006年；第1位、2007年；第2位）が認められる。罹患年齢は1～6歳が多く、2,793件中、2,099件（75.2%）を占めた。本症は、ときに局地的小流行や施設内小流行をみるとおり、医療圏では北多摩北部圏、区東北部圏に多く、北多摩西部圏、北多摩南部圏に少なかった。



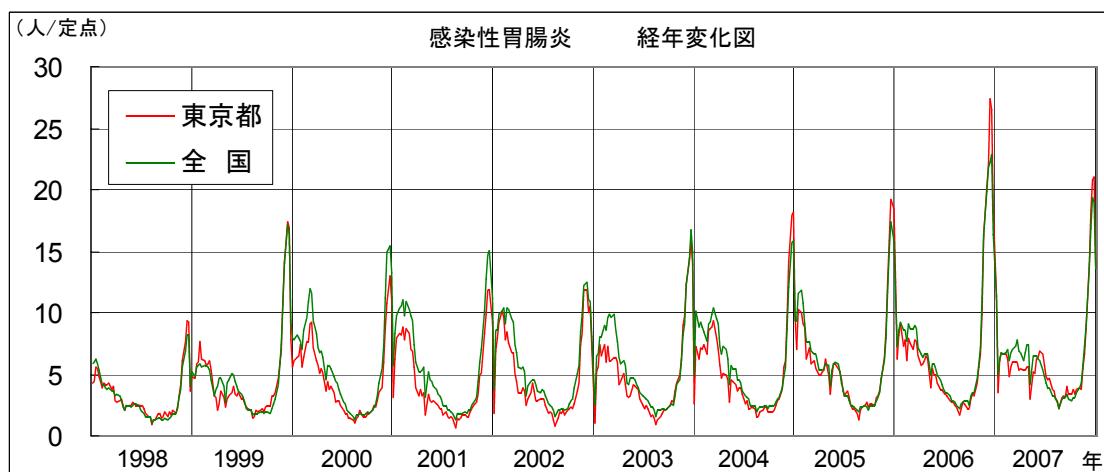
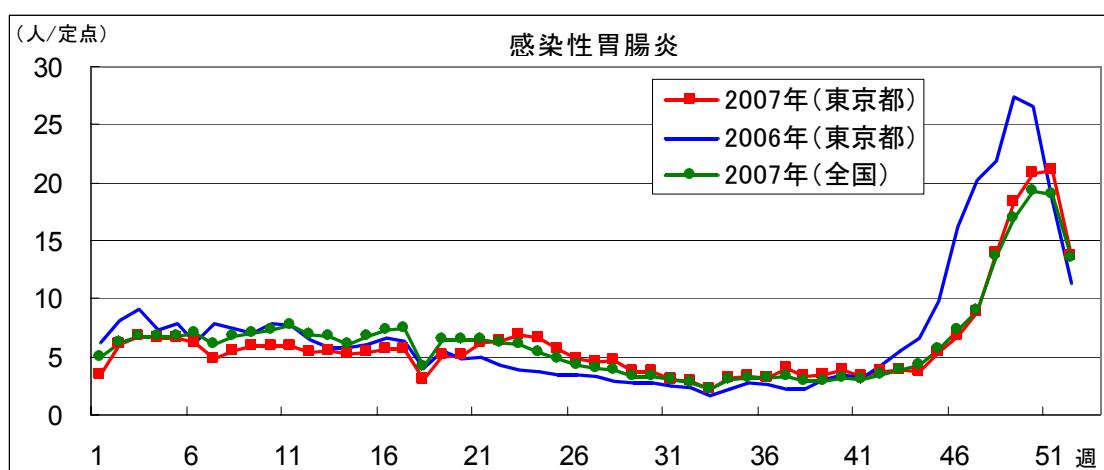
エ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎（溶連菌感染症）

2007年の報告数は11,913件（81.32/定点）であり、前年（11,213件、78.96/定点）比で、103.0%の横這い状態ながら、最近10年間で報告数、定点当たり報告数とも6年連続して第1位である。本症の流行推移は梅雨期と晚秋冬期に増加するW字型流行像を示すことで知られるが、最近10年間の経年変化図をみると、2001年までは低めの山で経過しており、2002年以降は逐年增高して、報告数も連続増加している。長年、東京の流行推移は全国推移に平行しながら、その低位にあるが、2005年の年間ピーク第50週（2.46/定点）は同年全国第50週（1.92/定点）の値を超えており、報告数の増加傾向がみられる。当年の罹患年齢状況は12か月未満：71件（0.59%）、1～2歳：802件（6.73%）、3～6歳：5,917件（49.68%）、7～9歳：2,842件（23.86%）、10～14歳：1,083件（9.09%）、15～19歳：148件（1.24%）、20歳以上：1,050件（8.81%）であり、3～6歳児が最高率（多くの年次は過半数）を占めている。ブロック別発生状況の上位3位は、南多摩圏、北多摩北部圏、区東部圏であり、最低発生圏は北多摩西部圏であった。



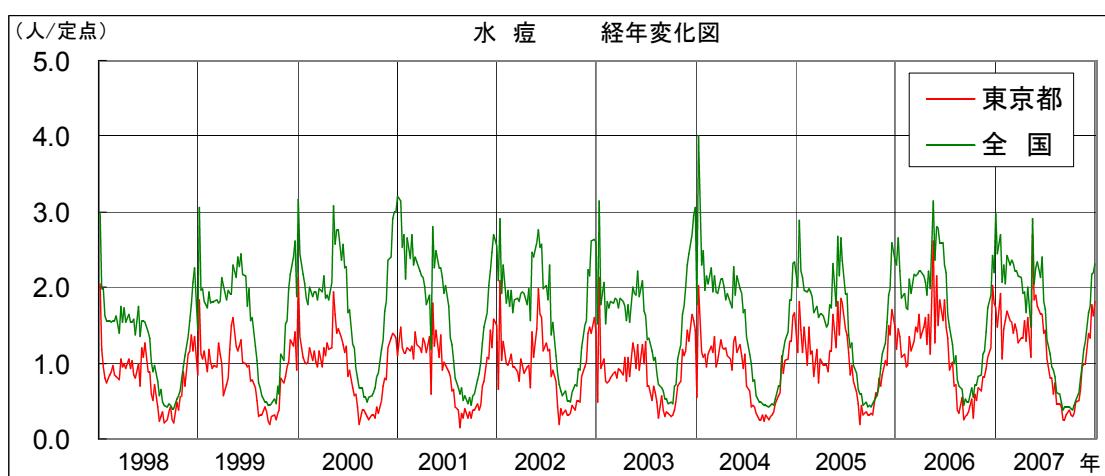
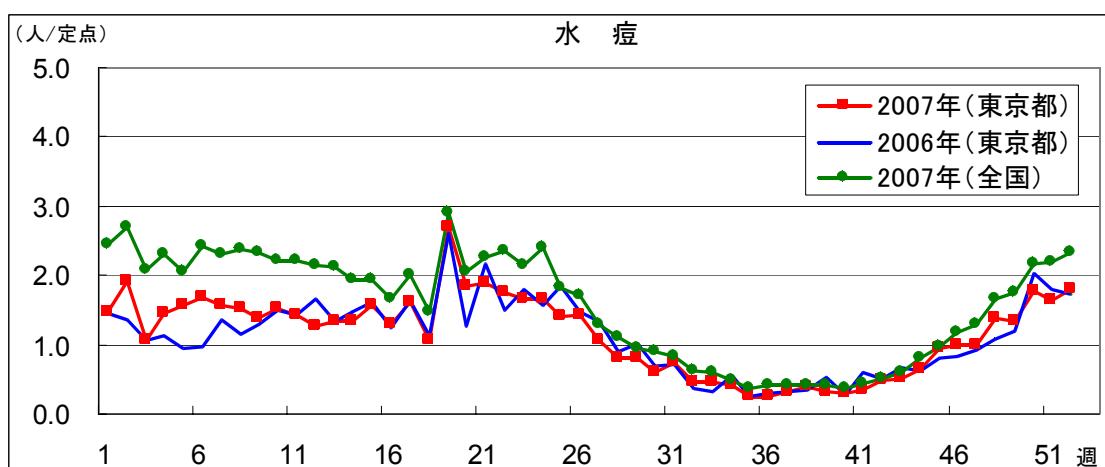
才 感染性胃腸炎

2007年の患者報告数は46,783件（318.41/定点）であり、前年（51,945件、365.81/定点）比87.04%の軽度減少であったが、過去10年間の記録では昨年（過去4年間連続第1位）について第2位であった。本症は秋季に始まり、冬季に多発し春季にかけて流行する疾患であるが、2006年後期流行波に続く2007年の前期流行波は例年より低位の流行で、第3週（6.70/定点）がピークであった。後期流行波は第45週（5.43/定点）に始まり第51週（20.99/定点）をピークとし、2008年に延長波及する流行であった。罹患年齢分布は、12か月未満3,695件（7.90%）、1～3歳14,965件（31.99%）、4～6歳10,190件（21.78%）、7～9歳5,962件（12.74%）であった。ブロック別発生状況では、昨年に類似して南多摩圏、北多摩北部圏、区東部圏で報告数が多く、北多摩西部圏、北多摩南部圏で報告が少なかった。



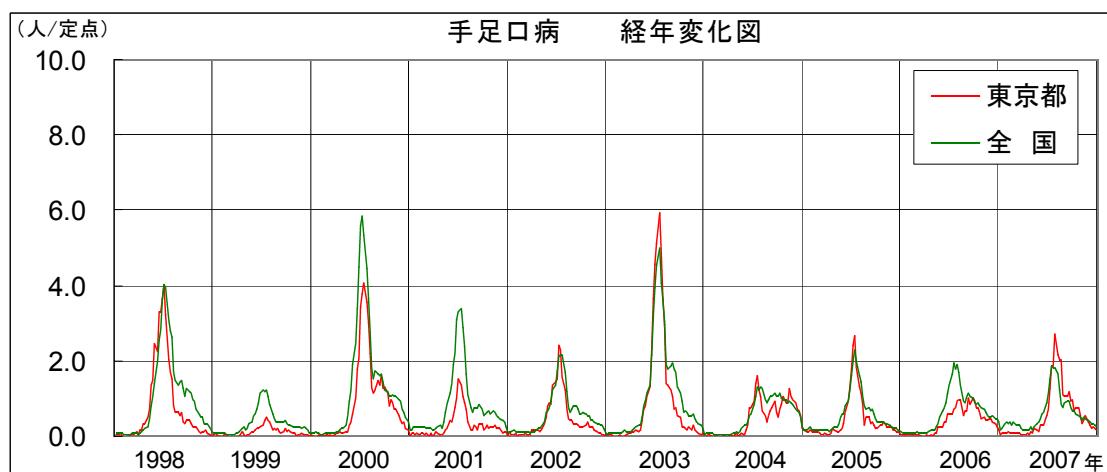
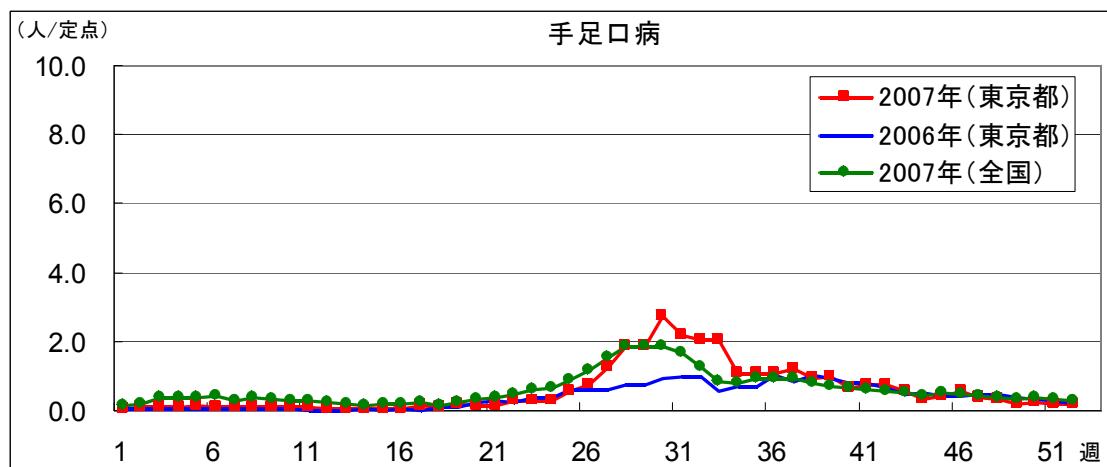
力 水痘

2007年の報告数は8,874件（60.77/定点）で、前年（8,345件、58.77/定点）比103.4%の横這い状態であり、過去10年では3年間連続第1位であった。流行波は、毎年前年晚秋に増加しはじめ当年初夏にかけて流行する相似形をとっており、本年のピークは第19週（2.70/定点）であった。その後減少を続け、晩夏初秋の底辺時期を経て増加期を迎える。最近10年間の発生推移を定点あたり報告数でみると、第1位：当年、第2位：2006年（58.77/定点）、第3位2005年（53.27/定点）、第4位1997年（50.61/定点）、以下2002年、2000年の順であった。罹患年齢は例年と殆ど変わりなく、10歳未満が大部分で、5歳未満（7,378件）が83.1%を占めている。10歳以上は315件（3.5%）であった。ブロック別発生状況は南多摩圏、北多摩北部圏、区東北部圏に多く、北多摩西部圏に少なかった。



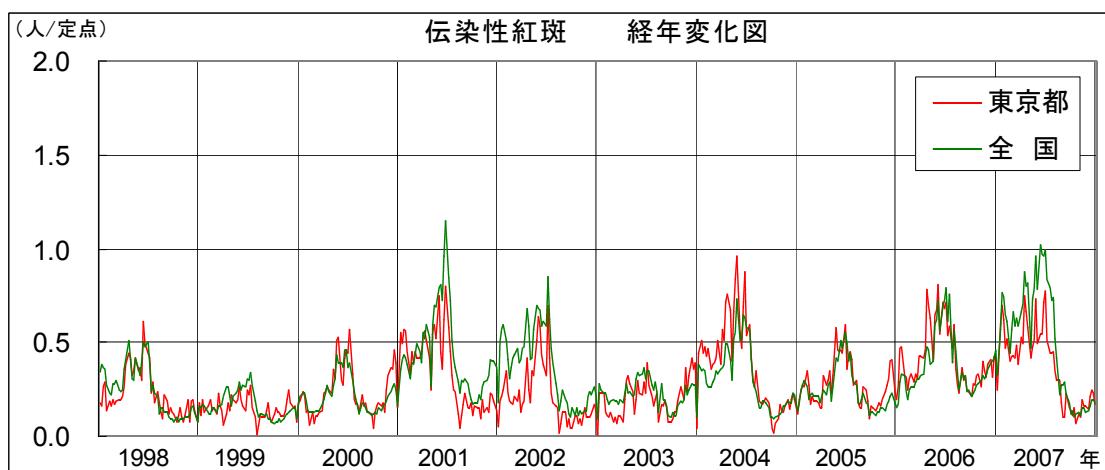
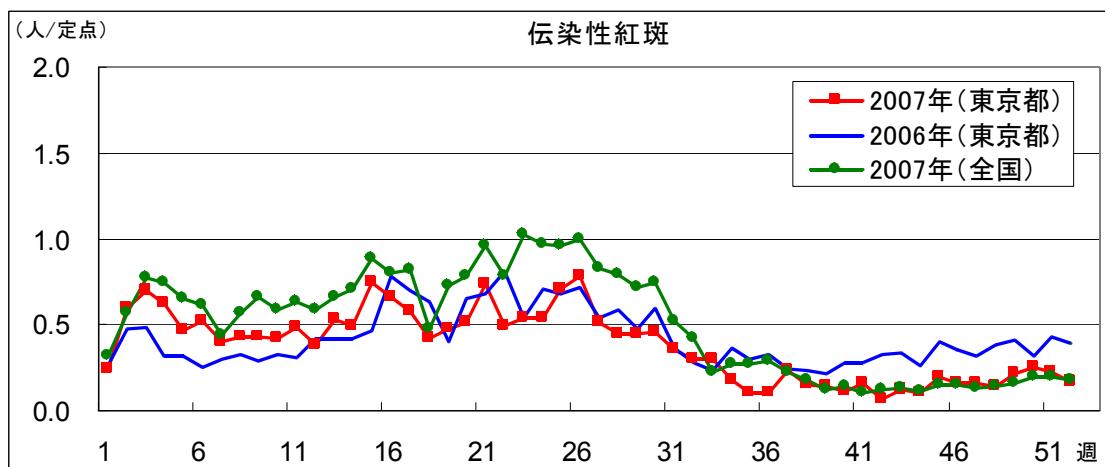
キ 手足口病

2007年の報告数は4,382件（29.73/定点）であり、前年（2,885件、29.32/定点）に比し146.3%の増加で、過去10年間でみると、第4位にあたる。因みに第1位は2003年（6,872件、48.39/定点）であり、第2位2000年（6,464件、45.52/定点）、次いで1998年（5,662件、39.87/定点）であり、これらの流行年の合間にあたる1999年、2001年、2002年、2004年、2005年、2006年は非流行年であった。これに続く当年も小流行に終わった。罹患年齢をみると、12か月末満301件（6.9%）、1～3歳2,632件（60.1%）、4～5歳904件（20.6%）であり、80%以上の患者が1～5歳児であった。ブロック別発生状況では南多摩圏、北多摩北部圏に多く、北多摩西部圏に少なかった。



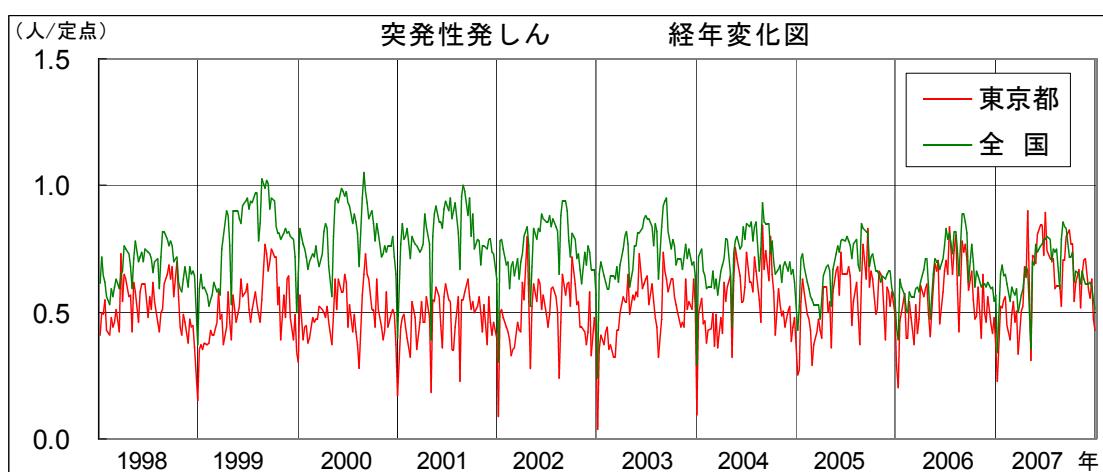
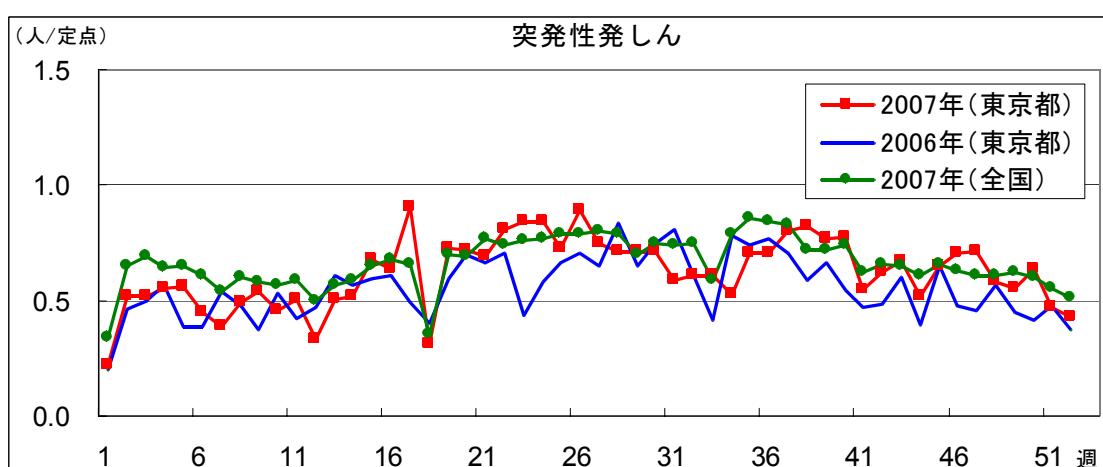
ク 伝染性紅斑

2007年の年間報告数は2,879件（19.73/定点）で、前年（3,109件、21.89/定点）比90.13%の横這い状態であるが、過去10年では前年（21.89/定点、過去10年1位）に次いで第2位であった。過去10余年の流行状況をみると、1992年の流行後、1993年から3年間の非流行期、1996年の流行、1997年から99年までの非流行期、2000年、2001年、2002年の小流行、2003年の非流行をみる。本症は2～3年の周期で小流行発生を見るようだが、明確ではない。本年の罹患年齢をみると、3歳から6歳（1,634件；56.8%）に過半数の罹患者をみている。ブロック別発生状況では、南多摩圏、西多摩圏、区西南部圏に多く、北多摩西部圏に少なかった。



ケ 突発性発しん

本症の2007年間報告数は4,691件（31.95/定点）であり、前年（4,119件、29.01/定点）比110.13%と微増報告であるが、過去10年間では、4年連続して1位を占めている。患者発生状況では毎年大きな変動はなく、相似のパターンを示している。患者報告数を通年的にみれば、毎年夏季に増加する傾向が認められ、また罹患年齢は2歳未満が殆どを占める。当年の罹患年齢分布をみると、6か月未満177件（3.77%）、12か月未満2,206件（47.03%）、1歳1,967件（41.93%）、2歳223件（4.75%）、3歳44件（0.94%）であり、2歳未満が92.73%を占める。2006年の罹患児のうち、2歳未満は94.0%、2005年のそれは95.0%であった。ブロック別発生状況をみると、乳幼児の少ない地域には報告が少ないと想像されるほか、特徴はないが、なぜか南多摩圏に報告が多く、北多摩西部圏に少ない。



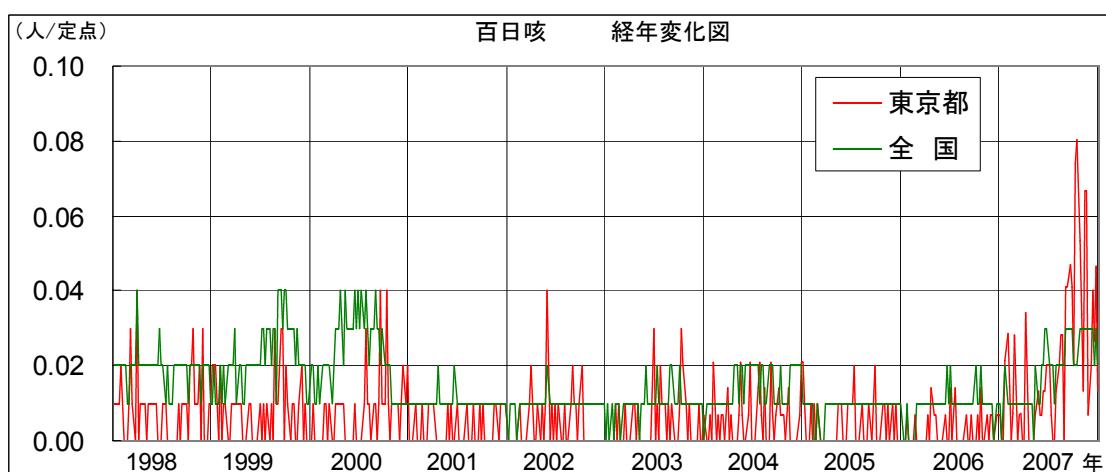
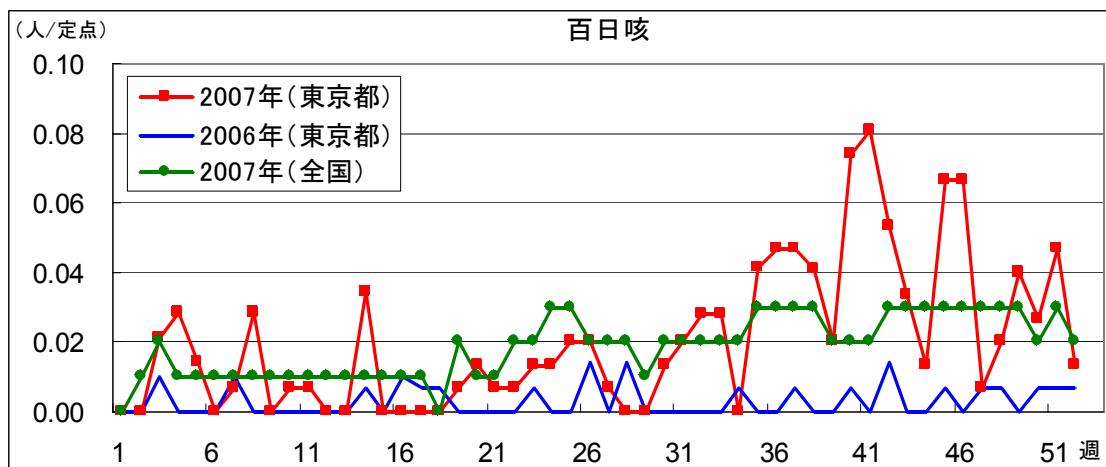
コ 百日咳

2007年の年間報告数は、151件（1.02/定点）で、前年（23件、0.16/定点）比637.5%の急増で、過去10年間でも第1位の報告数である。1996年の年間報告数は、143件であったが、1997年以降は年間100件未満の報告であり、2001年以後は年間50件未満であった。この順調な減少は百日咳ジフテリア破傷風（DPT）3種混合ワクチンの普及によるところが大きいが、当年は患者発生が大きい。罹患年齢をみると、12か月未満13件、1～3歳20件、4～6歳24件、7～9歳16件、10～14歳11件、15～19歳6件、20歳以上60件であり、罹患者の39.7%は成人であった。ブロック別発生状況をみると、南多摩圏、区南部圏に多い傾向があるが、特徴的ではない。

成人百日咳の流行要因としては、流行抑制・ワクチン未接種者の増加により、①抗体陰性者の増加、②ワクチンによる抗体保有者の抗体価減衰の結果、百日咳罹患が考えられる。

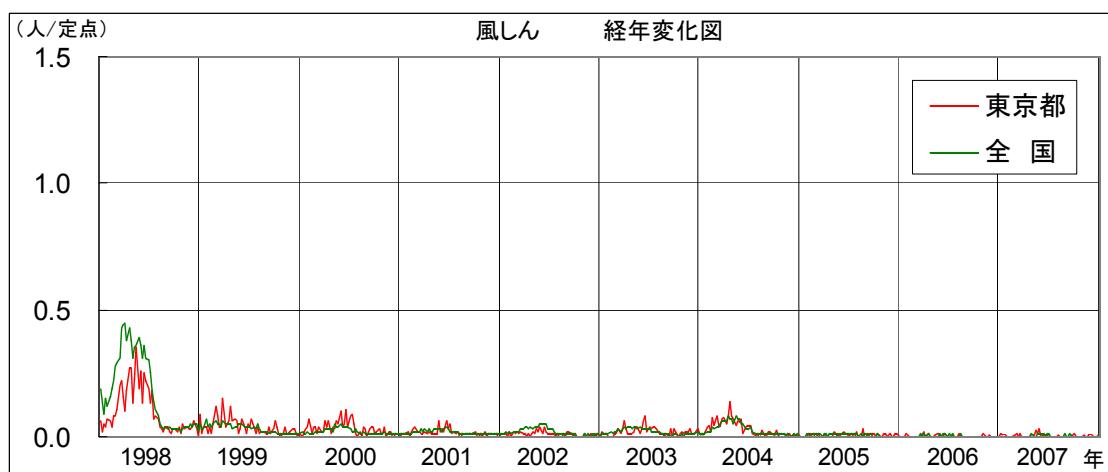
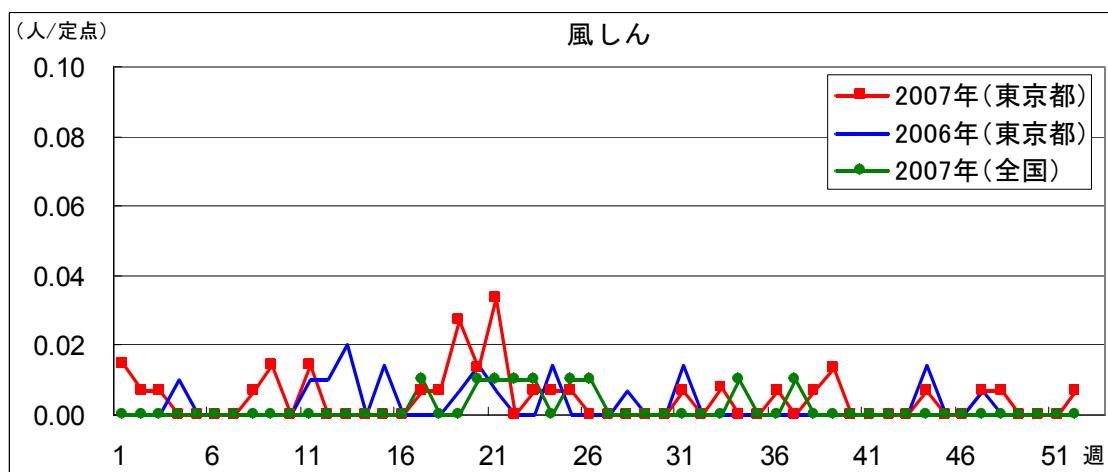
参考資料

- ①新予防接種研究班報告（岡部班：岡部信彦、神谷班：神谷 斎）2007
 - ・植田浩二司ら：看護学生のジフテリア・破傷風・百日咳の抗体保有状況、p.205
 - ・持田嘉之ら：成人における百日咳抗体の保有状況について、p.217
- ②＜特集＞百日咳 2005～2007：病原微生物検出情報、Vol. 29 No. 3 pp. 1～16, 2007、
<http://idsc.nih.go.jp/iasr/29/337/inx337-j.html>



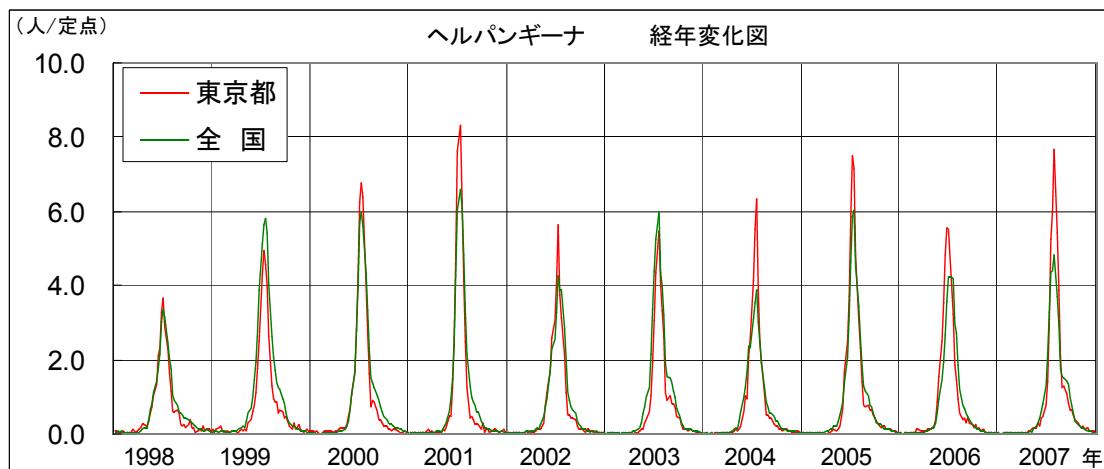
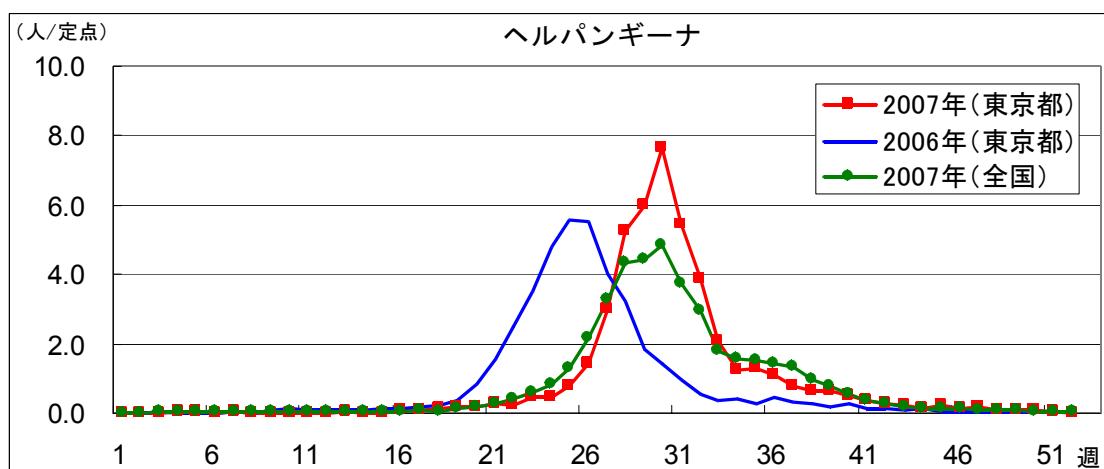
サ 風しん

2007年の風しん年間報告数は35件（0.24/定点）で、前年（21件、0.15/定点）比166.67%の増加であり、過去10年では、第9位の報告数である。経年変化をみると、風疹流行は1992年を中心とした3年間の流行後、1994年、95年の非流行期を経て、1997年（15.75/定点、当時の過去10年で第1位）を中心とした3年間の流行をみた。1999年（2.01/定点）以降、2000年（1.59/定点）、2001年（0.80/定点）、2002年（0.50/定点）と連続減少をみた後、2003年（1.01/定点）、2004年（1.65/定点）の連続小流行年があり、2004年は先天風疹症候群（全国10件、うち東京3件）が注目された。本年の流行は、年間に少數散発し、僅かに5月上旬から中旬にかけて週に数件の報告をみるほかは、週に1～2件未満の報告に過ぎない。罹患年齢分布は、2歳未満11件（31.4%）、2～5歳7件（20.0%）、6～9歳5件（14.3%）、10歳代7件（20.0%）、20歳以上5件（14.3%）であり、ブロック別発生状況は、各ブロックに少數散発しており、特徴はみられない。



シ ヘルパンギーナ

2007年の年間報告数は6,804件（46.10/定点）で、前年（5,900件、41.55/定点）比110.95%の微増であり、過去10年では第2位（定点当たりでは第3位）の報告数である。当年の流行は第26週（1.42/定点）から第36週（1.09/定点）に及ぶ単峰型流行で、ピークは第30週（7.66/定点）であり、2006年のピーク（第25週；5.56/定点）より高く、2005年のピーク（第27週；7.49/定点）よりも高かった。本症は、毎年流行を繰り返しているが、過去10年間の定点当たり年間報告では、最多年は2005年48.65/定点で、第2位は2000年46.32/定点、第3位当年であり、第4位2001年44.46/定点、第5位2006年41.55/定点と最近増加傾向にある。当年の罹患年齢は、1～3歳（3,852件、56.6%）が過半数を占め、4～6歳（1,690件、24.8%）がこれに次ぐ。ブロック別発生状況は、南多摩圏、北多摩北部圏、区東部圏に多く、北多摩西部圏、北多摩南部圏に少なかった。



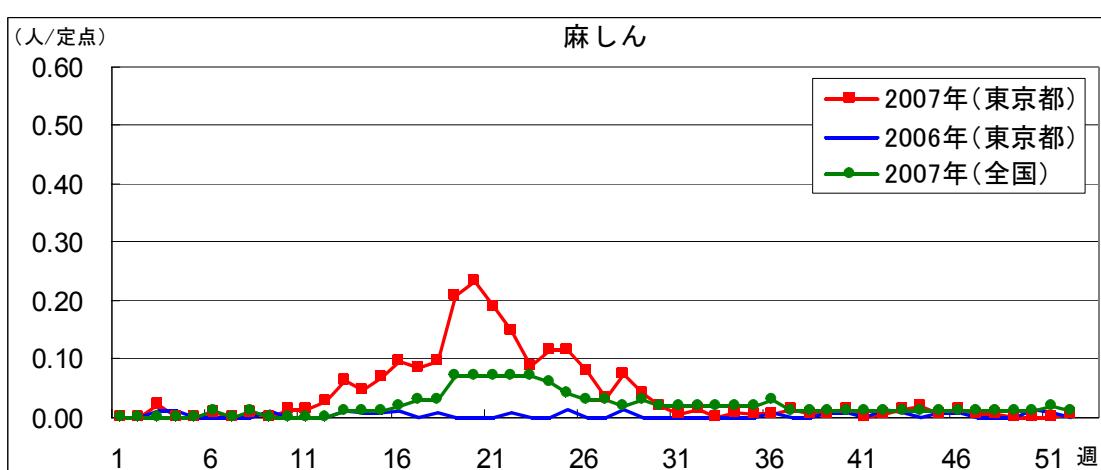
ス 麻しん（成人麻しんを除く）

2007年の年間報告数は303件（2.05/定点）で、前年（25件、0.18/定点）比べて12倍以上の著明増加報告であるが、過去10年では、第7位（報告数、定点当たり数とも）であった。当年の報告数の推移をみると、第12週から増加し始め、多少の動搖を示しながら第20週（0.23/定点）をピークとして漸減し、第30週頃には終息している。当年の罹患年齢をみると、12か月未満60件（19.8%）、1～2歳48件（15.8%）、3～5歳23件（7.6%）、6～9歳38件（12.5%）、10～14歳75件（24.8%）、15～19歳30件（9.9%）、20歳以上29件（9.6%）に分布している。この分野は小児疾患領域であるが、実情は成人麻疹の診療も行っており、疾患集計では成人麻疹症例も算出されてくる。集計枠には成人麻疹の分別に再分類したほうが理解され易いと思われる。ブロック別発生状況は、区東北部圏、区西北部圏、南多摩圏にやや多い傾向がみられるが、特徴的要因はない。

参考資料

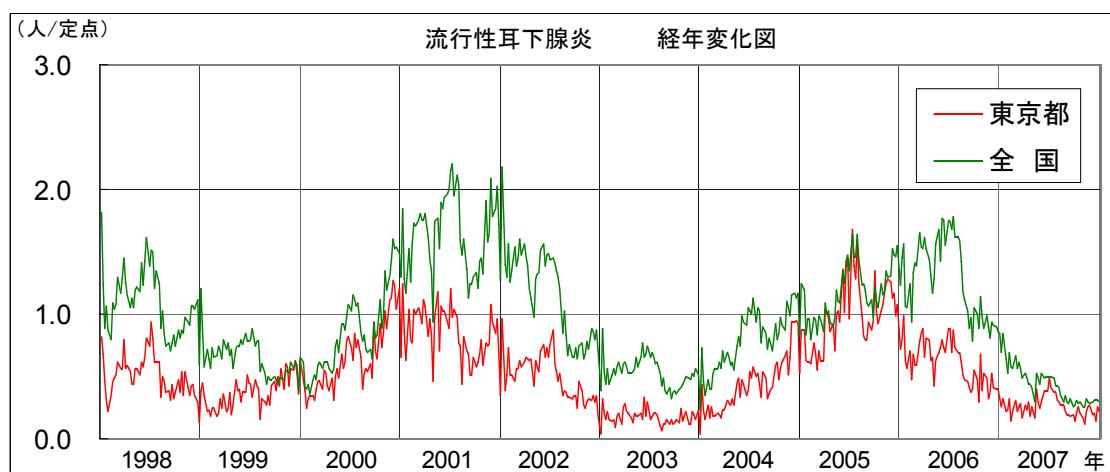
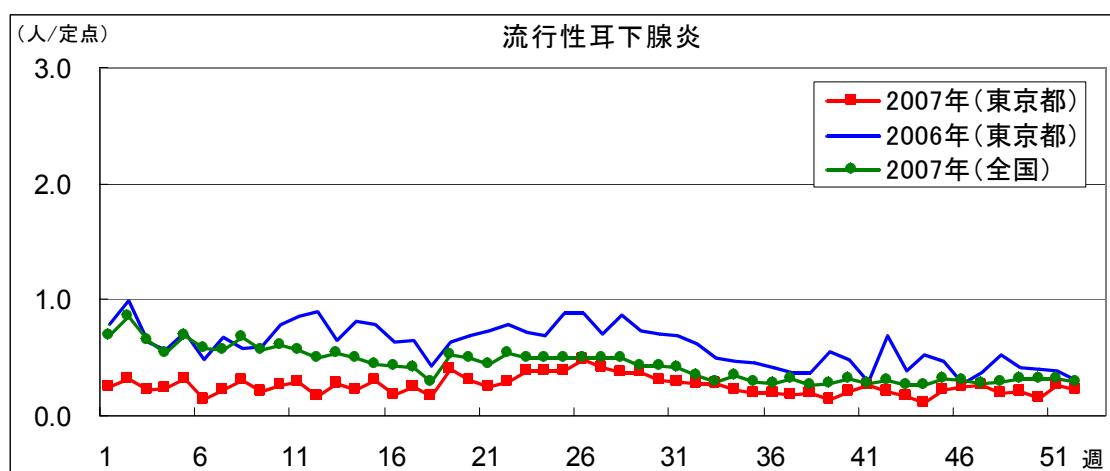
①<特集>麻疹 2006～2007年：病原微生物検出情報 Vol. 28 No. 9 pp. 1～25、2007、
<http://idsc.nih.go.jp/iasr/28/331/inx331-j.html>

②<外国情報>韓国における麻疹排除（elimination）、2001～2006年：病原微生物検出情報 Vol. 28 No. 6 p. 11、2007、<http://idsc.nih.go.jp/iasr/28/328/fr3281.html>



セ 流行性耳下腺炎

2007年の年間患者報告数は1,940件（13.24/定点）で、前年（4,481件、31.56/定点）比41.95%の激減であり、過去10年では第9位の報告数である。本症は春から初夏にかけて多発する傾向があるが、10年を通してみると、1流行単位は、2年目をピークとする3年を1流行期とする流行で、その間に1～2年の非流行期間があるようみえる。1996、1997、1998の3年間、2000、2001、2002の3年間、2004、2005、2006の3年間の各流行期とその間に1995年、1999年、2003年の非流行期間をみることができる。当年は2004～2006の流行期間を過ぎた非流行期（流行間期）である。本年の発生状況をみると、年間を通じて少数散発しているが、集積性はみられない。本年報告患者の罹患年齢は3歳233件（12.0%）、4歳301件（15.5%）、5歳303件（15.6%）、6歳238件（12.3%）7歳162件（8.4%）、8歳127件（6.5%）20歳以上の成人例50件（2.6%）で特に変わりなく、ブロック別にみても南多摩圏に多く発生しているが、特異的傾向はない。

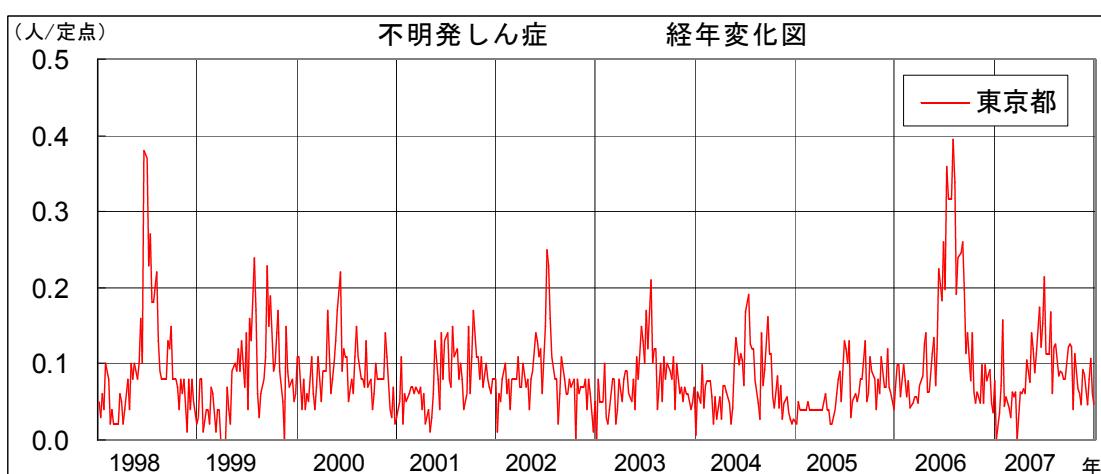
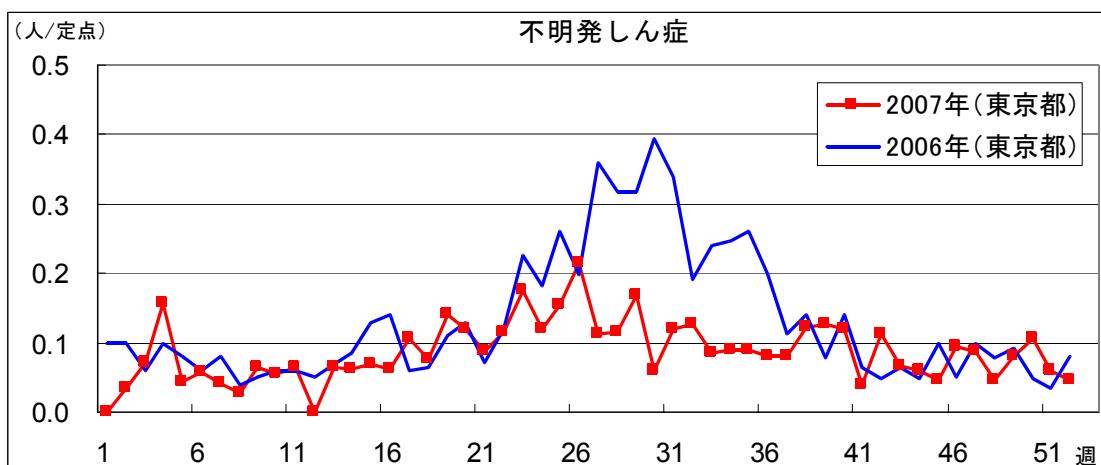


ソ 不明発しん症

本症は東京都単独の調査対象疾患で、エンテロウイルスによる夏かぜ発しん症のほか、新規の発しん性感染症の出現に対応した項目である。2007年の報告数は665件（4.52/定点）で、前年（966件、6.80/定点）比66.5%の減少であり、過去10年では報告数で第3位、定点当たり数では第4位である。この10年間の報告をみると、最多報告は2006年で、第2位は1998年、第3位は当年で、この10年間に特に多発の年はなかった。当年の発生状況をみると、第26週（0.21）を低いながらもピークとする、第23週から第29週にかかる多発報告がみられるが、特定されていない。

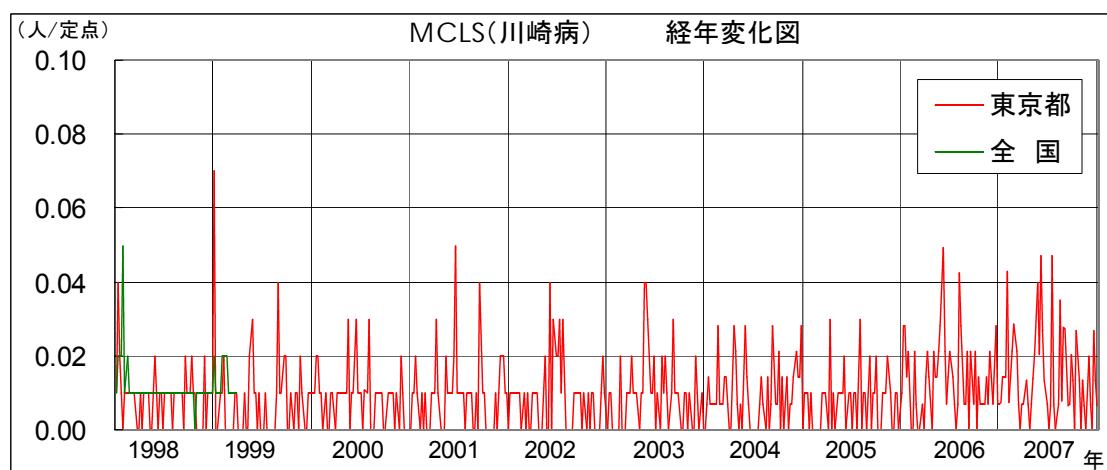
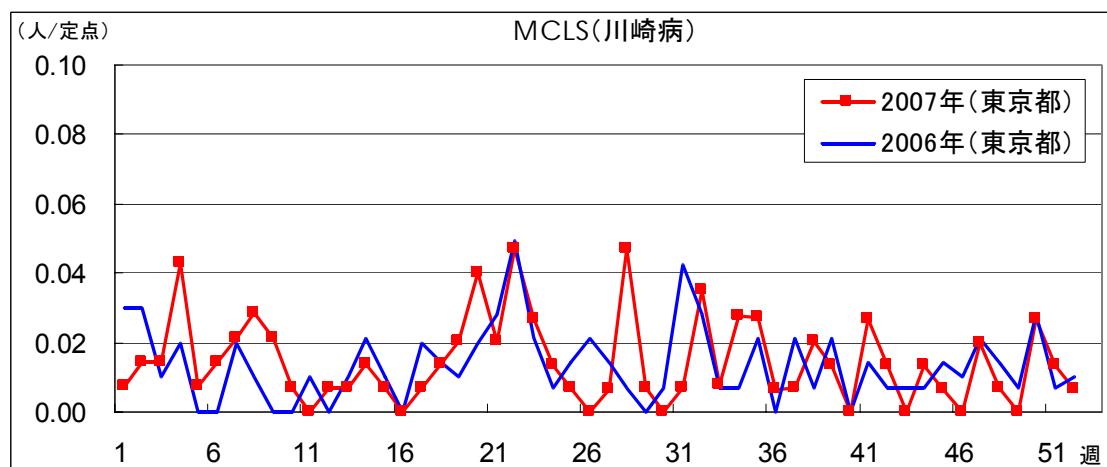
罹患年齢は、3歳未満の乳幼児に集積性がみられ、南多摩圏に多い傾向がある。

注（2006年4月）：感染性のものと思われるが、明確な診断をつけ難い発しん症で、除外診断による。



タ M C L S (川崎病)

本症は東京都単独の調査対象疾患である。2007年の年間報告数は110件（0.75/定点）であり、前年（101件、0.71/定点）比105.6%の横這い状態であるが、過去10年間における報告数は昨年同様に第1位である。第2位は昨年で、第3位1999年76件（0.54/定点）、最少報告は2005年（56件、0.39/定点）であった。当年患者の罹患年齢分布は、12か月未満22件（20.0%）、1～2歳（51件、45.4%）、3～4歳21件（19.1%）、5～6歳6件（5.5%）、7～9歳5件（4.5%）であり、4歳以下が94件（85.5%）を占める。夏季に多いようであるが、季節的傾向は明らかでなく、地域別発生状況に特徴はない。



(3) 眼科疾患

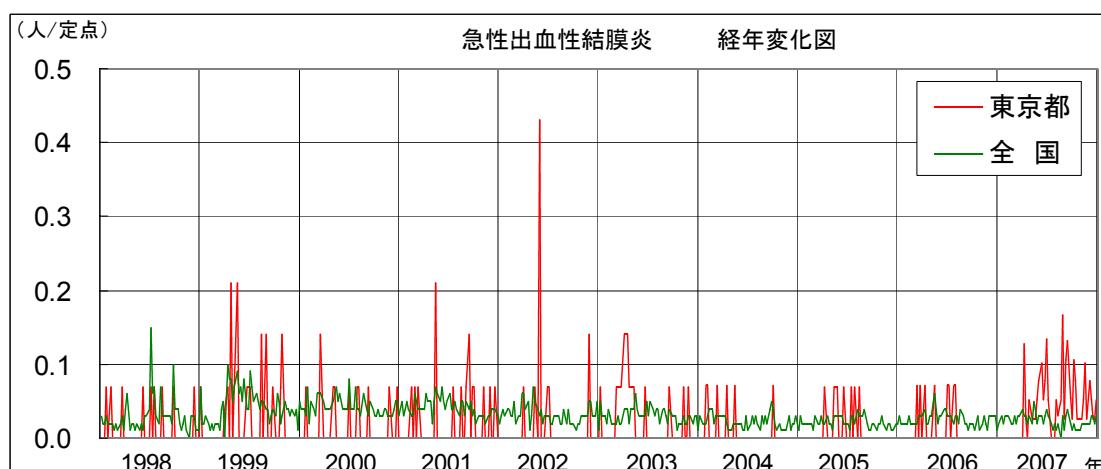
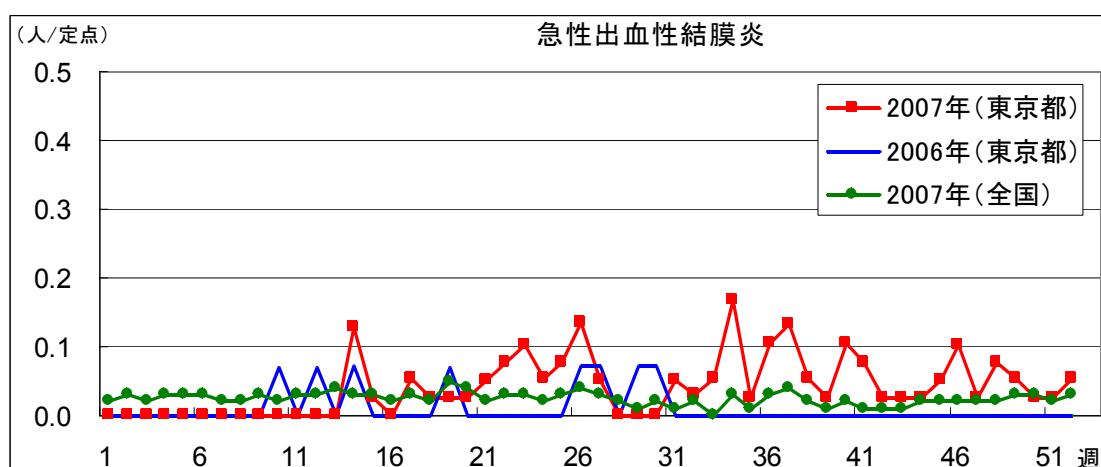
ア 急性出血性結膜炎

2007年の報告数は82件(2.15/定点)で、全例とも定点が増加した4月以降の報告であった。2004年以降、年間報告数が10件を割っており、過去10年間をみても定点当たり1.6以下の発生であったが、2007年は2.0を超える値を示した。明らかに定点数の増加が影響していると思われるが、その理由は不明である。多くはないが確実に存在しているということが示された。

患者発生数の推移にはあまり特徴がなく、6月、8月、9月が10件以上の発生をみたが、7月は発生をみない週が3週もあって夏場に多いとも言えず、比較的分散して発生していた。全国的にも低いレベルで分散した発生が続いているが、東京は若干多い傾向があるが著しく逸脱した発生はみられなかった。

地域的には足立区と世田谷区に多くみられた。眼科定点のある12医療圏のうち、報告のあったのは10医療圏で区東北部圏と区西南部圏に多かったが、西多摩圏と南多摩圏からは報告がなかった。

罹患年齢は分散していた。20歳から39歳が36件と全体の44%を占めていたが、その他は6歳未満が13件(16%)、6歳から15歳が17件(21%)、40歳以上が16件(19%)と小児にも中高年にもみられた。



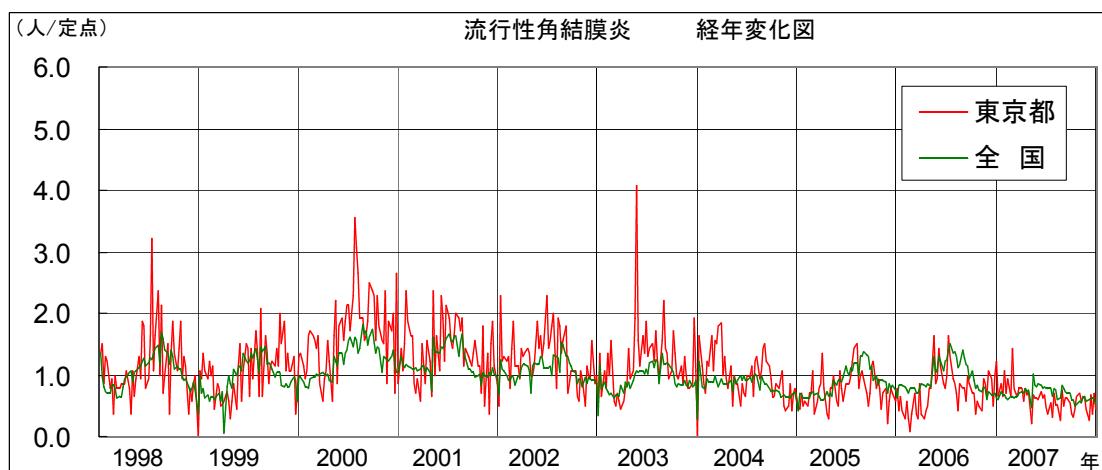
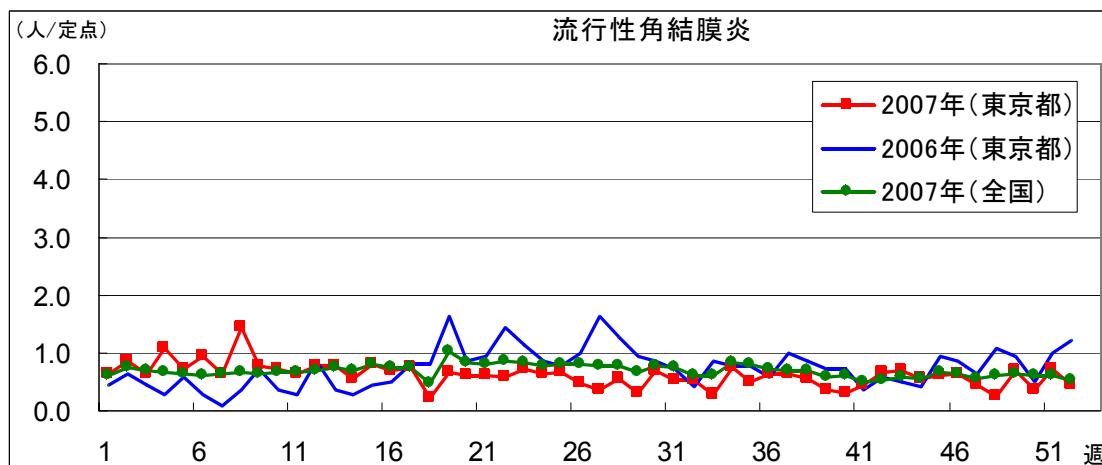
イ 流行性角結膜炎

2007 年の報告数は 968 件 (32.04/定点) で、4 月から定点が増加したにもかかわらず定点当たりの報告数は減少した。2000 年に 88.57/定点とピークを示した後、毎年減少し続けており、本年は初めて 40.00 を割った昨年 (38.21/定点) をも下回った。

患者発生数推移はほぼ平均しており、定点が増加した 4 月以降は一週当たりの発生件数が 8 から 30 件で、定点当たりも 4 月以降は 0.21 ~ 0.79 と大きな変動なく経緯し、平均すると 0.62/定点/週と通年に散発していた。全国でも週毎の発生は 1.00/定点を割る低い発生状況で変動なく経緯していたが、東京もこれとほぼ一致して推移した。

地域的には、文京、目黒区、多摩小平、新宿区が突出しており、文京と新宿区は大学施設が定点に含まれていることが影響していると考えられた。23 区部での発生は 719 件 (26.63/定点)、多摩地区では 249 件 (20.75/定点) で、定点当たりでみると例年と異なって両者に余り差がないことが示された。

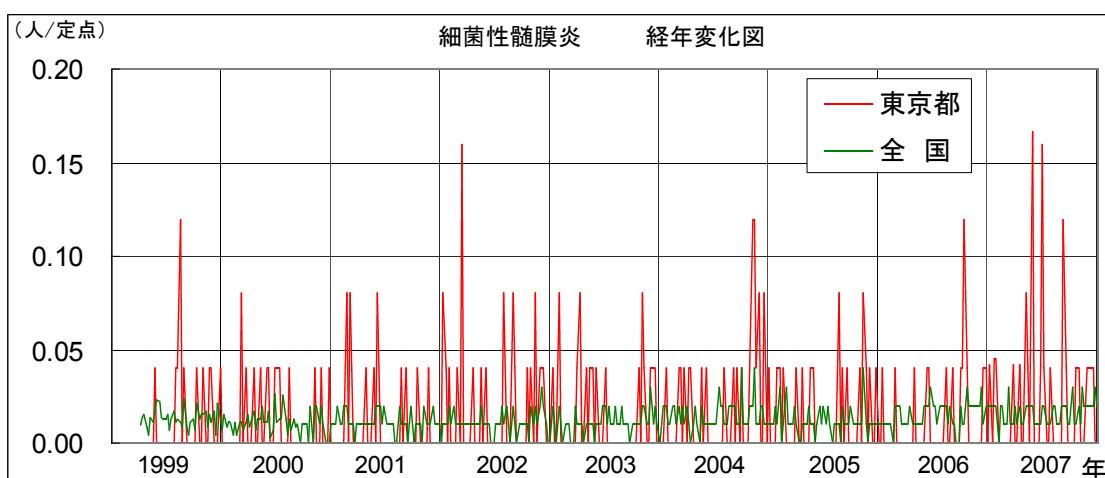
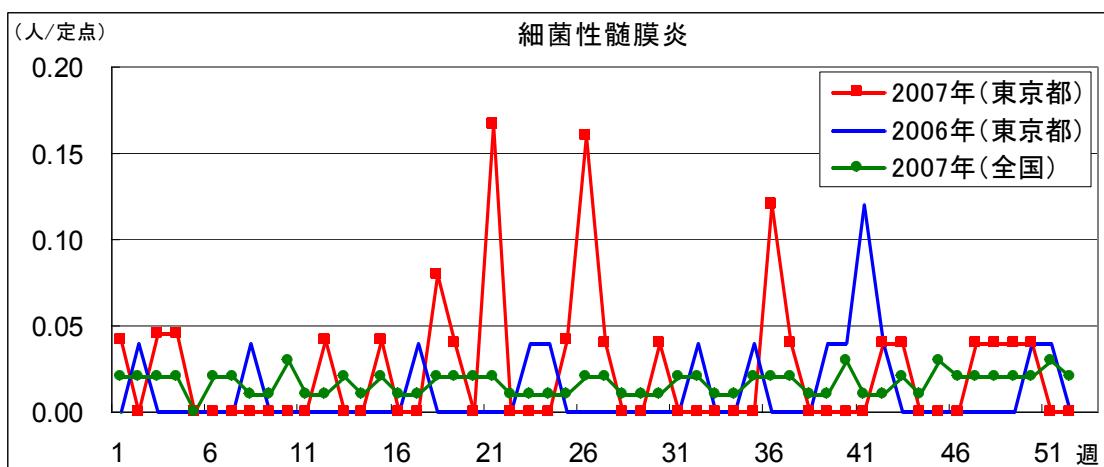
罹患年齢の傾向は例年通りで、20 歳から 39 歳が 436 件と約半数を占め、20 歳から 59 歳が 650 件 (67.1%) であった。10 歳未満は 135 件 (14.0%) であったが、うち 99 件が 5 歳以下であった。



(4) 基幹定点における週報告疾患

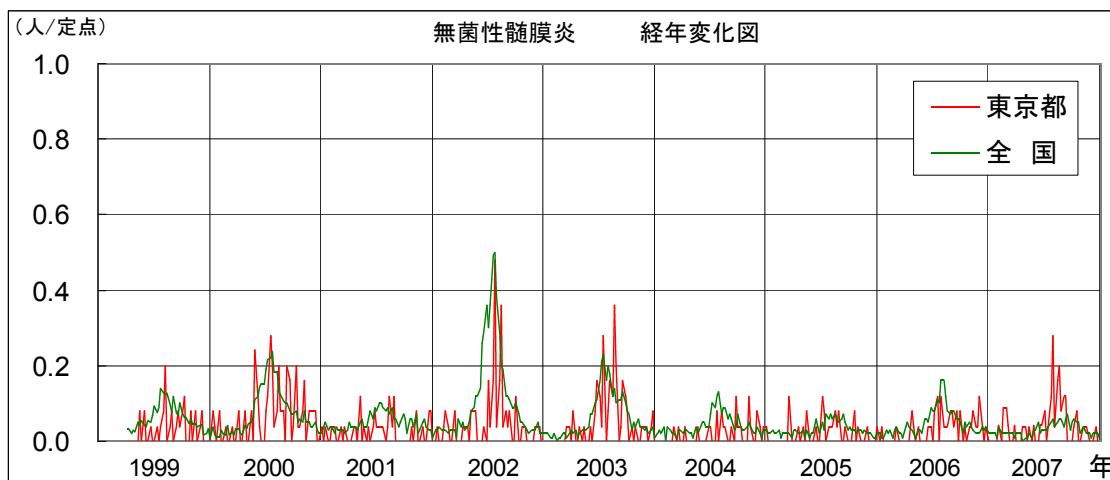
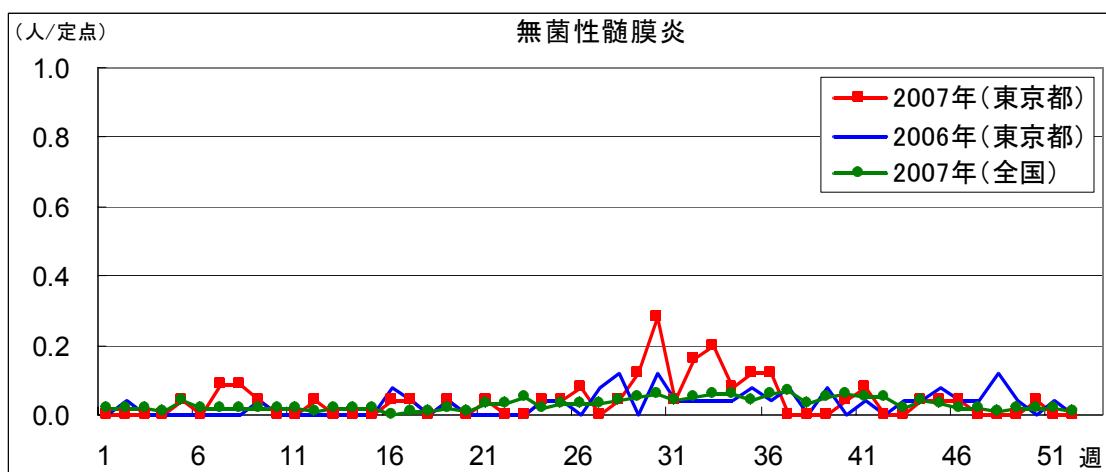
ア 細菌性髄膜炎

2007年の患者報告数は28件(1.14/定点)であり、前年(15件、0.60/定点)比193.3%の増加であった。患者報告数は1~2件/週のことが多く、季節的集積性は明らかでない。年齢的には2歳未満10件(34.5%)で、多い傾向がみられるが、明らかではなく、地域的には区西南部圏に多いようであるが特徴は認められない。



イ 無菌性髄膜炎

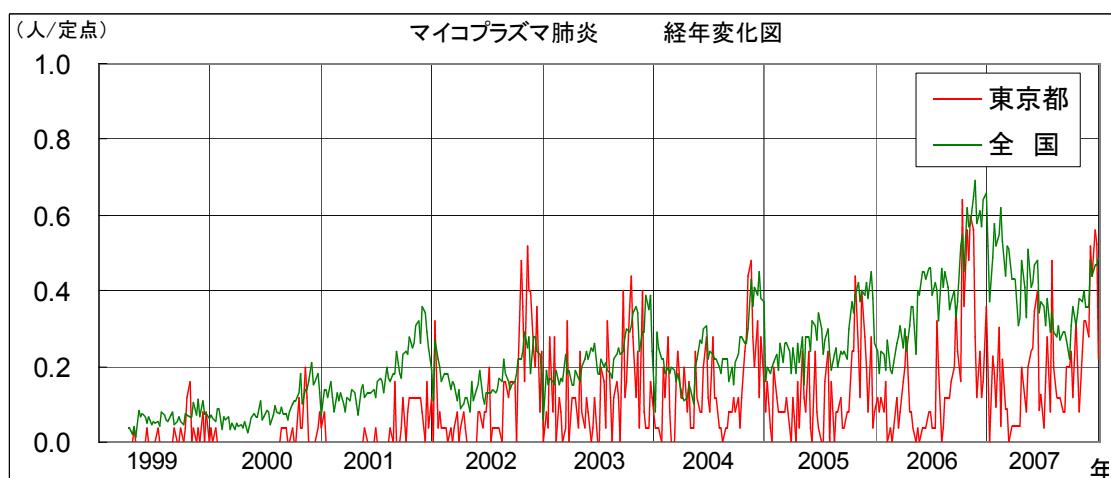
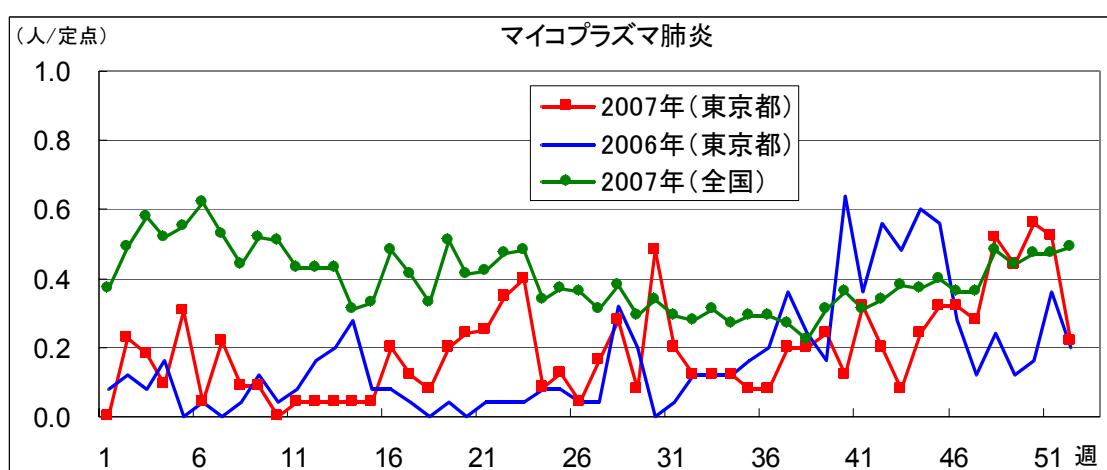
2007年の患者報告数は50件（2.03/定点）であり、前年（40件、1.60/定点）に比べて127.5%の増加である。発生時期は第29週から第36週の間に28件（56.0%）が報告された。同期間は7月中旬から9月中旬の夏季であり、エンテロウイルスによる無菌性髄膜炎が想定される。昨年も年間報告数40件のうち、18件（45%）が第27週から第37週の間に報告された。当年患者の罹患年齢は12か月未満6件（11.8%）、1～3歳5件（9.8%）、4～6歳2件（3.9%）で、7歳未満13件（25.5%）、7～9歳4件（7.8%）、10～19歳6件（11.7%）、20歳以上27件（54.0%）であり、年齢的偏りはみられない。発生地域では区東部圏、区西南部圏に多いようであるが、明らかではない。



ウ マイコプラズマ肺炎

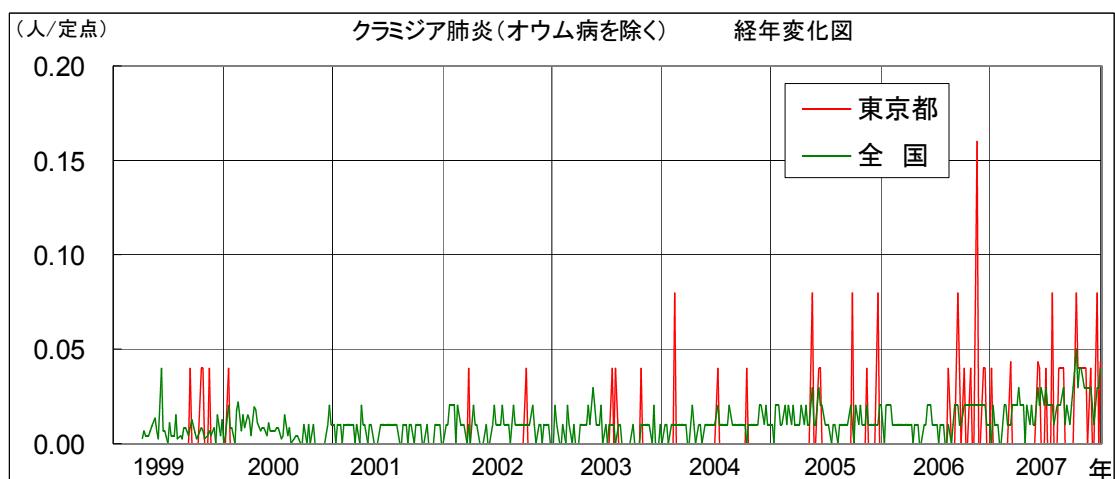
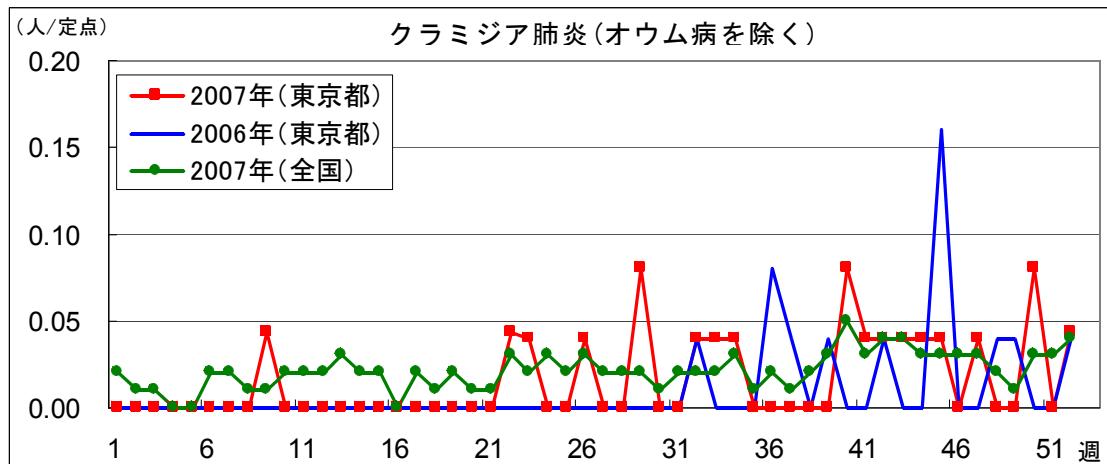
感染症予防法施行以前は「異型肺炎」あるいは「非定型肺炎」として定点報告疾患の部門で集計されてきたが、法施行後は基幹定点から確定診断を伴う報告対象疾患である。

本症の2007年報告数は247件（10.11/定点）であり、前年（218件、8.72/定点）比115.0%の軽度増加であった。1999年調査開始以来、2005年を除いて毎年増加しており、周期的な増加年、減少年などはみられない。当年の発生報告では、年間を通じて発生しているが、晩春を除いて発生が続くようである。罹患年齢は、12か月未満2件（0.8%）、1～3歳83件（33.6%）、4～6歳55件（22.3%）、7～9歳32件（13.0%）、10～14歳30件（12.1%）、15～19歳9件（3.6%）、20歳以上36件（14.6%）であり、本症は乳児に少なく、幼児から増加し、学童、青少年に増加する。ブロック別にみると、区東北部圏、区西部圏に多く報告されているようであるが、特定要因はみたらない。



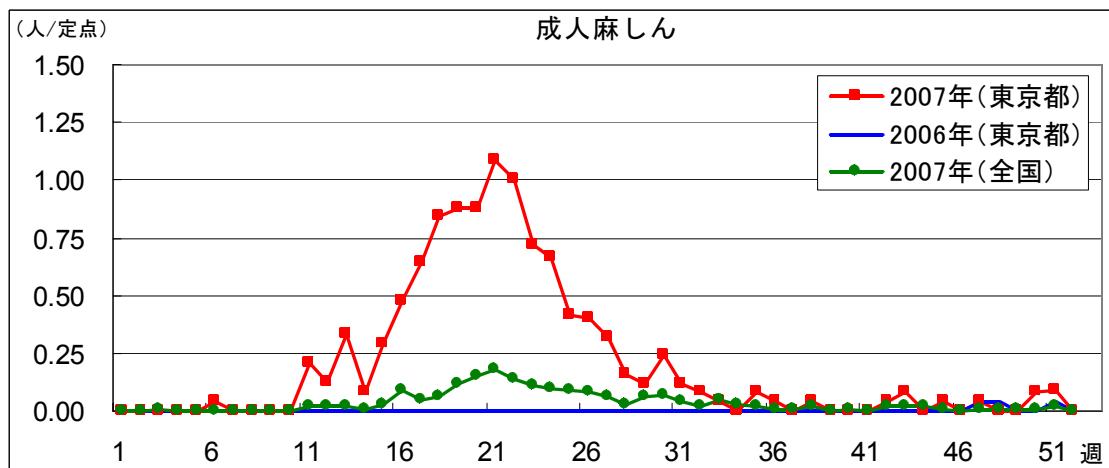
エ クラミジア肺炎（オウム病を除く）

2007 年のクラミジア肺炎患者報告数は、20 件 (0.81/定点) で、前年 (13 件、0.52/定点) より 7 件多く、昨年比 155.8 % の増加であり、過去 9 年間では第 1 位の報告数である。週別発生報告をみると、冬季、春季に少なく、夏から秋にかけて散発しているようであるが、明らかではない。好発年齢は 60 歳以上に多いようであるが、明らかではない。ブロック別にみると、区東北部圏で 15 件と報告数が多いが、特異的要因は見当たらない。



才 成人麻しん

2007年の成人麻しん患者報告数は262件（10.70/定点）であり、前年（3件、0.12/定点）比87.3倍であった。成人麻しんの発生時期は第11週（5件、0.21/定点）から始まり、第13週頃から増加して第21週（26件、1.08/定点）がピークで、以後漸減して第33週頃（小児麻しんは、第12週から増加し始め、第20週がピークで、第30週頃終息）まで続く。罹患年齢は、15～19歳56件、20～29歳145件、30～39歳49件、40歳以上12件であり、ブロック別では区西部圏、区東部圏に多いようであるが、特異的ではない。

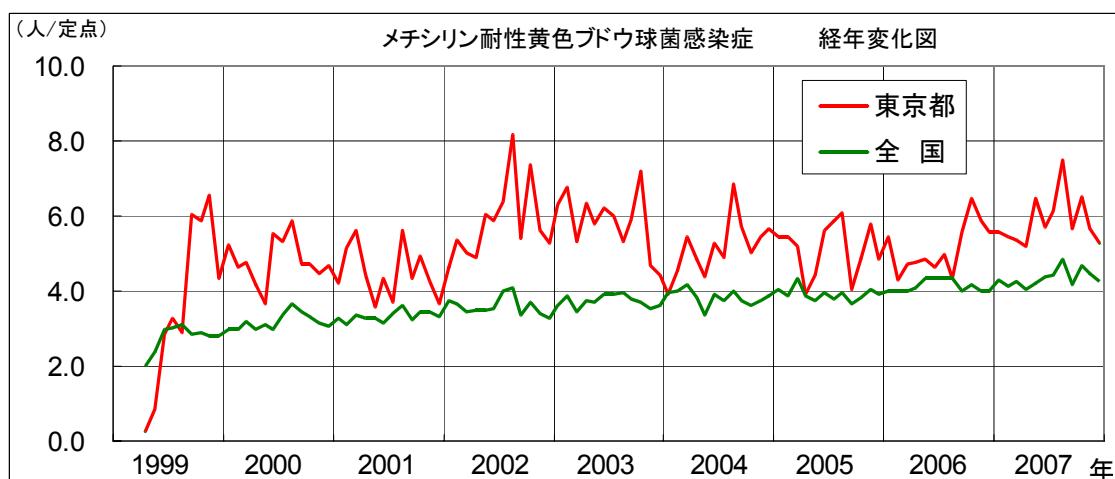
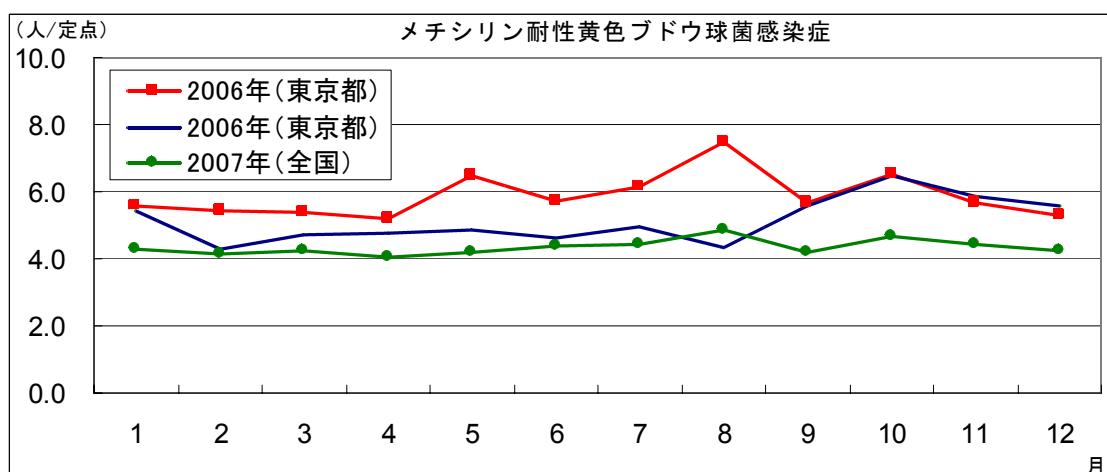


(5) 基幹定点における月報告疾患

ア メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

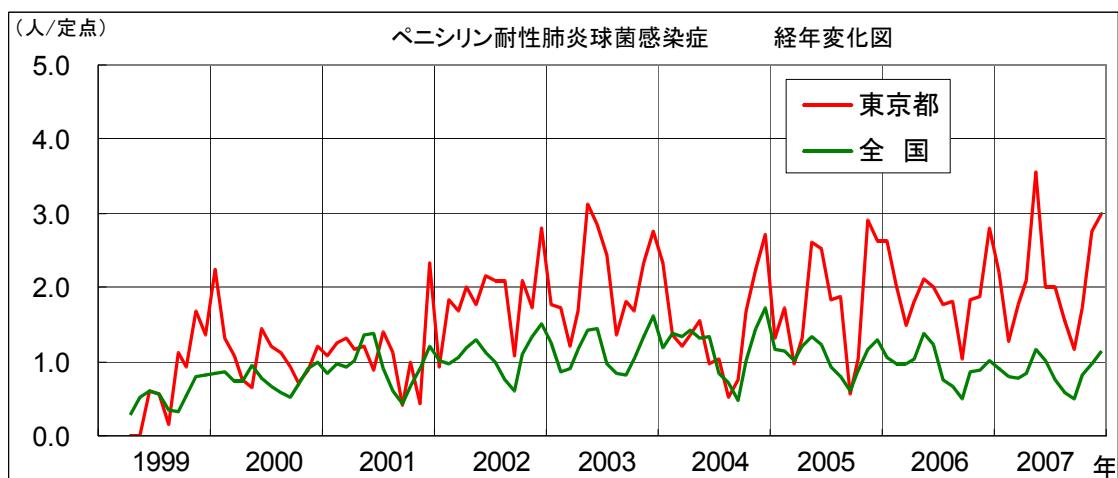
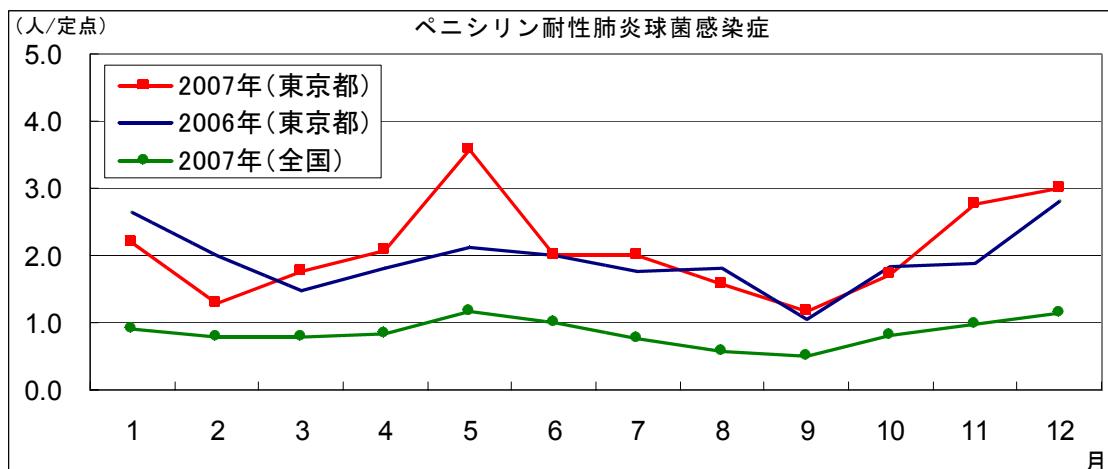
2007年の本症患者報告数は、1,758件（70.53/定点）であり、前年（1,536件、61.44/定点）比114.8%の微増であり、患者の性別比は男性1,109件、女性649件で、男：女=1.7：1で昨年と同比率であった。月別報告では、男性は78件から117件に分散し、女性は30歳から70歳に分散して、男女とも季節差は明らかではない。

年齢的には、男女とも10歳未満（男児151件、13.6%、女児116件、17.9%）と50歳以上に好発し、特に70歳以上（男性524件；47.2%、女性361件；55.6%）に多くなる。



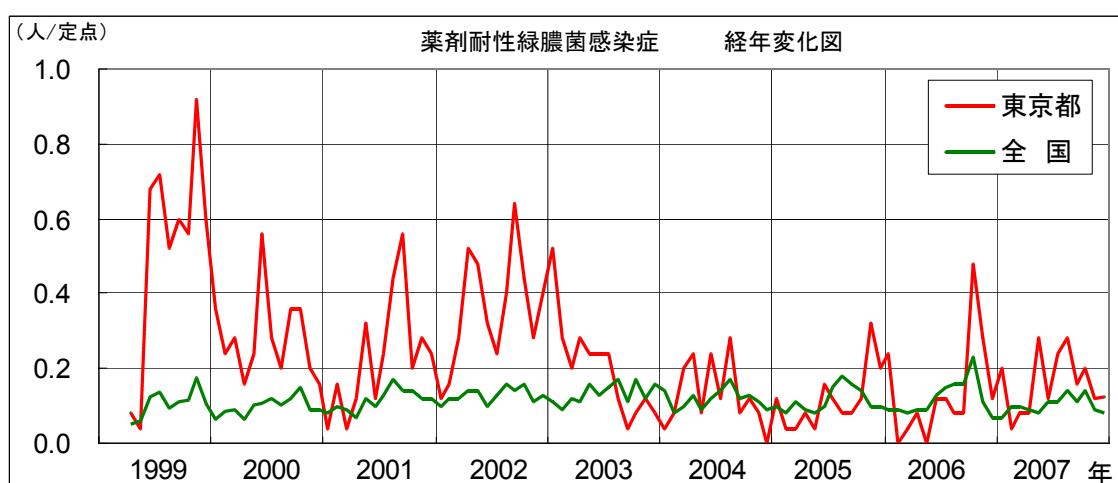
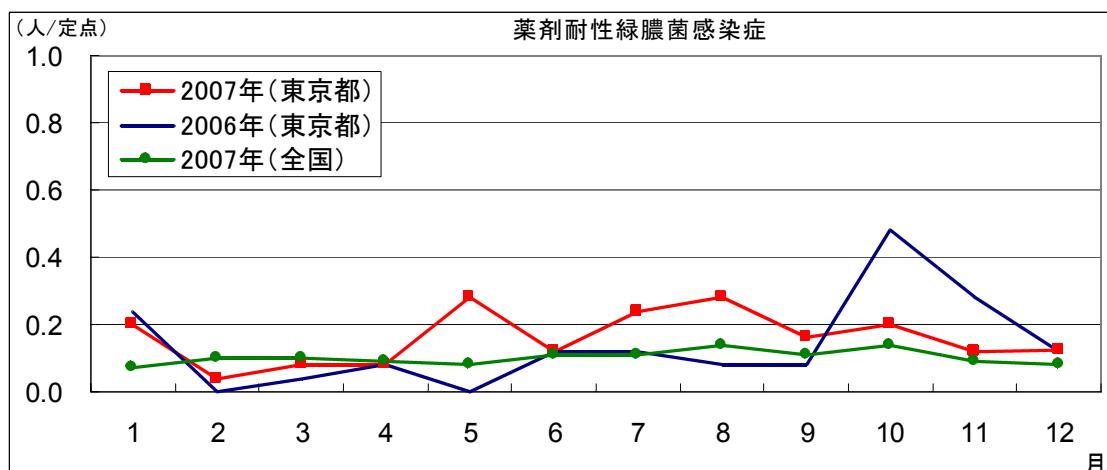
イ ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

2007年の本症患者報告数は624件（25.08/定点）であり、前年（579件、23.16/定点）比107.8%の横這いであり、患者の性別比は男：女=360：264=1.36：1で、昨年同様の傾向で男性に多い。月別患者は、春秋の候に多くなるようであるが、明らかではない。患者の年齢分布は昨年同様の傾向で、男女とも5歳未満（男児231件；64.2%、女児192件；72.7%）と70歳以上（男性57件；15.8%、女性22件；8.3%）に多かった。



ウ 薬剤耐性綠膿菌感染症

2007年の本症報告数は48件（1.93/定点）で、前年（41件、1.64/定点）比117.1%の軽度増加状態である。罹患者の性別では、男性28件、女性20件であり、男：女=1.4：1である。罹患年齢は、例数が少なく各年齢に少数分散しているが、70歳以上の高齢者（男性17件；60.7%、女性12件；60.0）が多くを占める。

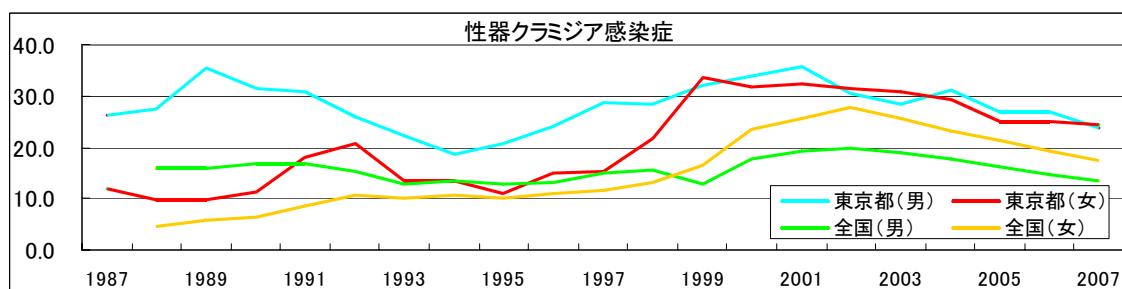
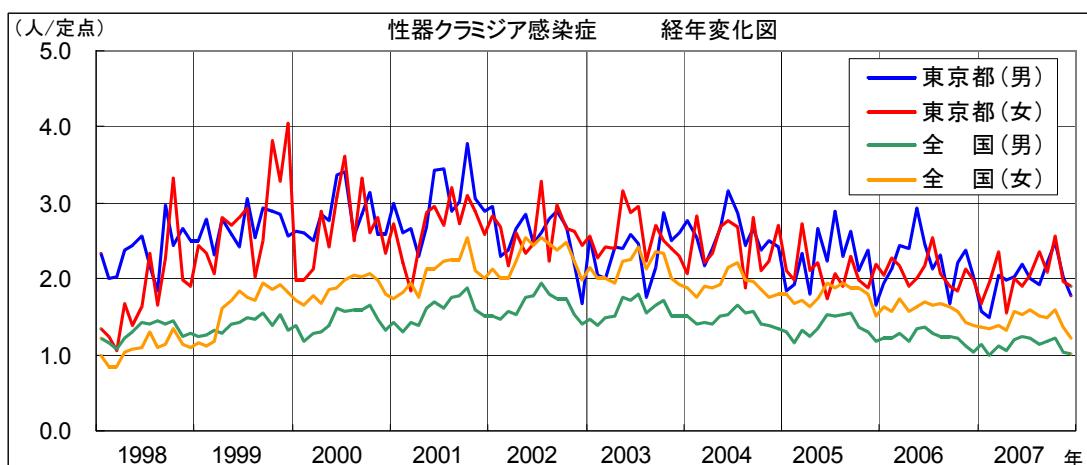
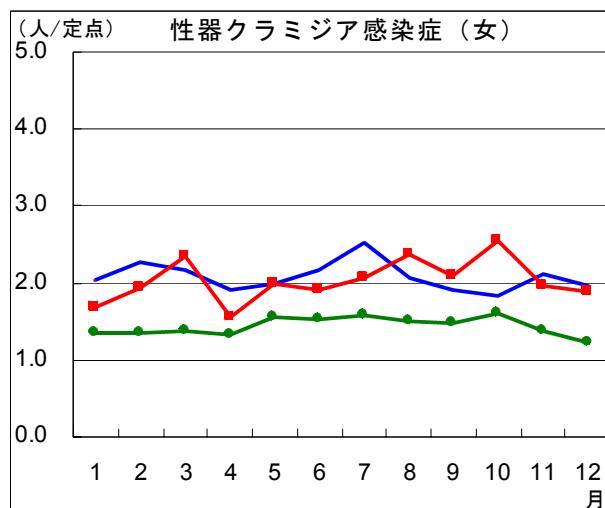
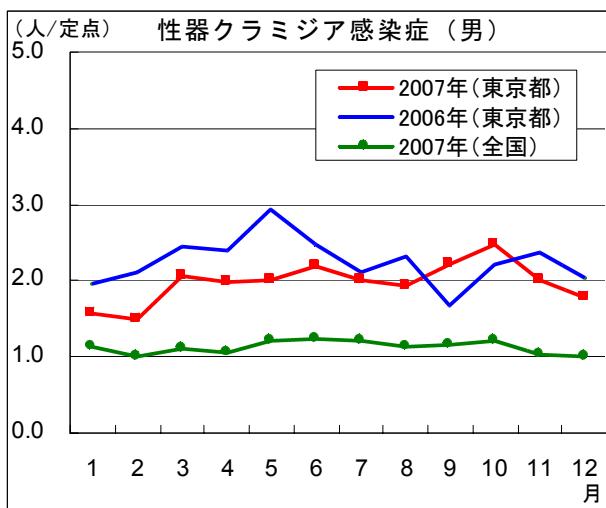


(6) 性感染症(STI)

2007年4月東京都のSTI定点は41から55に増加された。2007年の総報告数は5,624。STI6疾患合計の定点あたり報告数を前年と比較すると男子前年71.24、本年63.28。女子前年48.68、本年45.91で、男子、女子共に減少である。本年は4月の定点数増加のため前年との比較に報告数が用いられないため定点あたり報告数を用いる。男女比は前年1.46、本年1.38でほぼ同等であった。男女比がSTI定点の婦人科比率によって大きく変動することから本年4月の定点増加による報告数の推移に不連続の断絶が生じることが強く危惧されたが、定点選定の努力もあり、本年の結果から年次推移の図にみられるように断絶の発生は避けられたと思われる。最多疾患は定点あたり報告数48.08(52.02)(括弧内は2006年数値、以下同様)のクラミジア以下、淋病19.63(21.17)、ヘルペス19.40(23.49)、コンジローマ15.39(15.76)、トリコモナス19.63(21.17)、梅毒1.99(1.80)で淋病とヘルペスとが再び入れ代わって一昨年と同じ順序となった。サーベイランスの結果ではSTIは減少傾向が続いている。日本のSTIの中では個別対策群の症例増加によりHIVのみが依然増加傾向が持続し適切な対策を要する。STIについては感染による症状が自覚されない場合が多いことへの理解の、とくに若年者への周知徹底が必要である。

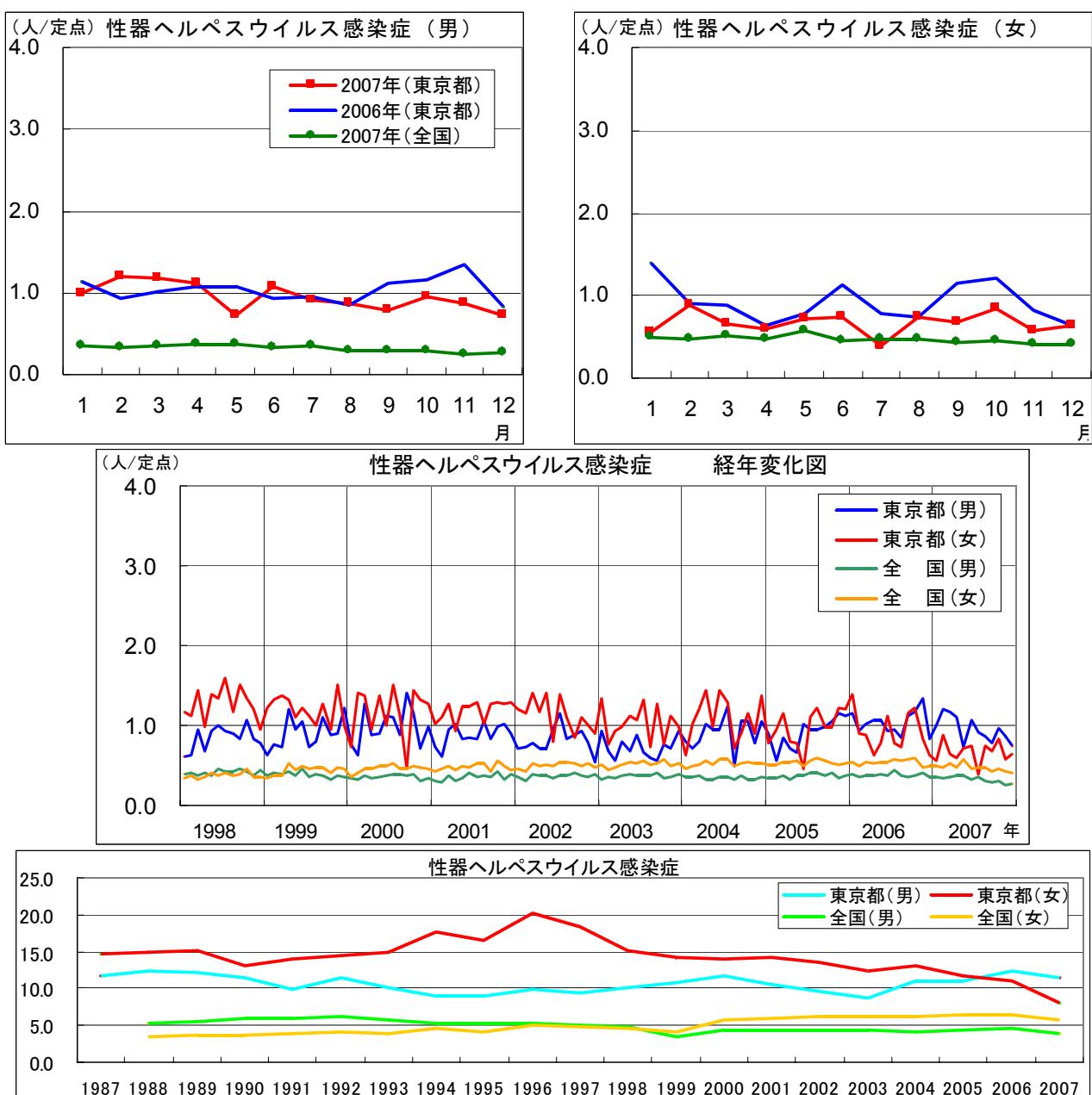
ア 性器クラミジア感染症

定点あたり報告数は男子23.72(27.02)、女子24.37(25.00)。4年ぶりに女子が男子を上まわった。推移のグラフに見るように全国では1999年のSTI定点増加以後、女子が男子を上まわり続けている。婦人科定点を主として定点増加が行われたためである。クラミジアの病原検出には偽陽性、偽陰性の問題点が多く、ときにこの点に配慮を欠く、検証不十分の、誤謬と考えられるきわめて高い咽頭クラミジア陽性率の発表がみられ、適切な議論もないまま無知の一般人に流布されるのは専門家の不在を示すものであろう。性器クラミジア陽性者の咽頭クラミジア陽性率は淋菌の場合に比してきわめて低くクラミジアの咽頭感染は淋菌に比して低いと考えられる。



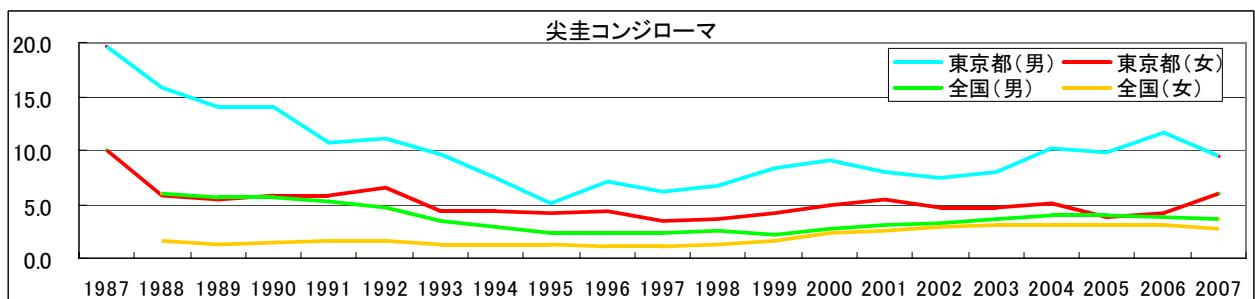
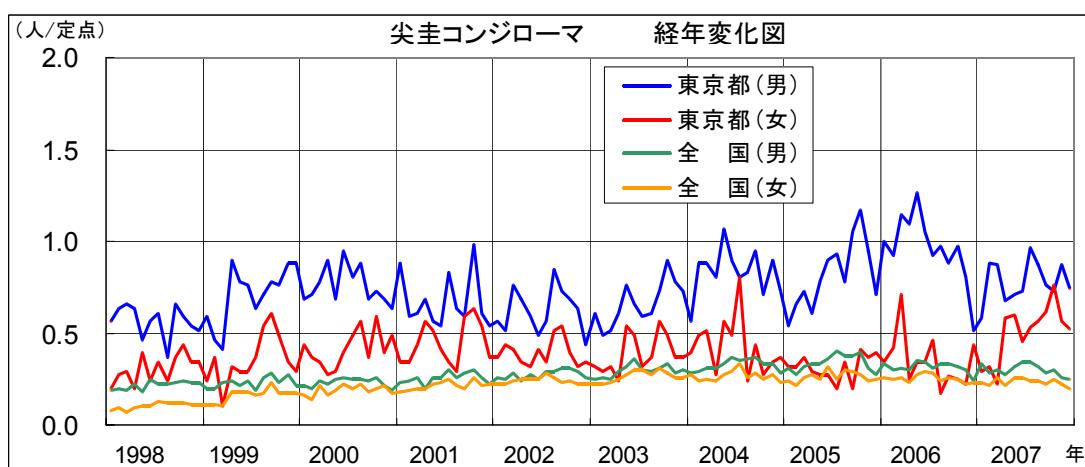
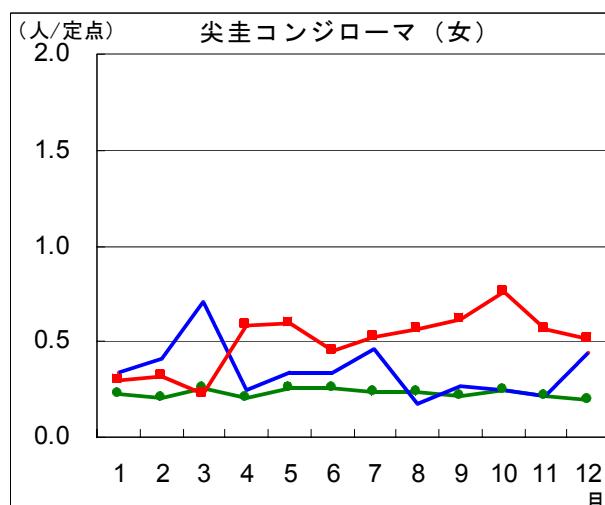
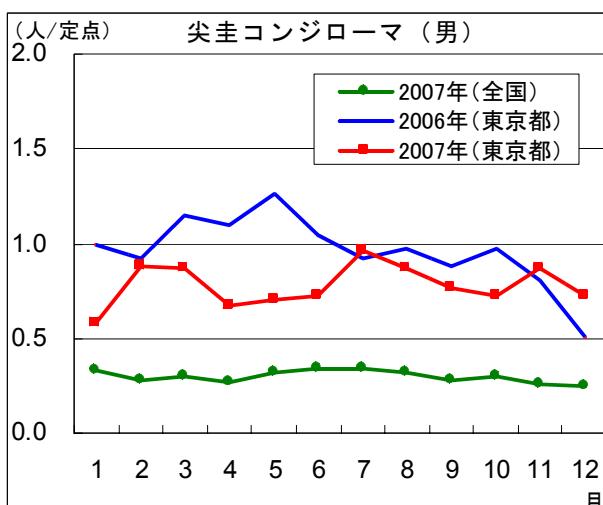
イ 性器ヘルペスウイルス感染症

定点あたり報告数は男子 11.41 (12.54)、女子 8.00 (11.05) でいずれも前年を下まわった。本症については最初の抗ウイルス薬であるアシクロビル以後、HIV 感染症と同じく、ウイルスは陰性化できないが、症状には有効の抗ウイルス薬がつくられ、その市販に伴って「感染は一生続き、免疫力の低下で再発する」、「母体に症状がなくても産道感染は起こり、感染新生児は死に至る」などのリスクを誇張する解説が流布されて一般の恐怖心が増幅している。実際には再発性ヘルペスは男子では稀、女子でも再発の頻度、症状は感染後の時の経過で減少する。妊婦の初感染以外の母子感染は少なく、新生児ヘルペスの死亡は稀である。B型肝炎、エイズについても病因不明の時代、高圧滅菌も無効の抑制不能の感染症との誤解が流布されたが、判ってみればディスポ注射針の使用で抑制可能であった。問題なのは事実が判った後にも初期の誤解が訂正されないことである。抗ウイルス薬と抗癌剤の併用はときに致命的で、抗癌剤使用者にはヘルペスの合併が多いことは注意を要する。



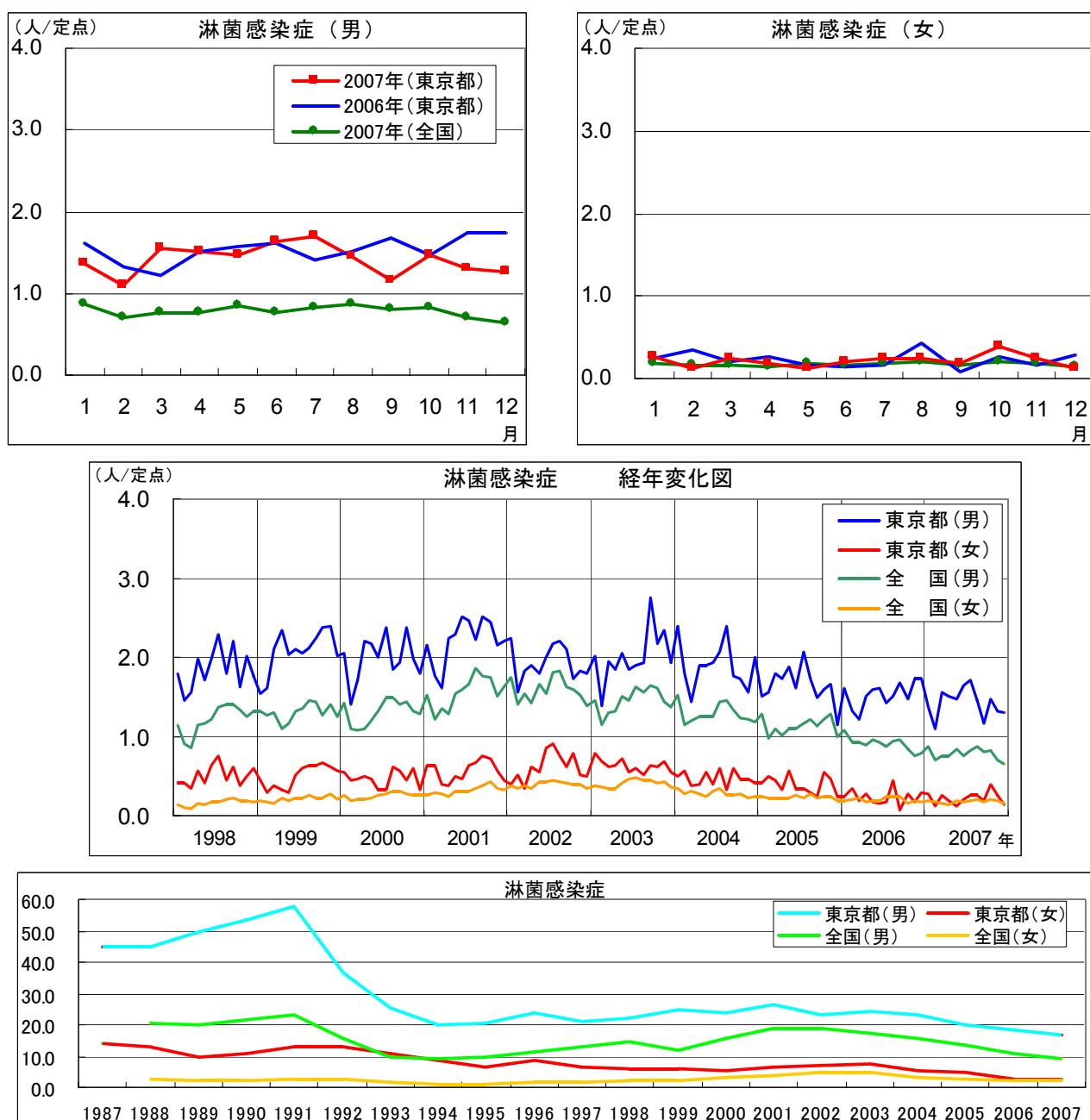
ウ 尖圭コンジローマ

定点あたり報告数は男子 9.37 (11.56)、女子 6.02 (4.20) である。本症の原因であるヒト乳頭腫ウイルスの多数のウイルス型のうちには子宮頸癌の原因となる型があり、それに対するワクチンが欧米で使用開始された。日本での使用にはワクチンの対象、費用などに多くの議論が予想される。日本では子宮癌は減少傾向であるが、罹患年令は若年化している。癌治療について外科治療の優先の結果、放射線治療の普及が遅れた。健康グッズ、栄養、食品についてのマスコミ報道の影響は大きく、理解の程度は低い。このワクチンの評価は社会の予防医学、STI についての理解を測るバロメーターとなろう。



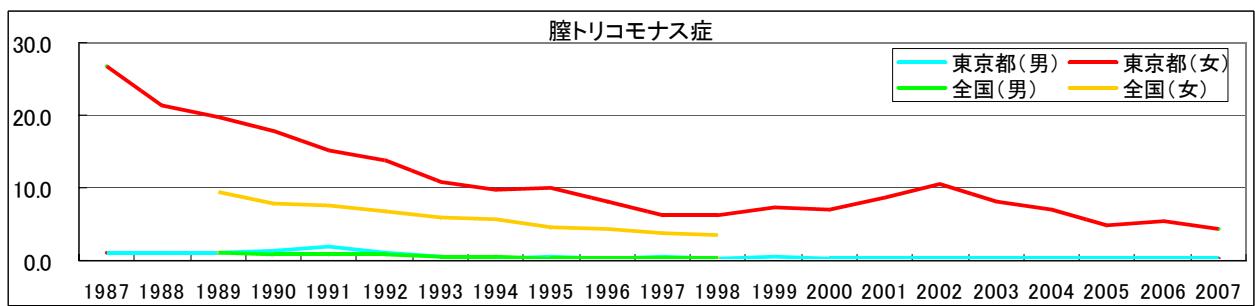
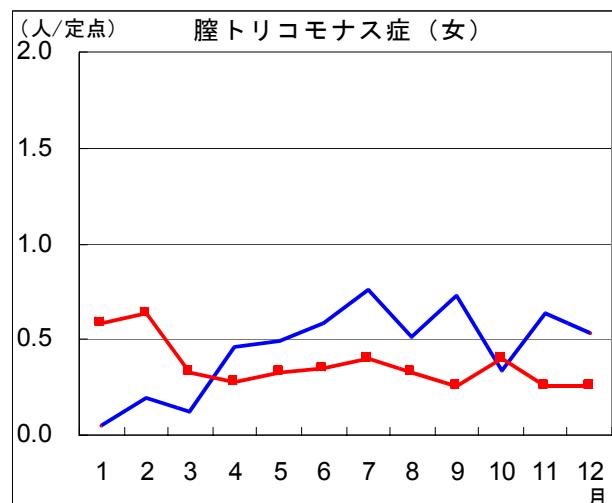
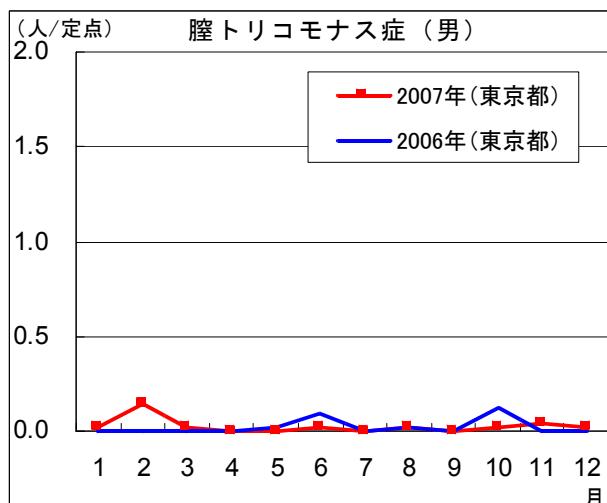
エ 淋菌感染症

定点あたり報告数は男子 17.01 (18.39)、女子 2.62 (2.78) で昨年より少ない。淋菌は日本で耐性化が世界にさきがけて進行した。STI クリニックがない日本で、国際レベルを無視した、恣意的な化療の結果、抗菌薬に接触した淋菌の生き残りが多く生じたためである。日本の国情に合わないと物議をきたした 1990 年代後半の米国 CDC ガイドラインの配布以後、ようやく咽頭、直腸を含む全身の淋菌感染の全てについての CTRX の有効性と耐性化を起こさない単回投与療法の重要性が周知されて耐性淋菌増加の報告は減少し、本症は抑制をみた。



才 膣トリコモナス症

定点あたり報告数は男子 0.30 (0.27)、女子 4.38 (5.41) である。本症の問題点は、途上国での高い罹患率、症状を欠く感染者が多いこと、再感染率が高いことである。



力 梅毒様疾患

定点あたり報告数は男子 1.46 (1.56)、女子 0.53 (0.24) である。症例数の減少、医学部教育の欠如から本症の診断、全数届出は実体に遠い。HIV 陽性者の梅毒抗体陽性率は約 70 %と高く、HIV 高リスク群での本症の未抑制は明白である。欧米でマクロライド耐性トレポネーマが出現し治療失敗例が生じている。

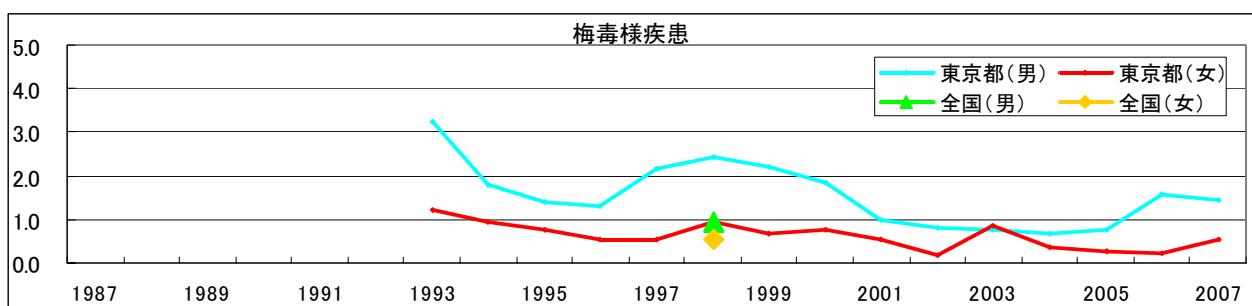
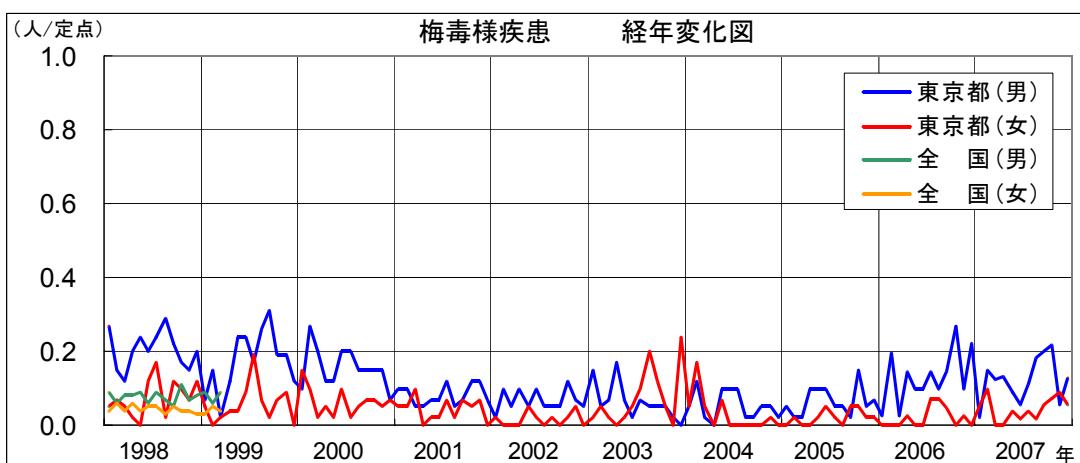
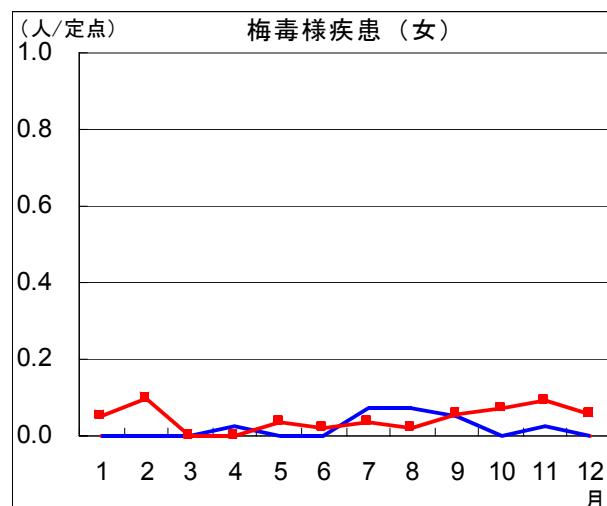
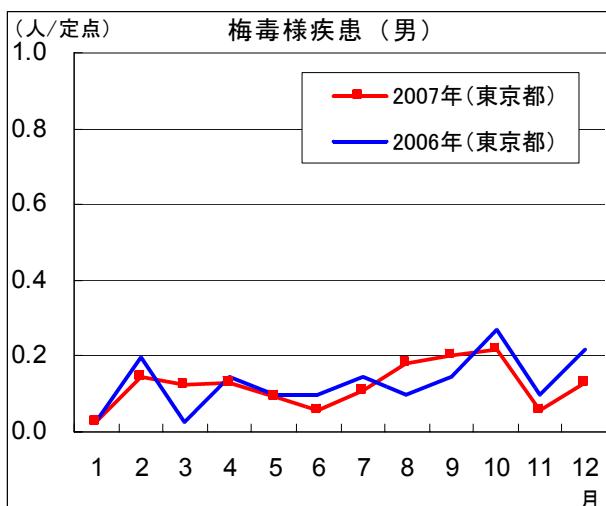


表4-1(1) 週別患者報告数（インフルエンザ・小児科）2007年第1週～2007年第52週

| 週 | 期間 | 報定期点数 インフルエンザ | インフルエンザ | 人 | | | | | | | | | | | | | |
|-----|--------------|------------------|----------------|-------|--------|--------|--------|--------|-------|-------|--------|-------|-----|---------|-------|---------|-------|
| | | 報告小児科定期点数 | R Sウイルス 感染症 | 咽頭結膜熱 | 球A群咽頭炎 | 溶血性レンサ | 感染性胃腸炎 | 水痘 | 手足口病 | 伝染性紅斑 | 突発性発しん | 百日咳 | 風しん | ヘルパンギーナ | 麻しん | 流行性耳下腺炎 | |
| 1 | 1. 1～1. 7 | 272 | 13 | 138 | 72 | 14 | 60 | 475 | 205 | 5 | 34 | 31 | 2 | | | 35 | |
| 2 | 1. 8～1.14 | 270 | 36 | 141 | 68 | 30 | 144 | 853 | 274 | 13 | 84 | 74 | 1 | 1 | | 44 | |
| 3 | 1.15～1.21 | 276 | 166 | 141 | 62 | 28 | 215 | 945 | 148 | 12 | 98 | 73 | 3 | 1 | 2 | 31 | |
| 4 | 1.22～1.28 | 277 | 498 | 140 | 56 | 39 | 277 | 927 | 204 | 13 | 87 | 77 | 4 | | 4 | 33 | |
| 5 | 1.29～2. 4 | 277 | 1,244 | 139 | 49 | 27 | 277 | 917 | 217 | 20 | 65 | 78 | 2 | | 4 | 44 | |
| 6 | 2. 5～2.11 | 280 | 2,244 | 141 | 41 | 48 | 284 | 870 | 237 | 14 | 73 | 63 | | 2 | 1 | 20 | |
| 7 | 2.12～2.18 | 278 | 2,612 | 141 | 16 | 34 | 227 | 678 | 220 | 13 | 56 | 55 | 1 | | 5 | 31 | |
| 8 | 2.19～2.25 | 280 | 4,256 | 141 | 17 | 35 | 268 | 782 | 216 | 13 | 60 | 69 | 4 | 1 | 1 | 43 | |
| 9 | 2.26～3. 4 | 280 | 5,470 | 141 | 12 | 18 | 317 | 840 | 196 | 11 | 60 | 76 | | 2 | 3 | 30 | |
| 10 | 3. 5～3.11 | 281 | 6,386 | 142 | 7 | 30 | 286 | 850 | 216 | 11 | 59 | 65 | 1 | | 2 | 2 | 37 |
| 11 | 3.12～3.18 | 281 | 6,463 | 141 | 10 | 27 | 260 | 836 | 202 | 11 | 68 | 71 | 1 | 2 | 2 | | 40 |
| 12 | 3.19～3.25 | 280 | 6,207 | 142 | 2 | 27 | 255 | 763 | 179 | 7 | 54 | 47 | | | 4 | | 23 |
| 13 | 3.26～4. 1 | 281 | 3,872 | 142 | 4 | 24 | 171 | 779 | 189 | 9 | 75 | 72 | | | 5 | 9 | 39 |
| 14 | 4. 2～4. 8 | 282 | 1,605 | 147 | 7 | 34 | 180 | 778 | 196 | 7 | 72 | 82 | 1 | | 2 | 7 | 33 |
| 15 | 4. 9～4.15 | 284 | 1,109 | 147 | 10 | 35 | 201 | 791 | 231 | 10 | 110 | 100 | | | 2 | 10 | 44 |
| 16 | 4.16～4.22 | 284 | 751 | 147 | 9 | 67 | 263 | 825 | 188 | 8 | 97 | 93 | | | 15 | 14 | 27 |
| 17 | 4.23～4.29 | 276 | 461 | 143 | 6 | 65 | 346 | 800 | 229 | 17 | 83 | 129 | | 1 | 12 | 12 | 36 |
| 18 | 4.30～5. 6 | 279 | 184 | 145 | 8 | 40 | 196 | 441 | 155 | 14 | 61 | 45 | | 1 | 20 | 14 | 24 |
| 19 | 5. 7～5.13 | 284 | 92 | 149 | 7 | 110 | 300 | 767 | 403 | 30 | 71 | 108 | 1 | 4 | 28 | 31 | 59 |
| 20 | 5.14～5.20 | 285 | 34 | 150 | 4 | 93 | 389 | 757 | 275 | 24 | 77 | 108 | 2 | 2 | 29 | 35 | 45 |
| 21 | 5.21～5.27 | 284 | 37 | 149 | 3 | 99 | 415 | 930 | 283 | 21 | 109 | 103 | 1 | 5 | 43 | 28 | 37 |
| 22 | 5.28～6. 3 | 283 | 10 | 149 | 8 | 121 | 399 | 952 | 261 | 44 | 74 | 120 | 1 | | 35 | 22 | 44 |
| 23 | 6. 4～6.10 | 287 | 8 | 149 | 12 | 141 | 388 | 1,030 | 246 | 44 | 81 | 126 | 2 | 1 | 67 | 13 | 57 |
| 24 | 6.11～6.17 | 286 | 4 | 149 | 5 | 148 | 376 | 982 | 315 | 52 | 100 | 111 | | 1 | 70 | 17 | 59 |
| 25 | 6.18～6.24 | 287 | 3 | 149 | 14 | 131 | 272 | 845 | 209 | 84 | 106 | 108 | 3 | 1 | 117 | 17 | 57 |
| 26 | 6.25～7. 1 | 287 | 3 | 149 | 5 | 108 | 288 | 714 | 213 | 107 | 116 | 133 | 3 | | 212 | 12 | 72 |
| 27 | 7. 2～7. 8 | 288 | 6 | 150 | 7 | 142 | 269 | 674 | 158 | 190 | 77 | 112 | 1 | | 446 | 5 | 61 |
| 28 | 7. 9～7.15 | 287 | 3 | 149 | 2 | 116 | 235 | 691 | 120 | 276 | 66 | 106 | | | 785 | 11 | 56 |
| 29 | 7.16～7.22 | 286 | 4 | 149 | 3 | 75 | 211 | 557 | 106 | 365 | 70 | 95 | | | 894 | 6 | 63 |
| 30 | 7.23～7.29 | 287 | 2 | 150 | 4 | 116 | 193 | 552 | 89 | 407 | 68 | 107 | 2 | | 1,149 | 3 | 46 |
| 31 | 7.30～8. 5 | 285 | 4 | 149 | 75 | 145 | 449 | 110 | 325 | 52 | 88 | 3 | 1 | 807 | 1 | 44 | |
| 32 | 8. 6～8.12 | 262 | 1 | 142 | 3 | 63 | 118 | 414 | 67 | 288 | 42 | 86 | 4 | | 552 | 2 | 39 |
| 33 | 8.13～8.19 | 255 | | 130 | | 25 | 65 | 295 | 51 | 158 | 13 | 63 | 1 | 1 | 268 | | 17 |
| 34 | 8.20～8.26 | 282 | | 145 | 4 | 30 | 72 | 454 | 61 | 157 | 26 | 76 | | | 181 | 1 | 32 |
| 35 | 8.27～9. 2 | 283 | 3 | 146 | 5 | 29 | 88 | 482 | 37 | 157 | 15 | 103 | 6 | | 191 | 1 | 28 |
| 36 | 9. 3～9. 9 | 286 | 2 | 150 | 11 | 28 | 112 | 465 | 49 | 164 | 35 | 107 | 7 | 1 | 163 | 1 | 27 |
| 37 | 9.10～9.16 | 286 | 1 | 149 | 8 | 36 | 140 | 596 | 48 | 179 | 34 | 119 | 7 | | 120 | 2 | 26 |
| 38 | 9.17～9.23 | 284 | 14 | 148 | 4 | 35 | 104 | 494 | 56 | 136 | 22 | 121 | 6 | 1 | 97 | 1 | 29 |
| 39 | 9.24～9.30 | 288 | 16 | 150 | 7 | 27 | 98 | 511 | 48 | 146 | 21 | 115 | 3 | 2 | 100 | 1 | 21 |
| 40 | 10. 1～10. 7 | 287 | 32 | 149 | 24 | 45 | 154 | 565 | 45 | 99 | 16 | 115 | 11 | | 75 | 2 | 31 |
| 41 | 10. 8～10.14 | 285 | 24 | 149 | 15 | 21 | 145 | 499 | 51 | 113 | 23 | 81 | 12 | | 56 | | 39 |
| 42 | 10.15～10.21 | 288 | 46 | 150 | 19 | 22 | 184 | 567 | 72 | 113 | 10 | 93 | 8 | | 44 | 1 | 31 |
| 43 | 10.22～10.28 | 287 | 112 | 149 | 29 | 20 | 203 | 572 | 74 | 80 | 18 | 100 | 5 | | 34 | 2 | 25 |
| 44 | 10.29～11. 4 | 286 | 174 | 149 | 56 | 28 | 198 | 556 | 96 | 50 | 15 | 77 | 2 | 1 | 23 | 3 | 17 |
| 45 | 11. 5～11.11 | 288 | 185 | 150 | 61 | 20 | 227 | 814 | 141 | 63 | 29 | 97 | 10 | | 35 | 1 | 33 |
| 46 | 11. 12～11.18 | 287 | 293 | 150 | 53 | 24 | 227 | 1,002 | 150 | 80 | 24 | 106 | 10 | | 19 | 2 | 38 |
| 47 | 11. 19～11.25 | 288 | 416 | 150 | 63 | 25 | 220 | 1,313 | 149 | 56 | 24 | 107 | 1 | 1 | 29 | 1 | 40 |
| 48 | 11. 26～12. 2 | 286 | 651 | 149 | 85 | 28 | 364 | 2,070 | 206 | 45 | 21 | 87 | 3 | 1 | 12 | 1 | 29 |
| 49 | 12. 3～12. 9 | 288 | 1,362 | 150 | 102 | 57 | 280 | 2,755 | 200 | 31 | 32 | 83 | 6 | | 16 | | 30 |
| 50 | 12. 10～12.16 | 289 | 2,052 | 150 | 115 | 47 | 279 | 3,110 | 267 | 35 | 37 | 95 | 4 | | 13 | | 22 |
| 51 | 12. 17～12.23 | 288 | 2,536 | 150 | 126 | 47 | 337 | 3,148 | 245 | 29 | 34 | 71 | 7 | | 10 | | 39 |
| 52 | 12. 24～12.30 | 288 | 2,220 | 150 | 83 | 39 | 191 | 2,051 | 271 | 26 | 25 | 64 | 2 | 1 | 2 | 1 | 33 |
| 合 計 | | | 53,927 | | 1,403 | 2,793 | 11,913 | 46,783 | 8,874 | 4,382 | 2,879 | 4,691 | 151 | 35 | 6,804 | 303 | 1,940 |

表4-1(2) 週別患者報告数(小児科・眼科・基幹) 2007年第1週～2007年第52週

| 週 | 期間 | 人 | | 人 | 人 | | | | |
|-----|---------------|----------|-----------------------------|----|-----|----|----|-----|-----|
| | | 報告小児科定点数 | 不明発しん症(M 川C 崎L 病S) | | | | | | |
| 1 | 1. 1～1. 7 | 138 | | 1 | 9 | 24 | 1 | | |
| 2 | 1. 8～1. 14 | 141 | 5 | 2 | 12 | 22 | | 5 | |
| 3 | 1. 15～1. 21 | 141 | 10 | 2 | 9 | 22 | 1 | 4 | |
| 4 | 1. 22～1. 28 | 140 | 22 | 6 | 15 | 22 | 1 | 2 | |
| 5 | 1. 29～2. 4 | 139 | 6 | 1 | 10 | 23 | 1 | 7 | |
| 6 | 2. 5～2. 11 | 141 | 8 | 2 | 13 | 23 | | 1 | 1 |
| 7 | 2. 12～2. 18 | 141 | 6 | 3 | 9 | 23 | 2 | 5 | |
| 8 | 2. 19～2. 25 | 141 | 4 | 4 | 20 | 23 | 2 | 2 | |
| 9 | 2. 26～3. 4 | 141 | 9 | 3 | 11 | 23 | 1 | 2 | |
| 10 | 3. 5～3. 11 | 142 | 8 | 1 | 10 | 24 | | | |
| 11 | 3. 12～3. 18 | 141 | 9 | | 9 | 24 | | 1 | 5 |
| 12 | 3. 19～3. 25 | 142 | | 1 | 11 | 24 | 1 | 1 | 3 |
| 13 | 3. 26～4. 1 | 142 | 9 | 1 | 11 | 24 | | 1 | 8 |
| 14 | 4. 2～4. 8 | 147 | 9 | 2 | 5 | 24 | | 1 | 2 |
| 15 | 4. 9～4. 15 | 147 | 10 | 1 | 22 | 24 | 1 | 1 | 7 |
| 16 | 4. 16～4. 22 | 147 | 9 | | 30 | 25 | 1 | 5 | 12 |
| 17 | 4. 23～4. 29 | 143 | 15 | 1 | 26 | 25 | 1 | 3 | 16 |
| 18 | 4. 30～5. 6 | 145 | 11 | 2 | 28 | 25 | 2 | 2 | 21 |
| 19 | 5. 7～5. 13 | 149 | 21 | 3 | 8 | 25 | 1 | 5 | 22 |
| 20 | 5. 14～5. 20 | 150 | 18 | 6 | 26 | 25 | | 6 | 22 |
| 21 | 5. 21～5. 27 | 149 | 13 | 3 | 24 | 24 | 4 | 1 | 26 |
| 22 | 5. 28～6. 3 | 149 | 17 | 7 | 23 | 23 | | 8 | 1 |
| 23 | 6. 4～6. 10 | 149 | 26 | 4 | 28 | 25 | | 10 | 18 |
| 24 | 6. 11～6. 17 | 149 | 18 | 2 | 24 | 24 | 1 | 2 | 16 |
| 25 | 6. 18～6. 24 | 149 | 23 | 1 | 26 | 24 | 1 | 1 | 10 |
| 26 | 6. 25～7. 1 | 149 | 32 | | 24 | 25 | 4 | 1 | 10 |
| 27 | 7. 2～7. 8 | 150 | 17 | 1 | 17 | 25 | 1 | 4 | 8 |
| 28 | 7. 9～7. 15 | 149 | 17 | 7 | 14 | 25 | | 1 | 7 |
| 29 | 7. 16～7. 22 | 149 | 25 | 1 | 21 | 25 | 3 | 2 | 3 |
| 30 | 7. 23～7. 29 | 150 | 9 | | 12 | 25 | 1 | 7 | 6 |
| 31 | 7. 30～8. 5 | 149 | 18 | 1 | 27 | 25 | 1 | 5 | 3 |
| 32 | 8. 6～8. 12 | 142 | 18 | 5 | 20 | 25 | 4 | 3 | 2 |
| 33 | 8. 13～8. 19 | 130 | 11 | 1 | 18 | 25 | 5 | 3 | 1 |
| 34 | 8. 20～8. 26 | 145 | 13 | 4 | 10 | 25 | 2 | 3 | 1 |
| 35 | 8. 27～9. 2 | 146 | 13 | 4 | 27 | 25 | 3 | 2 | 2 |
| 36 | 9. 3～9. 9 | 150 | 12 | 1 | 19 | 25 | 3 | 3 | 1 |
| 37 | 9. 10～9. 16 | 149 | 12 | 1 | 24 | 25 | 1 | 5 | |
| 38 | 9. 17～9. 23 | 148 | 18 | 3 | 24 | 25 | | 5 | 1 |
| 39 | 9. 24～9. 30 | 150 | 19 | 2 | 20 | 25 | | 6 | |
| 40 | 10. 1～10. 7 | 149 | 18 | | 12 | 25 | 1 | 3 | 2 |
| 41 | 10. 8～10. 14 | 149 | 6 | 4 | 17 | 25 | 2 | 8 | 1 |
| 42 | 10. 15～10. 21 | 150 | 17 | 2 | 25 | | | 6 | 1 |
| 43 | 10. 22～10. 28 | 149 | 10 | | 25 | 25 | 1 | 2 | 2 |
| 44 | 10. 29～11. 4 | 149 | 9 | 2 | 27 | 25 | | 1 | |
| 45 | 11. 5～11. 11 | 150 | 7 | 1 | 22 | 25 | 1 | 6 | 1 |
| 46 | 11. 12～11. 18 | 150 | 14 | | 24 | 25 | 1 | 8 | |
| 47 | 11. 19～11. 25 | 150 | 13 | 3 | 25 | 25 | 1 | 7 | 1 |
| 48 | 11. 26～12. 2 | 149 | 7 | 1 | 17 | 25 | 1 | 13 | |
| 49 | 12. 3～12. 9 | 150 | 12 | | 10 | 25 | 1 | 11 | |
| 50 | 12. 10～12. 16 | 150 | 16 | 4 | 26 | 25 | 1 | 14 | 2 |
| 51 | 12. 17～12. 23 | 150 | 9 | 2 | 14 | 25 | 1 | 12 | 2 |
| 52 | 12. 24～12. 30 | 150 | 7 | 1 | 27 | 25 | | 5 | 1 |
| 合 計 | | 665 | 110 | 82 | 968 | 28 | 50 | 247 | 20 |
| | | | | | | | | | 262 |

表4-2(1) 週別定点当たり患者報告数（インフルエンザ・小児科）2007年第1週～2007年第52週

| 週 | 期間 | 報定期点数 インフルエンザ | インフルエンザ | 人/定点 | | | | | | | | | | | | | |
|----|---------------|------------------|---------|-----------|------|---------|-------|-----------|--------|------|------|-------|--------|------|------|---------|------|
| | | | | 報告小児科定期点数 | 感染症 | R Sウイルス | 咽頭結膜熱 | 球菌群溶血性レンサ | 感染性胃腸炎 | 水痘 | 手足口病 | 伝染性紅斑 | 突発性発しん | 百日咳 | 風しん | ヘルパンギーナ | 麻しん |
| 1 | 1. 1～1. 7 | 272 | 0.05 | 138 | 0.52 | 0.10 | 0.43 | 3.44 | 1.49 | 0.04 | 0.25 | 0.22 | | 0.01 | | | 0.25 |
| 2 | 1. 8～1. 14 | 270 | 0.13 | 141 | 0.48 | 0.21 | 1.02 | 6.05 | 1.94 | 0.09 | 0.60 | 0.52 | | 0.01 | 0.01 | | 0.31 |
| 3 | 1. 15～1. 21 | 276 | 0.60 | 141 | 0.44 | 0.20 | 1.52 | 6.70 | 1.05 | 0.09 | 0.70 | 0.52 | 0.02 | 0.01 | 0.01 | 0.02 | 0.22 |
| 4 | 1. 22～1. 28 | 277 | 1.80 | 140 | 0.40 | 0.28 | 1.98 | 6.62 | 1.46 | 0.09 | 0.62 | 0.55 | 0.03 | | 0.03 | | 0.24 |
| 5 | 1. 29～2. 4 | 277 | 4.49 | 139 | 0.35 | 0.19 | 1.99 | 6.60 | 1.56 | 0.14 | 0.47 | 0.56 | 0.01 | | 0.03 | | 0.32 |
| 6 | 2. 5～2. 11 | 280 | 8.01 | 141 | 0.29 | 0.34 | 2.01 | 6.17 | 1.68 | 0.10 | 0.52 | 0.45 | | | 0.01 | 0.01 | 0.14 |
| 7 | 2. 12～2. 18 | 278 | 9.40 | 141 | 0.11 | 0.24 | 1.61 | 4.81 | 1.56 | 0.09 | 0.40 | 0.39 | 0.01 | | 0.04 | | 0.22 |
| 8 | 2. 19～2. 25 | 280 | 15.20 | 141 | 0.12 | 0.25 | 1.90 | 5.55 | 1.53 | 0.09 | 0.43 | 0.49 | 0.03 | 0.01 | 0.01 | 0.01 | 0.30 |
| 9 | 2. 26～3. 4 | 280 | 19.54 | 141 | 0.09 | 0.13 | 2.25 | 5.96 | 1.39 | 0.08 | 0.43 | 0.54 | | 0.01 | 0.02 | | 0.21 |
| 10 | 3. 5～3. 11 | 281 | 22.73 | 142 | 0.05 | 0.21 | 2.01 | 5.99 | 1.52 | 0.08 | 0.42 | 0.46 | 0.01 | | 0.01 | 0.01 | 0.26 |
| 11 | 3. 12～3. 18 | 281 | 23.00 | 141 | 0.07 | 0.19 | 1.84 | 5.93 | 1.43 | 0.08 | 0.48 | 0.50 | 0.01 | 0.01 | 0.01 | 0.01 | 0.28 |
| 12 | 3. 19～3. 25 | 280 | 22.17 | 142 | 0.01 | 0.19 | 1.80 | 5.37 | 1.26 | 0.05 | 0.38 | 0.33 | | | | 0.03 | 0.16 |
| 13 | 3. 26～4. 1 | 281 | 13.78 | 142 | 0.03 | 0.17 | 1.20 | 5.49 | 1.33 | 0.06 | 0.53 | 0.51 | | | 0.04 | 0.06 | 0.27 |
| 14 | 4. 2～4. 8 | 282 | 5.69 | 147 | 0.05 | 0.23 | 1.22 | 5.29 | 1.33 | 0.05 | 0.49 | 0.56 | 0.01 | | 0.01 | 0.05 | 0.22 |
| 15 | 4. 9～4. 15 | 284 | 3.90 | 147 | 0.07 | 0.24 | 1.37 | 5.38 | 1.57 | 0.07 | 0.75 | 0.68 | | | 0.01 | 0.07 | 0.30 |
| 16 | 4. 16～4. 22 | 284 | 2.64 | 147 | 0.06 | 0.46 | 1.79 | 5.61 | 1.28 | 0.05 | 0.66 | 0.63 | | | 0.10 | 0.10 | 0.18 |
| 17 | 4. 23～4. 29 | 276 | 1.67 | 143 | 0.04 | 0.45 | 2.42 | 5.59 | 1.60 | 0.12 | 0.58 | 0.90 | | 0.01 | 0.08 | 0.08 | 0.25 |
| 18 | 4. 30～5. 6 | 279 | 0.66 | 145 | 0.06 | 0.28 | 1.35 | 3.04 | 1.07 | 0.10 | 0.42 | 0.31 | | 0.01 | 0.14 | 0.10 | 0.17 |
| 19 | 5. 7～5. 13 | 284 | 0.32 | 149 | 0.05 | 0.74 | 2.01 | 5.15 | 2.70 | 0.20 | 0.48 | 0.72 | 0.01 | 0.03 | 0.19 | 0.21 | 0.40 |
| 20 | 5. 14～5. 20 | 285 | 0.12 | 150 | 0.03 | 0.62 | 2.59 | 5.05 | 1.83 | 0.16 | 0.51 | 0.72 | 0.01 | 0.01 | 0.19 | 0.23 | 0.30 |
| 21 | 5. 21～5. 27 | 284 | 0.13 | 149 | 0.02 | 0.66 | 2.79 | 6.24 | 1.90 | 0.14 | 0.73 | 0.69 | 0.01 | 0.03 | 0.29 | 0.19 | 0.25 |
| 22 | 5. 28～6. 3 | 283 | 0.04 | 149 | 0.05 | 0.81 | 2.68 | 6.39 | 1.75 | 0.30 | 0.50 | 0.81 | 0.01 | | 0.23 | 0.15 | 0.30 |
| 23 | 6. 4～6. 10 | 287 | 0.03 | 149 | 0.08 | 0.95 | 2.60 | 6.91 | 1.65 | 0.30 | 0.54 | 0.85 | 0.01 | 0.01 | 0.45 | 0.09 | 0.38 |
| 24 | 6. 11～6. 17 | 286 | 0.01 | 149 | 0.03 | 0.99 | 2.52 | 6.59 | 2.11 | 0.35 | 0.67 | 0.74 | | 0.01 | 0.47 | 0.11 | 0.40 |
| 25 | 6. 18～6. 24 | 287 | 0.01 | 149 | 0.09 | 0.88 | 1.83 | 5.67 | 1.40 | 0.56 | 0.71 | 0.72 | 0.02 | 0.01 | 0.79 | 0.11 | 0.38 |
| 26 | 6. 25～7. 1 | 287 | 0.01 | 149 | 0.03 | 0.72 | 1.93 | 4.79 | 1.43 | 0.72 | 0.78 | 0.89 | 0.02 | | 1.42 | 0.08 | 0.48 |
| 27 | 7. 2～7. 8 | 288 | 0.02 | 150 | 0.05 | 0.95 | 1.79 | 4.49 | 1.05 | 1.27 | 0.51 | 0.75 | 0.01 | | 2.97 | 0.03 | 0.41 |
| 28 | 7. 9～7. 15 | 287 | 0.01 | 149 | 0.01 | 0.78 | 1.58 | 4.64 | 0.81 | 1.85 | 0.44 | 0.71 | | | 5.27 | 0.07 | 0.38 |
| 29 | 7. 16～7. 22 | 286 | 0.01 | 149 | 0.02 | 0.50 | 1.42 | 3.74 | 0.71 | 2.45 | 0.47 | 0.64 | | | 6.00 | 0.04 | 0.42 |
| 30 | 7. 23～7. 29 | 287 | 0.01 | 150 | 0.03 | 0.77 | 1.29 | 3.68 | 0.59 | 2.71 | 0.45 | 0.71 | 0.01 | | 7.66 | 0.02 | 0.31 |
| 31 | 7. 30～8. 5 | 285 | 0.01 | 149 | | 0.50 | 0.97 | 3.01 | 0.74 | 2.18 | 0.35 | 0.59 | 0.02 | 0.01 | 5.42 | 0.01 | 0.30 |
| 32 | 8. 6～8. 12 | 262 | 0.00 | 142 | 0.02 | 0.44 | 0.83 | 2.92 | 0.47 | 2.03 | 0.30 | 0.61 | 0.03 | | 3.89 | 0.01 | 0.27 |
| 33 | 8. 13～8. 19 | 255 | | 130 | | 0.19 | 0.50 | 2.27 | 0.39 | 1.22 | 0.10 | 0.48 | 0.01 | 0.01 | 2.06 | | 0.13 |
| 34 | 8. 20～8. 26 | 282 | | 145 | 0.03 | 0.21 | 0.50 | 3.13 | 0.42 | 1.08 | 0.18 | 0.52 | | | 1.25 | 0.01 | 0.22 |
| 35 | 8. 27～9. 2 | 283 | 0.01 | 146 | 0.03 | 0.20 | 0.60 | 3.30 | 0.25 | 1.08 | 0.10 | 0.71 | 0.04 | | 1.31 | 0.01 | 0.19 |
| 36 | 9. 3～9. 9 | 286 | 0.01 | 150 | 0.07 | 0.19 | 0.75 | 3.10 | 0.33 | 1.09 | 0.23 | 0.71 | 0.05 | 0.01 | 1.09 | 0.01 | 0.18 |
| 37 | 9. 10～9. 16 | 286 | 0.00 | 149 | 0.05 | 0.24 | 0.94 | 4.00 | 0.32 | 1.20 | 0.23 | 0.80 | 0.05 | | 0.81 | 0.01 | 0.17 |
| 38 | 9. 17～9. 23 | 284 | 0.05 | 148 | 0.03 | 0.24 | 0.70 | 3.34 | 0.38 | 0.92 | 0.15 | 0.82 | 0.04 | 0.01 | 0.66 | 0.01 | 0.20 |
| 39 | 9. 24～9. 30 | 288 | 0.06 | 150 | 0.05 | 0.18 | 0.65 | 3.41 | 0.32 | 0.97 | 0.14 | 0.77 | 0.02 | 0.01 | 0.67 | 0.01 | 0.14 |
| 40 | 10. 1～10. 7 | 287 | 0.11 | 149 | 0.16 | 0.30 | 1.03 | 3.79 | 0.30 | 0.66 | 0.11 | 0.77 | 0.07 | | 0.50 | 0.01 | 0.21 |
| 41 | 10. 8～10. 14 | 285 | 0.08 | 149 | 0.10 | 0.14 | 0.97 | 3.35 | 0.34 | 0.76 | 0.15 | 0.54 | 0.08 | | 0.38 | | 0.26 |
| 42 | 10. 15～10. 21 | 288 | 0.16 | 150 | 0.13 | 0.15 | 1.23 | 3.78 | 0.48 | 0.75 | 0.07 | 0.62 | 0.05 | | 0.29 | 0.01 | 0.21 |
| 43 | 10. 22～10. 28 | 287 | 0.39 | 149 | 0.19 | 0.13 | 1.36 | 3.84 | 0.50 | 0.54 | 0.12 | 0.67 | 0.03 | | 0.23 | 0.01 | 0.17 |
| 44 | 10. 29～11. 4 | 286 | 0.61 | 149 | 0.38 | 0.19 | 1.33 | 3.73 | 0.64 | 0.34 | 0.10 | 0.52 | 0.01 | 0.01 | 0.15 | 0.02 | 0.11 |
| 45 | 11. 5～11. 11 | 288 | 0.64 | 150 | 0.41 | 0.13 | 1.51 | 5.43 | 0.94 | 0.42 | 0.19 | 0.65 | 0.07 | | 0.23 | 0.01 | 0.22 |
| 46 | 11. 12～11. 18 | 287 | 1.02 | 150 | 0.35 | 0.16 | 1.51 | 6.68 | 1.00 | 0.53 | 0.16 | 0.71 | 0.07 | | 0.13 | 0.01 | 0.25 |
| 47 | 11. 19～11. 25 | 288 | 1.44 | 150 | 0.42 | 0.17 | 1.47 | 8.75 | 0.99 | 0.37 | 0.16 | 0.71 | 0.01 | 0.01 | 0.19 | 0.01 | 0.27 |
| 48 | 11. 26～12. 2 | 286 | 2.28 | 149 | 0.57 | 0.19 | 2.44 | 13.89 | 1.38 | 0.30 | 0.14 | 0.58 | 0.02 | 0.01 | 0.08 | 0.01 | 0.19 |
| 49 | 12. 3～12. 9 | 288 | 4.73 | 150 | 0.68 | 0.38 | 1.87 | 18.37 | 1.33 | 0.21 | 0.21 | 0.55 | 0.04 | | 0.11 | | 0.20 |
| 50 | 12. 10～12. 16 | 289 | 7.10 | 150 | 0.77 | 0.31 | 1.86 | 20.73 | 1.78 | 0.23 | 0.25 | 0.63 | 0.03 | | 0.09 | | 0.15 |
| 51 | 12. 17～12. 23 | 288 | 8.81 | 150 | 0.84 | 0.31 | 2.25 | 20.99 | 1.63 | 0.19 | 0.23 | 0.47 | 0.05 | | 0.07 | | 0.26 |
| 52 | 12. 24～12. 30 | 288 | 7.71 | 150 | 0.55 | 0.26 | 1.27 | 13.67 | 1.81 | 0.17 | 0.17 | 0.43 | 0.01 | 0.01 | 0.01 | 0.01 | 0.22 |
| 平均 | | 3.68 | | | 0.18 | 0.36 | 1.56 | 6.12 | 1.17 | 0.57 | 0.38 | 0.61 | 0.02 | 0.00 | 0.89 | 0.04 | 0.25 |

表4-2(2) 週別定点当たり患者報告数(小児科・眼科・基幹) 2007年第1週～2007年第52週

| 週 | 期間 | 人／定点 | | | | 人／定点 | | | | 人／定点 | | | | |
|----|---------------|------------------------------|----------------------------|------------------------------|--|---------------------------------|--------------------------------------|---------------------------------|--|---------------------------------|----------------------------|----------------------------|---|--|
| | | 報告 小児 科 定 点 数 | 不 明 発 し ん 症 | (M 川 C 崎 L 病 S) | | 報 告 眼 科 定 点 数 | 急 性 出 血 性 結 膜 炎 | 流 行 性 角 結 膜 炎 | | 報 告 基 幹 定 点 数 | 細 菌 性 髄 膜 炎 | 無 菌 性 髄 膜 炎 | マ イ コ ブ ラ ズ マ 肺 炎 | (クラ ミジ ア オウ ム 病 は 除 く) |
| 1 | 1. 1～1. 7 | 138 | | 0.01 | | 14 | | 0.64 | | 24 | 0.04 | | | |
| 2 | 1. 8～1. 14 | 141 | 0.04 | 0.01 | | 14 | | 0.86 | | 22 | | 0.23 | | |
| 3 | 1. 15～1. 21 | 141 | 0.07 | 0.01 | | 14 | | 0.64 | | 22 | 0.05 | 0.18 | | |
| 4 | 1. 22～1. 28 | 140 | 0.16 | 0.04 | | 14 | | 1.07 | | 22 | 0.05 | 0.09 | | |
| 5 | 1. 29～2. 4 | 139 | 0.04 | 0.01 | | 14 | | 0.71 | | 23 | | 0.04 | 0.30 | |
| 6 | 2. 5～2. 11 | 141 | 0.06 | 0.01 | | 14 | | 0.93 | | 23 | | 0.04 | | 0.04 |
| 7 | 2. 12～2. 18 | 141 | 0.04 | 0.02 | | 14 | | 0.64 | | 23 | 0.09 | 0.22 | | |
| 8 | 2. 19～2. 25 | 141 | 0.03 | 0.03 | | 14 | | 1.43 | | 23 | 0.09 | 0.09 | | |
| 9 | 2. 26～3. 4 | 141 | 0.06 | 0.02 | | 14 | | 0.79 | | 23 | 0.04 | 0.09 | 0.04 | |
| 10 | 3. 5～3. 11 | 142 | 0.06 | 0.01 | | 14 | | 0.71 | | 24 | | | | |
| 11 | 3. 12～3. 18 | 141 | 0.06 | | | 14 | | 0.64 | | 24 | | 0.04 | | 0.21 |
| 12 | 3. 19～3. 25 | 142 | | 0.01 | | 14 | | 0.79 | | 24 | 0.04 | 0.04 | 0.04 | 0.13 |
| 13 | 3. 26～4. 1 | 142 | 0.06 | 0.01 | | 14 | | 0.79 | | 24 | | 0.04 | | 0.33 |
| 14 | 4. 2～4. 8 | 147 | 0.06 | 0.01 | | 39 | 0.13 | 0.56 | | 24 | | 0.04 | | 0.08 |
| 15 | 4. 9～4. 15 | 147 | 0.07 | 0.01 | | 38 | 0.03 | 0.79 | | 24 | 0.04 | | 0.04 | 0.29 |
| 16 | 4. 16～4. 22 | 147 | 0.06 | | | 38 | | 0.68 | | 25 | | 0.04 | 0.20 | 0.48 |
| 17 | 4. 23～4. 29 | 143 | 0.10 | 0.01 | | 38 | 0.05 | 0.74 | | 25 | | 0.04 | 0.12 | 0.64 |
| 18 | 4. 30～5. 6 | 145 | 0.08 | 0.01 | | 38 | 0.03 | 0.21 | | 25 | 0.08 | | 0.08 | 0.84 |
| 19 | 5. 7～5. 13 | 149 | 0.14 | 0.02 | | 39 | 0.03 | 0.67 | | 25 | 0.04 | 0.04 | 0.20 | 0.88 |
| 20 | 5. 14～5. 20 | 150 | 0.12 | 0.04 | | 39 | 0.03 | 0.62 | | 25 | | 0.24 | | 0.88 |
| 21 | 5. 21～5. 27 | 149 | 0.09 | 0.02 | | 39 | 0.05 | 0.62 | | 24 | 0.17 | 0.04 | 0.25 | 1.08 |
| 22 | 5. 28～6. 3 | 149 | 0.11 | 0.05 | | 39 | 0.08 | 0.59 | | 23 | | 0.35 | 0.04 | 1.00 |
| 23 | 6. 4～6. 10 | 149 | 0.17 | 0.03 | | 39 | 0.10 | 0.72 | | 25 | | 0.40 | 0.04 | 0.72 |
| 24 | 6. 11～6. 17 | 149 | 0.12 | 0.01 | | 38 | 0.05 | 0.63 | | 24 | | 0.04 | 0.08 | 0.67 |
| 25 | 6. 18～6. 24 | 149 | 0.15 | 0.01 | | 39 | 0.08 | 0.67 | | 24 | 0.04 | 0.04 | 0.13 | 0.42 |
| 26 | 6. 25～7. 1 | 149 | 0.21 | | | 37 | 0.14 | 0.46 | | 25 | 0.16 | 0.04 | 0.08 | 0.40 |
| 27 | 7. 2～7. 8 | 150 | 0.11 | 0.01 | | 39 | 0.05 | 0.36 | | 25 | 0.04 | | 0.16 | 0.32 |
| 28 | 7. 9～7. 15 | 149 | 0.11 | 0.05 | | 38 | | 0.55 | | 25 | | 0.04 | 0.28 | 0.16 |
| 29 | 7. 16～7. 22 | 149 | 0.17 | 0.01 | | 39 | | 0.31 | | 25 | | 0.12 | 0.08 | 0.08 |
| 30 | 7. 23～7. 29 | 150 | 0.06 | | | 39 | | 0.69 | | 25 | 0.04 | 0.28 | 0.48 | 0.24 |
| 31 | 7. 30～8. 5 | 149 | 0.12 | 0.01 | | 39 | 0.05 | 0.51 | | 25 | | 0.04 | 0.20 | 0.12 |
| 32 | 8. 6～8. 12 | 142 | 0.13 | 0.04 | | 34 | 0.03 | 0.53 | | 25 | | 0.16 | 0.12 | 0.04 |
| 33 | 8. 13～8. 19 | 130 | 0.08 | 0.01 | | 38 | 0.05 | 0.26 | | 25 | | 0.20 | 0.12 | 0.04 |
| 34 | 8. 20～8. 26 | 145 | 0.09 | 0.03 | | 36 | 0.17 | 0.75 | | 25 | | 0.08 | 0.12 | 0.04 |
| 35 | 8. 27～9. 2 | 146 | 0.09 | 0.03 | | 39 | 0.03 | 0.49 | | 25 | | 0.12 | 0.08 | 0.08 |
| 36 | 9. 3～9. 9 | 150 | 0.08 | 0.01 | | 38 | 0.11 | 0.63 | | 25 | 0.12 | 0.12 | 0.08 | 0.04 |
| 37 | 9. 10～9. 16 | 149 | 0.08 | 0.01 | | 38 | 0.13 | 0.63 | | 25 | 0.04 | | 0.20 | |
| 38 | 9. 17～9. 23 | 148 | 0.12 | 0.02 | | 37 | 0.05 | 0.54 | | 25 | | | 0.20 | 0.04 |
| 39 | 9. 24～9. 30 | 150 | 0.13 | 0.01 | | 38 | 0.03 | 0.37 | | 25 | | | 0.24 | |
| 40 | 10. 1～10. 7 | 149 | 0.12 | | | 38 | 0.11 | 0.32 | | 25 | | 0.04 | 0.12 | 0.08 |
| 41 | 10. 8～10. 14 | 149 | 0.04 | 0.03 | | 39 | 0.08 | 0.44 | | 25 | | 0.08 | 0.32 | 0.04 |
| 42 | 10. 15～10. 21 | 150 | 0.11 | 0.01 | | 38 | 0.03 | 0.66 | | 25 | | | 0.24 | 0.04 |
| 43 | 10. 22～10. 28 | 149 | 0.07 | | | 39 | 0.03 | 0.69 | | 25 | 0.04 | | 0.08 | 0.08 |
| 44 | 10. 29～11. 4 | 149 | 0.06 | 0.01 | | 39 | 0.03 | 0.56 | | 25 | | 0.04 | 0.24 | 0.04 |
| 45 | 11. 5～11. 11 | 150 | 0.05 | 0.01 | | 39 | 0.05 | 0.62 | | 25 | | 0.04 | 0.32 | 0.04 |
| 46 | 11. 12～11. 18 | 150 | 0.09 | | | 39 | 0.10 | 0.64 | | 25 | | 0.04 | 0.32 | |
| 47 | 11. 19～11. 25 | 150 | 0.09 | 0.02 | | 38 | 0.03 | 0.45 | | 25 | 0.04 | | 0.28 | 0.04 |
| 48 | 11. 26～12. 2 | 149 | 0.05 | 0.01 | | 39 | 0.08 | 0.26 | | 25 | 0.04 | | 0.52 | |
| 49 | 12. 3～12. 9 | 150 | 0.08 | | | 38 | 0.05 | 0.68 | | 25 | 0.04 | | 0.44 | |
| 50 | 12. 10～12. 16 | 150 | 0.11 | 0.03 | | 39 | 0.03 | 0.36 | | 25 | 0.04 | 0.04 | 0.56 | 0.08 |
| 51 | 12. 17～12. 23 | 150 | 0.06 | 0.01 | | 38 | 0.03 | 0.71 | | 23 | | 0.52 | | 0.09 |
| 52 | 12. 24～12. 30 | 150 | 0.05 | 0.01 | | 38 | 0.05 | 0.45 | | 23 | | 0.22 | 0.04 | |
| | 平均 | | 0.09 | 0.01 | | | 0.04 | 0.62 | | 0.02 | 0.04 | 0.19 | 0.02 | 0.21 |

第5表－1(1) 保健所別患者報告数（インフルエンザ・小児科） 2007年第1週～2007年第52週

| | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | 人 | | |
|-----------------|---------|----------|-----------|-------|----------|--------|--------|--------|-------|--------|-------|-------|---------|-------|---------|-------|-------|
| 設定点数 インフルエンザ | インフルエンザ | 設置小児科定点数 | 感染症RSウイルス | 咽頭結膜熱 | 球A群溶血性咽炎 | 感染性胃腸炎 | 水痘 | 手足口病 | 伝染性紅斑 | 突発性発しん | 百日咳 | 風しん | ヘルパンギーナ | 麻しん | 流行性耳下腺炎 | | |
| 千代田 | 5 | 241 | 4 | 35 | 9 | 25 | 164 | 85 | 27 | 11 | 21 | 1 | 2 | 26 | 3 | 5 | |
| 中央区 | 4 | 613 | 3 | 3 | 12 | 95 | 391 | 106 | 140 | 19 | 91 | | | 74 | 8 | 79 | |
| みなと | 8 | 1,128 | 6 | 175 | 247 | 734 | 1,935 | 238 | 231 | 89 | 154 | | | 159 | 19 | 32 | |
| 新宿区 | 9 | 1,627 | 6 | 66 | 86 | 414 | 1,327 | 197 | 119 | 31 | 80 | 12 | 4 | 172 | 14 | 13 | |
| 文京 | 5 | 983 | 3 | 14 | 28 | 82 | 411 | 157 | 32 | 18 | 32 | 5 | 2 | 70 | 2 | 26 | |
| 台東 | 5 | 744 | 3 | 44 | 92 | 277 | 1,335 | 264 | 97 | 62 | 116 | 1 | | 279 | 6 | 12 | |
| 墨田区 | 6 | 1,118 | 3 | 46 | 16 | 238 | 739 | 202 | 46 | 55 | 115 | | | 132 | 5 | 25 | |
| 江東区 | 9 | 1,805 | 4 | 27 | 26 | 386 | 2,831 | 283 | 176 | 67 | 195 | | | 240 | 2 | 59 | |
| 品川区 | 10 | 1,231 | 6 | 28 | 47 | 352 | 2,812 | 274 | 144 | 116 | 223 | 1 | 1 | 253 | 5 | 62 | |
| 目黒区 | 6 | 442 | 3 | | 20 | 105 | 311 | 146 | 52 | 65 | 42 | | | 48 | 1 | 25 | |
| 大田区 | 16 | 3,532 | 9 | 297 | 401 | 987 | 3,214 | 569 | 261 | 194 | 320 | 50 | 1 | 491 | 26 | 180 | |
| 世田谷区 | 16 | 3,394 | 8 | 38 | 54 | 552 | 2,453 | 496 | 364 | 260 | 236 | 1 | | 357 | 14 | 91 | |
| 渋谷区 | 6 | 888 | 4 | 7 | 44 | 117 | 1,093 | 207 | 68 | 106 | 95 | 3 | 2 | 107 | 8 | 15 | |
| 中野区 | 9 | 1,438 | 6 | 33 | 19 | 401 | 2,063 | 256 | 107 | 58 | 135 | | | 229 | 19 | 90 | |
| 杉並 | 12 | 2,657 | 6 | 21 | 475 | 432 | 2,735 | 289 | 109 | 101 | 186 | 2 | | 81 | 7 | 34 | |
| 池袋 | 8 | 996 | 5 | 2 | 15 | 85 | 466 | 86 | 69 | 20 | 64 | | 3 | 220 | 15 | 102 | |
| 北区 | 8 | 1,772 | 4 | 5 | 87 | 225 | 1,039 | 316 | 167 | 53 | 221 | 1 | 1 | 257 | 10 | 41 | |
| 荒川区 | 4 | 912 | 2 | 4 | 230 | 200 | 920 | 174 | 49 | 40 | 99 | 6 | | 201 | 1 | 23 | |
| 板橋区 | 12 | 1,173 | 6 | 1 | 16 | 61 | 943 | 82 | 48 | 58 | 59 | 1 | 2 | 53 | 8 | 28 | |
| 練馬区 | 12 | 2,485 | 5 | 12 | 59 | 476 | 1,090 | 356 | 113 | 115 | 172 | 15 | | 192 | 24 | 21 | |
| 足立 | 12 | 1,686 | 5 | 8 | 58 | 271 | 1,612 | 191 | 94 | 49 | 113 | 4 | 2 | 124 | 25 | 73 | |
| 葛飾区 | 9 | 1,844 | 4 | | 8 | 335 | 1,149 | 517 | 198 | 74 | 194 | | 1 | 260 | 10 | 132 | |
| 江戸川区 | 12 | 4,180 | 5 | 92 | 306 | 736 | 1,946 | 307 | 287 | 135 | 238 | 1 | 2 | 645 | 18 | 193 | |
| 西多摩 | 9 | 1,798 | 5 | 30 | 37 | 201 | 1,304 | 385 | 136 | 154 | 147 | 6 | 3 | 110 | | 26 | |
| 南多摩 | 9 | 1,697 | 4 | 71 | 26 | 468 | 1,070 | 265 | 150 | 148 | 168 | 11 | 1 | 221 | 6 | 66 | |
| 町田 | 9 | 2,210 | 4 | 14 | 10 | 1,208 | 2,572 | 621 | 100 | 193 | 284 | | 1 | 651 | 10 | 97 | |
| 多摩立川 | 13 | 1,938 | 6 | | 8 | 80 | 1,020 | 190 | 66 | 37 | 28 | 2 | 1 | 82 | 3 | 59 | |
| 多摩府中 | 21 | 3,756 | 10 | 40 | 41 | 338 | 1,791 | 485 | 248 | 235 | 303 | 3 | 2 | 167 | 8 | 129 | |
| 多摩小平 | 14 | 3,645 | 6 | 245 | 216 | 903 | 3,231 | 475 | 303 | 141 | 288 | 2 | 3 | 580 | 8 | 61 | |
| 島しょ | 2 | 73 | 1 | 2 | | 41 | 133 | 9 | 81 | | 10 | | | 15 | | 5 | |
| 八王子市 | 10 | 1,921 | 4 | 43 | 100 | 1,088 | 2,683 | 646 | 300 | 175 | 262 | 23 | 1 | 308 | 18 | 136 | |
| 合計 | 290 | 53,927 | 150 | 1,403 | 2,793 | 11,913 | 46,783 | 8,874 | 4,382 | 2,879 | 4,691 | 151 | 35 | 6,804 | 303 | 1,940 | |
| 定点当たり報告数 | 191.41 | | | 9.57 | 18.96 | 81.32 | 318.41 | 60.77 | 29.73 | 19.73 | 31.95 | 1.02 | 0.24 | 46.10 | 2.05 | 13.24 | |
| 前年定点当たり報告数 | 134.57 | | | | 5.76 | 27.67 | 78.96 | 365.81 | 58.77 | 20.32 | 21.89 | 29.01 | 0.16 | 0.15 | 41.55 | 0.18 | 31.56 |
| 当年/前年 | 1.42 | | | | 1.66 | 0.69 | 1.03 | 0.87 | 1.03 | 1.46 | 0.90 | 1.10 | 6.30 | 1.62 | 1.11 | 11.64 | 0.42 |

表5－1(2) 保健所別患者報告数（小児科・眼科・基幹） 2007年第1週～2007年第52週

| | 設置 小児科定 点数 | 不明 発しん 症 | M C L S (川崎病) | 人 | | | 設置 眼科定 点数 | 急性 出血性 結膜炎 | 流行 性角 結膜炎 | 人 | | | 設置 基幹定 点数 | 細 菌 性 髄膜炎 | 無 菌 性 髄膜炎 | マイ コブ ラズ マ肺 炎 | （ クラ ミジ アは オウ ムジ 病除 は肺 炎く ） | 人 | | |
|------------|------------------|----------------|---------------------------|---|--|--|-----------------|------------------|-----------------|---|--|--|-----------------|--------------------|--------------------|---------------------------|--|------|-------|--|
| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 千代田 | 4 | 5 | 5 | | | | | | | | | | | 2 | | 3 | 13 | 2 | 1 | |
| 中央区 | 3 | | 1 | | | | | 2 | 39 | | | | | | | | | | | |
| みなと | 6 | 44 | 2 | | | | 1 | | 45 | | | | | 1 | 4 | 4 | 4 | 2 | 1 | |
| 新宿区 | 6 | 9 | 5 | | | | 2 | 3 | 110 | | | | | 2 | 4 | 5 | 96 | | 54 | |
| 文京 | 3 | 3 | | | | | 1 | | 84 | | | | | 1 | 3 | | 1 | | 42 | |
| 台東 | 3 | 1 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 墨田区 | 3 | 15 | 1 | | | | 1 | 2 | 16 | | | | | 1 | | 18 | | | 52 | |
| 江東区 | 4 | 15 | 3 | | | | 1 | | 37 | | | | | | | | | | | |
| 品川区 | 6 | 33 | 1 | | | | 1 | 1 | 6 | | | | | | | | | | | |
| 目黒区 | 3 | 1 | 3 | | | | 1 | 1 | 64 | | | | | | | | | | | |
| 大田区 | 9 | 30 | 12 | | | | 2 | | 29 | | | | | 1 | | | 5 | | 45 | |
| 世田谷区 | 8 | 26 | 3 | | | | 2 | 13 | 18 | | | | | 2 | 8 | 16 | 1 | | 1 | |
| 渋谷区 | 4 | 8 | | | | | 1 | | 29 | | | | | 2 | 2 | | | | 2 | |
| 中野区 | 6 | 17 | 1 | | | | 1 | 1 | 20 | | | | | 1 | | | | | 41 | |
| 杉並 | 6 | 4 | 2 | | | | 1 | 2 | 13 | | | | | 1 | 3 | 3 | | | | |
| 池袋 | 5 | 7 | 1 | | | | 1 | | 4 | | | | | 1 | | | 6 | 1 | 3 | |
| 北区 | 4 | 8 | 2 | | | | 1 | | 13 | | | | | | | | | | | |
| 荒川区 | 2 | 26 | 3 | | | | 1 | 1 | 37 | | | | | | | | | | | |
| 板橋区 | 6 | 12 | 2 | | | | 2 | | 19 | | | | | 1 | | | 2 | | 3 | |
| 練馬区 | 5 | 16 | 3 | | | | 2 | 2 | 62 | | | | | | | | | | | |
| 足立 | 5 | 45 | 4 | | | | 2 | 36 | 31 | | | | | 1 | 1 | 1 | 113 | 15 | | |
| 葛飾区 | 4 | 40 | 4 | | | | 1 | 6 | 14 | | | | | | | | | | | |
| 江戸川 | 5 | 13 | 2 | | | | 2 | 3 | 29 | | | | | 1 | 1 | | | | | |
| 西多摩 | 5 | 8 | 1 | | | | 1 | | 13 | | | | | 1 | 1 | | 5 | | 4 | |
| 南多摩 | 4 | 11 | 2 | | | | 1 | | 12 | | | | | | | | | | | |
| 町田 | 4 | 77 | 6 | | | | 1 | | 25 | | | | | | | | | | | |
| 多摩立川 | 6 | 11 | 3 | | | | 2 | 4 | 13 | | | | | 1 | | | | | | |
| 多摩府中 | 10 | 20 | 4 | | | | 3 | 3 | 34 | | | | | 2 | 1 | | | | 2 | |
| 多摩小平 | 6 | 26 | 9 | | | | 2 | 2 | 117 | | | | | 2 | 1 | | 1 | | 10 | |
| 島しょ | 1 | 1 | 2 | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | |
| 八王子市 | 4 | 133 | 21 | | | | 2 | | 35 | | | | | 1 | | | | | 1 | |
| 合 計 | 150 | 665 | 110 | | | | 39 | 82 | 968 | | | | | 25 | 28 | 50 | 247 | 20 | 262 | |
| 定点当たり報告数 | | 4.52 | 0.75 | | | | | 2.15 | 32.04 | | | | | | 1.14 | 2.03 | 10.11 | 0.81 | 10.70 | |
| 前年定点当たり報告数 | | 6.80 | 0.71 | | | | | 0.57 | 38.21 | | | | | | 0.60 | 1.60 | 8.72 | 0.52 | 0.12 | |
| 当年/前年 | | 0.66 | 1.06 | | | | | 3.76 | 0.84 | | | | | | 1.91 | 1.27 | 1.16 | 1.56 | 89.16 | |

表5－2（1）保健所別定点当たり患者報告数（インフルエンザ・小児科）2007年第1週～2007年第52週

| | | 人／定点 | | | | | | | | | | | | 人／定点 | | |
|------|-----------------|---------|----------|----------------|--------|--------------|--------|--------|-------|-------|--------|------|------|---------|------|---------|
| | 設定点数 インフルエンザ | インフルエンザ | 設置小児科定点数 | 感染症 R Sウイルス | 咽頭結膜熱 | 球A菌群咽溶頭炎性レンサ | 感染性胃腸炎 | 水痘 | 手足口病 | 伝染性紅斑 | 突発性発しん | 百日咳 | 風しん | ヘルパンギーナ | 麻しん | 流行性耳下腺炎 |
| 千代田 | 5 | 48.20 | 4 | 8.75 | 2.25 | 6.25 | 41.00 | 21.25 | 6.75 | 2.75 | 5.25 | 0.25 | 0.50 | 6.50 | 0.75 | 1.25 |
| 中央区 | 4 | 153.25 | 3 | 1.00 | 4.00 | 31.67 | 130.33 | 35.33 | 53.33 | 6.33 | 31.67 | | | 24.67 | 2.67 | 27.00 |
| みなと | 8 | 144.82 | 6 | 30.20 | 41.98 | 127.62 | 329.18 | 40.28 | 38.67 | 15.02 | 25.85 | | | 26.50 | 3.17 | 5.40 |
| 新宿区 | 9 | 180.81 | 6 | 11.03 | 14.62 | 69.95 | 222.33 | 33.30 | 20.12 | 5.17 | 13.45 | 2.00 | 0.67 | 29.27 | 2.33 | 2.20 |
| 文京 | 5 | 196.60 | 3 | 4.67 | 9.33 | 27.33 | 137.00 | 52.33 | 10.67 | 6.00 | 10.67 | 1.67 | 0.67 | 23.33 | 0.67 | 8.67 |
| 台東区 | 5 | 148.80 | 3 | 14.67 | 30.67 | 92.33 | 445.00 | 88.00 | 32.33 | 20.67 | 38.67 | 0.33 | | 93.00 | 2.00 | 4.00 |
| 墨田区 | 6 | 186.33 | 3 | 15.33 | 5.33 | 79.33 | 246.33 | 67.33 | 15.33 | 18.33 | 38.33 | | | 44.00 | 1.67 | 8.33 |
| 江東区 | 9 | 217.74 | 4 | 6.75 | 7.42 | 107.33 | 750.33 | 77.75 | 44.17 | 18.42 | 51.67 | | | 60.00 | 0.50 | 15.25 |
| 品川区 | 10 | 123.20 | 6 | 4.67 | 7.93 | 59.18 | 474.40 | 46.60 | 24.95 | 19.87 | 37.95 | 0.17 | 0.17 | 44.25 | 0.83 | 10.50 |
| 目黒区 | 6 | 73.90 | 3 | | 6.67 | 35.17 | 108.17 | 48.83 | 17.67 | 21.67 | 14.00 | | | 16.50 | 0.33 | 8.33 |
| 大田区 | 16 | 220.79 | 9 | 33.00 | 44.62 | 109.67 | 357.24 | 63.22 | 29.29 | 21.56 | 35.56 | 5.56 | 0.11 | 54.78 | 2.89 | 20.00 |
| 世田谷区 | 16 | 212.41 | 8 | 4.77 | 6.79 | 69.74 | 308.69 | 62.74 | 46.79 | 32.79 | 30.01 | 0.13 | | 46.63 | 1.75 | 11.52 |
| 渋谷区 | 6 | 148.37 | 4 | 1.75 | 11.33 | 29.75 | 276.83 | 52.25 | 18.00 | 27.33 | 24.17 | 0.75 | 0.50 | 27.00 | 2.00 | 3.92 |
| 中野区 | 9 | 159.78 | 6 | 5.50 | 3.17 | 66.83 | 343.83 | 42.67 | 17.83 | 9.67 | 22.50 | | | 38.17 | 3.17 | 15.00 |
| 杉並 | 12 | 221.55 | 6 | 3.50 | 79.63 | 72.40 | 457.20 | 48.27 | 18.17 | 16.97 | 31.10 | 0.33 | | 13.50 | 1.17 | 5.67 |
| 池袋 | 8 | 147.39 | 5 | 0.40 | 3.05 | 17.10 | 94.65 | 17.40 | 14.65 | 4.05 | 12.95 | | | 45.15 | 3.00 | 21.75 |
| 北区 | 8 | 233.42 | 4 | 1.25 | 21.92 | 56.75 | 261.75 | 80.00 | 42.33 | 13.42 | 56.08 | 0.25 | 0.25 | 64.92 | 2.50 | 10.33 |
| 荒川区 | 4 | 228.00 | 2 | 2.00 | 115.00 | 100.00 | 462.50 | 89.50 | 24.50 | 20.00 | 49.50 | 3.00 | | 100.50 | 0.50 | 11.50 |
| 板橋区 | 12 | 98.08 | 6 | 0.17 | 2.67 | 10.17 | 157.17 | 13.67 | 8.00 | 9.67 | 9.83 | 0.17 | 0.33 | 8.83 | 1.33 | 4.67 |
| 練馬区 | 12 | 207.92 | 5 | 2.40 | 11.80 | 95.40 | 218.80 | 71.60 | 22.80 | 23.10 | 34.60 | 3.00 | | 38.55 | 4.80 | 4.25 |
| 足立 | 12 | 152.60 | 5 | 1.60 | 11.75 | 55.75 | 336.67 | 40.22 | 18.98 | 10.15 | 23.05 | 0.80 | 0.45 | 24.85 | 5.25 | 15.00 |
| 葛飾区 | 9 | 204.89 | 4 | | 2.00 | 83.75 | 287.25 | 129.25 | 49.50 | 18.50 | 48.50 | | 0.25 | 65.00 | 2.50 | 33.00 |
| 江戸川区 | 12 | 372.06 | 5 | 18.85 | 62.35 | 155.50 | 407.42 | 65.75 | 58.32 | 31.00 | 49.33 | 0.20 | 0.40 | 130.62 | 3.60 | 40.25 |
| 西多摩 | 9 | 199.78 | 5 | 6.00 | 7.55 | 40.40 | 262.10 | 77.43 | 27.65 | 30.90 | 29.50 | 1.20 | 0.60 | 22.92 | | 5.25 |
| 南多摩 | 9 | 208.05 | 4 | 20.75 | 6.67 | 138.58 | 304.42 | 74.83 | 40.50 | 43.08 | 47.00 | 3.08 | 0.33 | 62.42 | 1.50 | 19.75 |
| 町田 | 9 | 285.49 | 4 | 3.75 | 2.50 | 351.00 | 775.00 | 192.50 | 25.25 | 50.25 | 77.50 | | 0.50 | 163.00 | 2.50 | 31.50 |
| 多摩立川 | 13 | 149.08 | 6 | | 1.40 | 13.50 | 173.67 | 32.90 | 11.33 | 6.37 | 4.80 | 0.33 | 0.17 | 14.50 | 0.53 | 10.17 |
| 多摩府中 | 21 | 180.14 | 10 | 4.00 | 4.13 | 34.04 | 179.90 | 48.66 | 24.98 | 23.62 | 30.43 | 0.30 | 0.20 | 16.84 | 0.80 | 12.91 |
| 多摩小平 | 14 | 260.86 | 6 | 40.83 | 36.23 | 151.07 | 541.73 | 79.67 | 51.17 | 23.57 | 48.47 | 0.33 | 0.50 | 98.13 | 1.33 | 10.33 |
| 島しょ | 2 | 36.50 | 1 | 2.00 | | 41.00 | 133.00 | 9.00 | 81.00 | | 10.00 | | | 15.00 | | 5.00 |
| 八王子市 | 10 | 227.68 | 4 | 12.00 | 31.50 | 319.25 | 719.50 | 192.50 | 76.25 | 52.50 | 74.00 | 5.75 | 0.25 | 77.00 | 4.75 | 43.25 |

表5－2（2）保健所別定点当たり患者報告数（小児科・眼科・基幹） 2007年第1週～2007年第52週

| 保健所 | 人／定点 | | 人／定点 | | 人／定点 | | | | | | | |
|------|----------|--------|---------------------------|---------|----------|---------|---------|--------|--------|-----------|---------------|-------|
| | 設置小児科定点数 | 不明発しん症 | M C L S (川崎病) | 設置眼科定点数 | 急性出血性結膜炎 | 流行性角結膜炎 | 設置基幹定点数 | 細菌性髄膜炎 | 無菌性髄膜炎 | マイコプラズマ肺炎 | (クラオラミジアは肺炎く) | 成人麻しん |
| 千代田 | 4 | 1.25 | 1.25 | | | | 2 | 1.50 | 6.50 | 1.00 | 0.50 | |
| 中央区 | 3 | | 0.33 | | 2.00 | 39.00 | | | | | | |
| みなと | 6 | 7.37 | 0.33 | 1 | | 45.00 | 1 | 4.00 | 4.00 | 4.00 | 2.00 | 1.00 |
| 新宿区 | 6 | 1.50 | 0.83 | 2 | 1.50 | 55.00 | 2 | 2.00 | 2.50 | 48.00 | | 27.00 |
| 文京 | 3 | 1.00 | | 1 | | 84.00 | 1 | 3.00 | | 1.00 | | 42.00 |
| 台東 | 3 | 0.33 | 0.67 | | | | | | | | | |
| 墨田区 | 3 | 5.00 | 0.33 | 1 | 2.00 | 16.00 | 1 | | 18.00 | | | 52.00 |
| 江東区 | 4 | 4.08 | 0.75 | 1 | | 37.00 | | | | | | |
| 品川区 | 6 | 5.53 | 0.17 | 1 | 1.00 | 6.00 | | | | | | |
| 目黒区 | 3 | 0.33 | 1.00 | 1 | 1.00 | 64.00 | | | | | | |
| 大田区 | 9 | 3.37 | 1.33 | 2 | | 14.50 | 1 | | 5.00 | | 45.00 | |
| 世田谷区 | 8 | 3.25 | 0.38 | 2 | 6.50 | 9.00 | 2 | 4.00 | 8.00 | 0.50 | | 0.50 |
| 渋谷区 | 4 | 2.00 | | 1 | | 29.00 | 2 | 1.00 | | | | 1.00 |
| 中野区 | 6 | 2.83 | 0.17 | 1 | 1.00 | 20.00 | 1 | | | | | 41.00 |
| 杉並 | 6 | 0.67 | 0.33 | 1 | 2.00 | 13.00 | 1 | 3.00 | 3.00 | | | |
| 池袋 | 5 | 1.40 | 0.20 | 1 | | 4.00 | 1 | | 6.00 | 1.00 | 3.00 | |
| 北区 | 4 | 2.00 | 0.50 | 1 | | 13.00 | | | | | | |
| 荒川区 | 2 | 13.00 | 1.50 | 1 | 1.00 | 37.00 | | | | | | |
| 板橋区 | 6 | 2.00 | 0.33 | 2 | | 9.50 | 1 | | 2.00 | | 3.00 | |
| 練馬区 | 5 | 3.20 | 0.60 | 2 | 1.00 | 31.00 | | | | | | |
| 足立 | 5 | 9.10 | 0.85 | 2 | 18.00 | 15.50 | | | | | | |
| 葛飾区 | 4 | 10.00 | 1.00 | 1 | 6.00 | 14.00 | 1 | 1.00 | 1.00 | 113.00 | 15.00 | |
| 江戸川 | 5 | 2.65 | 0.45 | 2 | 1.50 | 14.50 | | | | | | |
| 西多摩 | 5 | 1.65 | 0.25 | 1 | | 13.00 | 1 | 1.00 | | 5.00 | | 4.00 |
| 南多摩 | 4 | 3.25 | 0.58 | 1 | | 12.00 | | | | | | |
| 町田 | 4 | 22.00 | 2.50 | 1 | | 25.00 | | | | | | |
| 多摩立川 | 6 | 1.93 | 0.50 | 2 | 2.00 | 6.50 | 1 | | | | | |
| 多摩府中 | 10 | 2.00 | 0.40 | 3 | 1.17 | 14.17 | 2 | 0.50 | | | 1.00 | |
| 多摩小平 | 6 | 4.40 | 1.50 | 2 | 1.00 | 61.50 | 2 | 0.50 | | 0.50 | | 5.00 |
| 島しょ | 1 | 1.00 | 2.00 | | | | 1 | | | | | |
| 八王子市 | 4 | 36.00 | 5.75 | | | 18.50 | 1 | | | | | 1.00 |

表6(1) 年齢階級別患者報告数(インフルエンザ・小児科) 2007年第1週～2007年第52週

| | インフルエンザ | 人 | R Sウイルス感染症 | 咽頭結膜熱 | 球A群溶血性咽頭炎性レンサ | 感染性胃腸炎 | 水痘 | 手足口病 | 伝染性紅斑 | 突発性発しん | 百日咳 | 風しん | ヘルパンギーナ | 麻しん | 流行性耳下腺炎 | |
|--------|---------|---|------------|-------|---------------|--------|--------|-------|-------|--------|-------|-----|---------|-------|---------|-------|
| 6か月未満 | 117 | | 200 | 13 | 2 | 511 | 146 | 21 | 5 | 177 | 9 | | 47 | 3 | 1 | |
| 12か月未満 | 405 | | 344 | 111 | 69 | 3,184 | 498 | 280 | 63 | 2,206 | 4 | 3 | 549 | 57 | 5 | |
| 1歳 | 1,590 | | 458 | 434 | 273 | 6,565 | 1,441 | 1,146 | 140 | 1,967 | 6 | 8 | 1,594 | 33 | 77 | |
| 2歳 | 1,834 | | 149 | 322 | 529 | 4,382 | 1,490 | 844 | 156 | 223 | 9 | 4 | 1,184 | 15 | 162 | |
| 3歳 | 2,308 | | 86 | 405 | 1,039 | 4,018 | 1,509 | 642 | 345 | 44 | 5 | | 1,074 | 6 | 233 | |
| 4歳 | 3,084 | | 48 | 372 | 1,519 | 3,965 | 1,384 | 542 | 412 | 29 | 8 | 3 | 809 | 12 | 301 | |
| 5歳 | 3,272 | | 12 | 338 | 1,750 | 3,387 | 910 | 362 | 497 | 10 | 8 | | 565 | 5 | 303 | |
| 6歳 | 3,384 | | 11 | 228 | 1,609 | 2,838 | 563 | 185 | 380 | 13 | 8 | 2 | 316 | 8 | 238 | |
| 7歳 | 3,800 | | 2 | 167 | 1,258 | 2,311 | 316 | 110 | 293 | 4 | 6 | | 188 | 12 | 162 | |
| 8歳 | 3,403 | | | 109 | 907 | 2,014 | 180 | 70 | 215 | 8 | 5 | 1 | 132 | 6 | 127 | |
| 9歳 | 2,966 | | | 3 | 80 | 677 | 1,637 | 122 | 46 | 150 | 4 | 6 | 2 | 83 | 12 | 111 |
| 10～14歳 | 9,712 | | | 3 | 116 | 1,083 | 3,548 | 191 | 72 | 153 | | 11 | 5 | 106 | 75 | 156 |
| 15～19歳 | 3,024 | | | | 14 | 148 | 989 | 14 | 8 | 3 | 1 | 6 | 2 | 20 | 30 | 14 |
| 20～29歳 | 4,088 | | | 87 | 84 | 1,050 | 7,434 | 110 | 54 | 67 | 5 | 60 | 5 | 137 | 29 | 50 |
| 30～39歳 | 4,918 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 40～49歳 | 3,246 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 50～59歳 | 1,433 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 60～69歳 | 756 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 70～79歳 | 406 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 80歳以上 | 181 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 合 計 | 53,927 | | | 1,403 | 2,793 | 11,913 | 46,783 | 8,874 | 4,382 | 2,879 | 4,691 | 151 | 35 | 6,804 | 303 | 1,940 |

注：小児科定点把握対象疾病の「20～29歳」は「20歳以上」と読みかえる。

表6(2) 年齢階級別患者報告数（小児科・眼科・基幹） 2007年第1週～2007年第52週

| | 人 | 人 | 人 |
|--------|---------------------------------------|----------|---------|
| 不明発しん症 | M C L S (川 崎 病) | 急性出血性結膜炎 | 流行性角結膜炎 |
| 6か月未満 | 26 | 5 | 4 |
| 12か月未満 | 126 | 17 | 2 |
| 1歳 | 183 | 26 | 1 |
| 2歳 | 85 | 25 | 3 |
| 3歳 | 60 | 14 | 10 |
| 4歳 | 33 | 7 | 18 |
| 5歳 | 38 | 3 | 15 |
| 6歳 | 23 | 3 | 13 |
| 7歳 | 15 | 1 | 11 |
| 8歳 | 22 | | 2 |
| 9歳 | 11 | 4 | 3 |
| 10～14歳 | 18 | 2 | 9 |
| 15～19歳 | 9 | 1 | 22 |
| 20～29歳 | 16 | 2 | 33 |
| 30～39歳 | | | 17 |
| 40～49歳 | | | 19 |
| 50～59歳 | | | 6 |
| 60～69歳 | | | 7 |
| 70～79歳 | | | 68 |
| 80歳以上 | | | 1 |
| 合 計 | 665 | 110 | 82 |
| | | | 968 |

| | | | | |
|--------|--------|-----------|------------|-------|
| 細菌性髄膜炎 | 無菌性髄膜炎 | マイコプラズマ肺炎 | クラミジアは肺炎除く | 成人麻しん |
| 1 | 6 | 1 | | |
| 5 | | 1 | | |
| 4 | 1 | 21 | 1 | |
| | 1 | 33 | | |
| 1 | 3 | 29 | | |
| | | 30 | 1 | |
| | 2 | 14 | 1 | |
| | | 11 | | |
| | 2 | 15 | | |
| | | 1 | 7 | |
| | | 1 | 10 | |
| | 3 | 30 | | |
| 2 | 3 | 9 | 1 | 56 |
| 3 | 8 | 10 | 2 | 145 |
| 1 | 10 | 10 | | 49 |
| 1 | 2 | 11 | | 10 |
| 2 | | | | 2 |
| 2 | 3 | 3 | 3 | |
| 5 | 3 | 1 | 7 | |
| 1 | 1 | 1 | 4 | |
| 28 | 50 | 247 | 20 | 262 |

注：小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読みかえる。

注：眼科疾患の「70～79歳」は「70歳以上」と読みかえる。

表7-1(1) 二次医療圏別患者報告数（インフルエンザ・小児科） 2007年第1週～2007年第52週

| | 人 | 設置インフルエンザ定点数 | インフルエンザ | RSウイルス感染症 | 咽頭結膜熱 | 球A菌群咽頭炎性レンサ | 感染性胃腸炎 | 水痘 | 手足口病 | 伝染性紅斑 | 突発性発しん | 百日咳 | 風しん | ヘルパンギーナ | 麻しん | 流行性耳下腺炎 |
|-----------|-----|--------------|---------|-----------|--------|-------------|--------|-------|-------|-------|--------|-------|-----|---------|-----|---------|
| 1 区中央部圏 | 27 | 3,709 | | | | | | | | | | | | | | |
| 2 区南部圏 | 26 | 4,763 | | | | | | | | | | | | | | |
| 3 区西南部圏 | 28 | 4,724 | | | | | | | | | | | | | | |
| 4 区西部圏 | 30 | 5,722 | | | | | | | | | | | | | | |
| 5 区西北部圏 | 40 | 6,426 | | | | | | | | | | | | | | |
| 6 区東北部圏 | 25 | 4,442 | | | | | | | | | | | | | | |
| 7 区東部圏 | 27 | 7,103 | | | | | | | | | | | | | | |
| 8 西多摩圏 | 9 | 1,798 | | | | | | | | | | | | | | |
| 9 南多摩圏 | 28 | 5,828 | | | | | | | | | | | | | | |
| 10 北多摩西部圏 | 13 | 1,938 | | | | | | | | | | | | | | |
| 11 北多摩南部圏 | 21 | 3,756 | | | | | | | | | | | | | | |
| 12 北多摩北部圏 | 14 | 3,645 | | | | | | | | | | | | | | |
| 13 島しょ圏 | 2 | 73 | | | | | | | | | | | | | | |
| 合 計 | 290 | 53,927 | | | | | | | | | | | | | | |
| | 150 | 1,403 | 2,793 | 11,913 | 46,783 | 8,874 | 4,382 | 2,879 | 4,691 | 151 | 35 | 6,804 | 303 | 1,940 | | |

表7-1(2) 二次医療圈別患者報告数(小児科・眼科・基幹) 2007年第1週～2007年第52週

| 人 | | | | 人 | | | | 人 | | | | | |
|-----------|--------|------------------|-----|---------|----------|---------|--|---------|--------|--------|-----------|----------------------|-------|
| 設置小児科定点数 | 不明発しん症 | M C L S (川崎病) | | 設置眼科定点数 | 急性出血性結膜炎 | 流行性角結膜炎 | | 設置基幹定点数 | 細菌性髄膜炎 | 無菌性髄膜炎 | マイコプラズマ肺炎 | クラミジア肺炎 (オウム病は除く) | 成人麻しん |
| 1 区中央部圏 | 19 | 53 | 10 | 2 | 2 | 168 | | 4 | 7 | 7 | 18 | 4 | 44 |
| 2 区南部圏 | 15 | 63 | 13 | 3 | 1 | 35 | | 1 | | | 5 | | 45 |
| 3 区西南部圏 | 15 | 35 | 6 | 4 | 14 | 111 | | 4 | 10 | 16 | 1 | | 3 |
| 4 区西部圏 | 18 | 30 | 8 | 4 | 6 | 143 | | 4 | 7 | 8 | 96 | | 95 |
| 5 区西北部圏 | 20 | 43 | 8 | 6 | 2 | 98 | | 2 | | | 8 | 1 | 6 |
| 6 区東北部圏 | 11 | 111 | 11 | 4 | 43 | 82 | | 1 | 1 | 1 | 113 | 15 | |
| 7 区東部圏 | 12 | 43 | 6 | 4 | 5 | 82 | | 1 | | 18 | | | 52 |
| 8 西多摩圏 | 5 | 8 | 1 | 1 | | 13 | | 1 | 1 | | 5 | | 4 |
| 9 南多摩圏 | 12 | 221 | 29 | 4 | | 72 | | 1 | | | | | 1 |
| 10 北多摩西部圏 | 6 | 11 | 3 | 2 | 4 | 13 | | 2 | 1 | | | | 2 |
| 11 北多摩南部圏 | 10 | 20 | 4 | 3 | 3 | 34 | | 2 | 1 | | 1 | | 10 |
| 12 北多摩北部圏 | 6 | 26 | 9 | 2 | 2 | 117 | | 1 | | | | | |
| 13 島しょ圏 | 1 | 1 | 2 | | | | | 25 | 29 | 51 | 245 | 20 | 262 |
| 合 計 | 150 | 665 | 110 | 39 | 82 | 968 | | | | | | | |

表7-2(1) 二次医療圏別定点当たり患者報告数（インフルエンザ・小児科）

2007年第1週～2007年第52週

| | 設置インフルエンザ定点数 | インフルエンザ | 人／定点 | | | | | | | | | | | | 流行性耳下腺炎 | |
|-----------|--------------|---------|-----------|-------|-----------|--------|--------|--------|-------|--------|-------|------|---------|-------|---------|-------|
| | | | RSウイルス感染症 | 咽頭結膜熱 | 球A群溶血性咽頭炎 | 感染性胃腸炎 | 水痘 | 手足口病 | 伝染性紅斑 | 突発性発しん | 百日咳 | 風しん | ヘルパンギーナ | 麻しん | | |
| 1 区中央部圏 | 27 | 190.47 | 19 | 11.62 | 21.05 | 73.11 | 189.99 | 49.64 | 14.77 | 14.53 | 18.31 | 0.31 | 0.19 | 18.89 | 1.99 | 8.94 |
| 2 区南部圏 | 26 | 249.44 | 15 | 31.86 | 25.30 | 106.39 | 363.69 | 68.58 | 13.79 | 25.81 | 35.90 | 1.31 | 0.09 | 26.91 | 1.63 | 18.24 |
| 3 区西南部圏 | 28 | 240.63 | 15 | 1.55 | 6.12 | 53.71 | 248.87 | 80.91 | 18.90 | 40.33 | 22.32 | 0.05 | 0.21 | 19.13 | 1.66 | 7.81 |
| 4 区西部圏 | 30 | 266.26 | 18 | 8.33 | 24.24 | 70.70 | 302.80 | 54.90 | 11.17 | 13.34 | 20.33 | 0.88 | 0.12 | 15.07 | 2.08 | 8.51 |
| 5 区西北部圏 | 40 | 245.55 | 20 | 0.85 | 7.11 | 43.73 | 171.16 | 48.13 | 11.44 | 16.92 | 23.86 | 0.26 | 0.34 | 22.34 | 2.89 | 7.75 |
| 6 区東北部圏 | 25 | 279.16 | 11 | 0.45 | 30.32 | 75.34 | 312.34 | 94.55 | 19.60 | 18.35 | 34.80 | 1.04 | 0.44 | 30.73 | 3.85 | 18.91 |
| 7 区東部圏 | 27 | 398.12 | 12 | 7.84 | 29.07 | 135.52 | 414.18 | 86.51 | 21.94 | 37.31 | 39.59 | 0.04 | 0.20 | 52.26 | 2.17 | 21.63 |
| 8 西多摩圏 | 9 | 311.70 | 5 | 7.39 | 7.83 | 36.04 | 244.43 | 92.02 | 16.07 | 44.33 | 30.76 | 0.37 | 1.26 | 13.21 | | 8.19 |
| 9 南多摩圏 | 28 | 306.88 | 12 | 20.41 | 12.25 | 259.79 | 518.29 | 166.93 | 30.52 | 53.26 | 60.13 | 2.19 | 0.88 | 70.68 | 2.86 | 40.44 |
| 10 北多摩西部圏 | 13 | 225.70 | 6 | | 1.64 | 11.33 | 139.22 | 41.77 | 9.83 | 7.55 | 3.09 | 0.07 | 0.16 | 7.84 | 0.41 | 10.31 |
| 11 北多摩南部圏 | 21 | 266.26 | 10 | 4.13 | 2.99 | 36.58 | 162.25 | 62.68 | 14.48 | 22.18 | 29.39 | 0.11 | 0.37 | 9.82 | 0.53 | 14.78 |
| 12 北多摩北部圏 | 14 | 379.58 | 6 | 41.57 | 39.74 | 150.30 | 451.54 | 103.67 | 30.48 | 29.66 | 44.86 | 0.18 | 0.28 | 53.44 | 1.71 | 13.29 |
| 13 島しょ圏 | 2 | 51.55 | 1 | 4.51 | | 44.10 | 112.06 | 15.15 | 35.13 | | 13.42 | | | 11.14 | | 4.08 |

表7-2(2) 二次医療圏別定点当たり患者報告数（小児科・眼科・基幹）

2007年第1週～2007年第52週

| | 設置小児科定点数 | 不明発しん症 | 人／定点 | | | 成人麻しん | | | | | | |
|-----------|----------|--------|-----------|---------|----------|---------|--------|--------|-----------|--------------|-------|-------|
| | | | MCLS（川崎病） | 設置眼科定点数 | 急性出血性結膜炎 | 流行性角結膜炎 | 細菌性髄膜炎 | 無菌性髄膜炎 | マイコプラズマ肺炎 | (クラミジアは肺除炎く) | | |
| 1 区中央部圏 | 19 | 2.11 | 0.17 | 2 | 0.19 | 111.04 | 4 | 1.75 | 1.75 | 4.50 | 1.00 | 11.00 |
| 2 区南部圏 | 15 | 3.81 | 1.27 | 3 | 0.42 | 7.24 | 1 | | | 5.00 | | 45.00 |
| 3 区西南部圏 | 15 | 2.92 | 0.72 | 4 | 2.50 | 54.58 | 4 | 3.00 | 4.00 | 0.50 | | 0.75 |
| 4 区西部圏 | 18 | 1.36 | 0.36 | 4 | 1.06 | 46.28 | 4 | 1.75 | 2.00 | 24.00 | | 23.75 |
| 5 区西北部圏 | 20 | 1.60 | 0.50 | 6 | 0.15 | 12.42 | 2 | | | 4.00 | 0.50 | 3.00 |
| 6 区東北部圏 | 11 | 9.47 | 0.87 | 4 | 7.86 | 22.64 | 1 | 1.00 | 1.00 | 113.00 | 15.00 | |
| 7 区東部圏 | 12 | 3.14 | 0.34 | 4 | 1.20 | 32.57 | 1 | | 18.00 | | | 52.00 |
| 8 西多摩圏 | 5 | 1.10 | 0.10 | 1 | | 17.00 | 1 | 1.00 | | 5.00 | | 4.00 |
| 9 南多摩圏 | 12 | 17.49 | 3.73 | 4 | | 22.99 | 1 | | | | | 1.00 |
| 10 北多摩西部圏 | 6 | 1.92 | 0.20 | 2 | 1.01 | 3.21 | 2 | 0.50 | | | | 1.00 |
| 11 北多摩南部圏 | 10 | 2.17 | 0.64 | 3 | 1.45 | 16.69 | 2 | 0.50 | | 0.50 | | 5.00 |
| 12 北多摩北部圏 | 6 | 4.55 | 1.92 | 2 | 1.89 | 42.21 | 1 | | | | | |
| 13 島しょ圏 | 1 | 0.06 | 0.18 | | | | | | | | | |

表8-1 月別患者報告数（基幹）

2007年1月～2007年12月

| 月 | 報告基幹定点数 | メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 | 肺炎球菌感染症 | 緑膿菌感耐染症 |
|-----|---------|-------------------|---------|---------|
| 1月 | 25 | 139 | 55 | 5 |
| 2月 | 25 | 136 | 32 | 1 |
| 3月 | 25 | 134 | 44 | 2 |
| 4月 | 25 | 130 | 52 | 2 |
| 5月 | 25 | 162 | 89 | 7 |
| 6月 | 25 | 143 | 50 | 3 |
| 7月 | 25 | 153 | 50 | 6 |
| 8月 | 25 | 187 | 39 | 7 |
| 9月 | 25 | 142 | 29 | 4 |
| 10月 | 25 | 163 | 43 | 5 |
| 11月 | 25 | 142 | 69 | 3 |
| 12月 | 24 | 127 | 72 | 3 |
| 合 計 | | 1,758 | 624 | 48 |

表8-2 月別定点当たり患者報告数（基幹）

2007年1月～2007年12月

| 月 | 報告基幹定点数 | メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 | 肺炎球菌感染症 | 緑膿菌感耐染症 |
|-----|---------|-------------------|---------|---------|
| 1月 | 25 | 5.56 | 2.20 | 0.20 |
| 2月 | 25 | 5.44 | 1.28 | 0.04 |
| 3月 | 25 | 5.36 | 1.76 | 0.08 |
| 4月 | 25 | 5.20 | 2.08 | 0.08 |
| 5月 | 25 | 6.48 | 3.56 | 0.28 |
| 6月 | 25 | 5.72 | 2.00 | 0.12 |
| 7月 | 25 | 6.12 | 2.00 | 0.24 |
| 8月 | 25 | 7.48 | 1.56 | 0.28 |
| 9月 | 25 | 5.68 | 1.16 | 0.16 |
| 10月 | 25 | 6.52 | 1.72 | 0.20 |
| 11月 | 25 | 5.68 | 2.76 | 0.12 |
| 12月 | 24 | 5.29 | 3.00 | 0.13 |
| 平 均 | | 5.88 | 2.09 | 0.16 |

表8-3 月別・性別患者報告数（基幹） 2007年1月～2007年12月

| 月 | メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 | | ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 | | 薬剤耐性緑膿菌感染症 | |
|-----|-------------------|-----|----------------|-----|------------|----|
| | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 |
| 1月 | 78 | 61 | 32 | 23 | 5 | |
| 2月 | 86 | 50 | 22 | 10 | | 1 |
| 3月 | 104 | 30 | 30 | 14 | 2 | |
| 4月 | 82 | 48 | 28 | 24 | 1 | 1 |
| 5月 | 105 | 57 | 50 | 39 | 3 | 4 |
| 6月 | 89 | 54 | 25 | 25 | 1 | 2 |
| 7月 | 95 | 58 | 23 | 27 | 6 | |
| 8月 | 117 | 70 | 23 | 16 | 3 | 4 |
| 9月 | 93 | 49 | 16 | 13 | 3 | 1 |
| 10月 | 95 | 68 | 27 | 16 | 1 | 4 |
| 11月 | 86 | 56 | 39 | 30 | 2 | 1 |
| 12月 | 79 | 48 | 45 | 27 | 1 | 2 |
| 合計 | 1109 | 649 | 360 | 264 | 28 | 20 |

表8-4 年齢階級別患者報告数（基幹） 2007年1月～2007年12月

| 年齢階級 | メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 | | ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 | | 薬剤耐性綠膿菌感染症 | |
|------------|-------------------|-------|----------------|-------|------------|------|
| | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 |
| 0歳 | 80 | 56 | 70 | 49 | 0 | 1 |
| 1～4歳 | 48 | 48 | 161 | 143 | 1 | 2 |
| 5～9歳 | 23 | 12 | 15 | 15 | 1 | 0 |
| 10～14歳 | 8 | 3 | 8 | 3 | 1 | 0 |
| 15～19歳 | 10 | 7 | 2 | 3 | 0 | 0 |
| 20～24歳 | 10 | 5 | 0 | 0 | 0 | 0 |
| 25～29歳 | 15 | 12 | 1 | 0 | 1 | 1 |
| 30～34歳 | 29 | 12 | 5 | 2 | 0 | 0 |
| 35～39歳 | 12 | 12 | 4 | 3 | 0 | 1 |
| 40～44歳 | 21 | 14 | 4 | 5 | 2 | 0 |
| 45～49歳 | 17 | 11 | 5 | 2 | 0 | 0 |
| 50～54歳 | 43 | 22 | 3 | 2 | 0 | 0 |
| 55～59歳 | 90 | 25 | 4 | 4 | 1 | 0 |
| 60～64歳 | 85 | 12 | 12 | 6 | 4 | 1 |
| 65～69歳 | 94 | 37 | 9 | 5 | 0 | 2 |
| 70歳以上 | 524 | 361 | 57 | 22 | 17 | 12 |
| 合 計 | 1,109 | 649 | 360 | 264 | 28 | 20 |
| 定点当たり報告数 | 44.49 | 26.04 | 14.48 | 10.61 | 1.12 | 0.80 |
| 前年定点当たり報告数 | 38.56 | 22.88 | 13.60 | 9.56 | 1.16 | 0.48 |
| 当年／前年 | 1.15 | 1.14 | 1.06 | 1.11 | 0.97 | 1.67 |

表9-1 月別患者報告数(STI)

2007年1月～2007年12月

| 月 | 報告STI 定点 数 | 人 | | | | | |
|-----|------------------|------------|---------|---------|-------|----------|-------|
| | | 性器クラミジア感染症 | 性器ヘルペス症 | 尖圭コニローマ | 淋菌感染症 | 膣トリコモナス症 | 梅毒様疾患 |
| 1月 | 41 | 133 | 64 | 36 | 67 | 25 | 3 |
| 2月 | 41 | 141 | 85 | 49 | 50 | 32 | 10 |
| 3月 | 40 | 176 | 73 | 44 | 72 | 14 | 5 |
| 4月 | 55 | 194 | 94 | 69 | 93 | 15 | 7 |
| 5月 | 55 | 221 | 79 | 72 | 88 | 18 | 7 |
| 6月 | 55 | 226 | 100 | 65 | 101 | 20 | 4 |
| 7月 | 55 | 223 | 71 | 82 | 108 | 22 | 8 |
| 8月 | 55 | 236 | 89 | 79 | 94 | 19 | 11 |
| 9月 | 55 | 237 | 80 | 76 | 74 | 14 | 14 |
| 10月 | 55 | 277 | 99 | 82 | 103 | 23 | 16 |
| 11月 | 55 | 219 | 80 | 79 | 86 | 16 | 8 |
| 12月 | 55 | 202 | 75 | 68 | 77 | 15 | 10 |
| 合 計 | | 2,485 | 989 | 801 | 1,013 | 233 | 103 |

表9-2 月別定点当たり患者報告数(STI)

2007年1月～2007年12月

| 月 | 報告STI 定点 数 | 人／定点 | | | | | |
|-----|------------------|------------|---------|---------|-------|----------|-------|
| | | 性器クラミジア感染症 | 性器ヘルペス症 | 尖圭コニローマ | 淋菌感染症 | 膣トリコモナス症 | 梅毒様疾患 |
| 1月 | 41 | 3.24 | 1.56 | 0.88 | 1.63 | 0.61 | 0.07 |
| 2月 | 41 | 3.44 | 2.07 | 1.20 | 1.22 | 0.78 | 0.24 |
| 3月 | 40 | 4.40 | 1.83 | 1.10 | 1.80 | 0.35 | 0.13 |
| 4月 | 55 | 3.53 | 1.71 | 1.25 | 1.69 | 0.27 | 0.13 |
| 5月 | 55 | 4.02 | 1.44 | 1.31 | 1.60 | 0.33 | 0.13 |
| 6月 | 55 | 4.11 | 1.82 | 1.18 | 1.84 | 0.36 | 0.07 |
| 7月 | 55 | 4.05 | 1.29 | 1.49 | 1.96 | 0.40 | 0.15 |
| 8月 | 55 | 4.29 | 1.62 | 1.44 | 1.71 | 0.35 | 0.20 |
| 9月 | 55 | 4.31 | 1.45 | 1.38 | 1.35 | 0.25 | 0.25 |
| 10月 | 55 | 5.04 | 1.80 | 1.49 | 1.87 | 0.42 | 0.29 |
| 11月 | 55 | 3.98 | 1.45 | 1.44 | 1.56 | 0.29 | 0.15 |
| 12月 | 55 | 3.67 | 1.36 | 1.24 | 1.40 | 0.27 | 0.18 |
| 平 均 | | 4.01 | 1.62 | 1.28 | 1.64 | 0.39 | 0.17 |

表9-3 月別・性別患者報告数(STI) 2007年1月～2007年12月

人

| 月 | 報告 S T I 定 点 数 | 性器クラミジア 感染症 | | 性器ヘルペス ウイルス感染症 | | 尖圭 コンジローマ | | 淋菌感染症 | | 膣トリコモナス 症 | | 梅毒様疾患 | |
|-----|----------------------------------|----------------|-------|-------------------|-----|--------------|-----|-------|-----|--------------|-----|-------|----|
| | | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 |
| 1月 | 41 | 64 | 69 | 41 | 23 | 24 | 12 | 56 | 11 | 1 | 24 | 1 | 2 |
| 2月 | 41 | 61 | 80 | 49 | 36 | 36 | 13 | 45 | 5 | 6 | 26 | 6 | 4 |
| 3月 | 40 | 82 | 94 | 47 | 26 | 35 | 9 | 62 | 10 | 1 | 13 | 5 | 0 |
| 4月 | 55 | 109 | 85 | 61 | 33 | 37 | 32 | 83 | 10 | | 15 | 7 | 0 |
| 5月 | 55 | 111 | 110 | 40 | 39 | 39 | 33 | 81 | 7 | | 18 | 5 | 2 |
| 6月 | 55 | 121 | 105 | 59 | 41 | 40 | 25 | 90 | 11 | 1 | 19 | 3 | 1 |
| 7月 | 55 | 110 | 113 | 50 | 21 | 53 | 29 | 94 | 14 | | 22 | 6 | 2 |
| 8月 | 55 | 106 | 130 | 48 | 41 | 48 | 31 | 80 | 14 | 1 | 18 | 10 | 1 |
| 9月 | 55 | 122 | 115 | 43 | 37 | 42 | 34 | 64 | 10 | | 14 | 11 | 3 |
| 10月 | 55 | 136 | 141 | 53 | 46 | 40 | 42 | 81 | 22 | 1 | 22 | 12 | 4 |
| 11月 | 55 | 111 | 108 | 48 | 32 | 48 | 31 | 72 | 14 | 2 | 14 | 3 | 5 |
| 12月 | 55 | 98 | 104 | 40 | 35 | 40 | 28 | 70 | 7 | 1 | 14 | 7 | 3 |
| 合 計 | | 1,231 | 1,254 | 579 | 410 | 482 | 319 | 878 | 135 | 14 | 219 | 76 | 27 |

表9-4 月別・性別定点当たり患者報告数(STI) 2007年1月～2007年12月

人

| 月 | 報告 S T I 定 点 数 | 性器クラミジア 感染症 | | 性器ヘルペス ウイルス感染症 | | 尖圭 コンジローマ | | 淋菌感染症 | | 膣トリコモナス 症 | | 梅毒様疾患 | |
|-----|----------------------------------|----------------|------|-------------------|------|--------------|------|-------|------|--------------|------|-------|------|
| | | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 |
| 1月 | 41 | 1.56 | 1.68 | 1.00 | 0.56 | 0.59 | 0.29 | 1.37 | 0.27 | 0.02 | 0.59 | 0.02 | 0.05 |
| 2月 | 41 | 1.49 | 1.95 | 1.20 | 0.88 | 0.88 | 0.32 | 1.10 | 0.12 | 0.15 | 0.63 | 0.15 | 0.10 |
| 3月 | 40 | 2.05 | 2.35 | 1.18 | 0.65 | 0.88 | 0.23 | 1.55 | 0.25 | 0.03 | 0.33 | 0.13 | 0.00 |
| 4月 | 55 | 1.98 | 1.55 | 1.11 | 0.60 | 0.67 | 0.58 | 1.51 | 0.18 | 0.00 | 0.27 | 0.13 | 0.00 |
| 5月 | 55 | 2.02 | 2.00 | 0.73 | 0.71 | 0.71 | 0.60 | 1.47 | 0.13 | 0.00 | 0.33 | 0.09 | 0.04 |
| 6月 | 55 | 2.20 | 1.91 | 1.07 | 0.75 | 0.73 | 0.45 | 1.64 | 0.20 | 0.02 | 0.35 | 0.05 | 0.02 |
| 7月 | 55 | 2.00 | 2.05 | 0.91 | 0.38 | 0.96 | 0.53 | 1.71 | 0.25 | 0.00 | 0.40 | 0.11 | 0.04 |
| 8月 | 55 | 1.93 | 2.36 | 0.87 | 0.75 | 0.87 | 0.56 | 1.45 | 0.25 | 0.02 | 0.33 | 0.18 | 0.02 |
| 9月 | 55 | 2.22 | 2.09 | 0.78 | 0.67 | 0.76 | 0.62 | 1.16 | 0.18 | 0.00 | 0.25 | 0.20 | 0.05 |
| 10月 | 55 | 2.47 | 2.56 | 0.96 | 0.84 | 0.73 | 0.76 | 1.47 | 0.40 | 0.02 | 0.40 | 0.22 | 0.07 |
| 11月 | 55 | 2.02 | 1.96 | 0.87 | 0.58 | 0.87 | 0.56 | 1.31 | 0.25 | 0.04 | 0.25 | 0.05 | 0.09 |
| 12月 | 55 | 1.78 | 1.89 | 0.73 | 0.64 | 0.73 | 0.51 | 1.27 | 0.13 | 0.02 | 0.25 | 0.13 | 0.05 |

表9－5 保健所別、二次医療圏別患者報告数(STI) 2007年1月～2007年12月

人

| | 設置 定点 数 | 性器クラミジア 感染症 | | 性器ヘルペス ウイルス感染症 | | 尖圭 コンジローマ | | 淋菌感染症 | | 膣トリコモナス 症 | | 梅毒様疾患 | | 合 計 | |
|------------|---------------|----------------|-------|-------------------|-------|--------------|------|-------|------|--------------|------|-------|------|-------|-------|
| | | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 |
| 千代田 | 2 | 72 | 18 | 15 | 2 | 30 | 1 | 80 | | | | 2 | | 199 | 21 |
| 中央区 | 3 | 53 | 51 | 13 | 12 | 7 | 4 | 32 | 1 | 2 | 5 | | | 107 | 73 |
| みなと | 2 | 50 | 85 | 22 | 52 | 12 | 33 | 27 | 11 | 2 | 10 | | 2 | 113 | 193 |
| 新宿区 | 6 | 343 | 117 | 261 | 95 | 238 | 41 | 286 | 41 | 1 | 15 | 20 | 5 | 1,149 | 314 |
| 文京 | 1 | 50 | 1 | 11 | 1 | 9 | 4 | 31 | | | | 1 | 1 | 102 | 7 |
| 台東 | 3 | 10 | 194 | 2 | 35 | 10 | 28 | 19 | 31 | 1 | 59 | 4 | 6 | 46 | 353 |
| 墨田区 | 2 | 29 | 9 | 13 | 7 | 18 | 3 | 19 | 3 | | 3 | 4 | 1 | 83 | 26 |
| 江東区 | 2 | 134 | 38 | 84 | 6 | 26 | 11 | 122 | 3 | | 4 | 14 | | 380 | 62 |
| 品川区 | 1 | 3 | | 6 | | 1 | 1 | 6 | | | | | | 16 | 1 |
| 大田区 | 2 | 18 | 35 | 4 | 5 | | | 22 | 1 | | | | | 44 | 41 |
| 渋谷区 | 5 | 70 | 53 | 28 | 45 | 5 | 63 | 28 | | 3 | 1 | 5 | 3 | 139 | 165 |
| 中野区 | 2 | 55 | 22 | 3 | 1 | 1 | 54 | 34 | 5 | | 10 | 9 | 2 | 102 | 94 |
| 杉並 | 2 | 25 | 4 | 2 | 3 | 1 | | 22 | 1 | | 1 | 1 | | 51 | 9 |
| 池袋 | 3 | 190 | 91 | 81 | 33 | 90 | 30 | 84 | 10 | 5 | 14 | 13 | 2 | 463 | 180 |
| 北区 | 1 | 5 | | 6 | | 3 | | 5 | | | | | | 19 | |
| 荒川区 | 1 | | 16 | | 11 | | | | 1 | | 3 | | | | 31 |
| 板橋区 | 2 | 3 | 73 | 8 | 23 | 7 | 2 | 19 | 7 | | 12 | | | 37 | 117 |
| 足立 | 2 | 52 | 5 | 13 | 1 | 10 | 4 | 15 | | | 2 | | | 92 | 10 |
| 江戸川 | 2 | 36 | 96 | 7 | 20 | 12 | 10 | 13 | 7 | | 16 | 1 | 2 | 69 | 151 |
| 町田 | 1 | | 11 | | 7 | | 1 | | 2 | | 15 | | 2 | | 38 |
| 多摩立川 | 2 | 2 | 185 | | 27 | 1 | 18 | | 4 | | 12 | | | 3 | 246 |
| 多摩府中 | 3 | 30 | 10 | | | 1 | 1 | 13 | | | | | | 44 | 11 |
| 多摩小平 | 1 | | 8 | | | | | | 1 | | 1 | | | | 10 |
| 八王子市 | 4 | 1 | 132 | | 24 | | 10 | 1 | 6 | | 38 | | 1 | 2 | 211 |
| 合 計 | 55 | 1,231 | 1,254 | 579 | 410 | 482 | 319 | 878 | 135 | 14 | 219 | 76 | 27 | 3,260 | 2,364 |
| 定点当たり報告数 | | 23.72 | 24.37 | 11.41 | 8.00 | 9.37 | 6.02 | 17.01 | 2.62 | 0.30 | 4.38 | 1.46 | 0.53 | 63.28 | 45.91 |
| 前年定点当たり報告数 | | 27.02 | 25.00 | 12.44 | 11.05 | 11.56 | 4.20 | 18.39 | 2.78 | 0.27 | 5.41 | 1.56 | 0.24 | 71.24 | 48.68 |
| 当年/前年 | | 0.88 | 0.97 | 0.92 | 0.72 | 0.81 | 1.43 | 0.93 | 0.94 | 1.14 | 0.81 | 0.93 | 2.17 | 0.89 | 0.94 |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|----|-----|-----|-----|-----|-----|----|-----|----|---|----|----|---|-------|-----|
| 区中央部圏 | 11 | 235 | 349 | 63 | 102 | 68 | 70 | 189 | 43 | 5 | 74 | 7 | 9 | 567 | 647 |
| 区南部圏 | 3 | 21 | 35 | 10 | 5 | 1 | 1 | 28 | 1 | | | | | 60 | 42 |
| 区西南部圏 | 5 | 70 | 53 | 28 | 45 | 5 | 63 | 28 | | 3 | 1 | 5 | 3 | 139 | 165 |
| 区西部圏 | 10 | 423 | 143 | 266 | 99 | 240 | 95 | 342 | 47 | 1 | 26 | 30 | 7 | 1,302 | 417 |
| 区西北部圏 | 6 | 198 | 164 | 95 | 56 | 100 | 32 | 108 | 17 | 5 | 26 | 13 | 2 | 519 | 297 |
| 区東北部圏 | 3 | 52 | 21 | 13 | 12 | 10 | 4 | 15 | 1 | | 3 | 2 | | 92 | 41 |
| 区東部圏 | 6 | 199 | 143 | 104 | 33 | 56 | 24 | 154 | 13 | | 23 | 19 | 3 | 532 | 239 |
| 南多摩圏 | 5 | 1 | 143 | | 31 | | 11 | 1 | 8 | | 53 | | 3 | 2 | 249 |
| 北多摩西部圏 | 2 | 2 | 185 | | 27 | 1 | 18 | | 4 | | 12 | | | 3 | 246 |
| 北多摩南部圏 | 3 | 30 | 10 | | | 1 | 1 | 13 | | | | | | 44 | 11 |
| 北多摩北部圏 | 1 | | 8 | | | | | | 1 | | 1 | | | | 10 |

表9－6 保健所別、二次医療圏別定点当たり患者報告数(STI) 2007年1月～2007年12月

| | 設置 定 点 数 | 性器クラミジア 感染症 | | 性器ヘルペス ウイルス感染 症 | | 尖圭 コンジローマ | | 淋菌感染症 | | 膣トリコモナス 症 | | 梅毒様疾患 | | 人／定点 | | |
|----------|-------------------|----------------|-------|-----------------------|-------|--------------|-------|-------|------|--------------|-------|-------|------|--------|--------|-------|
| | | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | |
| 千代田 | 2 | 36.00 | 9.00 | 7.50 | 1.00 | 15.00 | 0.50 | 40.00 | | | | 1.00 | | 99.50 | 10.50 | |
| 中央区 | 3 | 20.83 | 17.33 | 4.83 | 4.33 | 2.67 | 1.33 | 12.00 | 0.33 | 0.83 | 1.67 | | | 41.17 | 25.00 | |
| みなと | 2 | 25.00 | 42.50 | 11.00 | 26.00 | 6.00 | 16.50 | 13.50 | 5.50 | 1.00 | 5.00 | | 1.00 | 56.50 | 96.50 | |
| 新宿区 | 6 | 59.10 | 20.30 | 45.57 | 16.47 | 41.27 | 7.10 | 49.67 | 7.03 | 0.17 | 2.57 | 3.60 | 0.90 | 199.37 | 54.37 | |
| 文京 | 1 | 50.00 | 1.00 | 11.00 | 1.00 | 9.00 | 4.00 | 31.00 | | | | 1.00 | 1.00 | 102.00 | 7.00 | |
| 台東 | 3 | 3.08 | 60.92 | 0.67 | 11.08 | 3.08 | 8.83 | 5.92 | 9.33 | 0.33 | 17.08 | 1.33 | 2.00 | 14.42 | 109.25 | |
| 墨田区 | 2 | 17.00 | 4.50 | 7.50 | 3.50 | 12.00 | 1.50 | 12.00 | 1.50 | | | 1.50 | 2.00 | 0.50 | 50.50 | 13.00 |
| 江東区 | 2 | 62.50 | 15.00 | 38.17 | 2.67 | 12.17 | 5.33 | 56.00 | 1.50 | | | 1.83 | 6.50 | | 175.33 | 26.33 |
| 品川区 | 1 | 3.00 | | 6.00 | | 1.00 | 1.00 | 6.00 | | | | | | 16.00 | 1.00 | |
| 大田区 | 2 | 8.67 | 16.17 | 1.33 | 2.33 | | | 10.00 | 0.50 | | | | | 20.00 | 19.00 | |
| 渋谷区 | 5 | 15.37 | 11.03 | 6.73 | 9.57 | 1.00 | 12.60 | 5.73 | | 0.87 | 0.33 | 1.00 | 0.60 | 30.70 | 34.13 | |
| 中野区 | 2 | 33.00 | 11.00 | 1.50 | 0.50 | 1.00 | 27.00 | 18.00 | 2.50 | | 5.00 | 5.00 | 1.00 | 58.50 | 47.00 | |
| 杉並 | 2 | 12.50 | 2.00 | 1.00 | 1.50 | 0.50 | | 11.00 | 0.50 | | 0.50 | 0.50 | | 25.50 | 4.50 | |
| 池袋 | 3 | 63.33 | 30.33 | 27.00 | 11.00 | 30.00 | 10.00 | 28.00 | 3.33 | 1.67 | 4.67 | 4.33 | 0.67 | 154.33 | 60.00 | |
| 北区 | 1 | 5.00 | | 6.00 | | 3.00 | | 5.00 | | | | | | 19.00 | | |
| 荒川区 | 1 | | 16.00 | | 11.00 | | | | 1.00 | | 3.00 | | | | 31.00 | |
| 板橋区 | 2 | 1.50 | 36.50 | 4.00 | 11.50 | 3.50 | 1.00 | 9.50 | 3.50 | | 6.00 | | | 18.50 | 58.50 | |
| 足立 | 2 | 28.00 | 3.00 | 7.00 | 0.50 | 5.00 | 2.00 | 8.00 | | | | 1.00 | | 49.00 | 5.50 | |
| 江戸川 | 2 | 18.00 | 48.00 | 3.50 | 10.00 | 6.00 | 5.00 | 6.50 | 3.50 | | 8.00 | 0.50 | 1.00 | 34.50 | 75.50 | |
| 町田 | 1 | | 11.00 | | 7.00 | | 1.00 | | 2.00 | | 15.00 | | 2.00 | | 38.00 | |
| 多摩立川 | 2 | 1.00 | 92.50 | | 13.50 | 0.50 | 9.00 | | 2.00 | | 6.00 | | | 1.50 | 123.00 | |
| 多摩府中 | 3 | 11.33 | 6.00 | | | 0.33 | 0.33 | 5.00 | | | | | | 16.67 | 6.33 | |
| 多摩小平 | 1 | | 8.00 | | | | | | 1.00 | | 1.00 | | | | 10.00 | |
| 八王子市 | 4 | 0.25 | 35.50 | | 6.50 | | 2.50 | 0.25 | 1.50 | | 10.33 | | 0.25 | 0.50 | 56.58 | |
| 合計 | 55 | 1,231 | 1,254 | 579 | 410 | 482 | 319 | 878 | 135 | 14 | 219 | 76 | 27 | 3,260 | 2,364 | |
| 定点当たり報告数 | | 23.72 | 24.37 | 11.41 | 8.00 | 9.37 | 6.02 | 17.01 | 2.62 | 0.30 | 4.38 | 1.46 | 0.53 | 63.28 | 45.92 | |

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------|----|-------|-------|-------|-------|-------|-------|-------|------|------|-------|------|------|--------|--------|
| 区中央部圏 | 11 | 21.51 | 30.62 | 6.57 | 9.40 | 5.70 | 6.32 | 16.43 | 5.00 | 0.32 | 10.60 | 0.31 | 0.94 | 50.83 | 62.89 |
| 区南部圏 | 3 | 4.40 | 8.71 | 3.69 | 1.09 | 0.05 | 0.57 | 8.44 | 0.15 | | | | | 16.59 | 10.52 |
| 区西南部圏 | 5 | 15.66 | 8.14 | 7.80 | 8.82 | 0.57 | 10.41 | 4.59 | | 1.62 | 0.62 | 0.38 | 0.12 | 30.62 | 28.12 |
| 区西部圏 | 10 | 45.11 | 14.51 | 33.74 | 10.50 | 27.33 | 9.13 | 39.46 | 4.66 | 0.03 | 1.72 | 4.24 | 0.86 | 149.91 | 41.38 |
| 区西北部圏 | 6 | 29.37 | 21.50 | 16.26 | 11.31 | 16.54 | 4.43 | 18.76 | 3.04 | 1.75 | 5.32 | 0.98 | 0.07 | 83.66 | 45.67 |
| 区東北部圏 | 3 | 16.42 | 7.08 | 3.51 | 4.11 | 2.31 | 0.72 | 3.62 | 0.14 | | 1.99 | 0.59 | | 26.44 | 14.05 |
| 区東部圏 | 6 | 34.90 | 24.79 | 21.18 | 5.53 | 9.93 | 2.70 | 30.26 | 1.63 | | 3.21 | 2.69 | 0.32 | 98.95 | 38.19 |
| 南多摩圏 | 5 | 0.22 | 31.29 | | 7.63 | | 1.18 | 0.22 | 0.81 | | 13.15 | | 1.09 | 0.45 | 55.15 |
| 北多摩西部圏 | 2 | 0.55 | 94.26 | | 11.61 | 0.33 | 6.65 | | 0.89 | | 5.76 | | | 0.87 | 119.18 |
| 北多摩南部圏 | 3 | 8.97 | 6.27 | | | 0.03 | 0.37 | 5.67 | | | | | | 14.67 | 6.63 |
| 北多摩北部 | 1 | | 8.18 | | | | | | 1.33 | | 1.33 | | | | 10.84 |

表9－7 年齢階級別患者報告数(STI) 2007年1月～2007年12月

人

| 年齢階級 | 性器クラミジア 感染症 | | 性器ヘルペス ウイルス感染症 | | 尖圭 コンジローマ | | 淋菌感染症 | | 膿トリコモナス 症 | | 梅毒様疾患 | | 合 計 | |
|--------|----------------|-------|-------------------|-----|--------------|-----|-------|-----|--------------|-----|-------|----|-------|-------|
| | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 | 男 | 女 |
| 0歳 | | | | | | | | | | | | | | |
| 1～4歳 | | | | | | | | | | | | | | |
| 5～9歳 | | | 1 | | | | | | | | | | 1 | |
| 10～14歳 | | 1 | | 1 | | | | | | | | | | 2 |
| 15～19歳 | 37 | 110 | 9 | 25 | 2 | 19 | 23 | 22 | | 9 | | | 71 | 185 |
| 20～24歳 | 187 | 452 | 38 | 76 | 57 | 93 | 144 | 50 | 1 | 51 | 4 | 3 | 431 | 725 |
| 25～29歳 | 267 | 328 | 98 | 97 | 110 | 74 | 219 | 28 | 3 | 40 | 10 | 6 | 707 | 573 |
| 30～34歳 | 228 | 202 | 97 | 72 | 104 | 54 | 196 | 16 | 2 | 38 | 11 | 6 | 638 | 388 |
| 35～39歳 | 205 | 83 | 112 | 41 | 78 | 34 | 122 | 6 | 2 | 30 | 12 | 4 | 531 | 198 |
| 40～44歳 | 131 | 44 | 79 | 25 | 56 | 19 | 70 | 5 | 2 | 12 | 9 | 3 | 347 | 108 |
| 45～49歳 | 76 | 26 | 53 | 19 | 31 | 11 | 47 | 5 | 2 | 19 | 11 | 2 | 220 | 82 |
| 50～54歳 | 48 | 5 | 34 | 11 | 23 | 8 | 24 | 3 | 1 | 6 | 6 | | 136 | 33 |
| 55～59歳 | 36 | 3 | 30 | 12 | 9 | 2 | 22 | | | 9 | 8 | 1 | 105 | 27 |
| 60～64歳 | 12 | | 12 | 10 | 6 | 1 | 8 | | 1 | 2 | 2 | | 41 | 9 |
| 65～69歳 | 3 | | 14 | 8 | 4 | | 2 | | | 3 | 2 | 1 | 25 | 12 |
| 70歳以上 | 1 | | 2 | 13 | 2 | 4 | 1 | | | | 1 | 1 | 7 | 18 |
| 合 計 | 1,231 | 1,254 | 579 | 410 | 482 | 319 | 878 | 135 | 14 | 219 | 76 | 27 | 3,260 | 2,364 |

第 2 章

東京都感染症発生動向調査事業における病原体検索情報

感染症法により位置づけられた感染症発生動向調査事業において、地方感染症情報センターは患者情報と病原体情報を収集・分析し、速やかに医師会等の関係機関に提供・公開することとされている。これに基づいて、東京都健康安全研究センターは、病原体定点などの医療機関から搬入された検体について病原体の検索を行い「東京都感染症週報」に病原体情報としてまとめ、関係機関に提供・公開している。以下、ウイルス検査、細菌検査、性感染症の検査結果について年報としてまとめた。

1 ウイルス検査結果

(1) 小児科・基幹病原体定点から搬入された検体の検査結果

ア 臨床診断名別にみた検体搬入状況

2007年1月から12月末までの間に、東京都内の小児科及び基幹病原体定点より2,012件の検体が搬入された。その内訳は、咽頭拭い液997件、髄液446件、糞便388件、血液90件、尿44件、結膜拭い液35件及びその他（胸水、皮膚病巣等）12件であった。

表1. 臨床診断名別にみた検体搬入状況

| 診断名 | 総 計 | 検体種 | | | | | | |
|--------|------------|-------|-----|-----|-----|----|-------|----|
| | | 咽頭拭い液 | 髄液 | 糞便 | 血液 | 尿 | 結膜拭い液 | |
| 呼吸器系疾患 | 上気道炎 | 185 | 172 | 5 | 2 | 3 | 1 | 2 |
| | 下気道炎 | 201 | 184 | 5 | 6 | 3 | 1 | 1 |
| | インフルエンザ | 119 | 100 | 13 | 1 | 4 | 1 | |
| | R Sウイルス感染症 | 14 | 13 | 1 | | | | |
| | マイコプラズマ肺炎 | 7 | 7 | | | | | |
| | 咽頭結膜熱 | 6 | 6 | | | | | |
| | 不明熱 | 156 | 75 | 62 | 11 | 4 | 4 | |
| 神経系疾患 | 感染性胃腸炎 | 307 | 13 | 5 | 287 | 2 | | |
| | 無菌性髄膜炎 | 233 | 37 | 157 | 15 | 16 | 8 | |
| | けいれん | 159 | 46 | 90 | 14 | 5 | 3 | 1 |
| | 脳炎・脳症 | 93 | 15 | 50 | 13 | 8 | 6 | |
| | 脊髄炎 | 14 | 1 | 9 | | 3 | 1 | |
| | 麻痺 | 9 | 5 | 2 | 1 | 1 | | |
| | 麻疹 | 34 | 30 | 4 | | | | |
| 発しん性疾患 | 伝染性紅斑 | 19 | 19 | | | | | |
| | 手足口病 | 17 | 15 | 1 | 1 | | | |
| | 突発性発しん | 17 | 12 | 3 | 2 | | | |
| | 水痘 | 16 | 7 | 3 | | 2 | | 4 |
| | ヘルパンギーナ | 15 | 14 | | | | | 1 |
| | 口内炎 | 8 | 8 | | | | | |
| | 風しん | 2 | 2 | | | | | |
| | 川崎病 | 30 | 19 | 4 | 4 | 3 | | |
| | 不明発しん症 | 121 | 102 | 4 | 6 | 4 | 1 | 3 |
| | 流行性角結膜炎 | 29 | 1 | | | | | 28 |
| その他の疾患 | 流行性耳下腺炎 | 25 | 25 | | | | | |
| | リンパ節炎 | 21 | 17 | | 1 | 2 | | |
| | デング熱 | 11 | | | | 11 | | |
| | 心筋炎 | 11 | 5 | | 4 | 2 | | |
| | 肝炎 | 10 | 4 | 1 | 1 | 2 | 2 | |
| | ギランバレー | 8 | 2 | 1 | 2 | | 2 | |
| | サイトメガロ | 8 | 2 | | 1 | 2 | 3 | |
| | 血球貪食症候群 | 6 | | | | 6 | | |
| | その他 | 101 | 39 | 26 | 16 | 7 | 11 | 1 |
| | 総計 | 2012 | 997 | 446 | 388 | 90 | 44 | 35 |
| | | | | | | | | 12 |

臨床診断名からみた搬入検体数は、呼吸器系疾患 688 件（上気道炎 185 件、下気道炎 201 件、インフルエンザ 119 件、RS ウイルス感染症 14 件、マイコプラズマ 7 件、咽頭結膜熱 6 件、不明熱 156 件）、感染性胃腸炎 307 件、神経系疾患 508 件（無菌性髄膜炎 233 件、痙攣 159 件、脳炎・脳症 93 件、脊髄炎 14 件、麻痺 9 件）、発しん性疾患 279 件（麻しん 34 件、伝染性紅斑 19 件、手足口病 17 件、突発性発しん 17 件、水痘 16 件、ヘルパンギーナ 15 件、口内炎 8 件、風しん 2 件、川崎病 30 件、不明発しん症 121 件）、流行性角結膜炎 29 件、流行性耳下腺炎 25 件、リンパ節炎 21 件、 Dengue 热 11 件、心筋炎 11 件、肝炎 10 件、ギランバレー症候群 8 件、サイトメガロ感染症 8 件、血球貪食症候群 6 件、「その他」 101 件であった。「その他」には腎不全、筋炎、無呼吸発作、脳梗塞、てんかん、敗血症等が含まれる。また診断名の記載のないものが 9 件あった。

イ 臨床診断名別にみたウイルス分離検出状況

搬入された検体 2,012 件のうち、血液を除く 1,922 件を対象に、細胞培養（HeLa、Hep-2、RD-18S、MDCK、Vero・B95a、LLCMK2 細胞等）及び乳のみマウスによるウイルス分離試験と酵素抗体法によるロタウイルス抗原の検出を行った結果、238 件のウイルスが分離検出された（表 2）。分離されたウイルスの内訳は、図 1 に示すようにインフルエンザウイルス 12 株（5.0%）、アデノウイルス 76 株（31.9%）、ポリオウイルス 22 株（9.2%）、コクサッキーウイルス 54 株（22.7%）、エコーウィルス 21 株（8.8%）、単純ヘルペスウイルス 4 株（1.7%）、麻しんウイルス 7 株（2.9 %）、RS ウィルス 9 株（3.8%）、ヒトメタニューモウイルス 4 株(1.7%)、ムンプスウイルス 1 株（0.4 %）であった。ロタウイルス抗原は 28 件（11.8%）が確認された。

本年最も高頻度に分離されたウイルスは表 2 に示したごとく、コクサッキーウィルス B 群 5 型（38 株）で、無菌性髄膜炎（17 株）、上気道炎（4 株）、下気道炎（3 株）、不明熱（5 株）患者検体から多く分離された。コクサッキーウィルス A 群 10 型はヘルパンギーナ患者検体から 4 株分離された。コクサッキーウィルス B 群は他にも、1・2・4 型が上気道炎、感染性胃腸炎、不明熱患者検体から分離されていた。

エコーウィルスは昨年に続いて 30 型の分離が最も多い、17 株が分離された。その多くは無菌性髄膜炎患者検体からの分離（13 株）であった。他に 6 型、9 型、18 型が無菌性髄膜炎、不明熱、上気道炎、けいれんから分離された。

ポリオウイルスは、1 型 3 株、2 型 14 株、3 型 5 株分離されたが、感染性胃腸炎患者検体からの分離が多く（9 株）みられた。これらの患者は全て検体採取日の一ヶ月以内にポリオワクチンを接種したことが確認されている。

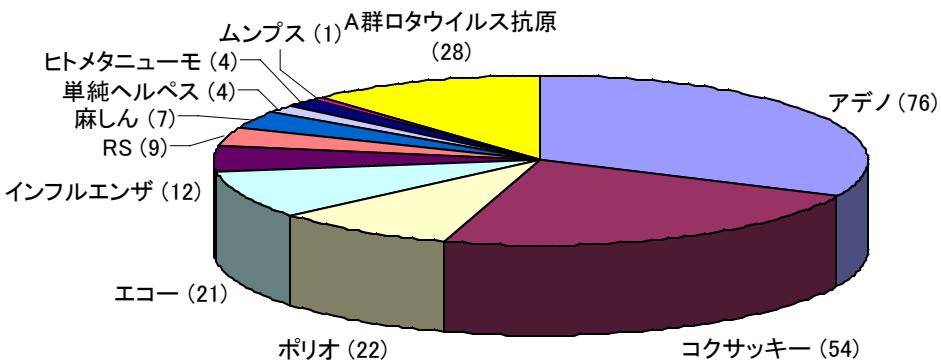


図 1. ウィルス分離検出数（分離検出数：238件）

アデノウイルスで最も多く分離されたのは2型(27株)で、上気道炎(7株)、下気道炎(6株)、感染性胃腸炎(4株)、不明発しん症患者検体(3株)から多く分離された。また、咽頭結膜熱、突発性発しん、ヘルパンギーナ患者検体からも分離されており、このウイルスの感染による病状が多岐にわたることがうかがえた。2006年に最も多く分離されたアデノウイルス3型は、2007年には2006年の7割程度の分離数(18株)であったのに対し、アデノウイルス2型の分離数は約2倍(27株)に増加した。

インフルエンザウイルスは、AH1亜型8株、AH3亜型2株、B型2株が分離された。同ウイルスはインフルエンザ患者検体からの分離が多かったが、上気道炎、下気道炎患者検体からも分離された。

RSウイルスは、RSウイルス感染症患者検体の他、上気道炎、ならびに下気道炎患者検体からも分離されていた。RSウイルスと同様に乳幼児の呼吸器疾患の原因とされるヒトメタニューモウイルスは上気道炎、下気道炎患者検体から検出された。

胃腸炎患者検体から、酵素抗体法によりA群ロタウイルス28件が確認された。

表2. 臨床診断名別にみたウイルス分離検出状況

| | 分離検出数 | 上気道炎 | 下気道炎 | インフルエンザ | RSウイルス感染症 | 咽頭結膜熱 | 不明熱 | 胃腸炎 | 無菌性髄膜炎 | けいれん | 脳炎・脳症 | 麻痺 | 麻しん | 伝染性紅斑 | 突発性発しん | 水痘 | ヘルパンギーナ | 口内炎 | 川崎病 | 不明発しん症 | 流行性角結膜炎 | 流行性耳下腺炎 | 肝炎 | その他 | | | |
|---------------|-------|------|------|---------|-----------|-------|-----|-----|--------|------|-------|----|-----|-------|--------|----|---------|-----|-----|--------|---------|---------|----|-----|---|---|--|
| 検査検体数 | 1922 | 182 | 198 | 115 | 13 | 6 | 152 | 305 | 217 | 154 | 85 | 8 | 34 | 19 | 17 | 16 | 15 | 8 | 27 | 117 | 29 | 25 | 8 | 94 | | | |
| 分離ウイルス | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| AH1亜型 | 8 | | 1 | 7 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| インフルエンザ AH3亜型 | 2 | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| B型 | 2 | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| アデノ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1型 | 12 | 2 | 2 | | | | | | 2 | 3 | | | | | | | | | | | | | 2 | | 1 | | |
| 2型 | 27 | 7 | 6 | | | | | 1 | 1 | 4 | | 3 | | | | | | 1 | 1 | | | | 3 | | | | |
| 3型 | 18 | 6 | 1 | | | | | 3 | 1 | 2 | | 1 | | | | | 1 | | | | | | 2 | 1 | | | |
| 4型 | 4 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 4 | | |
| 5型 | 9 | 6 | 1 | 1 | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6型 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | |
| 19型 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 | | |
| 37型 | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 3 | | |
| ポリオ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1型 | 3 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | 2 | | |
| 2型 | 14 | 1 | 3 | | | | | | | 1 | 6 | | 1 | | | | | | | | | | | 2 | | | |
| 3型 | 5 | 1 | | | | | | | | 2 | | | 1 | | | | | | | | | | | 1 | | | |
| コクサッキー | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| B群1型 | 2 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | |
| B群2型 | 4 | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | |
| B群4型 | 2 | 1 | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| B群5型 | 38 | 4 | 3 | 2 | | | | | 5 | 1 | 17 | 1 | | | | | | 1 | 1 | 1 | 1 | 2 | | | | | |
| A群4型 | 3 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | | |
| A群10型 | 5 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 4 | | |
| エコー | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6型 | 2 | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9型 | 1 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 18型 | 1 | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 30型 | 17 | 1 | | | | | | | 2 | | 13 | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| 単純ヘルペス | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 1型 | 4 | 1 | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | 1 | 1 | | | | | | | |
| 麻しん | 7 | | | | | | | | | | | | | | | | 7 | | | | | | | | | | |
| RS | 9 | 2 | 2 | | 3 | | | 1 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| ヒトメタニューモ | 4 | 2 | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ムンブズ | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| ロタ(抗原検出) | A群 | 28 | | | | | | | | 28 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 総計 | | 238 | 42 | 21 | 12 | 3 | 4 | 14 | 51 | 32 | 6 | 2 | 1 | 7 | 1 | 2 | 1 | 7 | 1 | 3 | 15 | 10 | 1 | 1 | 1 | | |

ウ 臨床診断名別にみたウイルス遺伝子検出状況

臨床診断名別にみた遺伝子検索状況を表3及び図2に示した。

搬入された検体2,012件を対象に遺伝子検索を実施した結果、975検体(48.5%)から1,213件のウ

イルス遺伝子が検出された（複数種のウイルス遺伝子検出例を含む）。陽性例の内訳をみると、エンテロウイルスが 235 件 (19.4%) と最も多く、以下、アデノウイル 200 件 (16.5%)、ヒトヘルペスウイルス 173 件 (14.3%)、ノロウイルス 84 件 (6.9%)、ライノウイルス 81 件 (6.6%)、インフルエンザウイルス 71 件 (5.9%)、EB ウィルス 66 件 (5.4%)、パラインフルエンザウイルス 59 件 (4.9%)、RS ウィルス 55 件 (4.5%)、麻しんウィルス 43 件 (3.5%)、ヒトメタニユーモウイルス 36 件 (3.0%)、サイトメガロウイルス 31 件 (2.6%)、単純ヘルペスウイルス 20 件 (1.6%)、パルボウイルス B19 13 件 (1.1%)、マイコプラズマ・ニューモニエ 13 件 (1.1%)、ムンプスウイルス 12 件 (1.0%)、水痘帯状疱疹ウイルス 9 件 (0.7%)、サポウイルス 5 件 (0.4%)、デングウイルス 3 件 (0.2%)、風しんウイルス 3 件 (0.2%)、ロタウイルス 1 件 (0.1%) であった。

エンテロウイルスについては、ダイレクトシークエンス法により遺伝子増幅産物の遺伝子配列を決定し、NCBI（国立バイオテクノロジー情報センター）の遺伝子データベースを使用して遺伝子の相同性検索を行い、検出遺伝子のさらなる分類を試みた。エンテロウイルス遺伝子検査結果が陽性となった 235 検体の遺伝子を解析した結果は、コクサッキー A 群 35 件、コクサッキー B 群 47 件、エコーウィルス 49 件、ポリオウイルス 37 件、エンテロウイルス 71 型 17 件、エンテロウイルス型別不明 50 件であった。

表 3. 臨床診断名別にみたウイルス遺伝子検出状況

| | 総検査数 | 陽性総数 | 上気道炎 | 下気道炎 | インフルエンザ | RSウイルス感染症 | マイコプラズマ肺炎 | 咽頭結膜熱 | 不明熱 | 胃腸炎 | 無菌性髄膜炎 | けいれん | 脳炎・脳症 | 麻痺 | 伝染性紅斑 | 突発性発しん | 手足口病 | 水痘 | ヘルパンギーナ | 川崎病 | 風しん | 口内炎 | 不明発しん症 | 流行性角結膜炎 | 流行性耳下腺炎 | リンバ節炎 | デング熱 | 心筋炎 | 肝炎 | サイトメガロ | その他 | | | |
|----------|------|------|------|------|---------|-----------|-----------|-------|-----|-----|--------|------|-------|----|-------|--------|------|----|---------|-----|-----|-----|--------|---------|---------|-------|------|-----|----|--------|-----|---|-----|----|
| 検査検体数 | 2012 | 975 | 185 | 201 | 119 | 14 | 7 | 6 | 156 | 307 | 233 | 159 | 93 | 9 | 34 | 19 | 17 | 17 | 16 | 15 | 8 | 2 | 30 | 121 | 29 | 25 | 21 | 11 | 11 | 10 | 8 | 6 | 101 | |
| AH1亜型 | | 25 | | 4 | 20 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| インフルエンザ | 565 | 25 | 2 | 1 | 22 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| AH3亜型 | | 25 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| B型 | | 21 | 1 | 3 | 15 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| アデノ | 1845 | 200 | 42 | 32 | 17 | 2 | 1 | 4 | 9 | 27 | | 7 | 2 | | 4 | 2 | 2 | 1 | | 1 | 1 | | 5 | 13 | 14 | 4 | 3 | | | 7 | | | | |
| ポリオ | | 37 | 5 | 7 | | 1 | | | | 13 | | 2 | 1 | 1 | | | | | | | | | 1 | | 6 | | | | | | | | | |
| コクサッキーA群 | | 35 | 9 | 3 | 1 | 1 | 1 | | | 3 | 1 | 1 | | | | | 4 | 1 | | 3 | 2 | 1 | 1 | 3 | | | | | | | 1 | | | |
| エンテロ | 1835 | 47 | 12 | 5 | 1 | | | | 4 | 3 | 16 | | | | | | 1 | 1 | | 1 | 1 | | 2 | 1 | | | | | | | | | | |
| コクサッキーB群 | | 49 | 2 | 3 | 1 | | | | 5 | 1 | 30 | 1 | | | | 1 | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | |
| エコー | | 17 | 6 | 1 | | | | | 1 | | | | | | | | | 7 | | 2 | | | | | | | | | | | | | | |
| 71型 | | 50 | 10 | 9 | 1 | | | | 1 | 3 | 17 | | 1 | | | 1 | 4 | | 1 | 1 | | | | | | | | | | | | | | |
| 型別不明 | | 81 | 13 | 21 | 4 | 1 | 1 | | 3 | 7 | 2 | 3 | 2 | 2 | | | 1 | | 1 | | 2 | 13 | 3 | 1 | 1 | | | | | | 1 | | | |
| ライノ | | 555 | 20 | | 1 | | | | | 1 | 4 | 1 | 4 | | | | | | 1 | 1 | 3 | | 2 | | | | | | | | | 2 | | |
| 単純ヘルペス | | 464 | 146 | 4 | 7 | 3 | 1 | 1 | 17 | 1 | 5 | 33 | 8 | 1 | 3 | | 3 | 6 | 6 | | 2 | 39 | | 1 | 1 | | | | | | 4 | | | |
| ヒトヘルペス | 6型 | 27 | | 1 | 2 | 1 | | 2 | | 2 | 3 | 1 | 1 | | | 1 | | 1 | | 1 | | 10 | | | | | | | | | 2 | | | |
| 7型 | | 303 | 31 | 3 | 9 | | | | 3 | 6 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | 1 | 2 |
| サイトメガロ | | 423 | 66 | 3 | | | | | 3 | 1 | 1 | 2 | | | | 2 | 2 | 1 | 1 | | 1 | 2 | 10 | 11 | 8 | | 2 | 4 | 12 | | | | | |
| EB | | 124 | 9 | | | | | | | 4 | | | | | | | | 4 | | | | 1 | | | | | | | | | | | | |
| 水痘帯状疱疹 | | 9 | 3 | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 2 |
| デング | | 32 | 3 | | | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| 風しん | | 291 | 43 | | | | | | 5 | 1 | 1 | 1 | 1 | 24 | | | 1 | | | | 2 | 7 | | | | | | | | | | | | |
| 麻しん | | 227 | 12 | 1 | | | | | | | 3 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 8 | |
| ムンプス | | 239 | 29 | 13 | 13 | | | | 2 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| 1型 | | 30 | 11 | 16 | | | | | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| 3型 | | 248 | 55 | 4 | 37 | 2 | 10 | | 1 | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| RS | | 169 | 36 | 10 | 24 | | | | | | 1 | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | |
| ヒトメタニユーモ | | 76 | 13 | | | | | | | | | | | | | | | 12 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 |
| バルボ | B19 | 452 | 13 | 1 | 5 | 2 | 1 | 1 | 1 | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| ノロ | | 326 | 84 | | 1 | | | | | | 80 | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | 1 | |
| サポ | | 326 | 5 | | | | | | | | 5 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| ロタ | | 294 | 1 | | | | | | | | | | | | | | 1 | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 総計 | | 8803 | 1213 | 152 | 202 | 92 | 16 | 6 | 6 | 63 | 146 | 90 | 64 | 21 | 3 | 36 | 19 | 21 | 11 | 9 | 17 | 7 | 2 | 16 | 109 | 14 | 27 | 16 | 2 | 3 | 3 | 2 | 4 | 34 |

この解析の結果、無菌性髄膜炎患者検体から検出されたエンテロウイルス遺伝子は、エコーウィルスとコクサッキー B 群ウイルスの遺伝子が多いことが判明した。また、手足口病患者検体から

検出されたエンテロウイルス遺伝子は、エンテロウイルス 71 型のものが多かった。

ライノウイルス遺伝子は一般に鼻風邪の原因ウイルスと認識されていることが多いが、下気道炎患者検体からの検出が多く、また不明発しん症患者検体からも検出されていた。

アデノウイルス遺伝子は多様な臨床症状の患者検体から検出されたが、上・下気道炎、感染性胃腸炎、不明発しん症患者等の検体から特に多く検出されていた。

ヒトヘルペスウイルスは突発性発しんの原因ウイルスとして知られており、不明発しん症患者検体から最も多く検出された。また、けいれん患者の検体からも多く検出されているが、これは突発性発しん発症初期の高熱による熱性痙攣と考えられる。

EB ウィルス遺伝子は、流行性耳下腺炎患者検体から最も多く検出されたが、これは同ウイルス感染が頸部リンパ節の腫脹を伴うことが多いためと考えられた。

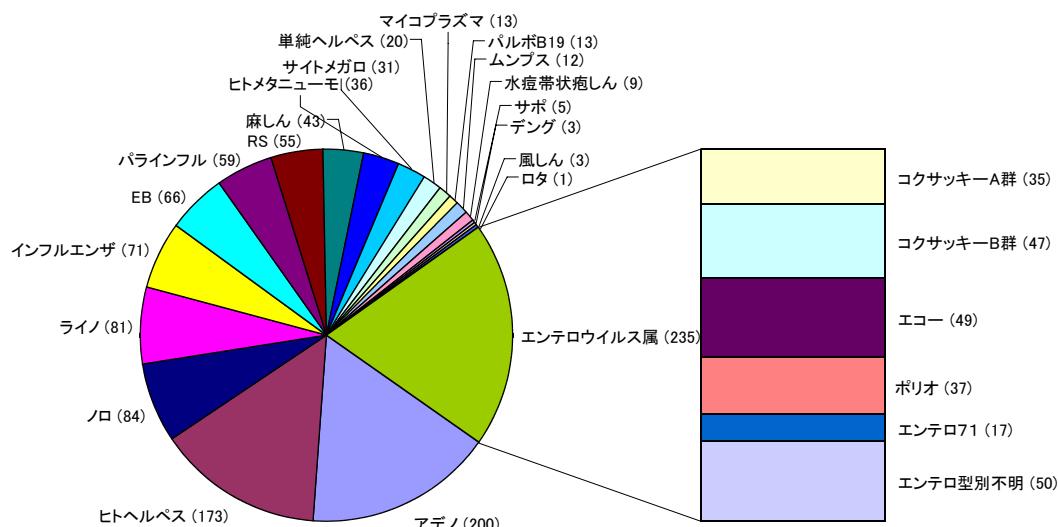


図 2. ウィルス遺伝子検出数（陽性例：1,213件）

エ 臨床診断名別にみたウイルス検出状況

① 呼吸器系疾患患者検体からのウイルス検出状況

呼吸器感染症である上気道炎、下気道炎、インフルエンザ、咽頭結膜熱、RS ウィルス感染症患者の咽頭拭い液（鼻汁を含む）から検出されたウイルスのうち、約 9 割を占める上位 7 種のウイルス（アデノウイルス、ライノウイルス、RS ウィルス、エンテロウイルス、インフルエンザウイルス、パラインフルエンザウイルス、ヒトメタニューモウイルス）における月別の検出状況を図 3 に示した。

呼吸器系疾患の流行は、毎年 1 月から 2 月にかけて流行するインフルエンザから始まることが多いが、2007 年のインフルエンザウイルス検出のピークは 3 月であった。この流行は 5 月には終息したが、早くも 9 月には 2 名の患者検体から 2 件のインフルエンザ AH1 亜型遺伝子が検出された。

アデノウイルス感染症の流行は通常、夏季を中心に春から秋にかけてみられることが多いが、2007 年は冬に多く検出された。検出状況は例年と異なり、夏季の検出は少なく、10 月から検出数が上昇し、12 月をピークとする特異なパターンを示していた。なお、分離されたアデノウイルスの血清型は、1 型、2 型、3 型、5 型であり、そのほぼ半数が 2 型であった。

RS ウィルス感染症は東京では通常 10 月に流行のピークがあり、春先にも小さな流行のピークを示すことが多い。しかし 2007 年には春先の流行は見られず、10 月から増加し 12 月をピークを示

す流行パターンを示していた。

パラインフルエンザウイルスの検出は、例年6月がピークであるが、2007年は6月から7月にかけて多く検出された。2006年は主に3型が検出されていたが、2007年は6月には3型が、7月、には1型が多く検出された。

ライノウイルスの検出ピークは、初夏と冬季にみられることが多いが、2007年はほぼ一年中検出されており、明確なピークは示さなかった。

エンテロウイルスは主に夏風邪の原因とされるウイルスであるが、今年は7月と10月を中心とした二峰性の検出パターンを示していた。

ヒトメタニューモウイルスは、乳幼児にRSウイルスと類似の呼吸器疾患を起こすウイルスであるが、RSウイルスとは異なり、6月7月を中心とした流行形態を示していた。

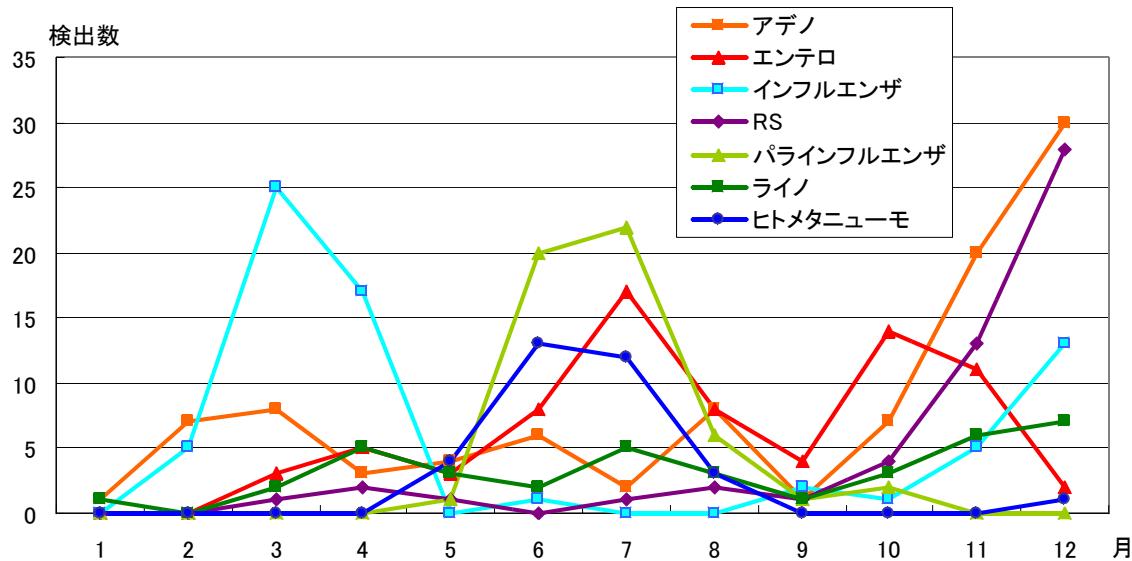


図3. 呼吸器系感染症患者検体からの月別ウイルス検出状況

② 無菌性髄膜炎患者検体からのウイルス検出状況

無菌性髄膜炎患者検体から検出されたウイルスの中で最も多かったエンテロウイルス属とムンプスウイルス及びヘルペスウイルス属について月別の検出状況を図4に示した。なお、サイトメガロウイルス、ヒトヘルペスウイルス、単純ヘルペスウイルス、水痘帯状疱疹ウイルス等のヘルペスウイルス属をまとめて「ヘルペス」として計上した。

無菌性髄膜炎は、夏季を中心として流行する中枢神経系の疾患で、毎年夏季に大小の流行を起しが、原因ウイルスの種類は毎年異なっている事が多い。本疾患は、主にエンテロウイルスによって起こることが多いが、ムンプスウイルスによっても起こることが知られている。2007年はムンプスウイルスの遺伝子検出例は3件で、検出時期は1月と5月であった。それに対し、エンテロウイルスは例年通り夏季を中心とした検出パターンを示し、8月を中心とした大きなピークを示していた。

エンテロウイルスの遺伝子解析により、コクサッキーウィルスA群1件、コクサッキーウィルスB群16件、エコーウィルス30件が同定され、17件が型別不明であった。また、ウイルス分離ではコクサッキーウィルスB群5型17株、エコーウィルス6型1株、同9型1株、同30型13株が分離されたことから考えて、2007年に流行した無菌性髄膜炎の起因ウイルスは、コクサッキー

ウイルス B 群 5 型とエコーウィルス 30 型が中心であったことが示唆された。その他、ライノウイルス 2 件、麻しんウイルス 1 件、パラインフルエンザウイルス 1 件が検出された。

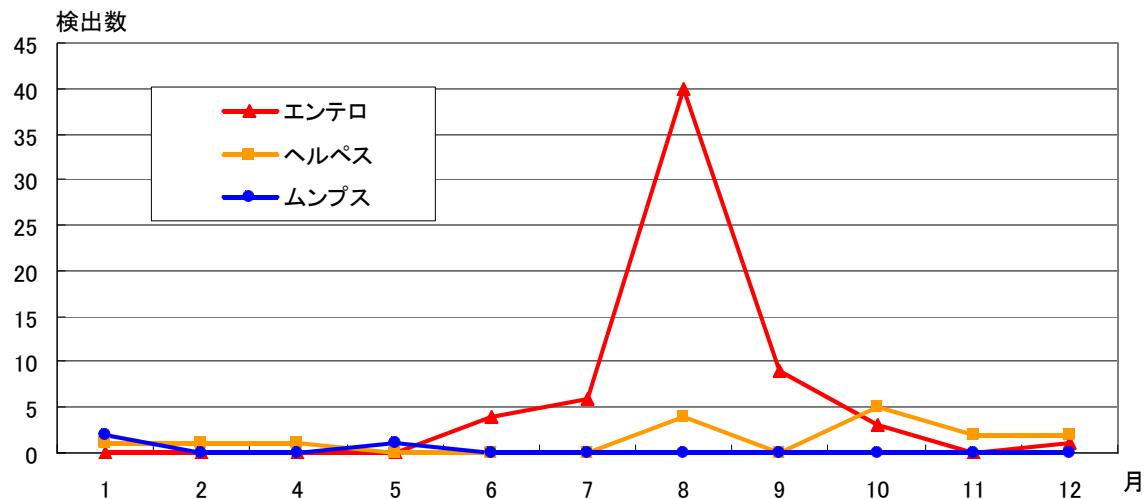


図 4. 無菌性髄膜炎患者検体からの月別ウイルス検出状況

③ 感染性胃腸炎患者検体からのウイルス検出状況

感染性胃腸炎患者検体から、ウイルス分離、遺伝子検索、抗原検出酵素抗体法によって検出されたウイルスの月別検出数を図 5 に示した。ノロウイルスの検出は 11 月に急峻な立ち上がりを示し、同時期からノロウイルスを原因とする胃腸炎の流行が始まったことが示唆された。ロタウイルスは 1 月から 5 月にかけて検出された。アデノウイルスは、主に冬季に検出され、分離されたウイルスの血清型は、2 型が 4 株と最も多く、1 型 3 株、2 型が各 2 株であった。また、エンテロウイルス属の検出例は少なかったが、遺伝子解析の結果、コクサッキーウィルス B 群、エコーウィルス、型別不明がそれぞれ 3 件、ポリオウイルスが 13 株であった。分離されたエンテロウイルス属はコクサッキーウィルス B 群 4 型 3 株、ポリオウイルス 9 株であった。

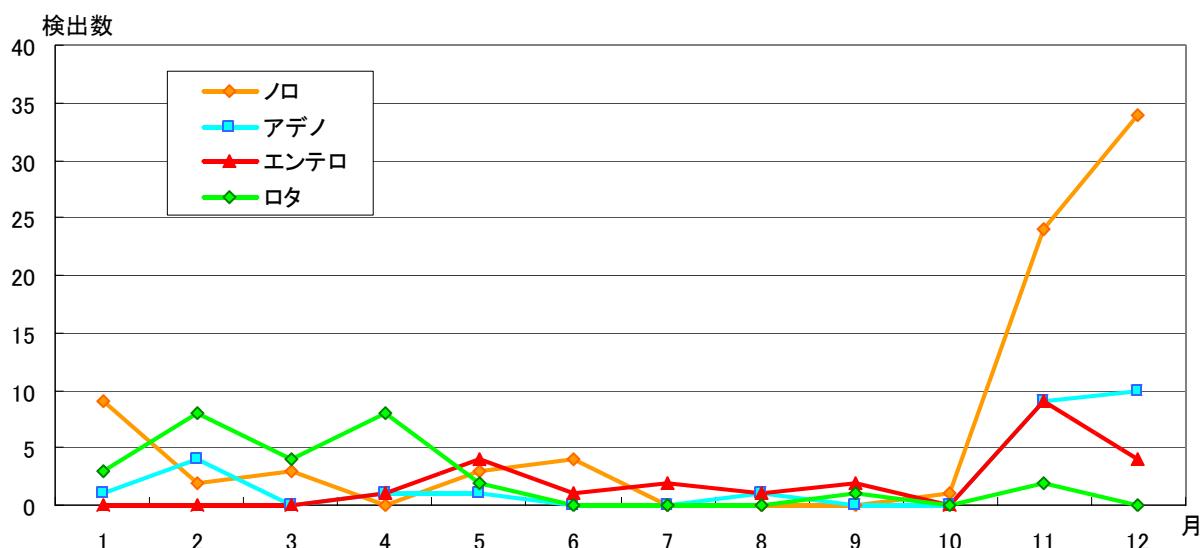


図 5. 感染性胃腸炎患者検体からの月別ウイルス検出状況

④ 発しん性疾患患者検体からのウイルス検出状況

発しん性疾患（麻しん、伝染性紅斑、突発性発しん、水痘ヘルパンギーナ、口内炎、風しん）の患者検体 279 件よりアデノウイルス 3 株（2型 2 株、3型 1 株）、コクサッキーウィルス A 群 5 株（4型 1 株、10型 4 株）、単純ヘルペスウイルス 1型 2 株、麻しんウイルス 7 株の計 19 株が分離された。一方、遺伝子検索では、アデノウイルス 11 件、エンテロウイルス属 33 件（遺伝子解析；ポリオウイルス 1 件、コクサッキーウィルス A 群 10 件、同 B 群 3 件、エコーウィルス 3 件、エンテロウイルス 71 型 9 件、型別不明 7 件）、ライノウイルス 3 件、ヘルペスウイルス属 36 件（単純ヘルペスウイルス 5 件、ヒトヘルペスウイルス 6 型 18 件、同 7 型 2 件、EB ウィルス 7 件、水痘帯状疱しんウイルス 4 件）、麻しんウイルス 25 件、パルボ B19 ウィルス 12 件、ヒトメタニューモウイルス、マイコプラズマ・ニューモニエ各 1 件の計 122 件であった。

手足口病の原因ウイルスは、主にコクサッキーウィルス A 群とエンテロウイルス 71 型であるが、2007 年のヘルパンギーナ患者から検出されたウイルスはエンテロ 71 型が多数であった。

突発性発しん患者検体からの遺伝子検出陽性例 11 件（6種類のウイルス）のうちヒトヘルペスウイルス 6 型遺伝子が 6 件 (45.5 %) を占めていた。また、伝染性紅斑では遺伝子陽性例 19 件 (6種類) のうち、パルボ B19 ウィルス遺伝子が 12 件 (63.2 %) であった。口内炎患者検体からは、遺伝子陽性例 7 件 (4種類) のうち単純ヘルペスウイルス遺伝子が 3 件 (42.9%)、麻しん患者検体からは遺伝子陽性例 36 件 (6種類) のうち麻しんウイルスは 24 件 (66.7%)、アデノウイルスが 4 件 (11.1%)、ヒトヘルペスウイルス 6 型 3 株 (8.3%)、ライノウイルス 2 件 (5.6%)、EB ウィルス 2 件 (5.6%)、エコーウィルスが 1 件 (2.8%) であった。水痘患者検体からは、遺伝子陽性例 9 件 (6種類) から水痘帯状疱しんウイルス遺伝子 4 件 (44.4%) が検出された。

⑤ 不明発しん症患者検体からのウイルス検出状況（都独自調査疾患）

不明発しん症患者検体 121 件から、アデノウイルス 8 株（1型 2 株、2型 3 株、3型 2 株、6型 1 株）、ポリオウイルス 5 株（1型、2型各 2 株、3型 1 株）、コクサッキーウィルス B 群 5 型 2 株が分離された。

遺伝子検出状況は図 6 に示した。陽性例 109 件に対してヒトヘルペスウイルスは 49 件 (45.0 %) を占め、そのうちヒトヘルペスウイルス 6 型が 39 件であった。次に多く検出されたのはライノウイルスとアデノウイルスで各 13 件 (11.9%) であった。エンテロウイルスは 10 件 (9.2%) で 3 種類（ポリオウイルス、コクサッキーウィルス A 群・B 群、）のウイルス遺伝子が検出された。

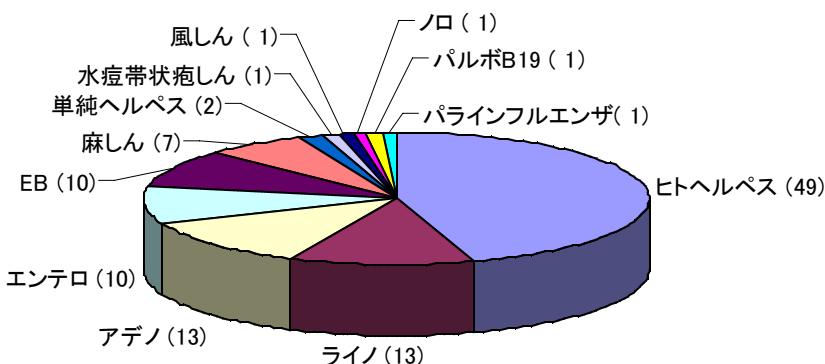


図 6. 不明発しん症患者検体からのウイルス遺伝子検出状況

⑥ MCLS（川崎病）患者検体からのウイルス検出状況（都独自調査疾患）

MCLS（川崎病）患者検体 30 検体からは、コクサッキーウィルス B 群 3 株（1型、2型、5型各 1 株）が分離された。また、遺伝子検索状況を図 7 に示した。16 件のウイルス遺伝子が検出され、アデノウイルスが 5 件(31.3%)、エンテロウイルスが 3 件(18.8 %)、EB ウィルス、ヒトヘルペスウイルス、麻しんウィルス、ライノウイルスが各 2 件(12.5 %)であった。

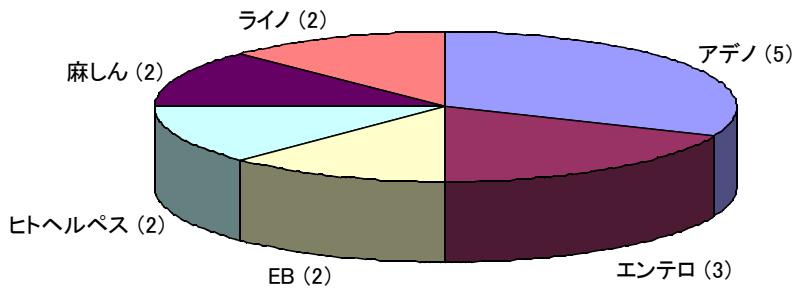


図 7. MCLS（川崎病）患者検体からのウイルス遺伝子検出状況

才 臨床診断名別にみた血中抗体検査状況

2007 年に都内 3 定点医療機関より 20 例のリケッチア症疑い患者検体が搬入された。内訳は、Q 热リケッチアが 9 件と最も多く、ついでバルトネラの 6 件、紅斑熱リケッチアの 6 件が続いている。定点医療機関が比較的都心にあることからツツガムシ病リケッチアは 3 件に留まっている。また、ライム病に関しても 1 件の依頼があった。検査の結果、蛍光抗体法により Q 热、バルトネラ、つつが虫病疑い検体の各 1 件から弱陽性の IgG が検出された以外は IgM、IgG 抗体のすべてが陰性であった。搬入月別の検体搬入状況では、4～6 月に 8 件の搬入があり、次いで 8～10 月の 4 件が搬入され、リケッチア症の流行時期である春、秋に検体搬入が集中する傾向があった。

また、デング熱疑いの患者の血液（血清を含む）が 11 件搬入され、5 検体から抗デングウィルス IgM が検出された。

カ 2007年の麻しん流行について

2007 年には全国規模で、6 年ぶりの大規模な麻しんの流行がみられた。都内でも麻しんウィルスの検出数は、図 8 に示した通り 3 月から増え始め、5 月をピークとして 8 月末まで続いた。

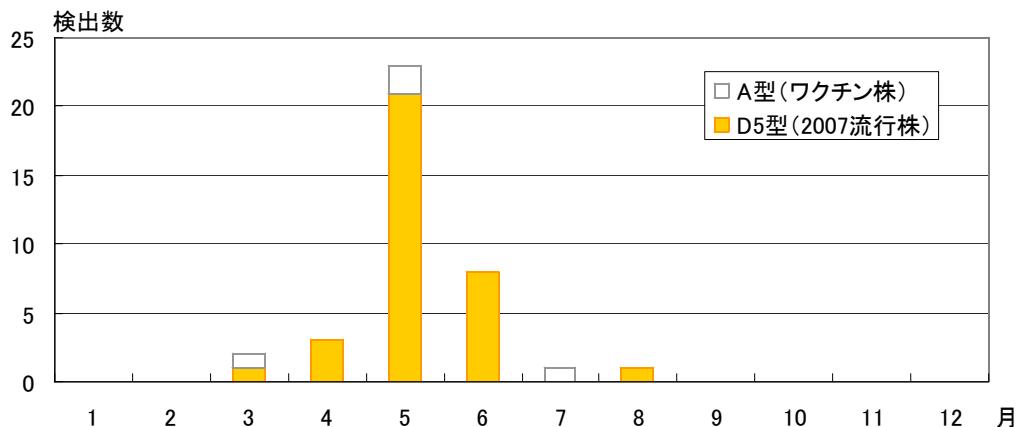


図 8. 麻しんウィルスの月別検出状況

検出ウイルスの遺伝子検索を行った結果、図9に示したとおり、A型4件、D5型34件であった。A型の麻しんウイルスは、日本ではワクチンに用いられている型であり、今回A型が検出された4件については、ワクチン接種を受けていたことが確認されており、ワクチン株が検出されたものと思われた。したがって、2007年の麻しんウイルス流行株はD5型と考えられた。

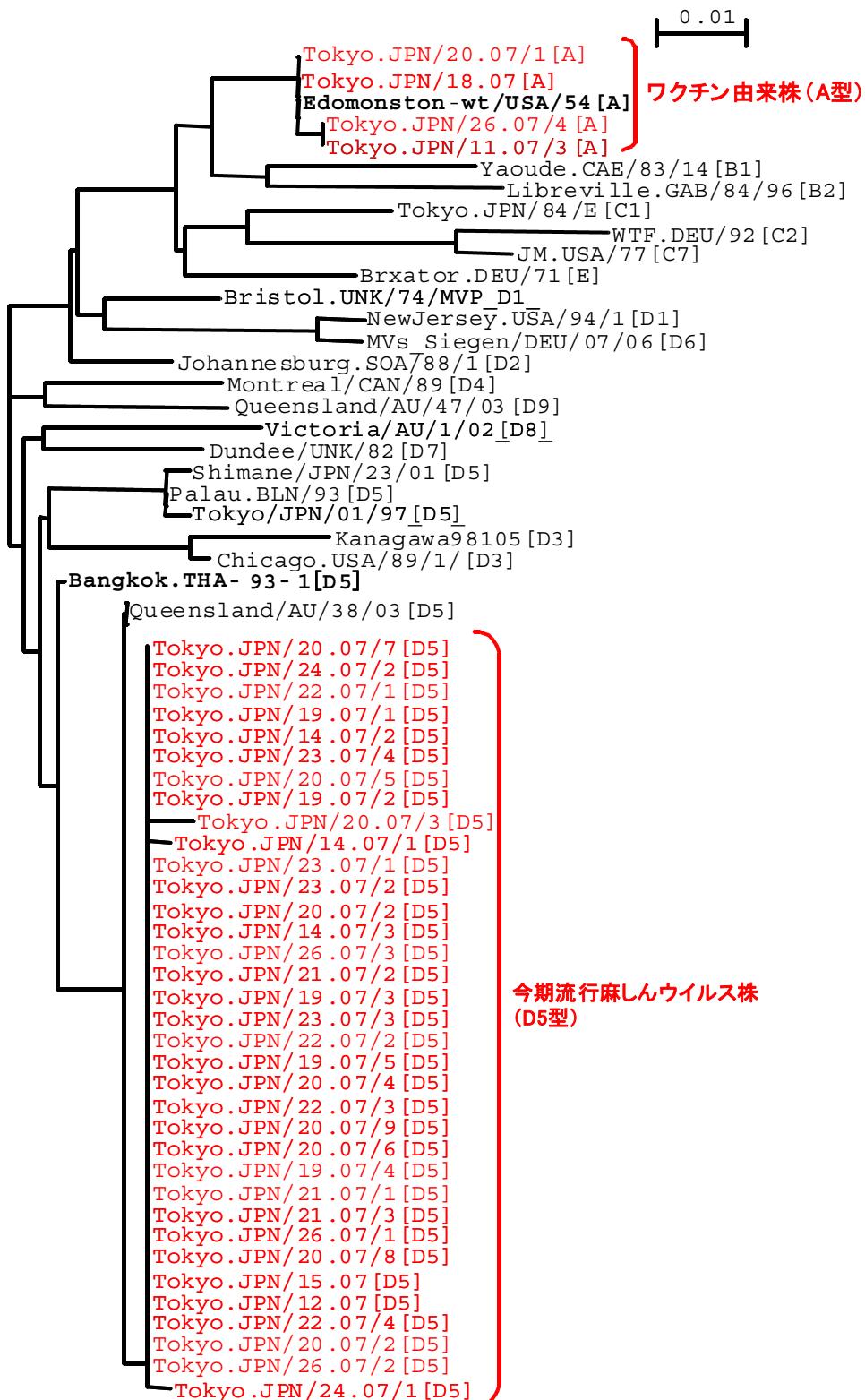


図9. 2007年に検出された麻しん遺伝子の分子系統樹

(2) 内科病原体定点から搬入された検体の検査結果

2007/2008 年シーズン（2007 年 9 月から 2008 年 4 月まで）に内科病原体定点医療機関でインフルエンザに罹患した疑いのある患者から採取され、当センターに搬入された咽頭拭い液または鼻咽頭拭い液は 278 件であった。インフルエンザウイルスの遺伝子検査を行った結果、AH1 亜型 127 件、AH3 亜型 27 件、B 型 6 件の計 160 件（57.5 %）が陽性となった。また、ウイルス分離試験では AH1 亜型 43 株、AH3 亜型 4 株、B 型 3 株の計 50 株（18.0 %）を分離した。

2007/2008 年シーズンのインフルエンザの流行は、2007 年第 39 週（9 月 21 日）及び第 41 週（10 月 4 日）に同一定点医療機関で採取された検体から AH1 亜型インフルエンザウイルスを検出したのが始まりであった。その後、第 46 週まで発生が無く、第 47 週以降に複数の定点医療機関で有症患者の発生が見られたことから、同時期に流行が活発化したと思われた。シーズンを通しての流行は、AH1 亜型が主たる流行型となつたが、AH3 亜型及び B 型についても 2008 年第 9 週以降に発生が増加し、AH3 亜型に徐々に流行が推移し 4 月末には AH3 亜型のみの検出となつたことから、今シーズンも 3 種類のインフルエンザウイルスによる混合流行となつた（図 11）。例年 3 月には流行が終息していたインフルエンザは今シーズンも昨シーズンと同様に流行が長期化している。

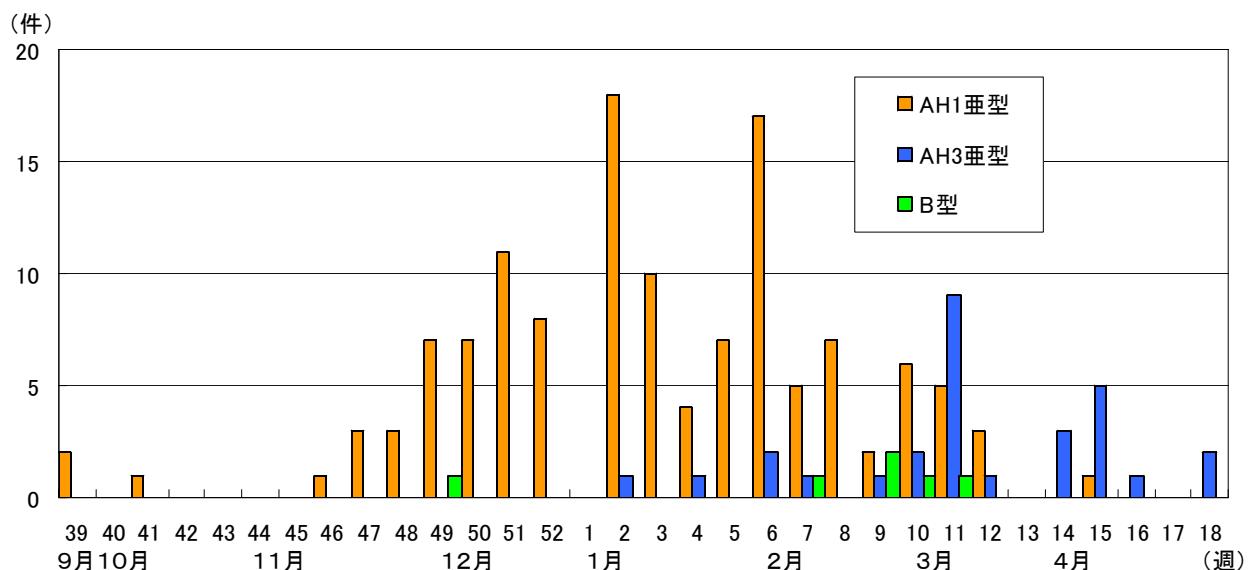


図10. インフルエンザ病原体定点医療機関からの検体におけるインフルエンザウイルス陽性件数

分離したインフルエンザウイルスの抗原性状を解析するために遺伝子配列の比較ならびにワクチン株抗血清を用いた HI 試験による検討を行つた。

遺伝子検査によって得られたインフルエンザ HA（ヘマグルチニン）遺伝子の一部を増幅した断片を用いてダイレクトシーケンスにより塩基配列を決定し、アミノ酸配列に置換した配列をワクチン株ウイルスならびに過去に流行したウイルス株と遺伝子系統樹上で比較し解析を行つた。その結果、AH1 亜型株の今シーズン流行株は、ワクチン株（A/Solomon Islands/03/2006(H1N1)）を含む枝の延長上に 2 つのグループを形成したことが明らかとなつた（図 12）。この 2 つのグループに属する株は、昨シーズンにも検出されており系統樹上の各グループの位置はワクチン株とのアミノ酸相同性（第 1 グループが 96.5 %、第 2 グループが 93.0 %）の差により第 2 グループの方がワクチン株から遠くに位置していた（図 12）。また、WHO（世界保健機構）による 2008/2009 年シーズンのワクチン推奨株（A/Brisbane/59/2007 : H1N1）とのアミノ酸相同性は、第 1 グループ内に含まれるワクチン推奨株は 100 % であったが、第 2 グループとの相同性は 94.7 % と若干、低い事が判明している。

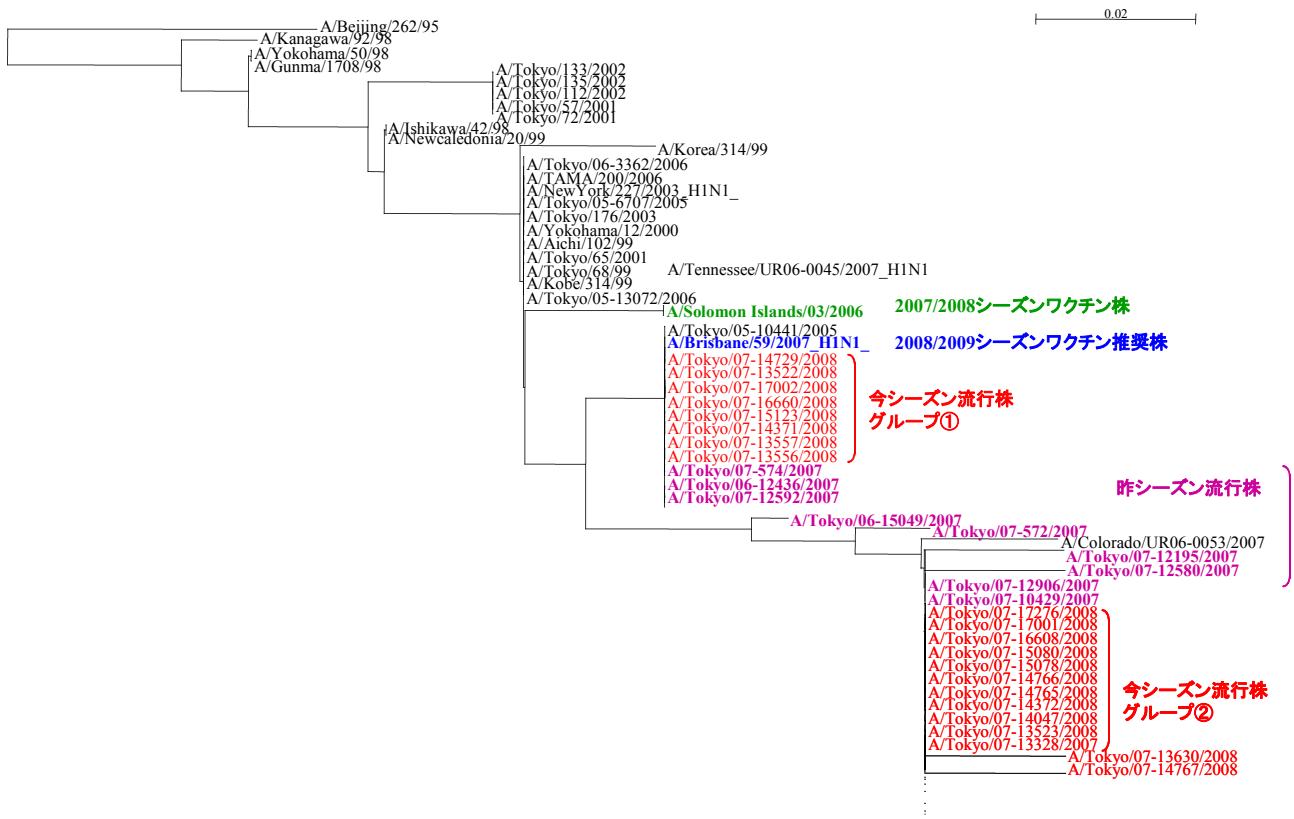


図11. 東京都におけるAH1亜型インフルエンザウイルスのHA遺伝子系統樹

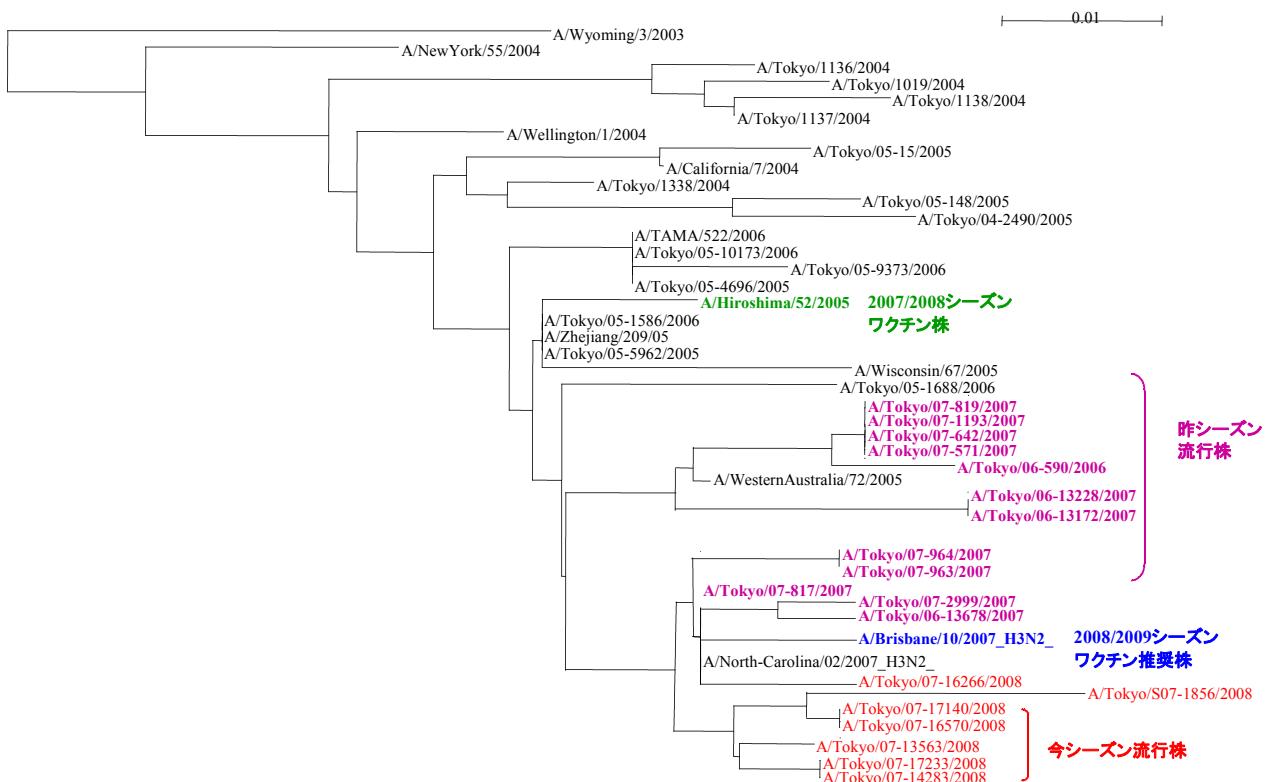


図12. 東京都におけるAH3亜型インフルエンザウイルスのHA遺伝子系統樹

AH3 亜型株の今シーズン流行株は、ワクチン株(A/Hiroshima/52/2005 (H3N2))とのアミノ酸相同性が 95.7 ~ 96.8 %であり、系統樹上でもワクチン株を含む大きな群に属していたがワクチン株から分枝したところに位置していた（図 13）。また、2008/2009 年シーズンのワクチン推奨株 (A/Brisbane/10/2007:H3N2) は、今シーズンの流行株が属するグループと同じ枝から分枝したグループに属しており、流行株とのアミノ酸相同性も 96.8 ~ 97.9 %と僅かに上昇している。

B 型株の今シーズン流行株は、山形系統の株であり、ワクチン株 (B/Malaysia/2506/2004) が属する Victoria 系統の株とは大きく異なっており、アミノ酸相同性も 86.4 %と低くかった。一方、2008/2009 年シーズンのワクチン推奨株 (B/Florida/4/2006 : 山形系統株) は、2005/2006 年シーズンにワクチン株 (B/Shanghai/361/2002) と系統樹上で同一の位置にあり、流行株とのアミノ酸相同性も 98.5 %と高い事が判明している（図 14）。

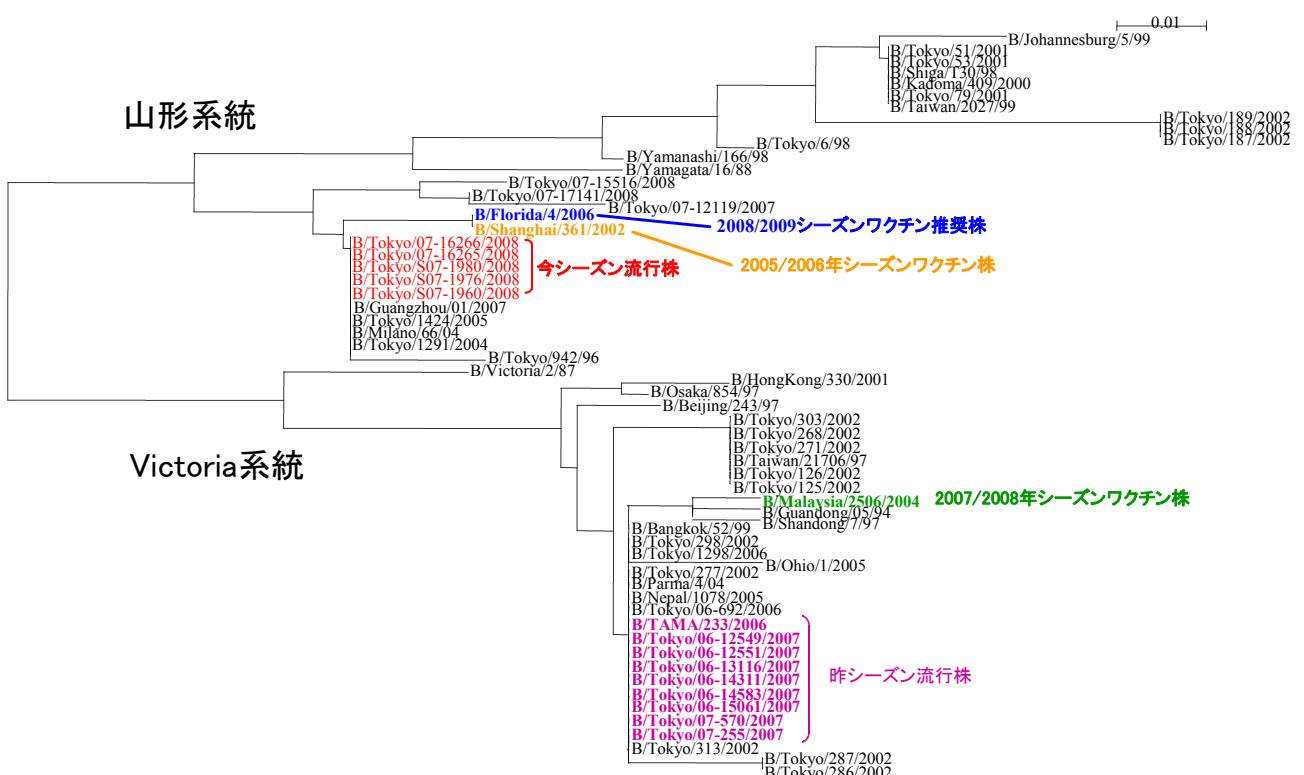


図13. 東京都におけるB型インフルエンザウイルスのHA遺伝子系統樹

一方、これらの分離株を国立感染症研究所配布のインフルエンザサーベイランスキットならびにデンカ生研製のワクチン株抗血清を用いた HI 試験(0.7 %のモルモット赤血球液を使用)に供した結果、AH1 亜型分離株は A/Solomon Islands/03/2006(H1N1)株抗血清（ホモ HI 値 640 倍）に対して第 1 グループの株は 40 ~ 160 倍の HI 値を示したものの、第 2 グループの株は 10 ~ 40 倍の HI 値を示したことからワクチン株との反応性が低いことが判った。また、AH3 亜型分離株は、A/Hiroshima/52/2005 (H3N2) 株抗血清(ホモ HI 値 640 倍)に対して 160 ~ 320 倍の HI 値を有しており、ワクチン株との交差反応性のある株であることが判った。B 型分離株は、山形系統の株でありワクチン株と異なっていたため B/Malaysia/2506/2004 株抗血清(ホモ HI 値 320 倍)に対しては、10 倍以下の HI 値であった。しかし、Victoria 系統株で 2005/2006 年シーズンのワクチン株であった B/Shanghai/361/2002 株抗血清（ホモ HI 値 640 倍）に対しては 160 倍の HI 値を有していたことから 2005 年の流行株に近縁な株であったことが判った。

遺伝子配列及び HI 試験の結果から 2007/2008 年シーズンの AH1 亜型及び AH3 亜型流行株は、ワクチン株とは若干異なった株を含んでいるもののワクチン株との交差反応性を持った株である事が判明した。しかし、B 型株はワクチン株と系統が異なる株であったが、過去の流行株と近縁な株であることから、過去に罹患した場合やワクチン接種等により抗体を獲得していた場合には、感染防御抗体の保有が期待できる株であった。

2 細菌検査結果

(1) 二類感染症の病原体検索

ア ジフテリア

ジフテリア疑い患者の喀痰 1 件について、ジフテリア菌の検査を実施した。その結果、ジフテリア菌の分離培養及び毒素遺伝子（PCR 法）は陰性であった。

(2) 三類感染症の病原体検索

ア 腸チフス

腸チフス患者（インドネシアへの渡航歴有）の静脈血から分離されたチフス菌 1 株について薬剤感受性試験を実施したところ、供試した 12 薬剤すべてに感受性を示した。

イ 腸管出血性大腸菌感染症

胃腸炎（下痢症）患者から分離された大腸菌 20 株について、病原性及び血清型別試験を実施した。その結果、腸管出血性大腸菌 O157 : H7 が 5 株（VT1, VT2 産生； 3 株、 VT2 産生； 2 株）及び毒素原性大腸菌 O169 : H41 （ST 産生） 1 株が同定された。残り 14 株は毒素（LT, ST, VT）非産生菌であった。

また、HUS を発症した女児（8 歳）の血清について、O157 抗原凝集抗体（LPS）に対する血中抗体をウイダール反応法により測定した結果、陽性（× 640）であった。

(3) 四類感染症の病原体検索

ア レジオネラ症

2007 年における東京都のレジオネラ症は 53 例が報告されているが、当所で病原体検索などに係わった事例は 7 事例（患者 7 名）であった。内訳は、患者の喀痰を検査した事例が 2 事例で、そのうち 1 事例から *Legionella pneumophila* が検出された。また、5 事例は患者由来株が搬入され、いずれも *L.pneumophila* であり、その血清型等の検査を実施した。患者から分離された 6 事例（7 株）の血清型は 6 株が 1 群であり、1 株は 6 群であった。

患者から菌が分離された 6 事例中 3 事例では環境水からも *L.pneumophila* が検出され、いずれの血清型も患者と同じ 1 群であった。

(4) 五類感染症（全数把握対象）の病原体検索

ア 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

2007 年に 6 例の患者発生報告があり、患者由来株 4 株の A 群レンサ球菌 (*Streptococcus pyogenes*) が搬入された。T 血清型別の結果、4 株はいずれも 1 型であった。

イ 隹膜炎菌性隹膜炎

2007 年に、3 例の患者発生報告があり、患者 1 名から分離された 1 株が搬入された。型別試験の結果、血清型は B 群であった。

ウ バンコマイシン耐性腸球菌 (VRE) 感染症

2007 年に、17 例の患者発生報告があり、患者由来株 15 株が搬入され、同定試験及び *van* 遺伝子検査を実施した。その結果、*Enterococcus faecalis* : 1 株、*E.faecium* : 5 株、*E.gallinarum* : 6 株、*E.casseliflavus* : 3 株であり、*E.faecium* 5 株のうち 2 株は *van A* 遺伝子を保有し、*E.faecium* 3 株及び *E.faecalis* 1 株は、*van B* 遺伝子を保有していたことが判明した（表 4）。

表 4. 分離されたVREの遺伝子保有状況

| 菌種名 | <i>van A</i> | <i>van B</i> | <i>van C</i> |
|------------------------|--------------|--------------|--------------|
| <i>E.faecalis</i> | | 1 | |
| <i>E.faecium</i> | 2 | 3 | |
| <i>E.gallinarum</i> | | | 6 |
| <i>E.casseliflavus</i> | | | 3 |

(5) 五類感染症（定点把握対象）の病原体検索

ア A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

都内の小児科定点及び基幹定点からの送付試料を対象に A 群溶血性レンサ球菌の検査を実施した。2007 年に送付された外来患者由来 52 株及び患者咽頭拭い液から分離した 6 株合計 58 株について T 血清型別を実施した。

A 群溶血性レンサ球菌の月別分離状況は 1～3 月：19 株、4～6 月：22 株、7～9 月：13 株、10～12 月：4 株であった（表 5）。

T 型別の成績をみると、12 型：26 株が最も多く、次いで 1 型：11 株、4 型：7 株、28 型：7 株など 7 菌型に型別され、型別不能株は 1 株であった（表 5）。

表 5. A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者から分離された *S. pyogenes* の T 型別及び月別検出状況

| T型 | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 計 | (%) |
|----|----|----|----|----|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|--------|---------|
| 1 | 1 | 2 | 2 | 2 | 1 | 1 | 1 | 1 | | | | | 11 | (19.0) |
| 3 | | | | | | | | | | | | | 0 | (0.0) |
| 4 | 1 | 3 | 1 | | 1 | | | | | | 1 | 7 | (12.0) | |
| 6 | | | | 1 | | | | | 1 | | | | 2 | (3.5) |
| 9 | | 2 | | | | | | | | | | | 2 | (3.5) |
| 12 | 1 | 3 | 2 | 4 | 3 | 4 | 2 | 6 | | | 1 | | 26 | (44.8) |
| 25 | | | | 2 | | | | | | | | | 2 | (3.5) |
| 28 | | 1 | | | 2 | 1 | | 1 | | 1 | 1 | | 7 | (12.0) |
| UT | | | | | | | | | 1 | | | | 1 | (1.7) |
| 計 | 3 | 11 | 5 | 9 | 7 | 6 | 3 | 8 | 2 | 1 | 2 | 1 | 58 | (100.0) |

UT：型別不能

イ 感染性胃腸炎

小児科病原体定点から搬入された感染性胃腸炎疑い患者の糞便 55 件について細菌検査を実施し

た。その結果、13件（23.6%）から腸管系病原菌が検出された。

患者年齢階級別病原体の検出状況を表6に示した。1～4歳で12件中1件（8.3%）、5～9歳で3件中1件（33.3%）、20歳以上の成人では25件中9件（36.0%）からカンピロバクターが検出された。また、1～4歳では2件（16.7%）からサルモネラが検出された。

検出されたカンピロバクター11株の内訳は*C. jejuni* 10株、*C. fetus* 1株であった。サルモネラ2株の血清型はいずれも*S. Agona*で、同一患者由来であった（*S. Agona*検出後、抗菌薬投与なしで1ヶ月経過観察した後、再度検査）。

また、菌株で搬入されたサルモネラ2株は、O4群*S. Typhimurium*、O9群*S. Enteritidis*に型別された。黄色ブドウ球菌2株は、A型エンテロトキシン産生株であった。

表6. 感染性胃腸炎からの年齢階級別
腸管系病原菌検出状況

| 年齢階級 | 検査件数 | 検出病原菌 | |
|--------|------|--------------|------------|
| | | カンピロバクター | サルモネラ |
| 1歳未満 | 11 | 0 | 0 |
| 1～4歳 | 12 | 1 | 2 |
| 5～9歳 | 3 | 1 | 0 |
| 10～14歳 | 2 | 0 | 0 |
| 15～19歳 | 1 | 0 | 0 |
| 20歳以上 | 25 | 9 | 0 |
| 不明 | 1 | 0 | 0 |
| 計（%） | 55 | 11 (20.0) | 2 (3.6) |

ウ 百日咳

2007年に都内の小児科定点及び基幹定点から百日咳疑い患者の鼻汁及び咽頭拭い液が8検体搬入され、分離同定及び遺伝子検索を実施した。その結果、2件から百日咳菌遺伝子が検出され、その他の6件からは検出されなかったが、2件からMSSAが2株、1件から*Haemophilus parainfluenzae*が分離された。

エ MCLS(川崎病)

川崎病疑いの男児（6歳）の血清についてエルシニアの抗体測定を実施したが、陰性であった。

オ メチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）感染症

基幹定点からの送付試料を対象に小児科患者のMRSA保菌者検索を実施した。検出された黄色ブドウ球菌のコアグラーゼ型別（コ型別と略す）、エンテロトキシン（SEと略す）産生性、Toxic shock syndrome toxin（TSSTと略す）産生性及び薬剤感受性の試験を実施した。患者由来のMRSA17株は、コ型：Iが3株、IIが4株、IIIが7株、IV、V、VIIが各1株であり、MSSA6株は、コ型：VIIが3株、I、V、IXが各1株であった。

毒素産生性はMRSAのコ型：IIの内2株及びコ型：IIIの7株とMSSAのIX型1株がSEC+TSST産生性であり、MRSA、MSSAともにコ型：Iは毒素非産生であった（表7）。

表7. 黄色ブドウ球菌のコアグラーゼ型と毒素産生性

| | | MRSA | | | | | | MSSA | | | |
|-----------------------|----|------|----|-----|----|---|-----|------|---|-----|----|
| コアグラーゼ型 | | I | II | III | IV | V | VII | I | V | VII | IX |
| 毒 素 産 生 性 | B | | | | | | 1 | | | 2 | |
| | CT | | 2 | 7 | | | | | | | 1 |
| | T | | 1 | | | | | | | | |
| | - | 3 | 1 | | 1 | 1 | | 1 | 1 | 1 | |
| 計 | | 3 | 4 | 7 | 1 | 1 | 1 | 1 | 1 | 3 | 1 |

UT：型別不能

3 性感染症（STI）病原体定点から搬入された検体の検査結果

（1）梅毒・クラミジア・淋菌検査

2007年1月から12月までの間に性感染症病原体定点（10月までは婦人科1医院、11月からは婦人科1医院と泌尿器科・胃腸科医院2医院が追加指定された）から搬入された検体は、女性201例から採取された子宮頸管擦過（分泌）物（スワブ）199件、血清189件、男性34例から採取された陰部尿路擦過物（スワブ）7件、尿26件、血清2件である。受診者の年齢構成を表8に示した。女性では10歳代が9例（4.5%）、20歳代が122例（60.6%）、30歳代は57例（28.4%）、40歳代以上は12例（6.0%）であった。男性では20歳代が15例（44.1%）、30歳代が11例（32.4%）、40歳代以上が8例（23.5%）で男女共に20歳代が多く、特に20歳代後半が女性35.3%、男性38.2%と3分の1以上を占めていた。これらの検体のうち、血清については梅毒血清反応とクラミジア・トラコマチス（CT）抗体の検査を、また子宮頸管擦過（分泌）物または陰部尿路擦過（分泌）物、尿ではCT遺伝子検査、淋菌遺伝子検査を実施した。

梅毒血清反応は脂質抗原を使用したガラス板法とRPR法を、またTP抗原を使用したTPHA法を実施した。CT抗体のIgA抗体・IgG抗体の測定はELISA法により実施した。またCT遺伝子及び淋菌遺伝子の検出はPCR法で行った。

表8. 性感染症病原体定点から搬入された検体の年齢階級別内訳

| 年齢階級 (歳) | 女性 | | 男性 | | | | |
|-------------|-----------|------|-----|-----------|------|----|----|
| | (%) | 検体種別 | | (%) | 検体種別 | | |
| | | スワブ | 血清 | | スワブ | 尿 | 血清 |
| 15～19 | 9 (4.5) | 9 | 8 | | | | |
| 20～24 | 51 (25.3) | 51 | 47 | 2 (5.9) | | 2 | |
| 25～29 | 71 (35.3) | 70 | 68 | 13 (38.2) | 3 | 10 | 1 |
| 30～34 | 43 (21.4) | 42 | 41 | 6 (17.7) | 3 | 2 | 1 |
| 35～39 | 14 (7.0) | 14 | 13 | 5 (14.7) | | 5 | |
| 40～44 | 5 (2.5) | 5 | 4 | 2 (5.9) | | 2 | |
| 45～49 | 2 (1.0) | 2 | 2 | 4 (11.8) | 1 | 3 | |
| 50～54 | 3 (1.5) | 3 | 3 | 1 (2.9) | | 1 | |
| 55以上 | 2 (1.0) | 2 | 2 | 1 (2.9) | | 1 | |
| 不明 | 1 (0.5) | 1 | 1 | | | | |
| 合計 | 201 (100) | 199 | 189 | 34 (100) | 7 | 26 | 2 |

血清検体の検査結果を表9に示した。梅毒血清反応検査は女性では189例中3例（1.6%）が陽性であった。陽性例のうち30歳代前半の1例は脂質抗原使用検査のRPR法、ガラス板法共に64倍と高値を示し、TPHA法も陽性であった。他1例は脂質抗原使用検査は陰性でTPHA法のみ陽性であった。また20歳代前半の陽性例は、脂質抗原使用検査のうちRPR法のみ陽性で、TPHA法も陽性であった。男性2例の梅毒血清反応は陰性であった。

CT抗体は女性189例のうち80例（42.3%）が陽性で、そのうち4例がIgA抗体のみ陽性、44例がIgA抗体・IgG抗体ともに陽性で、CT抗体陽性例の60.0%がIgA抗体を保有していた。残りの32例（40.0%）はIgG抗体のみ陽性であった。男性2例についてはCT抗体は陰性であった。

表9. 年齢群別血清検体の梅毒、CT抗体検査結果

| 年齢階級 (歳) | | 検査数 | 梅毒抗体陽性 (%) | CT抗体陽性 (%) | 内訳 (陽性数に対する割合) | | |
|-------------|-------|-----|---------------|---------------|-------------------|-------------------|-------------------|
| | | | | | IgA (+) · IgG (-) | IgA (+) · IgG (+) | IgA (-) · IgG (+) |
| 女性 | 15~19 | 8 | | 1 (12.5) | | 1 (100.0) | |
| | 20~24 | 47 | 1 (2.1) | 20 (42.6) | 2 (10.0) | 13 (65.0) | 5 (25.0) |
| | 25~29 | 68 | | 30 (44.1) | 1 (3.3) | 14 (46.7) | 15 (50.0) |
| | 30~34 | 41 | 2 (4.9) | 18 (43.9) | 1 (5.5) | 10 (55.6) | 7 (38.9) |
| | 35~39 | 13 | | 8 (61.5) | | 4 (50.0) | 4 (50.0) |
| | 40~44 | 4 | | 2 (50.0) | | 1 (50.0) | 1 (50.0) |
| | 45~49 | 2 | | | | | |
| | 50~54 | 3 | | | | | |
| | 55以上 | 2 | | | | | |
| | 不明 | 1 | | 1 (100) | | 1 (100) | |
| 計 | | 189 | 3 (1.6) | 80 (42.3) | 4 (5.0) | 44 (55.0) | 32 (40.0) |
| 男性 | | 2 | | | | | |

血清と子宮頸管擦過(分泌)物が共に搬入され、CT 抗体検査と CT 核酸検査を行うことができた女性 187 例の検査結果を表 10 に示した。CT 遺伝子が陽性であった 18 例のうち抗体も陽性であったのは 10 例(55.6%)であったが、IgA 抗体のみ陽性の例は無く、IgA、IgG 共に陽性であったのが 9 例あった。また IgG 抗体のみ陽性例が 1 例あった。遺伝子が陽性で抗体陰性であったものが 8 例(44.4%)あり、一方、遺伝子陰性例 169 例のうち 70 例(41.4%)が CT 抗体陽性で、このうち IgA 抗体のみ陽性の 4 例と IgA、IgG 共に陽性であった 35 例の 39 例が IgA 抗体を保有していた。

表10. CT遺伝子検査成績別CT抗体検査結果 (女性)

| 遺伝子検査 成績と検体数 | | 合計 (%) | 抗 体 陽 性 | | | 抗体陰性 | |
|-----------------|-----|-----------|-------------------|-------------------|-------------------|------------|--|
| | | | 内 訳 (抗体陽性数に対する割合) | | | | |
| | | | IgA (+) · IgG (-) | IgA (+) · IgG (+) | IgA (-) · IgG (+) | | |
| 陽性 | 18 | 10 (55.6) | | 9 (90.0) | 1 (10.0) | 8 (44.4) | |
| 陰性 | 169 | 70 (41.4) | 4 (5.7) | 35 (50.0) | 31 (44.3) | 99 (58.6) | |
| 合計 | 187 | 80 (42.8) | 4 (5.0) | 44 (55.0) | 32 (40.0) | 107 (57.2) | |

子宮頸管擦過(分泌)物、陰部尿路擦過(分泌)物、尿について行った CT 遺伝子及び淋菌遺伝子の検出結果を表 11 に示した。CT 遺伝子は検査した 232 例のうち 32 例(13.8%)が陽性で、内訳は女性では 199 例中 23 例(11.6%)、男性では 33 例中 9 例(27.3%)であった。淋菌遺伝子は全体で 232 例中 11 例(4.7%)が陽性で、内訳は女性では 199 例中 2 例(1.0%)、男性では 33 例中 9 例(27.3%)であった。

表 12 には、診断・症状別に CT 遺伝子検査、淋菌遺伝子検査の結果を示した。このなかで男性尿道炎の 1 例で淋菌とクラミジアの重複感染が確認された。

表11. 年齢階級別CT遺伝子・淋菌遺伝子検査結果

| 年齢階級 (歳) | 女性 | | 男性 | | |
|-------------|-----|--------------|--------------|-----|--------------|
| | 検査数 | CT遺伝子 (%) | 淋菌遺伝子 (%) | 検査数 | CT遺伝子 (%) |
| 15～19 | 9 | 1 (11.1) | 1 (11.1) | | |
| 20～24 | 51 | 10 (19.6) | | 2 | 1 (50.0) |
| 25～29 | 70 | 9 (12.9) | | 13 | 4 (30.8) |
| 30～34 | 42 | 2 (7.7) | 1 (2.4) | 5 | 2 (40.0) |
| 35～39 | 14 | | | 5 | 1 (20.0) |
| 40～44 | 5 | 1 (20.0) | | 2 | 1 (50.0) |
| 45～49 | 2 | | | 4 | 1 (25.0) |
| 50～54 | 3 | | | 1 | |
| 55以上 | 2 | | | 1 | |
| 不明 | 1 | | | | |
| 計 | 199 | 23 (11.6) | 2 (1.0) | 33 | 9 (27.3) |
| | | | | | 9 (27.3) |

表12. 男女・診断・症状別のCT・淋菌遺伝子検査結果

| 女性 | 検査数 | CT 遺伝子検査 | 淋菌 遺伝子検査 | 男性 | 検査数 | CT 遺伝子検査 | 淋菌 遺伝子検査 |
|-------------|-----|-------------|-------------|--------------|-----|-------------|-------------|
| クラミジア感染症・腫炎 | 11 | 4 | 1 | クラミジア感染症・尿道炎 | 15 | 7 | 3 |
| 腫炎 | 17 | 3 | | 非淋菌性尿道炎 | 6 | 2 | 1 |
| コンジローマ | 18 | 5 | | 淋菌性尿道炎 | 6 | | 5 |
| ヘルペス | 23 | 5 | | 尿道炎・排尿時痛 | 5 | | |
| その他 | 27 | | | コンジローマ | 1 | | |
| 妊娠 | 14 | 1 | | | 33 | 9 | 9 |
| 不明 | 89 | 5 | 1 | | | | |
| | 199 | 23 | 2 | | | | |

(2) ヒトパピローマウイルス (HPV) の遺伝子検査

2007年にはSTI病原体定点医療機関から178件の検体が搬入された。

陰部尿道頸管擦過(分泌)物、尖圭コンジローマの皮膚病巣拭い、または生検材料を検体とし、PCR法によるHPVの遺伝子検査を実施した。試料よりウイルスDNAを抽出した後、キャプシド蛋白をコードするL1領域を対象としたHPV遺伝子の検出を行った。標的遺伝子が検出された場合、塩基配列を決定しNCBI Blastを用いた相同性検索により遺伝子型を同定した。さらに、得られた遺伝子型を子宮頸がん等へのリスク評価(High及びLowリスク)に基づいて分類した。

178件中76件(42.7%)からHPVの遺伝子を検出した。リスク評価による分類では、16、18、58型などのHighリスク群に分類されたものは42件(23.6%)、6、11型などのLowリスク群に分類されたものは18件(11.2%)、リスク評価がされていない遺伝子型は13件(7.3%)であった。また、1件(0.6%)からHighリスク群に分類されるHPV遺伝子(HPV18型)とLowリスク群に分類されるHPV遺伝子(HPV11型)を同時に検出した。

(3) 単純ヘルペスウイルス (HSV: HSV-1型及びHSV-2型) の遺伝子検査

2007年にはSTI病原体定点医療機関から179件の検体が搬入された。

子宮頸管擦過(分泌)物、陰部尿道擦過物、性器ヘルペス感染症の皮膚病巣拭いを検体とし、real-time PCR 法による HSV の遺伝子検査を実施した。試料よりウイルス DNA を抽出した後、キャプシド蛋白をコードする glycoprotein D 領域を対象として HSV 遺伝子の検出を行った。

179 件中 11 件 (6.1 %) から HSV-1 型、12 件 (6.7 %) から HSV-2 型の遺伝子を検出した。

(4) ヒト免疫不全ウイルス (HIV) 検査

2007 年には STI 病原体定点医療機関から 73 件の検体が搬入された。

血清中の HIV 抗原及び抗体について、酵素免疫測定法 (ELISA 法) を用いてスクリーニング検査を行い、スクリーニング検査で陽性となった場合には、ウエスタンブロット法や RT-PCR 法による確認検査を実施し、最終判定を行った。その結果、73 件すべて陰性であった。

(5) 赤痢アメーバ検査

血清検体 189 件について赤痢アメーバ抗体検査を行った。2003 年から 2006 年の赤痢アメーバ抗体陽性率では、それぞれ 1.5%、3.7%、5.0%、5.4% と上昇傾向が見られたが、2007 年の赤痢アメーバ抗体陽性率は 3.2% (6/189) と初めて減少した。陽性 6 例のうち、4 例がクラミジア抗体陽性例で、そのうち 1 例は梅毒、トリコモナスへの感染も遺伝子検査により確認され、5 年間の調査で初めて梅毒の重複陽性例が認められた。年令別赤痢アメーバ抗体陽性者は、20 歳代 1 例、30 歳代 5 例と比較的若い世代に陽性例が多く認められた。

(6) 膀胱トリコモナス検査

検査は膀胱トリコモナスの反復 DNA 中の 262 塩基対を標的とする PCR 法によって行った。膀胱トリコモナス検査の依頼のあった子宮頸管擦過(分泌)物 190 検体中、5 件 (2.6%) から膀胱トリコモナス遺伝子が検出され、陽性例は 20 歳代が 3 例、30 歳代が 2 例で、うち 4 例が他の性感染症との重複感染例であった。男性では陽性例は無かった。

第 3 章

資料

2 東京都医師会感染症予防検討委員会委員名簿

平成 19 年（2007 年）12 月 31 日：順不同

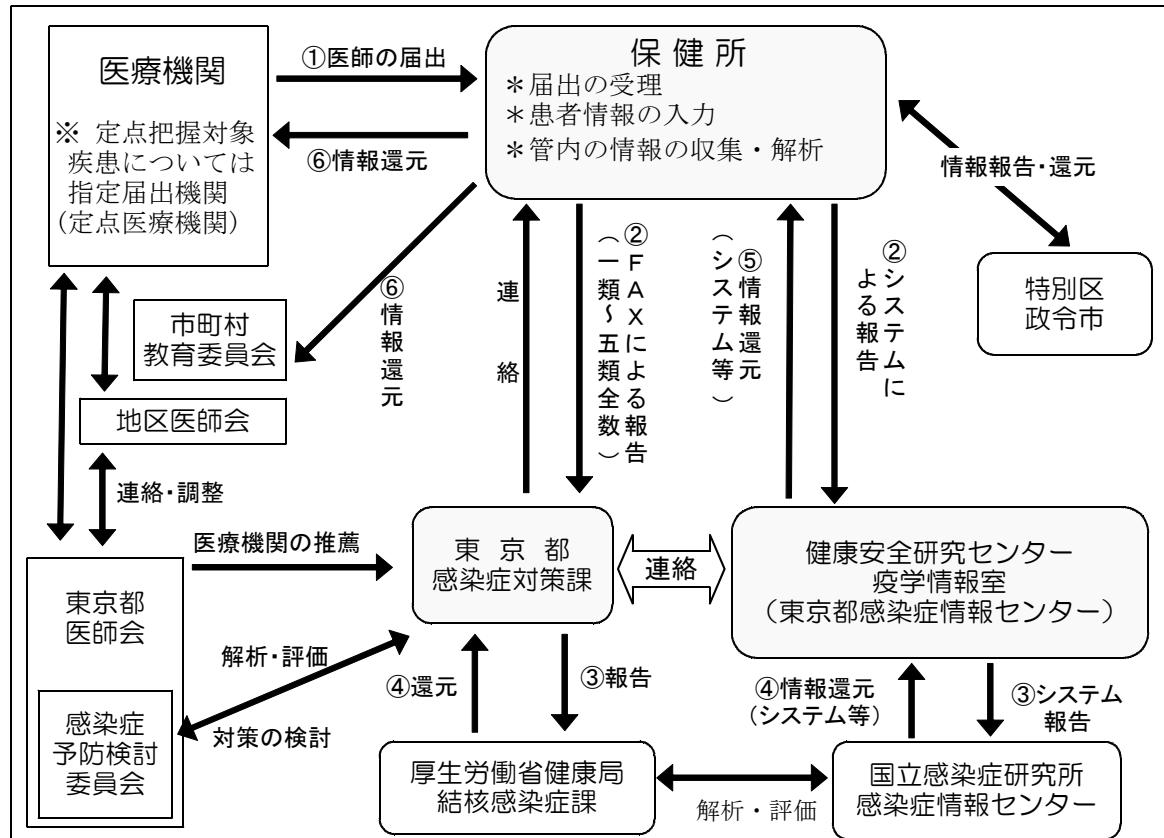
| 氏 名 | 役 職 |
|-----------|---------------------------------|
| ◎ 南 谷 幹 夫 | 元杏林大学客員教授 |
| ○ 水 野 幸 治 | 府中市医師会 |
| 長 山 直 弘 | 独立行政法人国立病院機構東京病院内科医長 |
| 尾 形 英 雄 | (財) 結核予防会複十字病院副院長 |
| 吉 村 伸 子 | 渋谷区保健所長 |
| 友 松 栄 二 | 多摩府中保健所長 |
| 味 澤 篤 | 東京都立駒込病院感染症科部長 |
| 阿 部 則 雄 | 東京都福祉保健局健康安全室食品監視課副参事（食品危機管理担当） |
| 阿 保 満 | 東京都健康安全研究センター微生物部副参事研究員 |
| 山 下 和 予 | 国立感染症研究所感染症情報センター主任研究官 |
| 稻 垣 智 一 | 東京都福祉保健局健康安全室感染症対策課長 |
| 小 島 弘 敬 | 東京都南新宿検査・相談室長 |
| 松 田 静 治 | 江東区医師会 |
| 沼 口 俊 介 | 練馬区医師会 |
| 黒 澤 サト子 | 北多摩医師会 |
| 福 田 敏 雅 | 東京都眼科医会 |
| 小早川 隆 敏 | 東京女子医科大学国際環境・熱帯医学教室主任教授 |
| 平 山 宗 宏 | (社福) 恩賜財団母子愛育会日本子ども家庭総合研究所名誉所長 |
| 池 田 忠 生 | 日本大学医学部生物学教室准教授 |

| | |
|---------|------------------|
| 道 永 麻 里 | 東京都医師会理事（公衆衛生担当） |
|---------|------------------|

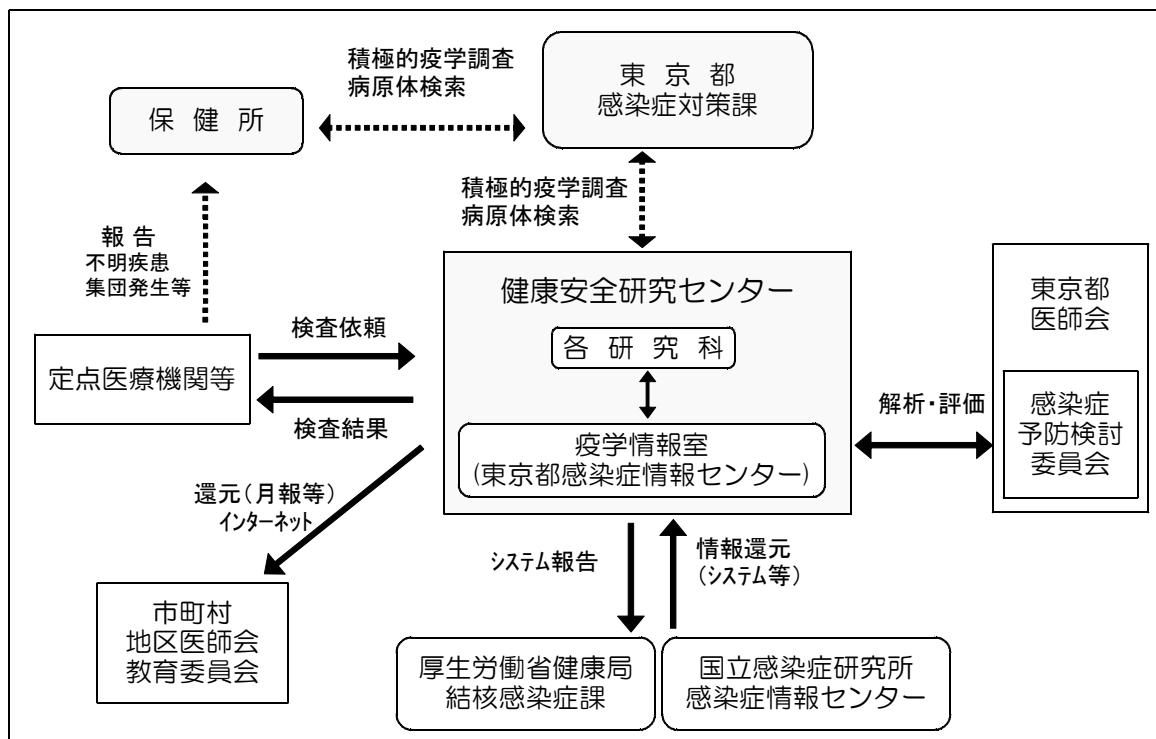
◎は委員長
○は副委員長

3 感染症発生動向調査事業の概要

1 患者情報の流れ



2 病原体情報の流れ



4 東京都感染症発生動向調査事業実施要綱

11衛福結第680号
平成12年3月30日
最終改正 19福保健感第148号
平成19年6月15日

第1 趣旨及び目的

感染症発生動向調査事業については、昭和56年7月から18疾病を対象に開始され、昭和62年1月からは対象疾病を27に拡大するとともにコンピュータを用いたオンラインシステムを導入、以後、順次対象疾病の拡大を図りながら運用されてきたところである。

平成11年4月から施行された「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」(以下「感染症法」という。)により、本事業が、事前対応型行政を重視した感染症対策の一つとして位置づけられることになった。

これを受けて、本事業は、感染症の発生情報を正確に把握・分析し、その結果を国民や医療関係者への的確に提供・公開することによって、必要な措置を講じ疾病のまん延を防止することを目的として実施するものとする。

第2 根拠法令等

本事業の実施に当たっては、感染症法及び国の定める感染症発生動向調査事業実施要綱に基づくものとする。

第3 対象感染症

この事業の対象とする感染症は、別表1のとおりとする。

第4 実施体制

1 地方感染症情報センター及び基幹地方感染症情報センター

地方感染症情報センターは、東京都及び特別区における患者情報及び病原体情報を収集・分析し、東京都及び特別区の本庁に報告するとともに、全国情報と併せて、これらを速やかに医師会等の関係機関に提供・公開するために、東京都及び各特別区内に1か所、地方衛生研究所等の中に設置されている。

基幹地方感染症情報センターである東京都健康安全研究センター(以下「健康安全研究センター」という。)は、東京都全域の患者情報及び病原体情報を収集・分析し、その結果を各地方感染症情報センターに送付する。

2 指定届出機関(定点)

東京都は、定点把握対象の五類感染症についての、患者情報及び病原体情報を収集するため、患者定点及び病原体定点をあらかじめ選定する。

第5 事業の実施

1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症及び指定感染症

(1) 調査単位及び実施方法

ア 診断した医師

一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症及び指定感染症を「感染症の予防及び

感染症の患者に対する医療に関する法第12第1項及び第14条第2項に基づく届出の基準等の一部改正について」（平成19年3月29日付健感発第0329001号厚生労働省健康局結核感染症課長通知。以下「届出基準」という。）に基づき診断した場合は、届出基準の別記様式1－1から4－4－1及び6－1を用いて、直ちに最寄りの保健所に届出を行う。

また、保健所から当該患者の病原体検査のための検体又は病原体情報の提供の依頼を受けた場合にあっては、協力可能な範囲において、検体又は病原体情報について、保健所の協力を得て別記様式1の検査票を添付して健康安全研究センターに送付する。

イ 保健所

(ア) 上記アの届出を受けた保健所は、直ちに感染症発生動向調査システムに届出内容を入力するものとする。

また、保健所は、当該患者を診断した医師に対して、必要に応じて病原体検査のための検体又は病原体情報の健康安全研究センターへの提供について、別記様式1の検査票を添付して依頼するものとする。

(イ) 保健所は、届出を受けた感染症に係る発生状況等を把握し、市町村、指定届出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

ウ 健康安全研究センター

(ア) 健康安全研究センターは、管内の患者情報について保健所からの情報の入力があり次第、登録情報の確認を行う。

(イ) 健康安全研究センターは、別記様式1の検査票及び検体又は病原体情報が送付された場合にあっては、当該検体を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、別記様式1により保健所、福祉保健局健康安全室感染症対策課に送付する。

(ウ) 検査のうち、健康安全研究センターにおいて実施することが困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。

(エ) 健康安全研究センターは、患者が一類感染症と診断されている場合（疑いを含む。）又は東京都域を越えた集団発生があった場合等の緊急の場合にあっては、検体を国立感染症研究所に送付する。

(オ) 基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

2 全数把握対象の五類感染症

(1) 調査単位及び実施方法

ア 診断した医師

五類感染症（全数）を届出基準に基づき診断した医師は、届出基準の別記様式5－1から5－1－4を用いて、7日以内に最寄りの保健所に届出を行う。

また、保健所から当該患者の病原体検査のための検体又は病原体情報の提供の依頼を受けた場合にあっては、協力可能な範囲において、検体又は病原体情報について、保健所の協力を得て別記様式1の検査票を添付して健康安全研究センターに送付する。

イ 保健所

(ア) 上記アの届出を受けた保健所は、直ちに感染症発生動向調査システムに届出内容を入力

するものとする。

また、保健所は、当該患者を診断した医師に対して、必要に応じて病原体検査のための検体又は病原体情報の健康安全研究センターへの提供について、別記様式1の検査票を添付して依頼するものとする。

- (イ) 保健所は、届出を受けた感染症に係る発生状況等を把握し、市町村、指定届出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

ウ 健康安全研究センター

- (ア) 健康安全研究センターは、管内の患者情報について保健所からの入力があり次第、登録情報の確認を行う。
- (イ) 健康安全研究センターは、別記様式1の検査票及び検体又は病原体情報が送付された場合にあっては、当該検体を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、別記様式1により保健所、福祉保健局健康安全室感染症対策課に送付する。
- (ウ) 検査のうち、健康安全研究センターにおいて実施することが困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。
- (エ) 健康安全研究センターは、東京都域を越えた集団発生があった場合等の緊急の場合にあっては、検体を国立感染症研究所に送付する。
- (オ) 基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての患者情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

3 定点把握対象の五類感染症

(1) 対象とする感染症患者の状態

各々の定点把握対象の五類感染症について、届出基準を参考とし、当該疾病の患者と診断される場合とする。

(2) 定点の選定

ア 患者定点

定点把握対象の五類感染症の発生状況を地域的に把握するため、東京都は次の点に留意し、関係医師会の協力を得て、医療機関の中から可能な限り無作為に患者定点を選定する。また、定点の選定に当たっては、人口及び医療機関の分布等を勘案して、できるだけ東京都全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮する。

(ア) 小児科定点

対象感染症のうち、別表1の72から86までに掲げるものについては、小児科を標ぼうする医療機関（主として小児科医療を提供しているもの）を小児科定点として指定する。この場合において、小児科定点として指定された医療機関は、インフルエンザ定点として協力すること。

(イ) インフルエンザ定点

対象感染症のうち、別表1の87に掲げるインフルエンザ（鳥インフルエンザを除く。以下同じ。）については、前記（ア）で選定した小児科定点のうちインフルエンザ定点として協力する小児科定点に加え、内科を標ぼうする医療機関（主として内科医療を提供しているもの）を内科定点として指定し、両者を合わせてインフルエンザ定点とする。

(ウ) 眼科定点

対象感染症のうち、別表1の88及び89に掲げるものについては、眼科を標ぼうする医療機関（主として眼科医療を提供しているもの）を眼科定点として指定する。

(エ) 性感染症定点

対象感染症のうち、別表1の90から95までに掲げるものについては、産婦人科若しくは産科若しくは婦人科（産婦人科系）、性病科又は泌尿器科若しくは皮膚科若しくは皮膚泌尿器科（泌尿器科・皮膚科系）を標ぼうする医療機関（主として各々の標ぼう科の医療を提供しているもの）を性感染症定点として指定する。

(オ) 基幹定点

対象感染症のうち、別表1の96から103までに掲げるものについては、患者を300人以上収容する施設を有する病院であって、内科及び外科を標榜する病院（小児科医療と内科医療を提供しているもの）を二次医療圏毎に1か所以上、基幹定点として指定する。

イ 病原体定点

病原体の分離等の検査情報を収集するため、東京都は次の点に留意し、病原体定点を選定する。

- (ア) 原則として、患者定点として選定された医療機関の中から選定する。
- (イ) アの(ア)により選定された患者定点の概ね10%を小児科病原体定点とする。
- (ウ) アの(ア)及び(イ)により選定された患者定点の概ね10%をインフルエンザ病原体定点とする。
- (エ) アの(ウ)により選定された患者定点の中から眼科病原体定点を選定する。
- (オ) アの(エ)により選定された患者定点の中から性感染症病原体定点を選定する。
- (カ) アの(オ)により選定された患者定点の中から基幹病原体定点を選定する。

(3) 調査単位等

調査期間の単位等は、別表2のとおりとする。

(4) 実施方法

ア 患者定点

- (ア) 患者定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位の期間の診療時において、届出基準を参考とし、患者発生状況の把握を行うものとする。
- (イ) (2)のアにより選定された定点把握の対象の指定届出機関においては、届出基準に従い、それぞれの調査単位の患者発生状況を別記様式2から7に記載する。
- (ウ) (イ)の届出に当たっては、法施行規則第7条に従い行うものとする。

イ 病原体定点

- (ア) 病原体定点として選定された医療機関は、別に定める病原体検査指針により、微生物検査のために検体を採取する。
- (イ) 病原体定点で採取された検体は、別記様式1（インフルエンザ定点については別記様式8）の検査票を添付し、速やかに健康安全研究センターへ送付する。

ウ 保健所

- (ア) 保健所は、患者定点から得られた患者情報が週単位の場合は調査対象の週の翌週の火曜日までに、月単位の場合は調査対象月の翌月の3日までに、感染症発生動向調査システムに入力するものとする。

また、対象感染症についての集団発生その他特記すべき情報については、福祉保健局健康安全室感染症対策課及び地方感染症情報センターに報告する。

(イ) 保健所は、定点把握の対象の五類感染症の発生状況等を把握し、市町村、指定届出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

エ 健康安全研究センター

(ア) 健康安全研究センターは、管内の患者情報について保健所からの入力があり次第、登録情報の確認を行う。

(イ) 健康安全研究センターは、別記様式1の検査票及び検体又は病原体情報が送付された場合にあっては、当該検体を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、別記様式1により保健所、福祉保健局健康安全室感染症対策課に送付する。

(ウ) 検査のうち、健康安全研究センターにおいて実施することが困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。

(エ) 健康安全研究センターは、東京都域を越えた集団発生があった場合等の緊急の場合にあっては、検体を国立感染症研究所に送付する。

(オ) 基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

4 その他

(1) 上記の実施方法以外の部分について、必要と認められる場合には、東京都の実情に応じた追加を行い、地域における効果的・効率的な感染症発生動向調査体制を構築していくこととする。

(2) 本実施要綱に定める事項以外の内容については、必要に応じて福祉保健局長が定めることとする。

5 特別区との関係

東京都は、本事業を実施するため特別区と協議し、連携を図るものとする。

附 則

この実施要綱は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成15年11月5日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成16年8月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成18年6月12日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成19年6月15日から施行し、同年4月1日から適用する。

別表 1

感染症法に基づく感染症の分類について

1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症及び指定感染症

平成19年12月31日現在

| | | 疾 患 名 | 届出対象者 | | | 届出方法 | |
|--------|------|--|-------|-------|-----------|------|-----|
| 類 | 届出種別 | | 患 者 | 疑似症患者 | 無症状病原体保有者 | 時 期 | |
| 一 類 | 全数 | 1 エボラ出血熱 | ○ | ○ | ○ | 直ちに | |
| | | 2 クリミア・コンゴ出血熱 | | | | | |
| | | 3 瘡そう | | | | | |
| | | 4 南米出血熱 | | | | | |
| | | 5 ベスト | | | | | |
| | | 6 マールブルグ病 | | | | | |
| | | 7 ラッサ熱 | | | | | |
| 二 類 | 全数 | 8 急性灰白髄炎 | ○ | — | ○ | 直ちに | |
| | | 9 結核（無症状病原体保有者については、結核医療を必要としないと認められる場合は届出不要） | ○ | ○ | △※ | | |
| | | 10 ジフテリア | ○ | — | ○ | | |
| | | 11 重症急性呼吸器症候群（病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る） | ○ | ○ | ○ | | |
| 三 類 | 全数 | 12 コレラ | ○ | — | ○ | 直ちに | |
| | | 13 細菌性赤痢 | ○ | — | ○ | | |
| | | 14 腸管出血性大腸菌感染症 | ○ | — | ○ | | |
| | | 15 腸チフス | ○ | — | ○ | | |
| | | 16 バラチフス | ○ | — | ○ | | |
| 四 類 | 全数 | 17 E型肝炎 | ○ | — | ○ | 直ちに | |
| | | 18 ウエストナイル熱（ウエストナイル脳炎を含む。） | ○ | — | ○ | | |
| | | 19 A型肝炎 | ○ | — | ○ | | |
| | | 20 エキノコックス症 | ○ | — | ○ | | |
| | | 21 黄熱 | ○ | — | ○ | | |
| | | 22 オウム病 | ○ | — | ○ | | |
| | | 23 オムスク出血熱 | ○ | — | ○ | | |
| | | 24 回帰熱 | ○ | — | ○ | | |
| | | 25 キャサヌル森林病 | ○ | — | ○ | | |
| | | 26 Q熱 | ○ | — | ○ | | |
| | | 27 狂犬病 | ○ | — | ○ | | |
| | | 28 コクシジオイデス症 | ○ | — | ○ | | |
| | | 29 サル痘 | ○ | — | ○ | | |
| | | 30 腎症候性出血熱 | ○ | — | ○ | | |
| | | 31 西部ウマ脳炎 | ○ | — | ○ | | |
| | | 32 ダニ媒介脳炎 | ○ | — | ○ | | |
| | | 33 炭疽 | ○ | — | ○ | | |
| | | 34 つつが虫病 | ○ | — | ○ | | |
| | | 35 デング熱 | ○ | — | ○ | | |
| | | 36 東部ウマ脳炎 | ○ | — | ○ | | |
| | | 37 鳥インフルエンザ | ○ | — | ○ | | |
| | | 38 ニパウイルス感染症 | ○ | — | ○ | | |
| | | 39 日本紅斑熱 | ○ | — | ○ | | |
| | | 40 日本脳炎 | ○ | — | ○ | | |
| | | 41 ハンタウイルス肺症候群 | ○ | — | ○ | | |
| | | 42 Bウイルス病 | ○ | — | ○ | | |
| | | 43 鼻疽 | ○ | — | ○ | | |
| | | 44 ブルセラ症 | ○ | — | ○ | | |
| | | 45 ベネズエラウマ脳炎 | ○ | — | ○ | | |
| | | 46 ヘンドラウイルス感染症 | ○ | — | ○ | | |
| 五 類 | 全数 | 47 発しんチフス | ○ | — | ○ | 直ちに | |
| | | 48 ボツリヌス症 | ○ | — | ○ | | |
| | | 49 マラリア | ○ | — | ○ | | |
| | | 50 野兎病 | ○ | — | ○ | | |
| | | 51 ライム病 | ○ | — | ○ | | |
| | | 52 リッサウイルス感染症 | ○ | — | ○ | | |
| | | 53 リフトバレー熱 | ○ | — | ○ | | |
| | | 54 類鼻疽 | ○ | — | ○ | | |
| | | 55 レジオネラ症 | ○ | — | ○ | | |
| | | 56 レプトスピラ症 | ○ | — | ○ | | |
| | | 57 ロッキー山紅斑熱 | ○ | — | ○ | | |
| | | 指定感染症 インフルエンザ (H5N1) | ○ | ○ | — | 全数 | 直ちに |

2 全数把握対象の五類感染症

| | 疾 患 名 | 届出対象者 | | | 届出方法 | |
|------------------|--|-------|-------|-----------|------|------|
| | | 患 者 | 疑似症患者 | 無症状病原体保有者 | 届出種別 | 時 期 |
| 五 類 全 数 | 58 アメーバ赤痢 | ○ | — | — | 全数 | 7日以内 |
| | 59 ウイルス性肝炎 (E型肝炎及びA型肝炎を除く。) | ○ | — | — | | |
| | 60 急性脳炎 (ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。) | ○ | — | — | | |
| | 61 クリプトスピロジウム症 | ○ | — | — | | |
| | 62 クロイツフェルト・ヤコブ病 | ○ | — | — | | |
| | 63 劇症型溶血性レンサ球菌感染症 | ○ | — | — | | |
| | 64 後天性免疫不全症候群 | ○ | — | ○ | | |
| | 65 ジアルジア症 | ○ | — | — | | |
| | 66 髄膜炎菌性髄膜炎 | ○ | — | — | | |
| | 67 先天性風しん症候群 | ○ | — | — | | |
| | 68 梅毒 | ○ | — | ○ | | |
| | 69 破傷風 | ○ | — | — | | |
| | 70 パンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症 | ○ | — | — | | |
| | 71 パンコマイシン耐性腸球菌感染症 | ○ | — | — | | |

3 定点把握対象の五類感染症

| | 疾 患 名 | 届出対象者 | | | 届出方法 | |
|------------------|---------------------------|-------|-------|-----------|-------|-----|
| | | 患 者 | 疑似症患者 | 無症状病原体保有者 | 届出種別 | 時 期 |
| 五 類 定 点 | 72 R Sウイルス感染症 | ○ | — | — | 別表2参照 | |
| | 73 咽頭結膜熱 | ○ | — | — | | |
| | 74 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 | ○ | — | — | | |
| | 75 感染性胃腸炎 | ○ | — | — | | |
| | 76 水痘 | ○ | — | — | | |
| | 77 手足口病 | ○ | — | — | | |
| | 78 伝染性紅斑 | ○ | — | — | | |
| | 79 突発性発しん | ○ | — | — | | |
| | 80 百日咳 | ○ | — | — | | |
| | 81 風しん | ○ | — | — | | |
| | 82 ヘルパンギーナ | ○ | — | — | | |
| | 83 麻しん (成人麻しんを除く。) | ○ | — | — | | |
| | 84 流行性耳下腺炎 | ○ | — | — | | |
| | 85 不明発しん症 (都単独) | ○ | — | — | | |
| | 86 M C L S (川崎病) (都単独) | ○ | — | — | | |
| | 87 インフルエンザ (鳥インフルエンザを除く。) | ○ | — | — | | |
| | 88 急性出血性結膜炎 | ○ | — | — | | |
| | 89 流行性角結膜炎 | ○ | — | — | | |
| | 90 性器クラミジア感染症 | ○ | — | — | | |
| | 91 性器ヘルペスウイルス感染症 | ○ | — | — | | |
| | 92 尘毒コンジローマ | ○ | — | — | | |
| | 93 淋菌感染症 | ○ | — | — | | |
| | 94 膣トリコモナス症 (都単独) | ○ | — | — | | |
| | 95 梅毒様疾患 (都単独) | ○ | — | — | | |
| | 96 クラミジア肺炎 (オウム病を除く。) | ○ | — | — | | |
| | 97 細菌性髄膜炎 | ○ | — | — | | |
| | 98 ベニシリン耐性肺炎球菌感染症 | ○ | — | — | | |
| | 99 マイコプラズマ肺炎 | ○ | — | — | | |
| | 100 成人麻しん | ○ | — | — | | |
| | 101 無菌性髄膜炎 | ○ | — | — | | |
| | 102 メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 | ○ | — | — | | |
| | 103 薬剤耐性緑膿菌感染症 | ○ | — | — | | |

別表2

指定届出機関（定点）からの届出疾患と調査単位

| 定点種別 | 疾 患 名 | 届 出 方 法 | |
|-----------|---------------------------|---------------------------------|------|
| | | 定点種別 | 報告時期 |
| 小児科定点 | R S ウイルス感染症 | 週単位 (月曜日から 日曜日。以 下同じ。) | 次の月曜 |
| | 咽頭結膜熱 | | |
| | A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 | | |
| | 感染性胃腸炎 | | |
| | 水痘 | | |
| | 手足口病 | | |
| | 伝染性紅斑 | | |
| | 突発性発しん | | |
| | 百日咳 | | |
| | 風しん | | |
| | ヘルパンギーナ | | |
| | 麻しん（成人麻しんを除く。） | | |
| | 流行性耳下腺炎 | | |
| | 不明発しん症 （都単独） | | |
| インフルエンザ定点 | M C L S（川崎病） （都単独） | | |
| | インフルエンザ （鳥インフルエンザを除く。） | 週単位 | 次の月曜 |
| 眼科定点 | 急性出血性結膜炎 | 週単位 | 次の月曜 |
| | 流行性角結膜炎 | | |
| 性感染症定点 | 性器クラミジア感染症 | 月単位 | 翌月初日 |
| | 性器ヘルペスウイルス感染症 | | |
| | 尖圭コンジローマ | | |
| | 淋菌感染症 | | |
| | 膣トリコモナス症 （都単独） | | |
| 基幹定点 | 梅毒様疾患 （都単独） | 週単位 | 次の月曜 |
| | クラミジア肺炎（オウム病を除く） | | |
| | 細菌性髄膜炎 | | |
| | マイコプラズマ肺炎 | | |
| | 成人麻しん | 月単位 | 翌月初日 |
| | 無菌性髄膜炎 | | |
| | ペニシリン耐性肺炎球菌感染症 | | |
| | メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症 | | |
| | 葉剤耐性綠膿菌感染症 | | |

別記様式一覧表

| | | |
|------|--|---|
| 1 | 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、五類感染症及び指定感染症検査票（病原体） | 4-13 サル痘発生届 4-14 腎症候性出血熱発生届 4-15 西部ウマ脳炎発生届 4-16 ダニ媒介脳炎発生届 4-17 炭疽発生届 4-18 つつが虫病発生届 4-19 デング熱発生届 4-20 東部ウマ脳炎発生届 4-21 鳥インフルエンザ発生届 4-22 ニパウイルス感染症発生届 4-23 日本紅斑熱発生届 4-24 日本脳炎発生届 4-25 ハンタウイルス肺症候群発生届 4-26 Bウイルス病発生届 4-27 鼻疽発生届 4-28 ブルセラ症発生届 4-29 ベネズエラウマ脳炎発生届 4-30 ヘンドラウイルス感染症発生届 4-31 発しんチフス発生届 4-32 ボツリヌス症発生届 4-33 マラリア発生届 4-34 野兎病発生届 4-35 ライム病発生届 4-36 リッサウイルス感染症発生届 4-37 リフトバレー熱発生届 4-38 類鼻疽発生届 4-39 レジオネラ症発生届 4-40 レプトスピラ症発生届 4-41 ロッキー山紅斑熱発生届 5-1 アメーバ赤痢発生届 5-2 ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く）発生届 5-3 急性脳炎（ウェストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く）発生届 5-4 クリプトスボリジウム症発生届 5-5 クロイツフェルト・ヤコブ病発生届 5-6 劇症型溶血性レンサ球菌感染症発生届 5-7 後天性免疫不全症候群発生届 5-8 ジアルジア症発生届 5-9 髄膜炎菌性髄膜炎発生届 5-10 先天性風しん症候群発生届 5-11 梅毒発生届 5-12 破傷風発生届 5-13 パンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症発生届 5-14 パンコマイシン耐性腸球菌感染症発生届 |
| | | |
| 2 | 五類感染症（定点把握対象）小児科患者定点報告票 | |
| 3 | 五類感染症（定点把握対象）インフルエンザ患者定点報告票 | |
| 4 | 五類感染症（定点把握対象）眼科患者定点報告票 | |
| 5 | 五類感染症（定点把握対象）性感染症患者定点報告票 | |
| 6 | 五類感染症（定点把握対象）基幹患者定点報告票（週報告分） | |
| 7 | 五類感染症（定点把握対象）基幹患者定点報告票（月報告分） | |
| 8 | インフルエンザ検査票（内科病原体定点用） | |
| 1-1 | エボラ出血熱発生届 | |
| 1-2 | クリミア・コンゴ出血熱発生届 | |
| 1-3 | 痘そう発生届 | |
| 1-4 | 南米出血熱発生届 | |
| 1-5 | ペスト発生届 | |
| 1-6 | マールブルグ病発生届 | |
| 1-7 | ラッサ熱発生届 | |
| 2-1 | 急性灰白髄炎発生届 | |
| 2-2 | 結核（無症状病原体保有者については、結核医療を必要としないと認められる場合は届出不要）発生届 | |
| 2-3 | ジフテリア発生届 | |
| 2-4 | 重症急性呼吸器症候群（病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る）発生届 | |
| 3-1 | コレラ発生届 | |
| 3-2 | 細菌性赤痢発生届 | |
| 3-3 | 腸管出血性大腸菌感染症発生届 | |
| 3-4 | 腸チフス発生届 | |
| 3-5 | パラチフス発生届 | |
| 4-1 | E型肝炎発生届 | |
| 4-2 | ウェストナイル熱（ウェストナイル脳炎を含む）発生届 | |
| 4-3 | A型肝炎発生届 | |
| 4-4 | エキノコックス症発生届 | |
| 4-5 | 黄熱発生届 | |
| 4-6 | オウム病発生届 | |
| 4-7 | オムスク出血熱発生届 | |
| 4-8 | 回帰熱発生届 | |
| 4-9 | キャサナル森林病発生届 | |
| 4-10 | Q熱発生届 | |
| 4-11 | 狂犬病発生届 | |
| 4-12 | コクシジオイデス症発生届 | |

(注) 上記の発生届け 1-1 から 5-14 は、<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/survey/past/200704-200803/200704-index.html> に記載されている。

別記様式 1

注1) 主治医記載欄については、検体送付日において記載できる範囲で記載をお願いします。

2) ワクチン接種歴については、当該疾患に係るものにつき記載して下さい。

3) 二類、三類感染症について医療機関（民間検査所を含む）に於ける個別性の発見

別記様式 8
インフルエンザ検査票
(内科病原体定点用)

| | | | | | | | |
|---|-------|------------------------------------|-----|--------|-------|-------|-------|
| 医療機関名 (または定点コード) 医 師 名 | | | | | | | |
| 性 別 男 ・ 女 | | 年 齢 | | 年 齢 | | 歳 か月 | |
| 発 病 日 | 年 月 日 | 居住地 | | | | | 区市町村 |
| 臨床症状・徵候等 | | 該当するものすべてを○で囲んでください。 | | | | | |
| <ul style="list-style-type: none"> ・ 烹熱 (最高 °C) ・ 關節痛、筋肉痛 ・ 口内炎、上気道炎、下気道炎 (肺炎、気管支炎) ・ 胃腸炎 (下痢、血便、嘔氣、嘔吐、腹痛) ・ 中枢神経系症状 (脳炎、脳症、脊髄炎、その他 _____) ・ その他の症状 | | | | | | | |
| 迅速診断キットによる診断 | | 無 • 有 (A型 :) | | B型 :) | | | |
| 最近のインフルエンザワクチン接種歴 | | 無 • 有 (年 月 日) | | | | | |
| 最近の海外渡航歴 | | 国 名 | 期 間 | 年 月 日 | 年 月 日 | 年 月 日 | 年 月 日 |
| 発生状況 | | 集団発生 (学校等)、家族内発生等、わかかる範囲で記入してください。 | | | | | |
| 検体受付日 報告日 | | 受取番号 | | 検体番号 | | | |
| 結果 | | AH1型 | | | | | |
| | | AH3型 | | | | | |
| インフルエンザ ウイルス | | B型 | | | | | |
| | | 型 | | | | | |
| | | 型 | | | | | |

※ ウィルス分離結果については、後日報告します。

感染症発生動向調査事業報告書
平成19年（2007年）

平成20年7月

登録番号（20）4

編集・発行 東京都健康安全研究センター
〒169-0073 東京都新宿区百人町3-24-1
電話 (03) 3363-3231

印 刷 所 有限会社 太平印刷
〒171-0051 東京都豊島区長崎6-22-10
電話 (03) 3957-3911

